

令和 3 年度市政アンケート調査 報告書

令和 4 年 3 月
河内長野市

目次

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的	1
1-2. 調査方法	1
1-3. 調査内容	1
1-4. 配布・回収結果	2
1-5. 調査結果の見方	2

第2章 アンケート調査結果

■調査結果の概要	3
2-1. 属性	11
A 性別	11
B 年齢	11
C 家族構成	11
D 居住期間	12
E 小学校区	13
F 以前住んでいたところ	13
G 職業	14
2-2. 河内長野市での定住意向について	
(1) 市での定住意向(問1)	15
(2) 住みつづけたい理由(問2)	17
(3) 市外に移りたい理由(問3)	19
(4) 市に住みつづけるために必要なもの(問4)	21
2-3. 河内長野市の取組みについて	
(1) 市の取組みに対する満足度・重要度(問5)	23
(2) 不満に感じる取組みとその理由(問6)	37
(3) 地域やまちづくり活動の参加度(問7)	39
(4) 市の取組みに対する感じ方(問8)	40
2-4. 生活状況について	
(1) 外出の頻度(問9)	41
(2) 外出しなくなった状態の経過期間(問10)	42
(3) 外出しなくなったきっかけ(問11)	43
(4) 家族以外の人との会話の頻度(問12)	44
(5) 相談した相談機関(問13)	45
(6) 相談したいと思う相談機関(問14)	47
2-5. 男女共同参画について	
(1) 各分野における男女の平等感(問15)	49
(2) 家庭生活等に関する意識(問16)	58
(3) 男女共同参画に関する言葉の認知度(問17)	68
(4) 女性が職業をもつことに対する意識(問18)	69
(5) ワーク・ライフ・バランスについて(問19)	70
(6) 男性のワーク・ライフ・バランス推進に必要なこと(問20)	72
(7) DVに関する認識(問21)	74

(8)	DV被害の経験(問 22)	75
(9)	DV相談窓口の認知度(問 23)	82
(10)	男女間暴力防止に必要なこと(問 24)	84
(11)	男女共同参画実現に必要なこと(問 25)	86
(12)	男女共同参画についての意見(問 26)	89
2-6.	利用する交通手段について	
(1)	自動車運転免許所持の有無(問 27)	95
(2)	自動車保有の有無(問 28)	97
(3)	最寄りの鉄道駅と駅までの主な交通手段と所要時間(問 29)	99
(4)	最寄りのバス停と自宅までの所要時間(問 30)	100
(5)	スマートフォンでの経路検索などの利用度(問 31)	101
2-7.	普段の外出状況について	
A	通勤・通学(問 32)	102
B	通院(問 32)	106
C	日常の買い物(問 32)	110
D	その他の外出(問 32)	114
2-8.	外出時のコロナによる影響について	
(1)	コロナ前と現在と比較しての外出頻度(問 33)	118
2-9.	市内でのバス・タクシーの利用について	
(1)	バスの利用の有無(問 34)	119
(2)	バスを利用している理由(問 35)	121
(3)	バスを利用していない理由(問 36)	123
(4)	タクシーの利用の有無(問 37)	125
(5)	タクシーを利用している理由(問 38)	127
(6)	タクシーを利用していない理由(問 39)	129
2-10.	地域の公共交通に関する意向やあり方について	
(1)	地域の支え合いによる移動サービスの必要度(問 40)	131
(2)	地域の支え合いによる移動サービスの利用意向(問 41)	133
(3)	地域の支え合いによる移動サービスを利用しようと思わない理由(問 42)	135
(4)	地域の支え合いによる移動サービスの協力度(問 43)	137
2-11.	公共交通施策などについて	
(1)	重要と考える公共交通施策(問 44)	139
(参考)	アンケート調査票	142

第 1 章 調査の概要

1－1．調査目的

河内長野市における「住みよさ指標」と「生活状況」、「男女共同参画」、「公共交通利用」について、満 18 歳以上の市民 2,000 名へ意識調査を行うことにより、それぞれの市民意識を把握して今後の施策推進のための参考資料とすることを目的とします。

1－2．調査方法

調査区域：河内長野市全域

調査対象：18 歳以上の市民の中から 2,000 人を無作為抽出

調査時期：令和 3 年 9 月

調査方法：郵送による配布・回収

1－3．調査内容

●属性 - A 性別 - B 年齢 - C 家族構成 - D 居住期間 - E 小学校区 - F 以前住んでいたところ - G 職業 ●河内長野市での定住意向について - 問 1. 市での定住意向 - 問 2. 住みつづけた理由 - 問 3. 市外に移りたい理由 - 問 4. 市に住みつづけるために必要なもの ●河内長野市の取組みについて - 問 5. 市の取組みに対する満足度・重要度 - 問 6. 不満に感じる取組みとその理由 - 問 7. 地域やまちづくり活動の参加度 - 問 8. 市の取組みに対する感じ方 ●生活状況について - 問 9. 外出の頻度 - 問 10. 外出しなくなった状態の経過期間 - 問 11. 外出しなくなったきっかけ - 問 12. 家族以外の人との会話の頻度 - 問 13. 相談した相談機関 - 問 14. 相談したいと思う相談機関 ●男女共同参画について - 問 15. 各分野における男女の平等感 - 問 16. 家庭生活等に関する意識 - 問 17. 男女共同参画に関する言葉の認知度 - 問 18. 女性が職業をもつことに対する意識 - 問 19. ワーク・ライフ・バランスについて - 問 20. 男性のワーク・ライフ・バランス推進に必要なこと - 問 21. DV に関する認識 - 問 22. DV 被害の経験	- 問 23. DV 相談窓口の認知度 - 問 24. 男女間暴力防止に必要なこと - 問 25. 男女共同参画実現に必要なこと - 問 26. 男女共同参画についての意見 ●利用する交通手段について - 問 27. 自動車運転免許所持の有無 - 問 28. 自動車保有の有無 - 問 29. 最寄りの鉄道駅と駅までの主な交通手段と所要時間 - 問 30. 最寄りのバス停と自宅までの所要時間 - 問 31. スマートフォンでの経路検索の利用度 ●普段の外出状況について - 問 32-A. 通勤・通学 - 問 32-B. 通院 - 問 32-C. 日常の買い物 - 問 32-D. その他の外出 ●外出時のコロナによる影響について - 問 33-A. コロナ前と現在と比較しての外出頻度 - 問 33-B. コロナ前と現在と比較しての交通手段の利用頻度 ●市内でのバス・タクシーの利用について - 問 34. バスの利用の有無 - 問 35. バスを利用している理由 - 問 36. バスを利用していない理由 - 問 37. タクシーの利用の有無 - 問 38. タクシーを利用している理由 - 問 39. タクシーを利用していない理由 ●地域の公共交通に関する意向やありかたについて - 問 40. 移動サービスの必要度 - 問 41. 移動サービスの利用意向 - 問 42. 移動サービスを利用しようと思わない理由 - 問 43. 移動サービスの協力度 ●公共交通施策などについて - 問 44. 重要と考える公共交通施策
---	--

1－4．配布・回収結果

配布・回収結果を示したものが下表です。

配布数 (A)	回収数	有効回収数 (B)	有効回収率 (B/A)
2,000	1,029	1,028	51.4%

1－5．調査結果の見方

- ・回答結果の割合「%」は、小数点以下第2位を四捨五入したものです。このため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ形式）の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・図表中の「無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・図表中の「n」（サンプル数）は有効標本数（集計対象者総数）、あるいは分類別の該当対象者数を示しています。
- ・文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- ・表中の網掛け（）は、選択肢の中で最も高い割合のものを示しています。
- ・文中の表現で、本年度実施した調査を今回調査又は2021年度調査といたします。
- ・問15以降の2016年度調査とは「河内長野市男女共同参画に関する市民意識調査」をいいます。
- ・問15以降の2019年度内閣府調査とは「男女共同参画社会に関する世論調査」をいいます。

第2章 アンケート調査結果

■調査結果の概要

(1) 河内長野市での定住意向について

- ・市での定住意向については、「ずっと今の場所で住みつづけたい」(43.9%)、「特に住みつづけたいわけではないが、今のところ住みつづけるつもり」(27.8%)、「どちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい」(9.8%)が上位を占めています。(問1)
- ・住みつづけたい理由については、「自然環境がよいから」(43.7%)、「住みなれたまちだから」(43.4%)が上位を占めており、一方、市外に移りたい理由については、「通勤・通学に不便だから」(42.9%)、「買い物など日常生活に不便だから」(40.0%)が上位を占めています。(問2、問3)
- ・市に住みつづけるために必要なものについては、「老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実」(49.3%)、「買い物などの日常生活の便利さの充実」(48.9%)、「通勤・通学などの交通環境の充実」(17.1%)が上位を占めています。(問4)

(2) 河内長野市の取組みについて

- ・市の取組みに対する『現在の満足度』『今後の重要度』について、上位3項目、下位3項目をまとめたものが下表です。

『満足度』では、自然や生活環境のよさを評価する意見が高く、『重要度』では消防・救急、防災、防犯といった安全・安心に係る意見が高くなっています。

■[現在の満足度／今後の重要度]の上位・下位3項目

		1位	2位	3位
満足度	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.48)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.34)
	下位	商業地などの賑わい(2.27)	身近な場での働きやすさ(2.44)	観光事業(2.54)
重要度	上位	消防・救急(4.61)	防災(4.55)	防犯(4.52)
	下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.64)	文化芸術活動などの環境(3.70)	男女共同参画の推進(3.77)

(注)表中()内の数字は5点を満点とした時の加重平均を示す。

- ・さらに『満足度』と『重要度』のクロス分析で、下記の4区分を行い散布図を作成してみました。(報告書P31参照)。

エリア「A」には、「福祉・社会保障」や「市街地・道路・交通整備」に関する分野が位置しており、『重要度』が高いものの『満足度』が低くなっています。

エリア「B」の「安全・安心」「生活環境・景観・自然」に関する分野は、特に『重要度』『満足度』が高いことから、より強化が期待されています。

一方、エリア「D」の「文化・芸術・共生等」に関する分野は、『満足度』が平均付近に位置し『重要度』が低いことから、安定的な維持が期待されています。(問5)

エリア	内容	項目
A 早急な対応が 求められる エリア	満足度→低 重要度→高	4. 交通安全／7. 高齢者にとっての暮らしやすさ／8. 障がい者にとっての暮らしやすさ／9. 社会保障制度／14. 青少年の健全な育成／26. 市街地の整備／29. 道路や橋などの交通網／30. バスなどの公共交通サービス／32. 商業地などの賑わい／35. 身近な場での働きやすさ／37. 行政改革への取り組み／38. 適正で透明性の高い財政運営
B より強化される ことが期待され るエリア	満足度→高 重要度→高	1. 防災／2. 消防・救急／3. 防犯／11. 児童に対する福祉／12. 子育てのしやすさ／13. 小中学校の教育環境／22. 自然環境への配慮／23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み／24. 騒音・悪臭などの少なさ／25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ／27. 住環境／31. 上下水道
C 他項目との優先 順位を考え 取組むエリア	満足度→低 重要度→低	5. 消費者行政／10. 健康づくりを進める環境／15. 各種講座や施設など生涯学習の環境／16. 文化芸術活動などの環境／18. スポーツ施設や活動などの環境／21. 国際交流や多文化共生社会の推進／33. 農林業の振興／34. 観光事業／36. 市民同士の連携や市民と行政の協働／40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信
D 安定的な維持が 期待される エリア	満足度→高 重要度→低	6. 地域の支え合い／17. 歴史文化遺産の保存・活用／19. 人権の尊重と平和意識の高揚／20. 男女共同参画の推進／28. 公園や緑地などの環境

- ・ 不満に感じる取組みとその理由については、「商業地などの賑わい」(154 件)、「バスなどの公共交通サービス」(81 件)、「道路や橋などの交通網」(51 件) (いずれも意見数)が上位3位となっています。(問6)
- ・ 地域やまちづくり活動の参加度については、「ほとんどない」(59.8%)、「年に数回程度」(19.5%)、「年に1回程度」(7.6%)が上位を占めています。(問7)
- ・ 市の取組みに対する感じ方については、『地域のまちづくり活動が充実していると感じている』『河内長野市に住みつづけたいと感じている』『河内長野市に愛着と誇りを感じている』の3項目では、いずれも「普通」という意見が最も多くなっています。(問8)

(3) 生活状況について

- ・ 外出の頻度については、「仕事や学校で平日は毎日外出する」(45.3%)、「他人と関わる活動(遊びや人づきあいなど)のときは外出する」(18.4%)、「仕事や学校で週3～4日外出する」(14.4%)が上位を占めています。(問9)
- ・ 外出しなくなった状態の経過期間については、「1年～3年」(28.3%)が最も高く、外出しなくなったきっかけについては、「新型コロナウイルス感染症の影響」(27.8%)が最も高くなっています。外出しなくなった状態の経過期間と新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから今日までの期間がほぼ一致し、新型コロナウイルス感染症が生活状況に影響を及ぼしていることが伺えます。(問10、11)
- ・ 家族以外の人との会話の頻度については、「ときどき会話した」(49.2%)、「よく会話した」(27.3%)、「ほとんど会話しなかった」(19.8%)が上位を占めています。(問12)
- ・ 相談した相談機関については、「相談したことはない」(48.7%)が最も高くなっています。また、相談した相談機関では「病院・診療所」(29.9%)、「公共職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(12.3%)が上位を占めています。(問13)
- ・ 相談したいと思う相談機関については、「あてはまるものはない」(26.7%)、「無料で相談できる」(25.7%)、「親身に聴いてくれる」(18.7%)が上位を占めています。(問14)

(4) 男女共同参画について

- ・ 各分野における男女の平等感については、8項目全てにおいて“男性のほうが優遇されている”(「男性のほうが非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」)が“女性のほうが優遇されている”(「女性のほうが非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」)より高くなっています。一方、「平等である」が“男性のほうが優遇されている”“女性のほうが優遇されている”のいずれよりも高くなっている項目は『学校教育の場』(45.9%)、『自治会・NPOなどの地域活動の場』(35.1%)となっています。(問15)
- ・ 家庭生活等に関する意識については、6項目において「そう思う」か「そう思わない」かたずねたところ、“そう思う”(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が高い項目は『結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』『結婚してもうまいかないときは離婚すればよい』(共に75.3%)となっています。また、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』(74.1%)は“そう思わない”(「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が高くなっています。(問16)
- ・ 男女共同参画に関する言葉の認知度については、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」(84.1%)、「ジェンダー(社会的性別)」(73.6%)、「男女共同参画社会」(55.0%)が上位を占めています。

2016年度調査との比較では、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」(88.7%)は4.6ポイント低くなっていますが、引き続き高い認知度があります。一方、「ジェンダー(社会的性別)」(51.3%)は22.3ポイント高くなっており、認知度が高くなっています。(問17)

- ・ 女性が職業をもつことに対する意識については、「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」(46.2%)、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」(25.9%)が上位を占めています。

2016年度調査との比較では、「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」(39.3%)は6.9ポイント高くなっています。一方、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」(36.8%)は10.9ポイント低くなっており、子どもができて女性も職業をもち続けることへの意識が変わりつつあることが伺えます。(問18)

- ・ ワーク・ライフ・バランスについては、『現実の生活』では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先(4.4%)は低い傾向にあります。一方、『理想の生活』では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先(27.1%)は22.7ポイント高くなっており、現実と理想の優先度にギャップがあることが伺えます。(問19)
 - ・ 男性のワーク・ライフ・バランス推進に必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(65.4%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(61.2%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」(51.4%)が上位を占めています。
- 2016年度調査との比較では、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」(47.3%)が7.0ポイント低くなっています。
- 2019年度内閣府調査との比較では、「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」(30.5%)が8.5ポイント低くなっています。(問20)

- ・DVに関する認識については、「足で蹴る」「平手で打つ」がいずれも9割を超えています。2016年度調査との比較では、「見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せる」「何を言っても無視し続ける」「交友関係や電話を細かく監視する」が8.0ポイント以上高くなっており、これらの項目が暴力であるという認識が高くなっています。(問21)
- ・DV被害の経験については、精神的暴力の“ある”(「何度もあった」+「1、2度あった」)が14.6%と他の暴力よりやや高く、次いで身体的暴力の“ある”が10.4%となっています。(問22)
- ・DV相談窓口の認知度については、「警察」(85.9%)、「民間の機関(弁護士会やカウンセリング機関、民間シェルターなど)」(33.9%)、「人権擁護委員、民生児童委員」(25.0%)が上位を占めています。(問23)
- ・男女間暴力防止に必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を増やす」(62.5%)、「学校で生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」(62.0%)、「家庭で子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(58.7%)が上位を占めています。(問24)
- ・男女共同参画実現に必要なことについては、「子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う」(63.1%)、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(56.6%)、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(52.9%)が上位を占めています。
2016年度調査との比較では、「子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う」(58.6%)が4.5ポイント高くなっています。一方、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(57.2%)が12.7ポイント、2019年度内閣府調査との比較では、13.3ポイント低くなっています。(問25)
- ・男女共同参画についての意見については、「性別ではなく個々の能力を重視する」(12件)、「男女平等意識を育成する教育」(7件)、「男女差別や偏見に対する意識改革」「協力・助け合い・相互理解を深める」(各6件)(いずれも意見数)が上位3位となっています。(問26)

(5) 利用する交通手段について

- ・ 自動車運転免許所持の有無については、「持っている」(73.0%) が約7割を占めています。
(問 27)
- ・ 自動車保有の有無については、「自分で自由に使える自動車を持っている」(43.2%)、「世帯所有の自動車を使っている」(25.7%)、「持っていない」(19.8%) が上位を占めています。
(問 28)
- ・ 最寄りの鉄道駅と駅までの主な交通手段と所要時間については、下表のとおりです。(問 29)

■最寄りの鉄道駅と駅までの主な交通手段と所要時間

最寄り駅	現在の 所要時間		最寄りの鉄道駅までによく利用する交通手段（人）								
	件数	平均時間 （分）	合計	バス	自動車	バイク	自転車	徒歩	タクシー	その他	無回答
河内長野駅	255	11.6	255	55	44	10	26	113	2	0	5
千代田駅	235	11.6	235	68	21	6	13	116	4	0	7
滝谷駅	43	13.3	43	0	0	0	4	39	0	0	0
汐ノ宮駅	15	6.6	15	0	1	1	1	11	0	0	1
三日市町駅	343	11.7	343	117	59	8	6	133	6	2	12
美加の台駅	76	9.3	76	25	4	2	3	38	0	0	4
千早口駅	6	7.8	6	0	0	0	0	6	0	0	0
天見駅	4	13.3	4	0	1	0	0	3	0	0	0
河内長野駅、千代田駅	3	16.7	3	2	1	0	0	0	0	0	0
河内長野駅、三日市町駅	1	15.0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
千代田駅、汐ノ宮駅	1	0.0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
その他（不明、該当しない回答など）	5	12.8	5	3	0	1	0	1	0	0	0
無回答	41	4.6	41	10	3	0	0	4	1	0	23
合計	1,028	11.2	1,028	280	134	28	53	465	13	2	53

- ・ 最寄りのバス停と自宅までの所要時間については、下表のとおりです。(問 30)

■最寄りのバス停と自宅までの所要時間

最寄りの停留所名	停留所の 所要時間		最寄りの停留所名	停留所の 所要時間		最寄りの停留所名	停留所の 所要時間	
	件 数	平 均 時 間 (分)		件 数	平 均 時 間 (分)		件 数	平 均 時 間 (分)
木戸東町	4	2.8	上高向	2	4.5	北貴望ヶ丘	5	7.0
大阪南医療センター玄関口	1	5.0	下高向	4	6.3	小山田	4	7.3
大阪南医療センター前	4	4.5	長野車庫	13	5.3	荘園橋東	1	8.0
千代田南町	6	4.5	むくの本	9	4.3	原石坂	1	8.0
千代田駅前	20	13.5	郵便局前	8	6.5	日東町	2	6.5
南海西友前	7	3.3	上田	6	3.3	旭ヶ丘北口	1	3.0
南貴望ヶ丘	8	3.5	三日月市町駅前	4	8.3	中高向	5	8.6
貴望ヶ丘	22	5.4	三日月市町駅前	12	10.9	高向公民館前	2	2.0
市民グラウンド前	9	6.4	南花台一丁目北	12	6.2	三日月市町駅通り	1	7.0
千代田台	3	2.3	南花台一丁目南	4	4.8	北青葉台	1	5.0
赤峯	6	3.2	南花台三丁目北	15	4.0	古保	1	1.0
小山田口	12	6.4	南花台三丁目南	5	4.4	千代田小学校前	2	9.5
荘園橋	4	3.6	南花台四丁目	14	4.4	下里口	4	19.0
荘園町	6	1.5	大矢船北町	10	4.3	石見川口	1	1.0
荘園センター	4	3.3	大矢船西町	12	3.9	葛ノ口	2	6.5
小山田集会所前	1	3.0	南ヶ丘	11	3.7	車作	1	2.0
小山田南	3	6.7	大矢船南町	5	6.2	東部	1	5.0
緑ヶ丘北町	10	4.4	大矢船中町	13	4.9	川上神社前	1	1.0
緑ヶ丘中町	11	6.4	加賀田小学校前	1	12.0	錦町	2	6.5
緑ヶ丘南町	11	4.1	神納	1	2.0	門前	4	6.5
神社前	8	4.6	加塩	4	7.0	塩崎橋	3	4.0
配水池前	2	1.5	新町橋	6	7.5	七ツ辻	3	8.3
市民交流センター前	5	3.4	青葉台センター前	14	4.7	畑集会所前	2	1.5
市役所前	4	4.5	青葉台会館前	3	3.0	美加の台駅前	2	7.5
河内長野警察署前	1	2.0	南青葉台口	3	4.7	中の町	3	4.3
ラブリーホール前	2	3.5	南青葉台	6	2.3	集会所前	1	5.0
石坂	10	5.6	南青葉台中央	6	4.0	くすまる③	3	1.0
本多町	3	4.7	美加の台西	3	1.7	くすまる④	3	1.0
河内長野駅前	24	7.5	上之山神社前	8	3.1	不明(複数回答含む)	63	4.9
河合寺	2	3.5	第一公園前	5	3.0	最寄りのバス停留所まで、 徒歩ではいけない距離にある	42	0.0
大師町	8	4.3	美加の台北	1	5.0	わからない	201	0.0
東中学校前	6	3.7	美加の台小学校前	4	3.5	無回答	103	1.4
日東町東口	3	2.7	神ヶ丘口	6	8.0	合計	1,028	3.7
清見台東口	1	3.0	美加の台東	1	5.0			
小深口	1	3.0	延命寺口	4	6.5			
野作	13	5.8	美加の台	6	4.5			
上原口	2	12.5	美加の台南	3	3.0			
清崎	1	1.0	美加の台中	4	6.0			
旭ヶ丘口	3	3.7	美加の台口	7	3.4			
旭ヶ丘	10	4.5	近隣センター前	11	3.5			
広野	1	2.0	清見台3丁目	6	3.0			
日野	1	5.0	川上小学校前	7	3.3			
中日野	2	4.0	清見台2丁目	7	3.1			
高向	1	2.0	清見台1丁目	5	3.8			

- ・ スマートフォンでの経路検索などの利用度については、「スマートフォンを持っており、公共交通の経路検索などに利用している」(64.6%)、「スマートフォンを持っているが、公共交通の経路検索などには利用しない」(21.0%)、「スマートフォンは持っていない」(12.8%)となっています。(問 31)

（６）普段の外出状況について

- ・ 頻度については、『通勤・通学』では「週に４～５日」（36.7%）、『通院』では「月に１日以下」（40.0%）、『日常の買い物』では「週に２～３日」（41.5%）、『その他の外出』では「週に１日」（16.2%）が最も高くなっています。（問 32）
- ・ 主な行き先については、『通勤・通学』『その他の外出』では「他市区町村」が最も高く、一方、『通院』『日常の買い物』では「河内長野市内のその他の地域」が最も高くなっています。（問 32）
- ・ 主な交通手段については、『通勤・通学』『通院』『日常の買い物』『その他の外出』では、いずれも「自動車（運転）」が最も高く、約４割～５割となっています。（問 32）
- ・ 主な時間帯については、『通勤・通学（行き）』では「７時台」（28.8%）、『通院（行き）』では「９時台」（13.8%）、『日常の買い物（行き）』では「10 時台」（20.3%）、『その他の外出（行き）』では「10 時台」（16.5%）が最も高くなっています。一方、『通勤・通学（帰り）』では「19 時台」（17.4%）、『通院（帰り）』では「12 時台」（10.1%）、『日常の買い物（帰り）』では「12 時台」（11.0%）、『その他の外出（帰り）』では「17 時台」（10.3%）が最も高くなっています。（問 32）

（７）外出時のコロナによる影響について

- ・ コロナ前と現在と比較しての外出頻度については、「週に６日以上」が『コロナ前』『収束後』ではそれぞれ 35.7%、31.9%となっています。一方、『現在』では「週に４～５日」が 25.0%と最も高くなっています。（問 33）

（８）市内でのバス・タクシーの利用について

- ・ バスの利用の有無については、「利用していない」（72.0%）が約 7 割を占めています。（問 34）
- ・ バスを利用している理由については、「行きたい場所までルートがある」（31.3%）が最も高く、次いで「バス以外に交通手段がない」（17.4%）、「自宅近くにバス停がある」（13.4%）となっています。（問 35）
- ・ バスを利用していない理由については、「車やバイク等の方が便利」（43.0%）、「歩いて目的地（駅など）へ行ける」（34.5%）の 2 項目で約 8 割を占めています。（問 36）
- ・ タクシーの利用の有無については、「利用していない」（82.0%）が約 8 割を占めています。（問 37）
- ・ タクシーを利用している理由については、「バスのない時間帯に利用できる」（36.9%）が最も高く、次いで「楽に移動できる」（19.4%）となっています。（問 38）
- ・ タクシーを利用していない理由については、「車やバイク等の方が便利」（47.1%）が最も高く、次いで「歩いて目的地（駅など）へ行ける」（29.8%）、「経済的な負担が大きい」（13.3%）となっており、3 項目で約 9 割を占めています。（問 39）

（９）地域の公共交通に関する意向やあり方について

- ・ 地域の支え合いによる移動サービスの必要度については、「必要だと思う」（69.9%）が最も高く、約 7 割を占めています。（問 40）
- ・ 地域の支え合いによる移動サービスの利用意向については、「利用しようと思う」（47.6%）、「利用しようと思わない」（46.4%）が、ほぼ同じ割合となっています。（問 41）
- ・ 地域の支え合いによる移動サービスを利用しようと思わない理由については、「気兼ねする」（45.8%）、「安全面で不安がある」（39.1%）が上位を占めています。（問 42）

- ・ 地域の支え合いによる移動サービスの協力度については、「わからない」(36.5%)、「地域などで、運行にかかる費用を負担する」(21.4%)、「協力したいとは思わない」(18.7%)が上位を占めています。

(問 43)

(10) 公共交通施策などについて

- ・ 重要と考える公共交通施策については、「高齢者への公共交通利用に対する支援制度」(34.9%)が最も高く、次いで「免許を返納した人への公共交通利用に対する支援制度」(22.3%)、「市内の公共交通(バス・タクシーなど)が定額で乗り放題になるなどの運賃施策」(9.0%)となっています。(問 44)

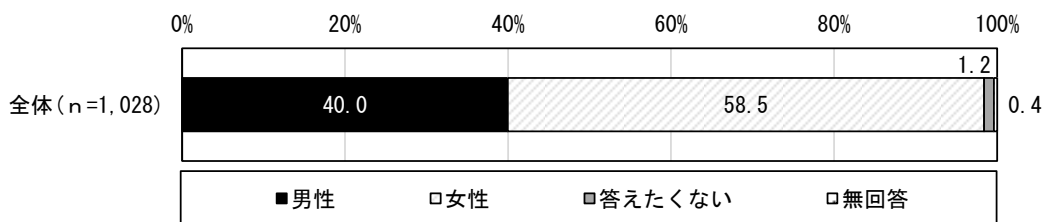
2-1. 属性

A 性別

A 性別をおたずねします。(自認する性別の番号に○は1つだけ)

性別についてみると、「男性」が40.0%、「女性」が58.5%、「答えたくない」が1.2%となっています。

■性別（単数回答／全体）

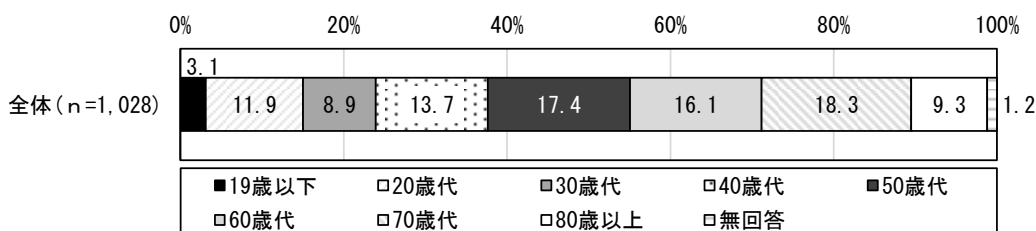


B 年齢

B 年齢をおたずねします。() 内に数字を記載してください。

年齢についてみると、「70歳代」が18.3%と最も高く、次いで「50歳代」が17.4%、「60歳代」が16.1%となっています。

■年齢（単数回答／全体）

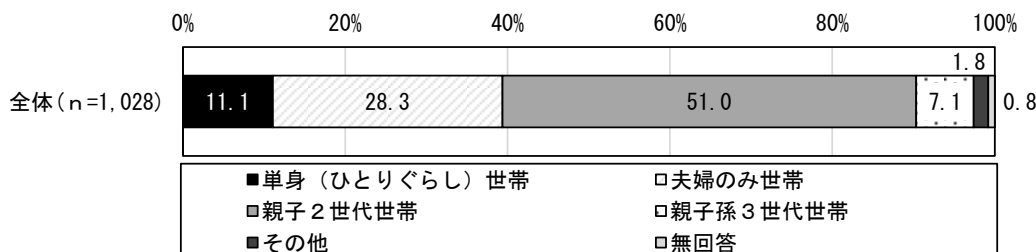


C 家族構成

C あなたの家族構成はどれですか。(○は1つだけ)

家族構成についてみると、「親子2世代世帯」が51.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が28.3%、「単身（ひとりぐらし）世帯」が11.1%となっています。

■家族構成（単数回答／全体）

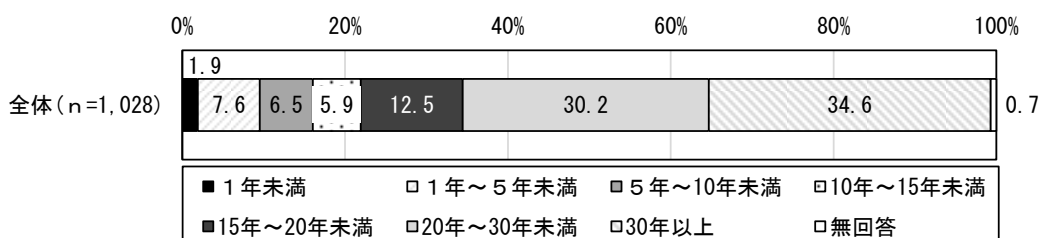


D 居住期間

D あなたは、どのくらいの期間、河内長野市にお住まいですか。(〇は1つだけ)

居住年数についてみると、「30年以上」が34.6%と最も高く、次いで「20～30年未満」が30.2%、「15～20年未満」が12.5%となっています。

■居住期間（単数回答／全体）



年代別にみると、年代が上がるにつれて居住期間が長くなる傾向となっています。

■居住期間（単数回答／年代別）

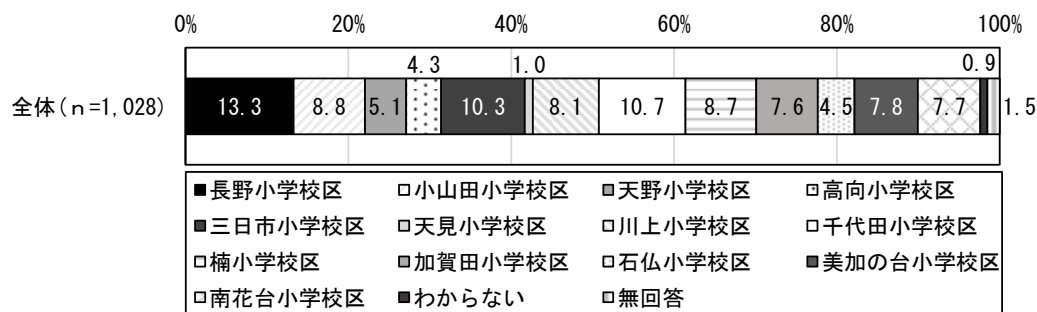
	n 数	1 年 未 満	1 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 10 年 未 満	10 年 ～ 15 年 未 満	15 年 ～ 20 年 未 満	20 年 ～ 30 年 未 満	30 年 以 上	無 回 答
全体	1,028	1.9 20	7.6 78	6.5 67	5.9 61	12.5 129	30.2 310	34.6 356	0.7 7
年代別									
19歳以下	100.0 32	3.1 1	3.1 1	9.4 3	9.4 3	75.0 24	- -	- -	- -
20歳代	100.0 122	4.9 6	9.0 11	2.5 3	4.1 5	15.6 19	63.1 77	- -	0.8 1
30歳代	100.0 92	5.4 5	27.2 25	15.2 14	9.8 9	3.3 3	19.6 18	19.6 18	- -
40歳代	100.0 141	1.4 2	7.1 10	9.9 14	13.5 19	24.1 34	22.7 32	20.6 29	0.7 1
50歳代	100.0 179	1.7 3	6.7 12	6.1 11	1.7 3	11.2 20	43.0 77	29.6 53	- -
60歳代	100.0 166	0.6 1	6.0 10	6.6 11	6.6 11	6.0 10	31.3 52	42.2 70	0.6 1
70歳代	100.0 188	0.5 1	2.7 5	3.7 7	3.7 7	7.4 14	15.4 29	66.5 125	- -
80歳以上	100.0 96	1.0 1	4.2 4	4.2 4	4.2 4	5.2 5	19.8 19	60.4 58	1.0 1
無回答	100.0 12	- -	- -	- -	- -	- -	50.0 6	25.0 3	25.0 3

E 小学校区

E あなたは、現在どこ（小学校区）に住んでいますか。（○は1つだけ）

住まいの小学校区についてみると、「長野小学校区」が13.3%と最も高く、次いで「千代田小学校区」が10.7%、「三日市小学校区」が10.3%となっています。

■小学校区（単数回答／全体）

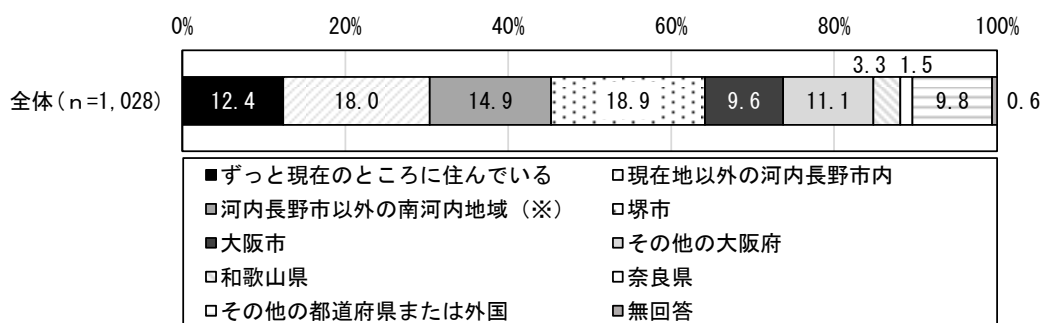


F 以前住んでいたところ

F あなたは、現在のお住まいに来る以前はどこに住んでいましたか。（○は1つだけ）

以前の居住地についてみると、「堺市」が18.9%と最も高く、次いで「現在地以外の河内長野市内」が18.0%、「河内長野市以外の南河内地域」が14.9%となっています。

■以前住んでいたところ（単数回答／全体）



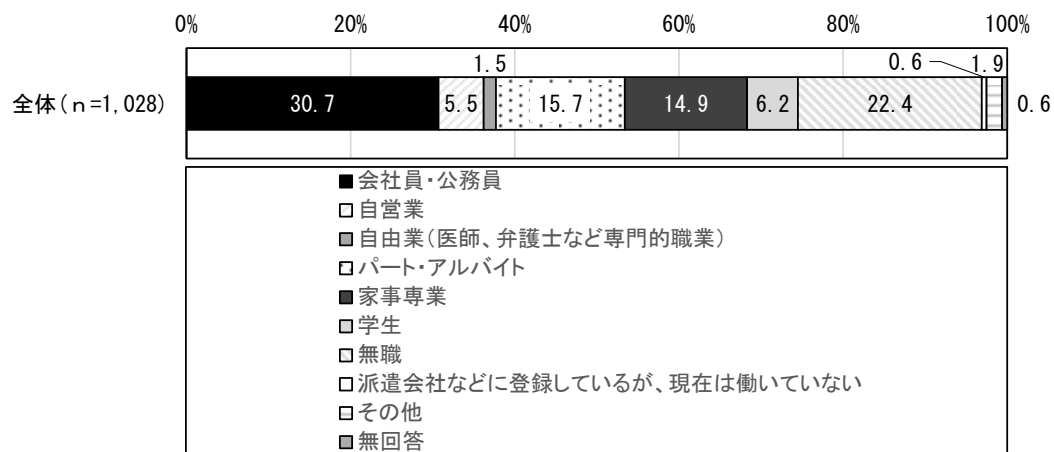
（※）富田林市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

G 職業

G あなたの職業は何ですか。(○は1つだけ)

職業についてみると、「会社員・公務員」が30.7%と最も高く、次いで「無職」が22.4%、「パート・アルバイト」が15.7%となっています。

■職業（単数回答／全体）



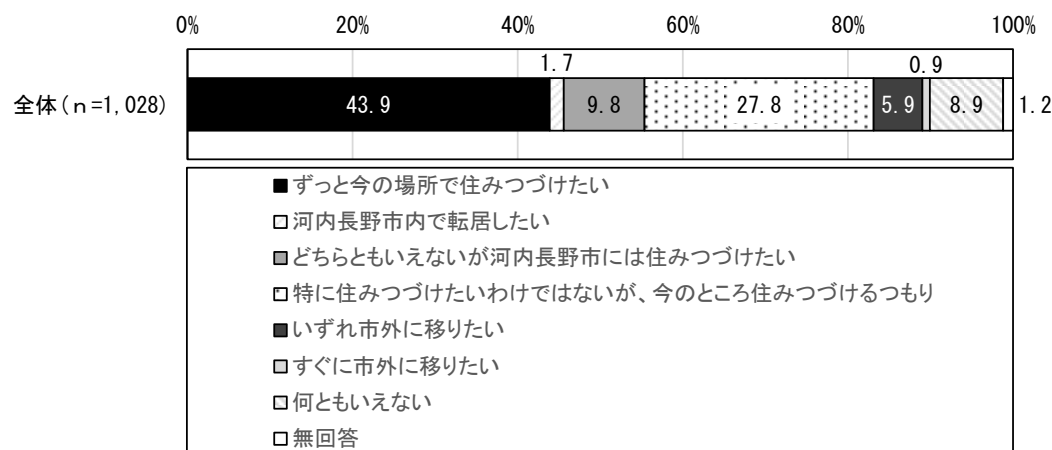
2-2. 河内長野市での定住意向について

(1) 市での定住意向

問1 あなたは、これからも河内長野市に住みつづけたいと思いますか。
(○は1つだけ)

市での定住意向についてみると、「ずっと今の場所で住みつづけたい」が43.9%と最も高く、次いで「特に住みつづけたいわけではないが、今のところ住みつづけるつもり」が27.8%、「どちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい」が9.8%となっています。

■市での定住意向（単数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「ずっと今の場所で住みつづけたい」が47.7%と『女性』に比べて6.3ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』『20歳代』では『特に住みつづけたいわけではないが、今のところ住みつづけるつもり』が最も高く、一方、『30歳代』から『80歳以上』にかけては「ずっと今の場所で住みつづけたい」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、『三日市小学校区』『美加の台小学校区』では「特に住みつづけたいわけではないが、今のところ住みつづけるつもり」が最も高くなっています。

■市での定住意向（単数回答／性別、年代別、小学校区別）

	n 数	ずっと今の場所 に住みつづけた い	河内長野市内で 転居したい	どちらともい えないが河内 長野市には住 みつづけた い	特に住みつづ けたいわけ ではないが、今 のところ住み つづけるつも り	いずれ市外に 移りたい	すぐに市外に 移りたい	何ともい えない	無回 答
全体	100.0 1,028	43.9 451	1.7 17	9.8 101	27.8 286	5.9 61	0.9 9	8.9 91	1.2 12

性別

男性	100.0 411	47.7 196	2.2 9	13.1 54	23.1 95	5.1 21	0.7 3	7.3 30	0.7 3
女性	100.0 601	41.4 249	1.3 8	7.8 47	30.9 186	6.5 39	1.0 6	9.7 58	1.3 8
答えたくない	100.0 12	33.3 4	— —	— —	33.3 4	8.3 1	— —	25.0 3	— —
無回答	100.0 4	50.0 2	— —	— —	25.0 1	— —	— —	— —	25.0 1

年代別

19歳以下	100.0 32	18.8 6	- -	6.3 2	28.1 9	21.9 7	6.3 2	18.8 6	- -
20歳代	100.0 122	19.7 24	2.5 3	9.8 12	32.8 40	12.3 15	2.5 3	19.7 24	0.8 1
30歳代	100.0 92	34.8 32	1.1 1	17.4 16	32.6 30	8.7 8	- -	5.4 5	- -
40歳代	100.0 141	34.8 49	2.8 4	8.5 12	34.0 48	7.8 11	0.7 1	9.9 14	1.4 2
50歳代	100.0 179	42.5 76	3.4 6	10.1 18	24.6 44	5.0 9	1.7 3	12.3 22	0.6 1
60歳代	100.0 166	49.4 82	0.6 1	12.0 20	28.9 48	2.4 4	- -	6.0 10	0.6 1
70歳代	100.0 188	60.1 113	1.1 2	7.4 14	23.9 45	3.7 7	- -	2.7 5	1.1 2
80歳以上	100.0 96	63.5 61	- -	7.3 7	20.8 20	- -	- -	4.2 4	4.2 4
無回答	100.0 12	66.7 8	- -	- -	16.7 2	- -	- -	8.3 1	8.3 1

小学校區別

長野小学校区	100.0 137	43.8 60	0.7 1	13.1 18	21.2 29	13.1 18	0.7 1	6.6 9	0.7 1
小山田小学校区	100.0 90	38.9 35	2.2 2	11.1 10	26.7 24	6.7 6	1.1 1	10.0 9	3.3 3
天野小学校区	100.0 52	53.8 28	1.9 1	7.7 4	21.2 11	5.8 3	1.9 1	5.8 3	1.9 1
高向小学校区	100.0 44	54.5 24	— —	9.1 4	27.3 12	4.5 2	— —	4.5 2	— —
三田市小学校区	100.0 106	31.1 33	3.8 4	12.3 13	32.1 34	5.7 6	2.8 3	11.3 12	0.9 1
天見小学校区	100.0 10	100.0 10	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
川上小学校区	100.0 83	53.0 44	1.2 1	8.4 7	21.7 18	2.4 2	1.2 1	10.8 9	1.2 1
千代田小学校区	100.0 110	41.8 46	1.8 2	9.1 10	30.9 34	4.5 5	1.8 2	10.0 11	— —
楠小学校区	100.0 89	40.4 36	2.2 2	5.6 5	39.3 35	2.2 2	— —	10.1 9	— —
加賀田小学校区	100.0 78	48.7 38	2.6 2	12.8 10	25.6 20	1.3 1	— —	9.0 7	— —
石仏小学校区	100.0 46	34.8 16	2.2 1	10.9 5	26.1 12	15.2 7	— —	6.5 3	4.3 2
美加の台小学校区	100.0 80	35.0 28	— —	10.0 8	38.8 31	5.0 4	— —	11.3 9	— —
南花台小学校区	100.0 79	55.7 44	— —	7.6 6	25.3 20	6.3 5	— —	5.1 4	— —
わからない	100.0 9	22.2 2	— —	— —	33.3 3	— —	— —	33.3 3	11.1 1
無回答	100.0 15	46.7 7	6.7 1	6.7 1	20.0 3	— —	— —	6.7 1	13.3 2

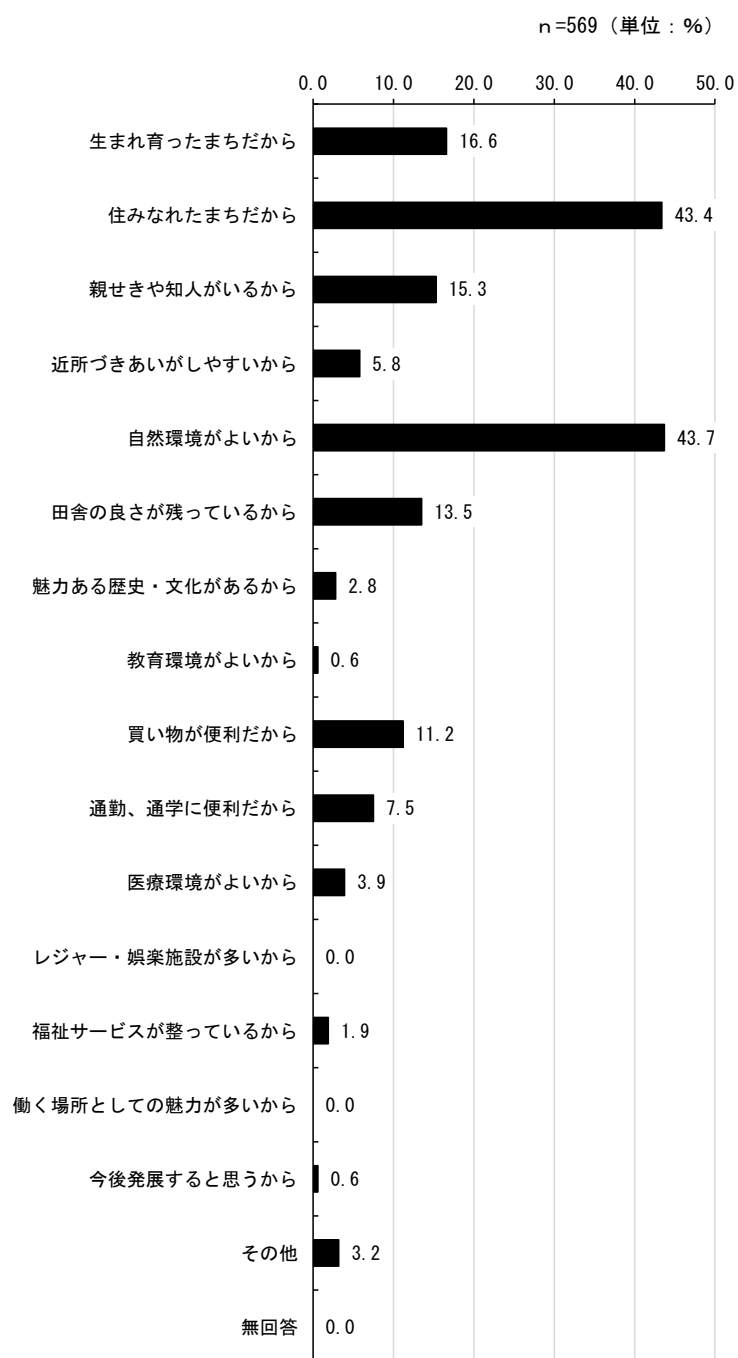
(2) 住みつづけたい理由

(問1で「1. ずっと今の場所で住みつづけたい」「2. 河内長野市内で転居したい」「3. 1. 2. のどちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい」と答えられた方におたずねします。)

問2 住みつづけたい理由は何ですか。(○は2つまで)

住みつづけたい理由についてみると、「自然環境がよいから」が43.7%と最も高く、次いで「住みなれたまちだから」が43.4%、「生まれ育ったまちだから」が16.6%となっています。

■住みつづけたい理由（複数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「自然環境がよいから」が45.7%と『女性』に比べて3.4ポイント高くなっています。

年代別にみると、『30歳代』『40歳代』『70歳代』『80歳以上』では「自然環境がよいから」が最も高く、『19歳以下』『20歳代』では「生まれ育ったまちだから」、『50歳代』『60歳代』では「住みなれたまちだから」が最も高くなっています。

■住みつづけたい理由（複数回答／性別、年代別）

	n 数	生まれ育ったまちだから	住みなれたまちだから	親せきや知人がいるから	近所づきあいしやすいから	自然環境がよいから	田舎の良さが残っているから	魅力ある歴史・文化があるから	教育環境がよいから	買い物が便利だから	通勤、通学に便利だから	医療環境がよいから	レジャー・娯楽施設が多いから	福祉サービスが整っているから	働く場所としての魅力が多いから	今後発展すると思うから	その他	無回答
全体	100.0 569	16.6 89	43.4 232	15.3 82	5.8 31	43.7 234	13.5 72	2.8 15	0.6 3	11.2 60	7.5 40	3.9 21	- -	1.9 10	- -	0.6 3	3.2 17	- -
性別																		
男性	100.0 259	18.8 46	44.5 109	12.7 31	2.4 6	45.7 112	12.7 31	3.3 8	0.8 2	10.6 26	10.6 26	4.5 11	- -	1.2 3	- -	0.4 1	2.9 7	- -
女性	100.0 304	14.7 42	42.0 120	17.8 51	8.7 25	42.3 121	14.0 40	2.4 7	0.3 1	11.5 33	4.9 14	3.5 10	- -	2.4 7	- -	0.7 2	3.5 10	- -
答えたくない	100.0 4	33.3 1	100.0 3	- -	- -	- -	- -	- -	- -	33.3 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
無回答	100.0 2	- -	- -	- -	- -	100.0 1	100.0 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
年代別																		
19歳以下	100.0 8	62.5 5	37.5 3	25.0 2	- -	12.5 1	- -	12.5 1	- -	12.5 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
20歳代	100.0 39	52.9 18	29.4 10	20.6 7	- -	35.3 12	20.6 7	2.9 1	- -	8.8 3	5.9 2	2.9 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -
30歳代	100.0 49	10.6 5	27.7 13	25.5 12	4.3 2	40.4 19	21.3 10	- -	6.4 3	8.5 4	21.3 10	- -	- -	2.1 1	- -	2.1 1	10.6 5	- -
40歳代	100.0 65	17.7 11	45.2 28	17.7 11	4.8 3	48.4 30	8.1 5	- -	- -	11.3 7	12.9 8	1.6 1	- -	- -	- -	1.6 1	4.8 3	- -
50歳代	100.0 100	19.4 18	41.9 39	14.0 13	5.4 5	40.9 38	19.4 18	3.2 3	- -	9.7 9	10.8 10	3.2 3	- -	1.1 1	- -	- -	2.2 2	- -
60歳代	100.0 103	12.5 12	53.1 51	12.5 12	5.2 5	45.8 44	10.4 10	3.1 3	- -	11.5 11	7.3 7	4.2 4	- -	- -	- -	- -	1.0 1	- -
70歳代	100.0 129	9.8 12	48.8 60	11.4 14	8.9 11	49.6 61	10.6 13	4.1 5	- -	13.8 17	1.6 2	3.3 4	- -	0.8 1	- -	- -	4.1 5	- -
80歳以上	100.0 68	10.8 7	35.4 23	16.9 11	7.7 5	40.0 26	10.8 7	3.1 2	- -	12.3 8	1.5 1	12.3 8	- -	9.2 6	- -	1.5 1	1.5 1	- -
無回答	100.0 8	14.3 1	71.4 5	- -	- -	42.9 3	28.6 2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	14.3 1	- -	- -	- -	- -

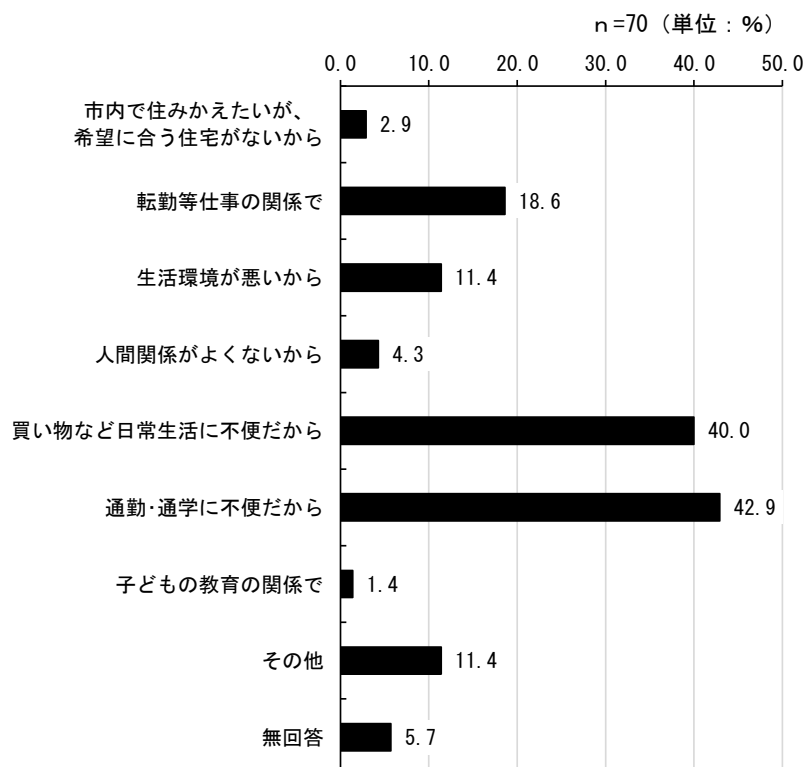
(3) 市外に移りたい理由

(問1で「5. いずれ市外に移りたい」「6. すぐに市外に移りたい」と答えられた方におたずねします。)

問3 市外に移りたい理由は何ですか。(〇は2つまで)

市外に移りたい理由についてみると、「通勤・通学に不便だから」が42.9%と最も高く、次いで「買い物など日常生活に不便だから」が40.0%、「転勤等仕事の関係で」が18.6%となっています。

■市外に移りたい理由（複数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「通勤・通学に不便だから」が41.7%と最も高く、『女性』では「買い物など日常生活に不便だから」が51.1%と最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『40歳代』にかけては「通勤・通学に不便だから」が最も高くなっています。一方、『50歳代』から『70歳代』にかけては「買い物など日常生活に不便だから」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、『天見小学校区』を除く全ての小学校区にかけて「通勤・通学に不便だから」「買い物など日常生活に不便だから」が高い傾向となっています。

■市外に移りたい理由（複数回答／性別、年代別、小学校区別）

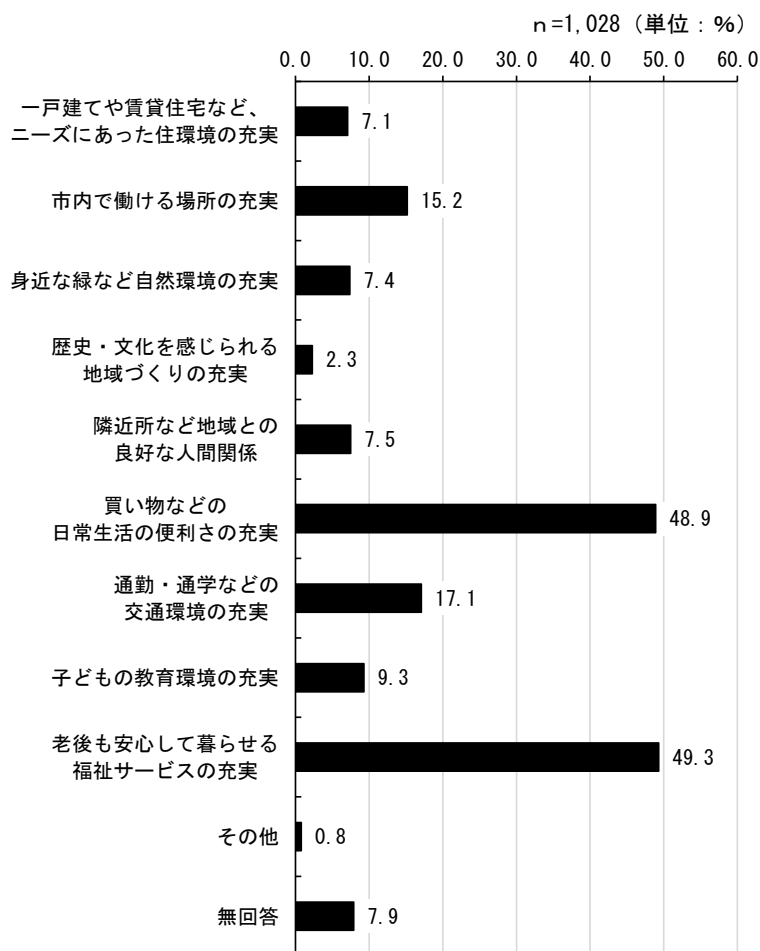
	n 数	市内で住みたいが、 希望に合う住宅が ないから	転 勤 等 仕 事 の 関 係 で	生 活 環 境 が 悪 い か ら	人 間 関 係 が よ く な い か ら	日 常 生 活 に 不 便 だ か ら	買 い 物 な ど	通 勤 ・ 通 学 に 不 便 だ か ら	子 ど も の 教 育 の 関 係 で	そ の 他	無 回 答
全体	100.0 70	2.9 2	18.6 13	11.4 8	4.3 3	40.0 28	42.9 30	1.4 1	11.4 8	5.7 4	
性別											
男性	100.0 24	4.2 1	25.0 6	8.3 2	- -	20.8 5	41.7 10	- -	16.7 4	8.3 2	
女性	100.0 45	2.2 1	15.6 7	13.3 6	6.7 3	51.1 23	42.2 19	2.2 1	8.9 4	4.4 2	
答えたくない	100.0 1	- -	- -	- -	- -	- -	100.0 1	- -	- -	- -	
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
年代別											
19歳以下	100.0 9	- -	22.2 2	22.2 2	- -	11.1 1	66.7 6	- -	11.1 1	- -	
20歳代	100.0 18	- -	27.8 5	5.6 1	- -	44.4 8	50.0 9	5.6 1	5.6 1	5.6 1	
30歳代	100.0 8	- -	37.5 3	12.5 1	12.5 1	12.5 1	37.5 3	- -	12.5 1	- -	
40歳代	100.0 12	- -	8.3 1	25.0 3	16.7 2	33.3 4	50.0 6	- -	16.7 2	8.3 1	
50歳代	100.0 12	- -	8.3 1	8.3 1	- -	75.0 9	33.3 4	- -	8.3 1	- -	
60歳代	100.0 4	- -	25.0 1	- -	- -	50.0 2	50.0 2	- -	25.0 1	- -	
70歳代	100.0 7	- -	14.3 1	- -	- -	28.6 2	28.6 2	- -	14.3 1	- -	
80歳以上	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
小学校区別											
長野小学校区	100.0 19	- -	21.1 4	10.5 2	5.3 1	26.3 5	52.6 10	- -	5.3 1	5.3 1	
小山田小学校区	100.0 7	14.3 1	28.6 2	14.3 1	- -	42.9 3	28.6 2	- -	14.3 1	- -	
天野小学校区	100.0 4	- -	50.0 2	- -	- -	50.0 2	75.0 3	- -	- -	- -	
高向小学校区	100.0 2	- -	50.0 1	- -	- -	50.0 1	50.0 1	- -	- -	- -	
三日市小学校区	100.0 9	- -	- -	11.1 1	- -	44.4 4	11.1 1	- -	33.3 3	11.1 1	
天見小学校区	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
川上小学校区	100.0 3	- -	- -	- -	- -	66.7 2	100.0 3	- -	- -	- -	
千代田小学校区	100.0 7	- -	14.3 1	28.6 2	28.6 2	28.6 2	42.9 3	- -	- -	14.3 1	
楠小学校区	100.0 2	- -	- -	- -	- -	50.0 1	50.0 1	- -	50.0 1	- -	
加賀田小学校区	100.0 1	- -	- -	- -	- -	100.0 1	100.0 1	- -	- -	- -	
石仏小学校区	100.0 7	- -	28.6 2	- -	- -	42.9 3	42.9 3	- -	28.6 2	- -	
美加の台小学校区	100.0 4	- -	- -	25.0 1	- -	75.0 3	0.0 0	25.0 1	- -	- -	
南花台小学校区	100.0 5	20.0 1	20.0 1	20.0 1	- -	20.0 1	40.0 2	- -	- -	20.0 1	
わからない	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
無回答	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	

(4)市に住みつづけるために必要なもの

問4 これからも河内長野市に住みつづけるためには、どんなことが必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

市に住みつづけるために必要なものについてみると、「老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実」が49.3%と最も高く、次いで「買い物などの日常生活の便利さの充実」が48.9%、「通勤・通学などの交通環境の充実」が17.1%となっています。

■市に住みつづけるために必要なもの（複数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実」が48.4%と最も高く、『女性』では「買い物などの日常生活の便利さの充実」が52.1%と最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『30歳代』にかけては「買い物などの日常生活の便利さの充実」が最も高くなっています。一方、『40歳代』から『80歳以上』にかけては「老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実」が最も高くなっています。

■市に住みつづけるために必要なもの（複数回答／性別、年代別）

	n 数	一戸建てや賃貸住宅など、 ニーズにあった住環境の充実	市内で働ける場所の充実	自然環境の充実	身近な緑など	歴史・文化を感じられる 地域づくりの充実	良好な人間関係	日常生活の便利さの充実	買物などの 交通環境の充実	子どもの教育環境の充実	老後も安心して暮らせる 福祉サービスの充実	その他	無回答
全体	100.0 1,028	7.1 73	15.2 156	7.4 76	2.3 24	7.5 77	48.9 503	17.1 176	9.3 96	49.3 507	0.8 8	7.9 81	
性別													
男性	100.0 411	8.0 33	18.0 74	10.2 42	3.6 15	7.5 31	44.8 184	16.8 69	8.3 34	48.4 199	0.7 3	6.8 28	
女性	100.0 601	6.3 38	13.5 81	5.3 32	1.5 9	7.3 44	52.1 313	17.1 103	10.1 61	49.9 300	0.8 5	8.5 51	
答えたくない	100.0 12	8.3 1	8.3 1	8.3 1	— —	8.3 1	41.7 5	33.3 4	8.3 1	50.0 6	— —	8.3 1	
無回答	100.0 4	25.0 1	— —	25.0 1	— —	25.0 1	25.0 1	— —	— —	50.0 2	— —	25.0 1	
年代別													
19歳以下	100.0 32	3.1 1	31.3 10	— —	— —	9.4 3	62.5 20	31.3 10	3.1 1	9.4 3	6.3 2	9.4 3	
20歳代	100.0 122	13.1 16	24.6 30	10.7 13	1.6 2	6.6 8	45.9 56	27.0 33	14.8 18	7.4 9	0.8 1	10.7 13	
30歳代	100.0 92	16.3 15	25.0 23	3.3 3	— —	5.4 5	42.4 39	25.0 23	30.4 28	22.8 21	— —	8.7 8	
40歳代	100.0 141	2.8 4	17.7 25	4.3 6	3.5 5	5.7 8	44.0 62	19.9 28	17.0 24	49.6 70	0.7 1	9.2 13	
50歳代	100.0 179	7.3 13	22.3 40	4.5 8	2.8 5	6.1 11	47.5 85	22.3 40	8.4 15	49.7 89	0.6 1	6.7 12	
60歳代	100.0 166	6.0 10	12.0 20	6.6 11	2.4 4	3.6 6	54.2 90	12.0 20	3.0 5	65.1 108	0.6 1	6.6 11	
70歳代	100.0 188	4.3 8	4.3 8	10.1 19	2.7 5	10.6 20	52.7 99	7.4 14	1.6 3	68.6 129	0.5 1	8.0 15	
80歳以上	100.0 96	4.2 4	— —	14.6 14	3.1 3	15.6 15	50.0 48	6.3 6	1.0 1	71.9 69	1.0 1	6.3 6	
無回答	100.0 12	16.7 2	— —	16.7 2	— —	8.3 1	33.3 4	16.7 2	8.3 1	75.0 9	— —	— —	

2-3. 河内長野市の取組みについて

(1) 市の取組みに対する満足度・重要度

問5 次の1から41の各項目について、①現在の生活の中でどの程度満足していますか。また、②今後に向けてどの程度重要だと思いますか。各項目の①および②のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近い番号に○をつけてください。(①、②それぞれについて○は1つだけ)

<調査項目>

41の項目に対して、「現在の満足度」「今後の重要度」の2つのポイントを軸に回答をいただきました。

<分析方法>

「現在の満足度」の点数化については、「非常に満足」＝5点、「やや満足」＝4点、「普通」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満」＝1点として、「わからない」「無回答」を除いた件数で計算したものです。

「今後の重要度」の点数化については、「非常に重要」＝5点、「やや重要」＝4点、「あまり重要でない」＝2点、「重要でない」＝1点として、「わからない」「無回答」を除いた件数で計算したものです。

市の取組みやサービスの分野39項目について、上記の基準で点数化し、グラフ化及び散布図化することで分析しています。

[現在の満足度／今後の重要度]のクロス分析

「現在の満足度」の平均は3.04、「今後の重要度」の平均は4.19となっています。

「現在の満足度」の高い項目は「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」「騒音・悪臭などの少なさ」「消防・救急」、 「今後の重要度」の高い項目は「消防・救急」「防災」「防犯」となっています。

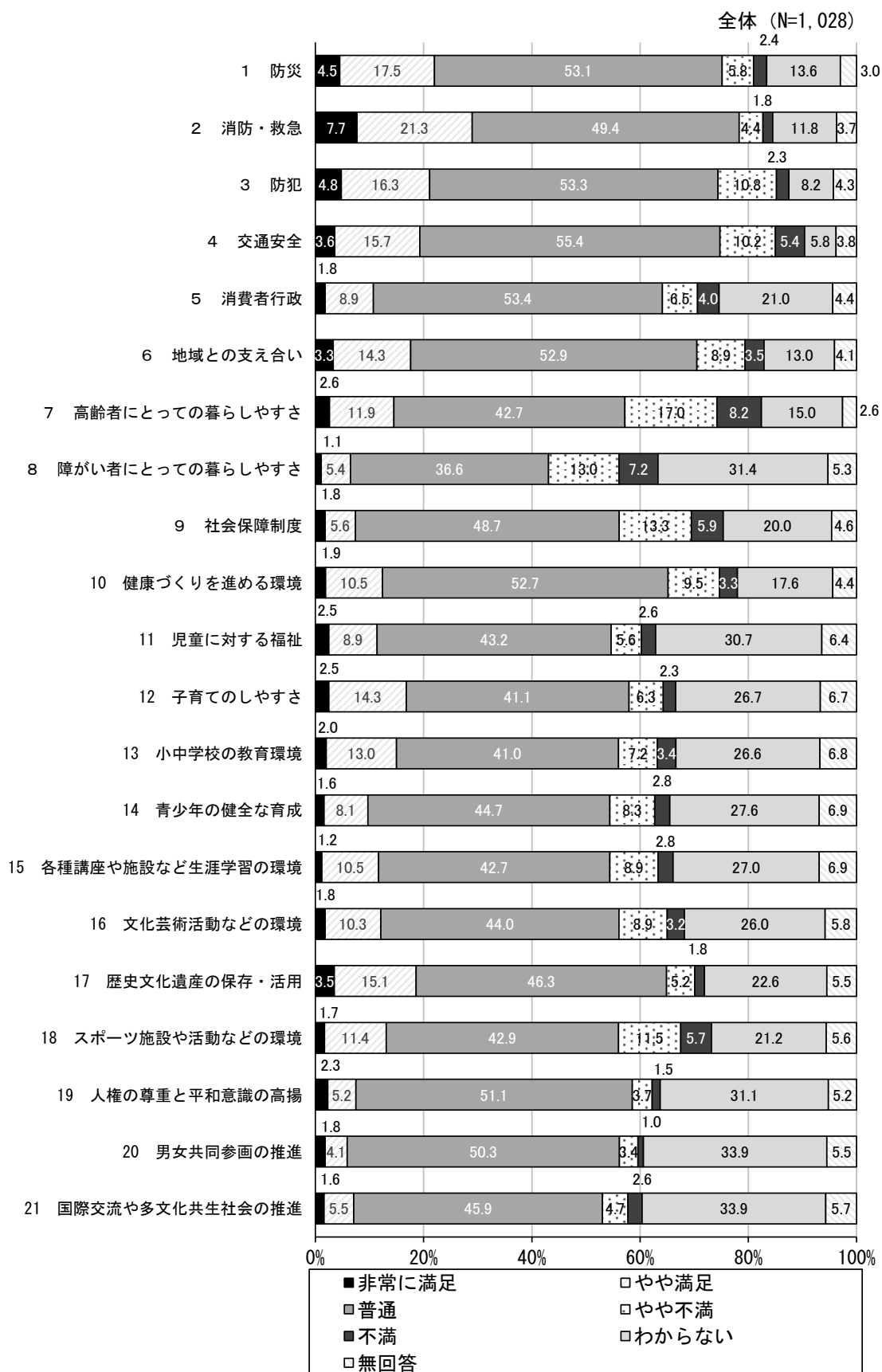
<[現在の満足度／今後の重要度]の上位・下位3項目>

		1位	2位	3位
満足度	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.48)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.34)
	下位	商業地などの賑わい(2.27)	身近な場での働きやすさ(2.44)	観光事業(2.54)
重要度	上位	消防・救急(4.61)	防災(4.55)	防犯(4.52)
	下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.64)	文化芸術活動などの環境(3.70)	男女共同参画の推進(3.77)

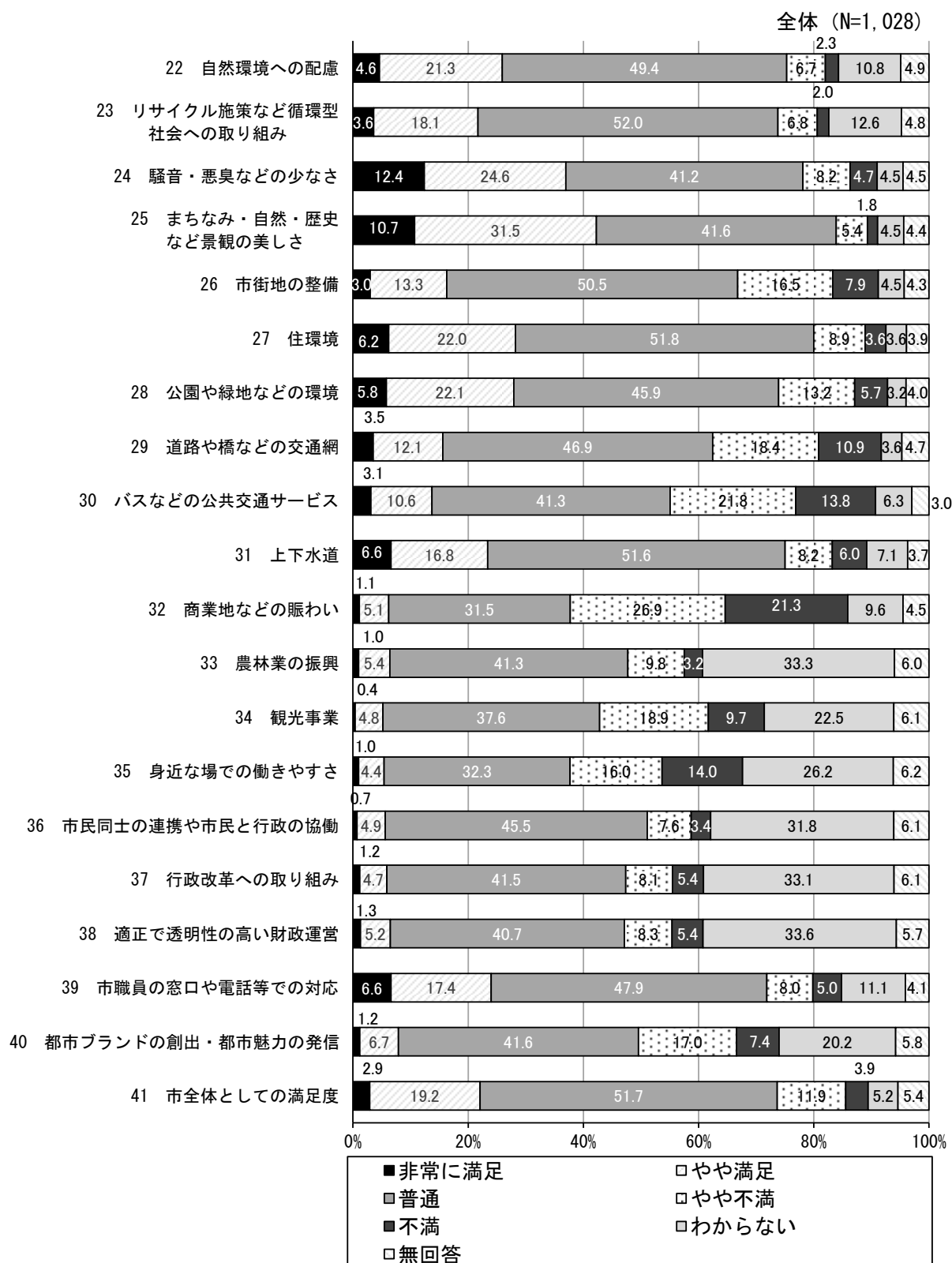
<各項目のポイント数>

No.	項目名	満足度	重要度	No.	項目名	満足度	重要度
1	防災	3.19	4.55	22	自然環境への配慮	3.23	4.23
2	消防・救急	3.34	4.61	23	リサイクル施策など循環型社会への取り組み	3.17	4.20
3	防犯	3.12	4.52	24	騒音・悪臭などの少なさ	3.35	4.26
4	交通安全	3.02	4.42	25	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ	3.48	4.21
5	消費者行政	2.97	4.15	26	市街地の整備	2.86	4.23
6	地域の支え合い	3.06	4.04	27	住環境	3.20	4.35
7	高齢者にとっての暮らしやすさ	2.80	4.45	28	公園や緑地などの環境	3.10	4.13
8	障がい者にとっての暮らしやすさ	2.69	4.35	29	道路や橋などの交通網	2.77	4.33
9	社会保障制度	2.79	4.38	30	バスなどの公共交通サービス	2.64	4.36
10	健康づくりを進める環境	2.98	4.05	31	上下水道	3.11	4.29
11	児童に対する福祉	3.05	4.38	32	商業地などの賑わい	2.27	4.23
12	子育てのしやすさ	3.13	4.46	33	農林業の振興	2.85	3.93
13	小中学校の教育環境	3.05	4.42	34	観光事業	2.54	3.87
14	青少年の健全な育成	2.96	4.32	35	身近な場での働きやすさ	2.44	4.24
15	各種講座や施設など生涯学習の環境	2.97	3.86	36	市民同士の連携や市民と行政の協働	2.87	3.93
16	文化芸術活動などの環境	2.98	3.70	37	行政改革への取り組み	2.81	4.19
17	歴史文化遺産の保存・活用	3.18	3.92	38	適正で透明性の高い財政運営	2.81	4.40
18	スポーツ施設や活動などの環境	2.89	3.92	39	市職員の窓口や電話等での対応	3.15	-
19	人権の尊重と平和意識の高揚	3.05	3.95	40	都市ブランドの創出・都市魅力の発信	2.69	4.01
20	男女共同参画の推進	3.04	3.77	41	市全体として	3.06	-
21	国際交流や多文化共生社会の推進	2.98	3.64	平均値		3.04	4.19

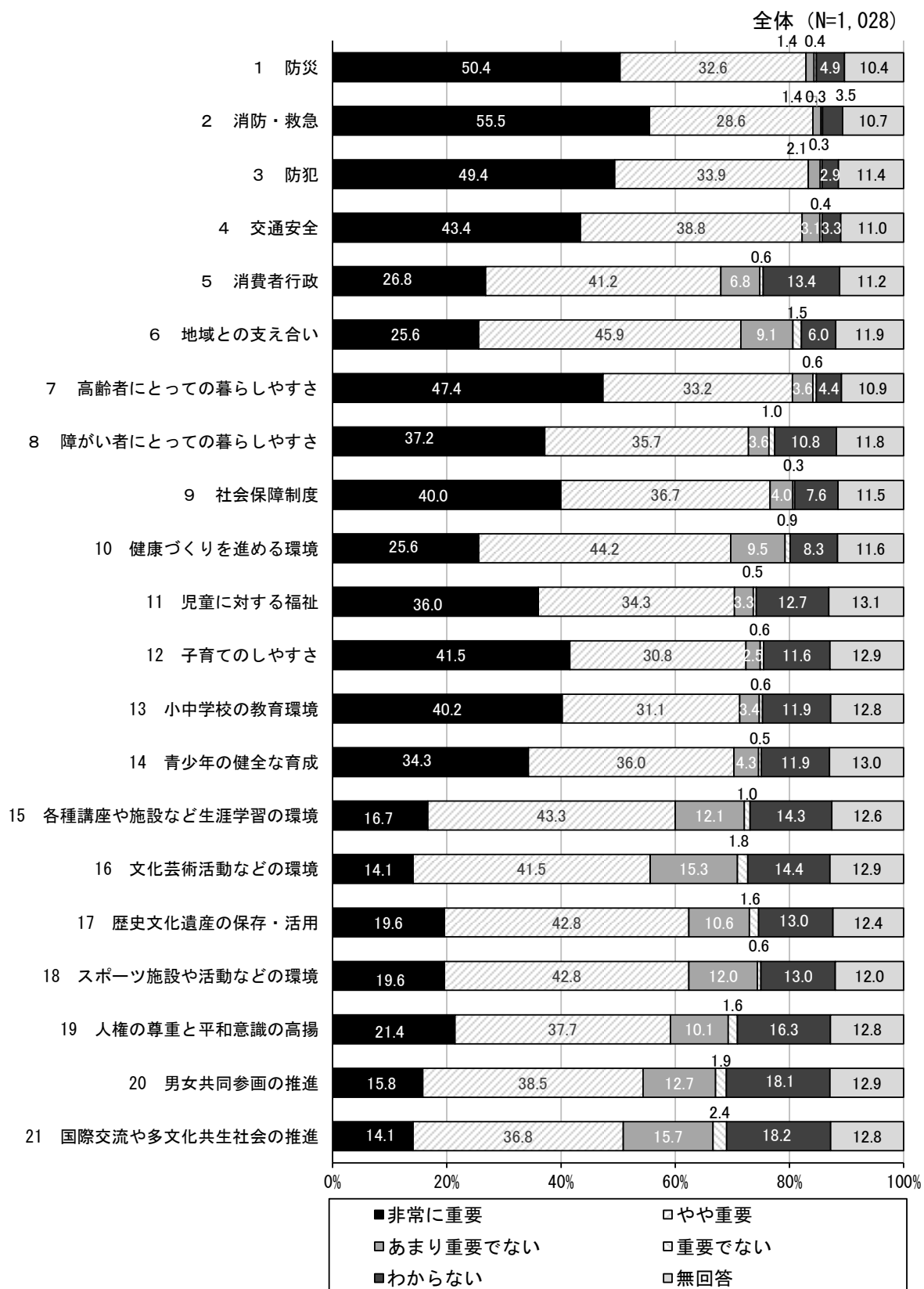
<現在の満足度割合（項目順①）>



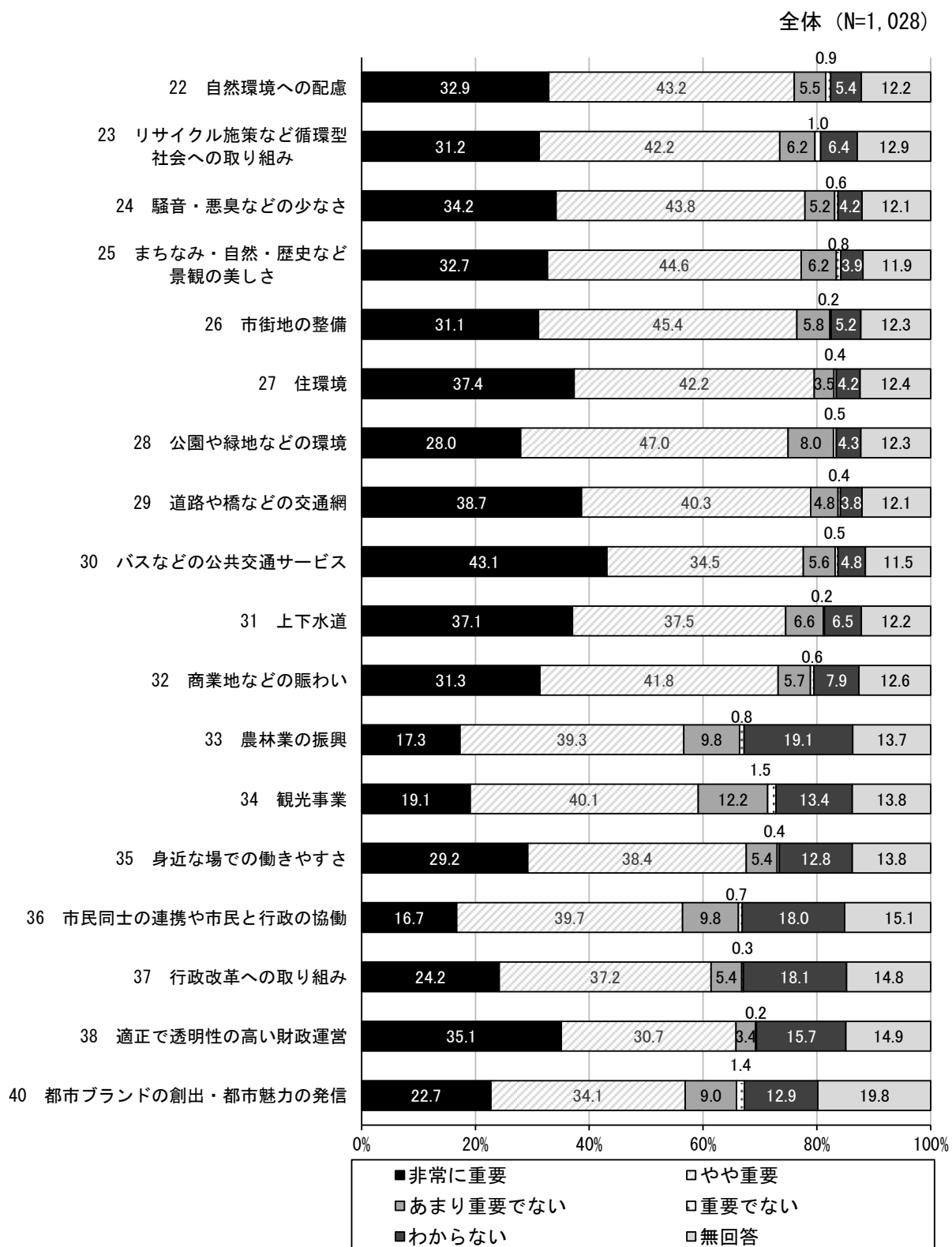
<現在の満足度割合（項目順②）>



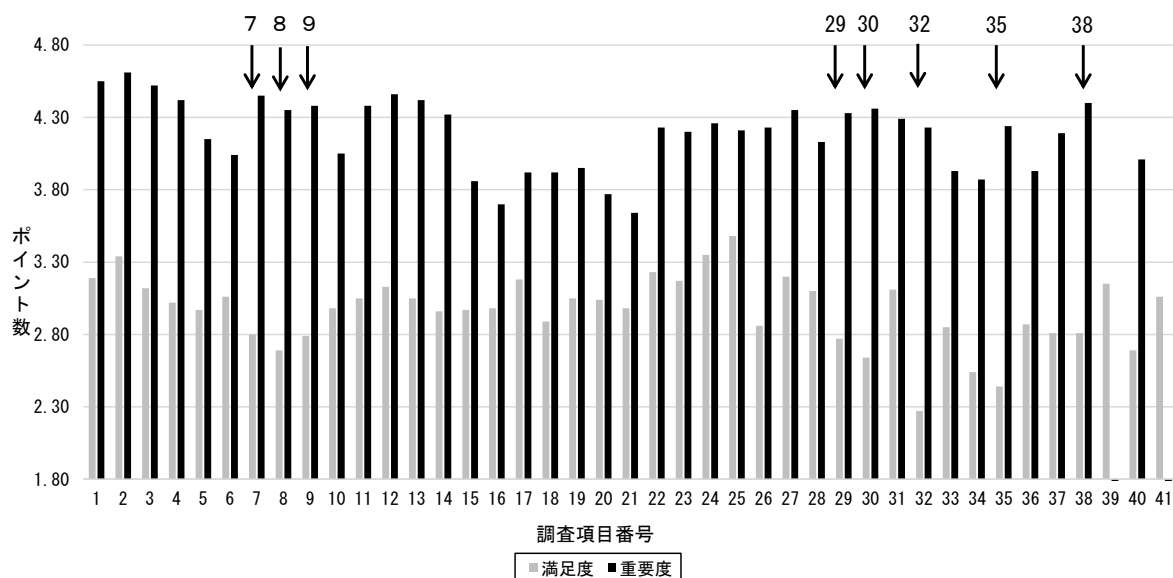
<今後の重要度割合（項目順①）>



<今後の重要度割合（項目順②）>



<「満足度」と「重要度」のギャップ>



■満足度と重要度のギャップが特に大きい項目

- 7. 高齢者にとっての暮らしやすさ (1.65)
- 8. 障がい者にとっての暮らしやすさ (1.66)
- 9. 社会保障制度 (1.59)
- 29. 道路や橋などの交通網 (1.56)
- 30. バスなどの公共交通サービス (1.72)
- 32. 商業地などの賑わい (1.96)
- 35. 身近な場での働きやすさ (1.80)
- 38. 適正で透明性の高い財政運営 (1.59)

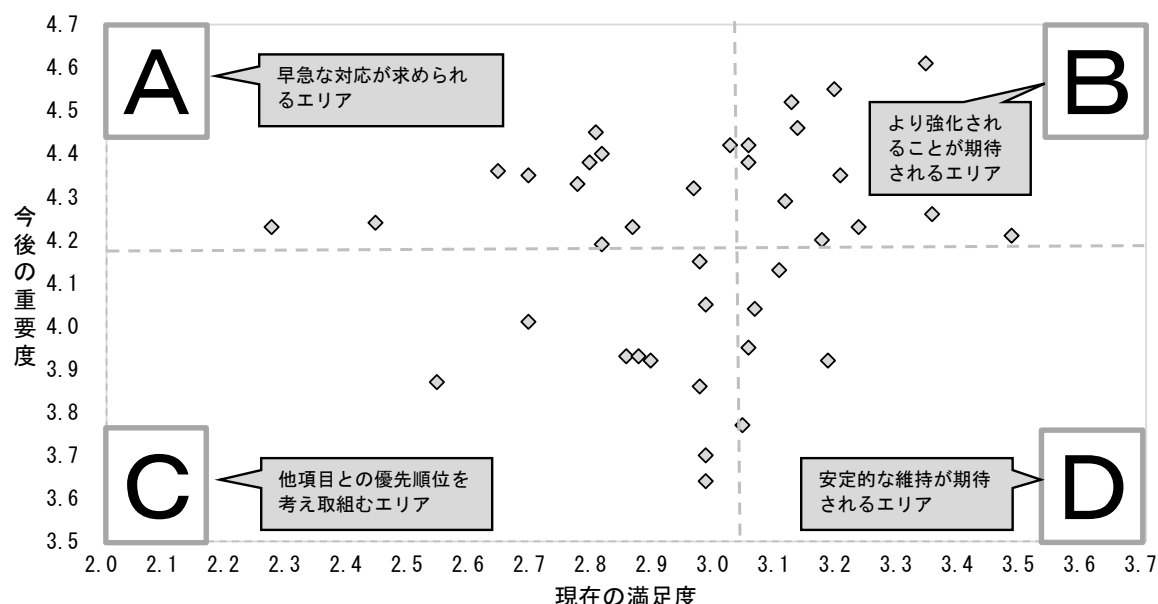
(注) () は、ギャップ数を示す。

[現在の満足度／今後の重要度]クロス分析散布図について

満足度と重要度の結果を散布図に落とし込み、「A」から「D」に分類することで、各エリアに所属する項目への対応の方向性を示しています。

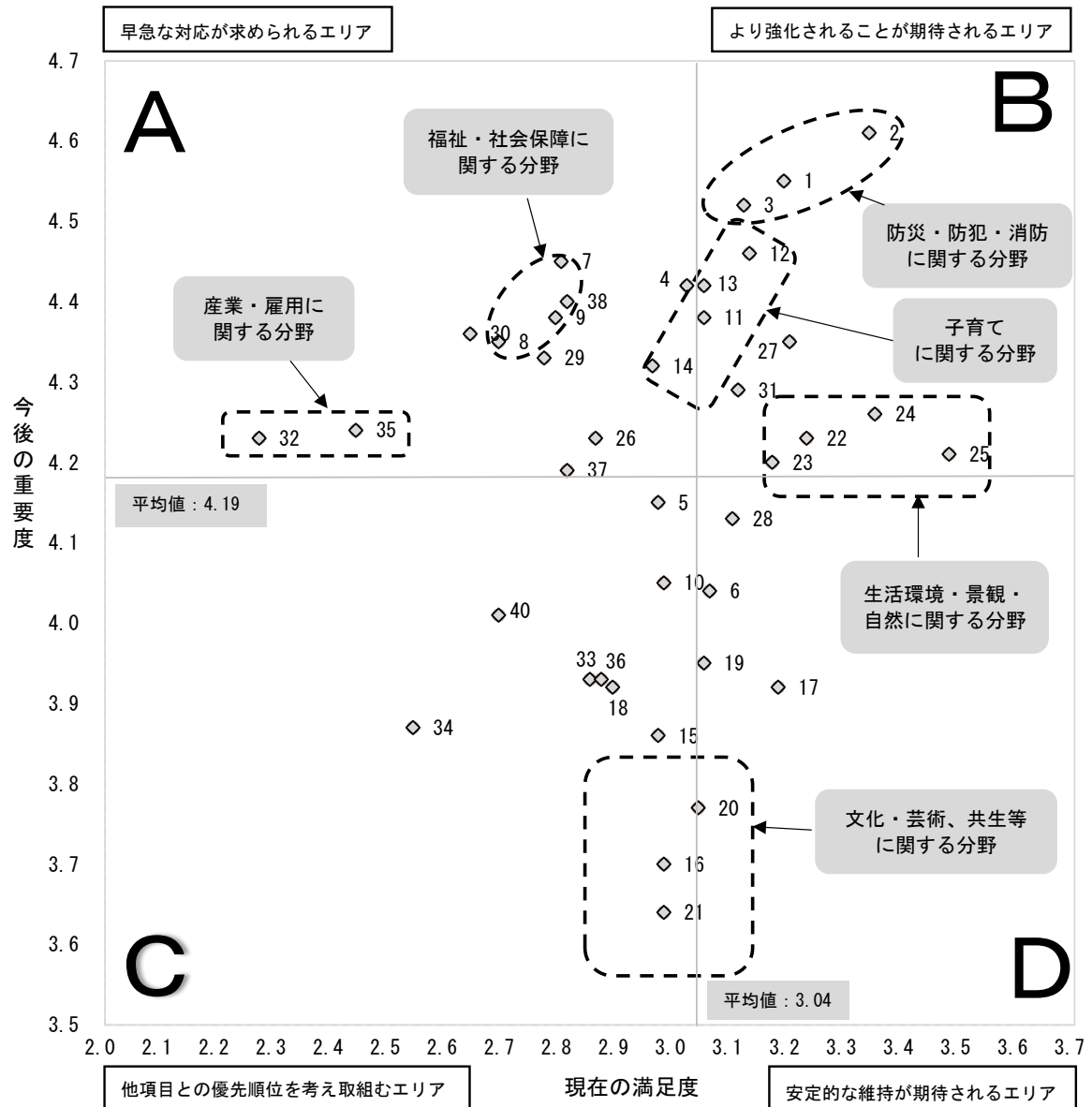
特に「A」エリアに関しては重要度が高いですが、満足度が低いエリアであり、ここに示される項目に対しては優先順位を高めた対応がまちづくりに必要であると考えられます。

＜散布図内の各エリアの見方＞



エリア	内容	項目
A 早急な対応が求められるエリア	満足度→低 重要度→高	4. 交通安全／7. 高齢者にとっての暮らしやすさ／8. 障がい者にとっての暮らしやすさ／9. 社会保障制度／14. 青少年の健全な育成／26. 市街地の整備／29. 道路や橋などの交通網／30. バスなどの公共交通サービス／32. 商業地などの賑わい／35. 身近な場での働きやすさ／37. 行政改革への取り組み／38. 適正で透明性の高い財政運営
B より強化されることが期待されるエリア	満足度→高 重要度→高	1. 防災／2. 消防・救急／3. 防犯／11. 児童に対する福祉／12. 子育てのしやすさ／13. 小中学校の教育環境／22. 自然環境への配慮／23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み／24. 騒音・悪臭などの少なさ／25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ／27. 住環境／31. 上下水道
C 他項目との優先順位を考え取り組むエリア	満足度→低 重要度→低	5. 消費者行政／10. 健康づくりを進める環境／15. 各種講座や施設など生涯学習の環境／16. 文化芸術活動などの環境／18. スポーツ施設や活動などの環境／21. 国際交流や多文化共生社会の推進／33. 農林業の振興／34. 観光事業／36. 市民同士の連携や市民と行政の協働／40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信
D 安定的な維持が期待されるエリア	満足度→高 重要度→低	6. 地域の支え合い／17. 歴史文化遺産の保存・活用／19. 人権の尊重と平和意識の高揚／20. 男女共同参画の推進／28. 公園や緑地などの環境

＜「現在の満足度」と「今後の重要度」のクロス分析＞散布図



回答者の属性別データ

①満足度×性別

満足度を性別にみると、『男性』『女性』ともに「まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ」といった『環境』に関する項目、「消防・救急」といった『安全・安心』に関する項目が高くなっている一方、「商業地などの賑わい」「身近な場での働きやすさ」といった『産業』に関する項目が低くなっています。

			1位	2位	3位
現在の満足度 (5点満点)	男性	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.41)	消防・救急(3.35)	リサイクル施設など循環型社会への取り組み(3.24)
		下位	商業地などの賑わい(2.27)	小中学校の教育環境(2.29)	身近な場での働きやすさ(2.44)
	女性	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.52)	消防・救急(3.33)	小中学校の教育環境(3.29)
		下位	商業地などの賑わい(2.27)	身近な場での働きやすさ(2.44)	観光事業(2.55)
	答えたくない	上位	リサイクル施設など循環型社会への取り組み(3.41)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.40)	住環境(3.30)
		下位	商業地などの賑わい(2.33)	適正で透明性の高い財政運営(2.50)	スポーツ施設や活動などの環境(2.56)
	全体	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.48)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.34)
		下位	商業地などの賑わい(2.27)	身近な場での働きやすさ(2.44)	観光事業(2.54)

②今後の重要度×性別

今後の重要度を性別にみると、『男性』『女性』ともに「消防・救急」「防災」「防犯」といった『安心・安全』に関する項目が高くなっています。

			1位	2位	3位
今後の重要度 (5点満点)	男性	上位	消防・救急(4.55)	防災(4.51)	防犯(4.44)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.52)	文化芸術活動などの環境(3.52)	男女共同参画の推進(3.69)
	女性	上位	消防・救急(4.65)	防災(4.58)	防犯(4.57)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.76)	文化芸術活動などの環境(3.81)	男女共同参画の推進(3.86)
	答えたくない	上位	防災(4.60)	適正で透明性の高い財政運営(4.56)	消防・救急(4.50) 高齢者にとっての暮らしやすさ(4.50)
		下位	男女共同参画の推進(2.88)	国際交流や多文化共生社会の推進(3.00)	市街地の整備(3.44)
	全体	上位	消防・救急(4.61)	防災(4.55)	防犯(4.52)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進(3.64)	文化芸術活動などの環境(3.70)	男女共同参画の推進(3.77)

③満足度×年代別

満足度を年代別にみると、『80歳以上』を除く年代で「まちなみ・自然・歴史などの景観の美しさ」「騒音・悪臭などの少なさ」など『環境』に関する項目が高くなっています。

一方で、「商業地などの賑わい」「身近な場での働きやすさ」はほとんどの年代で下位を占めています。

			1位	2位	3位
現在の満足度（5点満点）	19歳以下	上位	消防・救急(3.56)	防災(3.40)	歴史文化遺産の保存・活用(3.36)
		下位	商業地などの賑わい(2.38)	観光事業(2.52)	身近な場での働きやすさ(2.62)
	20歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.67)	騒音・悪臭などの少なさ(3.46)	消防・救急(3.38)
		下位	商業地などの賑わい(2.22)	身近な場での働きやすさ(2.42)	観光事業(2.48)
	30歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.51)	騒音・悪臭などの少なさ(3.42)	消防・救急(3.38)
		下位	商業地などの賑わい(2.15)	身近な場での働きやすさ(2.28)	観光事業(2.43)
	40歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.53)	騒音・悪臭などの少なさ(3.37)	消防・救急(3.27)
		下位	商業地などの賑わい(2.23)	身近な場での働きやすさ(2.42)	観光事業(2.57)
	50歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.42)	騒音・悪臭などの少なさ(3.31)	消防・救急(3.20)
		下位	商業地などの賑わい(2.14)	身近な場での働きやすさ(2.38)	観光事業(2.56)
	60歳代	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.37)	騒音・悪臭などの少なさ(3.19) 消防・救急(3.19)	リサイクル施設など循環型社会への取り組み(3.18)
		下位	商業地などの賑わい(2.24)	身近な場での働きやすさ(2.40)	障がい者にとっての暮らしやすさ(2.50)
	70歳代	上位	消防・救急(3.51)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.41)	騒音・悪臭などの少なさ(3.40)
		下位	身近な場での働きやすさ(2.41)	観光事業(2.52)	身近な場での働きやすさ(2.58)
	80歳以上	上位	市職員の窓口や電話等での対応(3.63)	消防・救急(3.54)	市職員の窓口や電話等での対応(3.51)
		下位	商業地などの賑わい(2.33)	バスなどの公共交通サービス(2.55)	身近な場での働きやすさ(2.59)
	全体	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.48)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.34)
		下位	商業地などの賑わい(2.27)	身近な場での働きやすさ(2.44)	観光事業(2.54)

④今後の重要度×年代別

今後の重要度を年代別にみると、ほとんどの年代で「消防・救急」など『安全・安心』に関する項目が高くなっています。

一方で、「国際交流や多文化共生社会の推進」「文化芸術活動などの環境」はほとんどの年代で下位を占めています。

			1 位	2 位	3 位
今後の重要度（5点満点）	19歳以下	上位	防災（4.63）	消防・救急（4.61）	防犯（4.55）
		下位	文化芸術活動などの環境（3.46）	国際交流や多文化共生社会の推進（3.731）	健康づくりを進める環境（3.72）
	20歳代	上位	子育てのしやすさ（4.65）	消防・救急（4.62）	小中学校の教育環境（4.56）
		下位	文化芸術活動などの環境（3.67）	国際交流や多文化共生社会の推進（3.70）	地域の支え合い（3.84）
	30歳代	上位	子育てのしやすさ（4.66） 防災（4.66）	消防・救急（4.57） 児童に対する福祉（4.57）	小中学校の教育環境（4.56） 防犯（4.56）
		下位	歴史文化遺産の保存・活用（3.54）	国際交流や多文化共生社会の推進（3.57）	文化芸術活動などの環境（3.61）
	40歳代	上位	消防・救急（4.63）	防犯（4.56）	防災（4.52）
		下位	男女共同参画の推進（3.61） 国際交流や多文化共生社会の推進（3.61）	文化芸術活動などの環境（3.69）	人権の尊重と平和意識の高揚（3.78）
	50歳代	上位	消防・救急（4.52）	高齢者にとっての暮らしやすさ（4.48）	防災（4.44）
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進（3.53）	文化芸術活動などの環境（3.54）	各種講座や施設など生涯学習の環境（3.64）
	60歳代	上位	消防・救急（4.63）	防災（4.58）	高齢者にとっての暮らしやすさ（4.52）
		下位	文化芸術活動などの環境（3.81）	男女共同参画の推進（3.79）	国際交流や多文化共生社会の推進（3.81）
	70歳代	上位	消防・救急（4.60）	防災（4.59）	防犯（4.53）
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進（3.70）	文化芸術活動などの環境（3.82）	男女共同参画の推進（3.83）
	80歳以上	上位	消防・救急（4.74）	防災（4.64） バスなどの公共交通サービス（4.64）	高齢者にとっての暮らしやすさ（4.62）
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進（3.81）	男女共同参画の推進（3.96）	文化芸術活動などの環境（3.98）
	全体	上位	消防・救急（4.61）	防災（4.55）	防犯（4.52）
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進（3.64）	文化芸術活動などの環境（3.70）	男女共同参画の推進（3.77）

⑤満足度×小学校区別

満足度を小学校区別にみると、ほとんどの小学校区で「まちなみ・自然・歴史などの景観の美しさ」「騒音・悪臭などの少なさ」など『環境』に関する項目が高くなっています。

一方で、「商業地などの賑わい」「身近な場での働きやすさ」はほとんどの小学校区で下位を占めて満足度が低くなっています。

			1 位	2 位	3 位
現在の満足度 (5点満点)	長野 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.39)	消防・救急(3.30)	歴史文化遺産の保存・活用(3.27)
		下位	商業地などの賑わい(2.20)	観光事業(2.52)	身近な場での働きやすさ(2.54)
	小山田 小学校区	上位	騒音・悪臭などの少なさ(3.42)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.41)	消防・救急(3.39)
		下位	商業地などの賑わい(2.37)	身近な場での働きやすさ(2.58)	観光事業(2.64)
	天野 小学校区	上位	消防・救急(3.67)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.56)	騒音・悪臭などの少なさ(3.49)
		下位	バスなどの公共交通サービス(2.34)	観光事業(2.45)	身近な場での働きやすさ(2.47)
	高向 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.44)	消防・救急(3.35)	市職員の窓口や電話等での対応(3.21)
		下位	商業地などの賑わい(2.21)	身近な場での働きやすさ(2.27)	障がい者にとっての暮らしやすさ(2.41)
	三日市 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.41)	消防・救急(3.34)	騒音・悪臭などの少なさ(3.31)
		下位	商業地などの賑わい(2.01)	観光事業(2.40)	身近な場での働きやすさ(2.43)
	天見 小学校区	上位	消防・救急(3.78)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.67)	防犯(3.60)
		下位	高齢者にとっての暮らしやすさ(2.30) バスなどの公共交通サービス(2.30)	身近な場での働きやすさ(2.33)	市街地の整備(2.50)
	川上 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.64)	騒音・悪臭などの少なさ(3.47)	住環境(3.35)
		下位	商業地などの賑わい(2.31)	身近な場での働きやすさ(2.46)	障がい者にとっての暮らしやすさ(2.59)
	千代田 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.36)	騒音・悪臭などの少なさ(3.26)	消防・救急(3.21)
		下位	商業地などの賑わい(2.22)	身近な場での働きやすさ(2.45)	観光事業(2.49)
	楠 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.47)	消防・救急(3.42)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)
		下位	身近な場での働きやすさ(2.41)	商業地などの賑わい(2.53)	都市ブランドの創出・都市魅力の発信(2.57)
	加賀田 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.56)	騒音・悪臭などの少なさ(3.41)	消防・救急(3.31)
		下位	商業地などの賑わい(2.21)	バスなどの公共交通サービス(2.31)	身近な場での働きやすさ(2.56)
	石仏 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.548)	騒音・悪臭などの少なさ(3.38)	消防・救急(3.34)
		下位	商業地などの賑わい(2.20)	身近な場での働きやすさ(2.27)	障がい者にとっての暮らしやすさ(2.42)
	美加の台 小学校区	上位	騒音・悪臭などの少なさ(3.58)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.54)	小中学校の教育環境(3.44)
		下位	商業地などの賑わい(2.04)	観光事業(2.30)	身近な場での働きやすさ(2.33)
	南花台 小学校区	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.582)	騒音・悪臭などの少なさ(3.47)	住環境(3.46)
		下位	身近な場での働きやすさ(2.345)	商業地などの賑わい(2.47)	障がい者にとっての暮らしやすさ(2.73)
	全体	上位	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ(3.48)	騒音・悪臭などの少なさ(3.35)	消防・救急(3.34)
		下位	商業地などの賑わい(2.27)	身近な場での働きやすさ(2.44)	観光事業(2.54)

⑥今後の重要度×小学校区別

今後の重要度を小学校区別にみると、ほとんどの小学校区で「消防・救急」「防災」など『安全・安心』に関する項目が高くなっています。

一方で、「国際交流や多文化共生社会の推進」「文化芸術活動などの環境」はほとんどの小学校区で下位を占めています。

			1 位	2 位	3 位
今後の重要度 (5 点満点)	長野 小学校区	上位	消防・救急 (4. 57)	防犯 (4. 54)	防災 (4. 52)
		下位	文化芸術活動などの環境 (3. 60)	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 76)	各種講座や施設など生涯学習の環境 (3. 87)
	小山田 小学校区	上位	消防・救急 (4. 72)	防犯 (4. 65)	防災 (4. 61)
		下位	文化芸術活動などの環境 (3. 60)	観光事業 (3. 75)	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 52)
	天野 小学校区	上位	消防・救急 (4. 57)	防災 (4. 70)	高齢者にとっての暮らしやすさ (4. 47)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 42)	男女共同参画の推進 (3. 53)	文化芸術活動などの環境 (3. 55)
	高向 小学校区	上位	子育てのしやすさ (4. 59)	防災 (4. 55)	消防・救急 (4. 53)
		下位	市民同士の連携や市民と行政の協働 (3. 83) 文化芸術活動などの環境 (3. 83)	健康づくりを進める環境 (3. 86)	消費者行政 (3. 90)
	三日市 小学校区	上位	消防・救急 (4. 60)	防犯 (4. 452)	子育てのしやすさ (4. 51)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 83)	文化芸術活動などの環境 (3. 85)	男女共同参画の推進 (3. 91)
	天見 小学校区	上位	防災 (4. 75)	まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ (4. 71)	適正で透明性の高い財政運営 (4. 67)
		下位	文化芸術活動などの環境 (3. 29)	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 50)	スポーツ施設や活動などの環境 (3. 67)
	川上 小学校区	上位	消防・救急 (4. 59) 高齢者にとっての暮らしやすさ (4. 59)	防災 (4. 52)	防犯 (4. 50)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 45)	文化芸術活動などの環境 (3. 64)	各種講座や施設など生涯学習の環境 (3. 68)
	千代田 小学校区	上位	消防・救急 (4. 67)	防災 (4. 60)	防犯 (4. 59)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 75)	男女共同参画の推進 (3. 82)	文化芸術活動などの環境 (3. 85)
	楠 小学校区	上位	消防・救急 (4. 58)	防災 (4. 55)	子育てのしやすさ (4. 49)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 75)	男女共同参画の推進 (3. 82)	文化芸術活動などの環境 (3. 85)
	加賀田 小学校区	上位	バスなどの公共交通サービス (4. 72)	消防・救急 (4. 63) 高齢者にとっての暮らしやすさ (4. 63)	防災 (4. 58)
		下位	男女共同参画の推進 (3. 45)	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 50)	人権の尊重と平和意識の高揚 (3. 74) 文化芸術活動などの環境 (3. 74)
	石仏 小学校区	上位	バスなどの公共交通サービス (4. 74)	消防・救急 (4. 62)	子育てのしやすさ (4. 54) 青少年の健全な育成 (4. 54)
		下位	文化芸術活動などの環境 (3. 68)	スポーツ施設や活動などの環境 (3. 80)	各種講座や施設など生涯学習の環境 (3. 81)
	美加の台 小学校区	上位	消防・救急 (4. 57)	高齢者にとっての暮らしやすさ (4. 53) 防災 (4. 53)	防犯 (4. 49)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 71) 文化芸術活動などの環境 (3. 71)	男女共同参画の推進 (3. 79)	各種講座や施設など生涯学習の環境 (3. 80)
	南花台 小学校区	上位	消防・救急 (4. 61)	高齢者にとっての暮らしやすさ (4. 45)	防災 (4. 63)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 30)	文化芸術活動などの環境 (3. 67)	男女共同参画の推進 (3. 77)
	全体	上位	消防・救急 (4. 61)	防災 (4. 55)	防犯 (4. 52)
		下位	国際交流や多文化共生社会の推進 (3. 64)	文化芸術活動などの環境 (3. 70)	男女共同参画の推進 (3. 77)

(2) 不満を感じる取組みとその理由

問5の①現在の満足度で、「4. やや不満」「5. 不満」と答えられた方におたずねします。

問6 特に不満を感じられている項目の番号を2つまで選んで、それぞれについて不満を感じる理由を記入してください。

不満を感じる取組みとその理由についてみると、「商業地などの賑わい」が154件と最も高く、次いで「バスなどの公共交通サービス」が81件、「道路や橋などの交通網」が51件となっています。

1. 防災（11件）	2. 消防・救急（8件）
主な意見	主な意見
災害時弱者への対策	救急の受け入れ体制が不十分
地域ごとの詳細な災害情報の提供が不十分	救急医、病院、消防署が不足している。
防災無線が聞こえない、聞き取れない。	
3. 防犯（16件）	4. 交通安全（36件）
主な意見	主な意見
街灯が少なく暗い道が多い。	坂と狭い道が多く歩道が少ないので歩行者に危険が多い。
盗難や駐禁、いたずらなどの犯罪が多い。	スピードを出している車が多い。
	自転車のマナーが悪い。
5. 消費者行政（7件）	6. 地域の支え合い（9件）
主な意見	主な意見
税金の使い道が不明瞭	自治体の活動が活発でない。
年金だけで安定した生活を送りたい。	近所付き合いが希薄で、住民同士の交流が少ない。
7. 高齢者にとっての暮らしやすさ（35件）	8. 障がい者にとっての暮らしやすさ（18件）
主な意見	主な意見
バスの運行本数が少なく活動できない。	バリアフリーが不十分
車に乗れなくなり買い物、病院などの交通が不便で将来が不安。	道路がでこぼこで車椅子が通りにくく、歩道もせまい。
坂が多いため、車が無いと生活できない。	障がい者が働く場所が少ない。
自治会の活動が減り老後の楽しみや、助け合いがあるのが不安。	障がい等級が低いと医療費の補助がない。
9. 社会保障制度（4件）	10. 健康づくりを進める環境（4件）
主な意見	主な意見
コロナのワクチン接種の予約がとれない。	市営の安価なスポーツ施設や文化施設などが少ない。
高齢者に対する医療補助などがほとんどない。	
11. 児童に対する福祉（5件）	12. 子育てのしやすさ（14件）
主な意見	主な意見
こどもの医療費の助成を受けることができる年齢の上限が他の市区町村に比べて低い。	保育料が高い。
待機児童が多い。	市営の子供向けの施設を作してほしい。
	学校の給食費を無料にしてほしい。
	中学校も給食にしてほしい。
	安心してベビーカーを押して歩くことが出来る道が少ない。
	インフルエンザ予防接種の補助がない。
13. 小中学校の教育環境（18件）	14. 青少年の健全な育成（5件）
主な意見	主な意見
教育資金の補助が少ない。	コンビニ等でたむろする若者や喫煙などが放置されている。
教員の数が多すぎる。やる気が感じられない。	暴走族への対応が不十分
中学校で給食がないのが問題。	
通学路の街灯、歩道の整備	
トイレの洋式化	
不登校児が多く、相談できる場所もない。	
15. 各種講座や施設など生涯学習の環境（3件）	16. 文化芸術活動などの環境（5件）
主な意見	主な意見
習いたい講座などが大阪市内にしかない。	ラブリーホールに有名な人が公演にこない。
	文化芸術を自然の豊かさとリンクさせて活発な活動と発信をしてほしい。
	活動の場を発表する施設や催し物が少ない。
17. 歴史文化遺産の保存・活用（6件）	18. スポーツ施設や活動などの環境（20件）
主な意見	主な意見
魅力的な文化財がたくさんあるのにPR不足で活用できていない。神社仏閣などに観光バス等が入れず駐車場もない。	スポーツ施設が少なく老朽化している。
	スポーツ施設が特定の人に独占されている。思う様に使用できない。
19. 人権の尊重と平和意識の高揚（1件）	20. 男女共同参画の推進（2件）
主な意見	主な意見
水道が外資に売却されている。	田舎特有の男尊女卑の考え方が未だに多く南大阪になればなるほど多い。仕事で相当の努力をして待遇改善に取り組まなければならない。

21. 国際交流や多文化共生社会の推進（2件）

主な意見
社会人が参加しやすくしてほしい。
滞在又は留学生の日本語教室の予算が不十分

23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み（4件）

主な意見
リサイクルの持ち込み場所等が少ない。
リサイクル施策に関する情報が入らない。

25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ（5件）

主な意見
ハイキングコースの道路整備が不十分
雑草が生えている。

27. 住環境（7件）

主な意見
建設残土などの土砂が積まれた土地が増えている。
騒音や畑の野焼きの煙が迷惑
住宅道路の水路に蓋がなく危険
空家が多い。
ゴミ置場が各家の前ではないため掃除当番のたびに仕事を休まなければならない。

29. 道路や橋などの交通網（51件）

主な意見
道路のアスファルトが劣化しているなど整備ができていない。
道路整備の計画や進捗状況がわからない。
高速道路が遠く、主要交通や近隣都市へのアクセスが悪い。
よく渋滞する。

31. 上下水道（19件）

主な意見
水道代が高い。
水圧が低く、シャワーの水が出にくい。

33. 農林業の振興（5件）

主な意見
荒れている田畑や山林が増えている。
山地の多さが活かされていない。

35. 身近な場での働きやすさ（45件）

主な意見
市外でないと仕事がない。
地場産業の振興・育成が不十分

37. 行政改革への取り組み（10件）

主な意見
行政の知識が不足している。
行政の取組が若い世代に伝わっていない。
マンネリ化している。

39. 市職員の窓口や電話等での対応（24件）

主な意見
対応がつめたく態度が悪い。
馴れ合う感じの物言いが不快。
窓口では教えることができないと言われたが市議会議員を通してみると教えてもらえるなど対応に疑問がある。

41. 市全体として（10件）

主な意見
色々と手をつけている物事が中途半端
大学等を誘致して「若者の賑わう町づくり」を。
河内長野の知名度が低い。

22. 自然環境への配慮（4件）

主な意見
町にゴミが捨てられていた。
残土投棄や腐敗した竹などを放置している。

24. 騒音・悪臭などの少なさ（26件）

主な意見
深夜の車やバイクの騒音が多い。
爆竹の音や大音量の音楽、人の騒ぐ声がうるさい。
近所の畑や田んぼの野焼きで煙や臭いによる健康被害や、洗濯物に臭いが付く。
野良犬をよく見かける。

26. 市街地の整備（19件）

主な意見
河内長野駅前の商業施設は活気がない。
街灯が少ない。
道が狭く道路の渋滞が多い。歩道、自転車道、車道が整備されていない。
木と草が多く見通しが悪い。
バリアフリー化が不十分

28. 公園や緑地などの環境（23件）

主な意見
公園が整備されておらず、草が生い茂っている。
公園や緑地が少ない。
遊具や設備が古く汚い。

30. バスなどの公共交通サービス（81件）

主な意見
料金が高い。
バス停やバスの本数が少ない。

32. 商業地などの賑わい（154件）

主な意見
市外へ買い物に行くことがほとんどである。
商業施設が少なく、寂れている。
商店街に活気がなくシャッター街になっている。
大型ショッピングモールや若い世代が楽しめる商業施設がない。

34. 観光事業（21件）

主な意見
魅力的な文化財がたくさんあるのにPR不足で活用できていない。
レンタサイクルがあるが自転車道が整備されていない。
観光地へのアクセスが悪い。

36. 市民同士の連携や市民と行政の協働（2件）

主な意見
何も感じる部分が見受けられない。

38. 適正で透明性の高い財政運営（10件）

主な意見
財政の資料がわかりにくい。
高齢者と子育て世帯だけが財政の恩恵を受けている。
同じ団体へのまる投げが多い。見直しが不足している。

40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信（34件）

主な意見
発信力がない。アピールが弱い。
大きな公園、美術館、映画館など他府県の人が来なくなる様な施設がない。
ブランディングが不足していて中途半端なイメージがある。
これが「河内長野の魅力」という絶対的なアピールポイントがない。

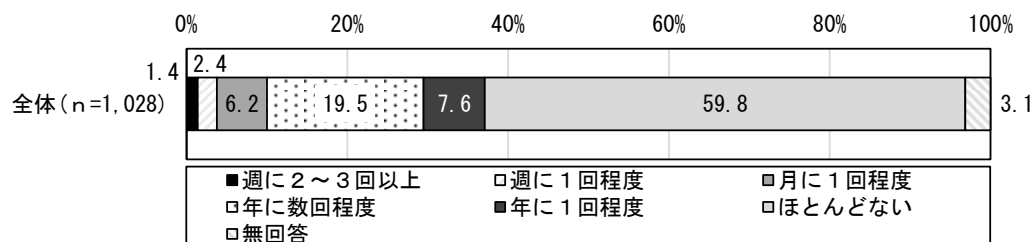
(3) 地域やまちづくり活動の参加度

問7 あなたは、この1年で市内の「地域活動やまちづくり活動」(※)にどの程度参加されましたか。(○は1つだけ)

(※)「地域活動やまちづくりの活動」とは、自治会、町内会、PTA、教育、青少年育成、環境、美化、福祉など、有償・無償を問わず、幅広い活動のことを言います。

地域やまちづくり活動の参加度についてみると、「ほとんどない」が59.8%と最も高く、次いで「年に数回程度」が19.5%、「年に1回程度」が7.6%となっています。

■地域やまちづくり活動の参加度（単数回答／全体）



年代別にみると、全ての年代にかけて「ほとんどない」が最も高くなっています。

■地域やまちづくり活動の参加度（単数回答／年代別）

	n数	週に2～3回以上	週に1回程度	月に1回程度	年に数回程度	年に1回程度	ほとんどない	無回答
全体	100.0 1,028	1.4 14	2.4 25	6.2 64	19.5 200	7.6 78	59.8 615	3.1 32
年代別								
19歳以下	100.0 32	— —	— —	— —	12.5 4	6.3 2	81.3 26	— —
20歳代	100.0 122	1.6 2	0.8 1	1.6 2	10.7 13	4.9 6	78.7 96	1.6 2
30歳代	100.0 92	1.1 1	1.1 1	2.2 2	18.5 17	4.3 4	72.8 67	— —
40歳代	100.0 141	0.7 1	0.7 1	8.5 12	27.7 39	5.7 8	56.0 79	0.7 1
50歳代	100.0 179	— —	2.2 4	5.6 10	22.9 41	11.2 20	55.9 100	2.2 4
60歳代	100.0 166	0.6 1	2.4 4	6.6 11	23.5 39	6.0 10	56.6 94	4.2 7
70歳代	100.0 188	3.2 6	4.8 9	9.0 17	17.0 32	9.0 17	53.2 100	3.7 7
80歳以上	100.0 96	2.1 2	5.2 5	9.4 9	12.5 12	10.4 10	49.0 47	11.5 11
無回答	100.0 12	8.3 1	— —	8.3 1	25.0 3	8.3 1	50.0 6	— —

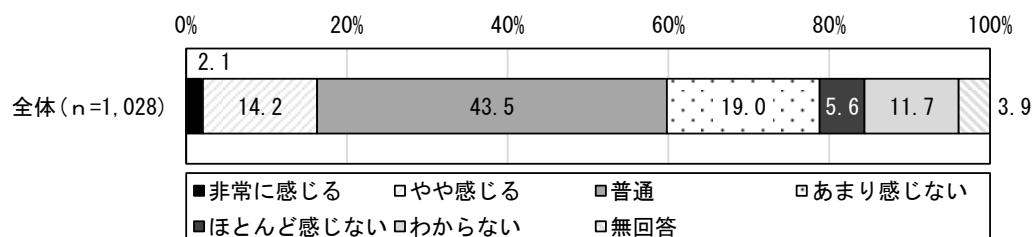
(4)市の取組みに対する感じ方

問8 次の1から3の項目について、どのように感じていますか。各項目について、あなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 地域のまちづくり活動が充実していると感じている

地域のまちづくり活動が充実していると感じているについてみると、「普通」が43.5%と最も高く、次いで「あまり感じない」が19.0%、「やや感じる」が14.2%となっています。

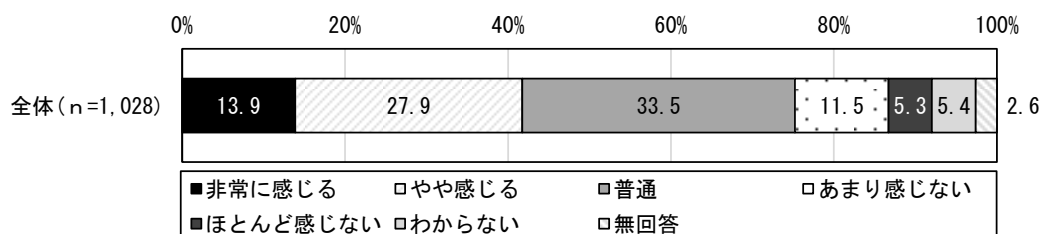
■地域のまちづくり活動が充実していると感じている（単数回答／全体）



2. 河内長野市に住みつづけたいと感じている

河内長野市に住みつづけたいと感じているについてみると、「普通」が33.5%と最も高く、次いで「やや感じる」が27.9%、「非常に感じる」が13.9%となっています。

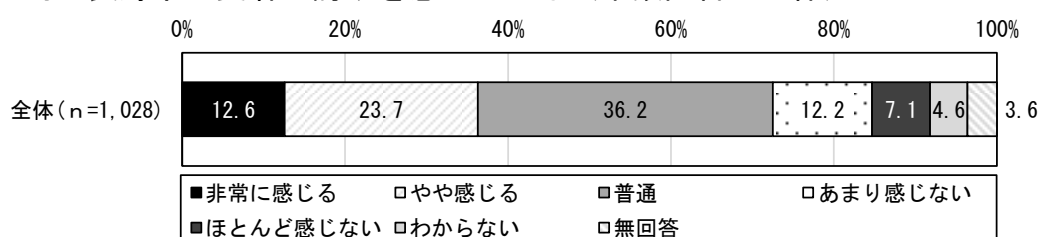
■河内長野市に住みつづけたいと感じている（単数回答／全体）



3. 河内長野市に愛着と誇りを感じている

河内長野市に愛着と誇りを感じているについてみると、「普通」が36.2%と最も高く、次いで「やや感じる」が23.7%、「非常に感じる」が12.6%となっています。

■河内長野市に愛着と誇りを感じている（単数回答／全体）



2-4. 生活状況について

(1) 外出の頻度

問9 あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。(○は1つだけ)

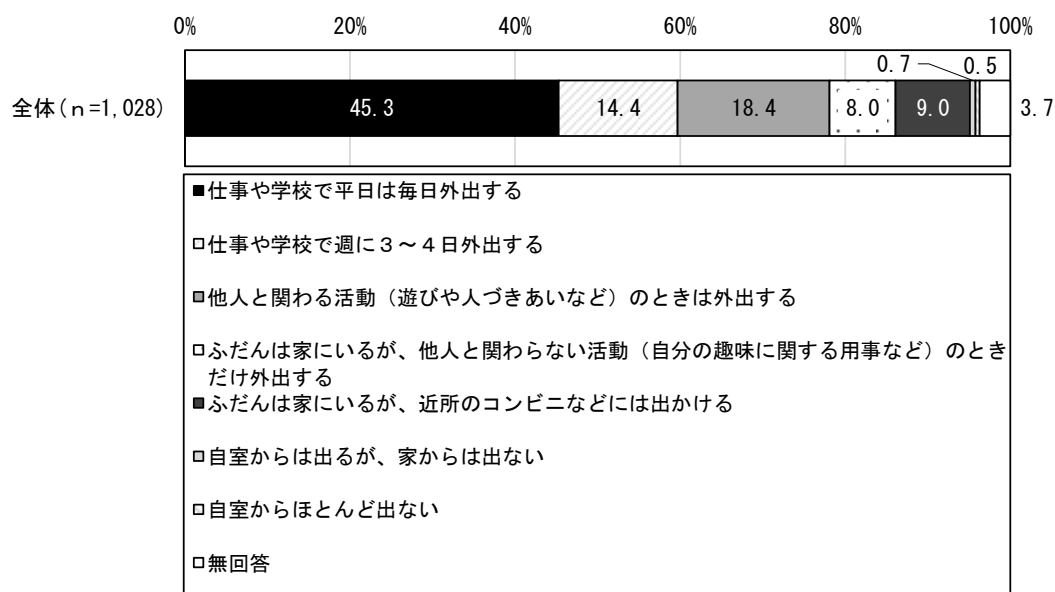
外出の頻度についてみると、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が45.3%と最も高く、次いで「他人と関わる活動（遊びや人づきあいなど）のときは外出する」が18.4%、「仕事や学校で週に3～4日外出する」が14.4%となっています。

「他人と関わらない活動（自分の趣味に関する用事など）のときだけ外出する」方を「準ひきこもり」と定義されており、今回のアンケートでは8.0%の方がこれにあたりと回答しています。

また、「近所のコンビニなどには出かける」「家からは出ない」「自室からほとんど出ない」方を「狭義のひきこもり」と定義されており、今回のアンケートでは10.2%の方がこれにあたりと回答しています。

「準ひきこもり」と「狭義のひきこもり」を合わせて「広義のひきこもり」と定義されており、18.2%がこれにあたりと回答しています。

■外出の頻度（単数回答／全体）



(2)外出しなくなった状態の経過期間

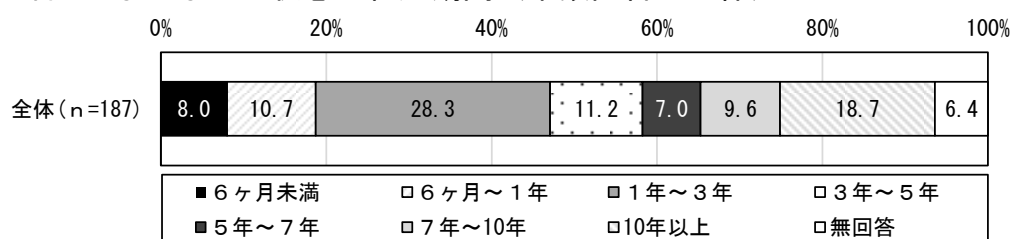
問9で「4. ふだんは家にいるが、他人と関わらない活動（自分の趣味に関する用事など）のときだけ外出する」「5. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「6. 自室からは出るが、家からは出ない」「7. 自室からほとんど出ない」と答えられた方におたずねします。

問10 あなたが現在の状態になってどのくらい経ちますか。（○は1つだけ）

外出しなくなった状態の経過期間についてみると、「1年～3年」が28.3%と最も高く、次いで「10年以上」が18.7%、「3年～5年」が11.2%となっています。

「広義のひきこもり」の状態にある方の「外出しなくなった状態の経過期間」について見みると、「3年未満」が47.0%となっており、約半数の方は経過期間が比較的浅いことが伺えます。

■外出しなくなった状態の経過期間（単数回答／全体）



(3)外出しなくなったきっかけ

(問9で「4. ふだんは家にいるが、他人と関わらない活動(自分の趣味に関する用事など)のときだけ外出する」「5. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「6. 自室からは出るが、家からは出ない」「7. 自室からほとんど出ない」と答えられた方におたずねします。)

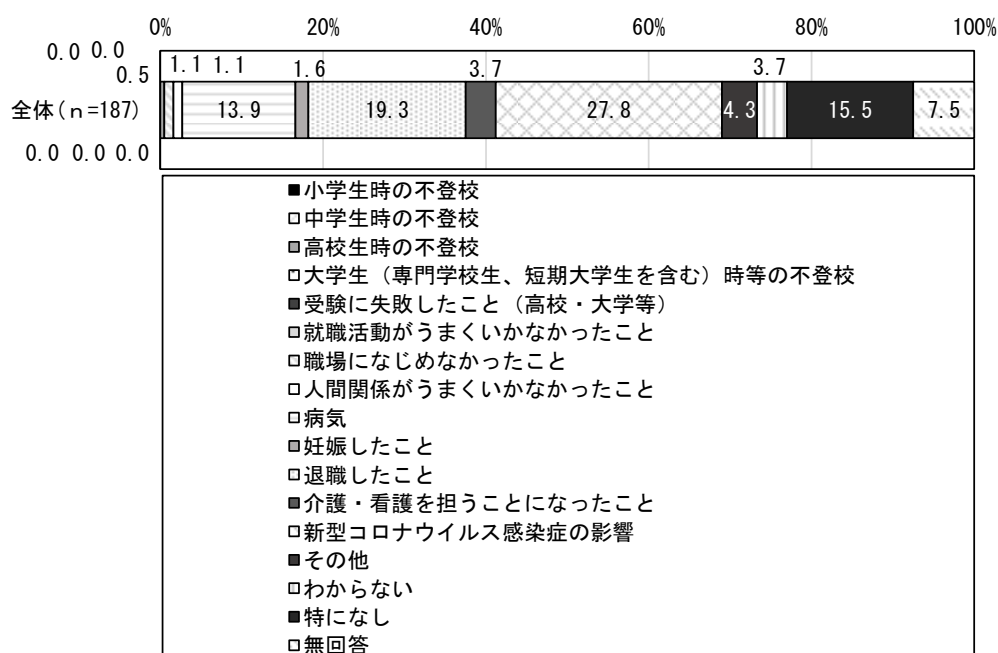
問11 あなたが、現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇は1つだけ)

外出しなくなったきっかけについてみると、「新型コロナウイルス感染症の影響」が27.8%と最も高く、次いで「退職したこと」が19.3%、「特になし」が15.5%となっています。

「広義のひきこもり」の状態にある方の「外出しなくなったきっかけ」について見ると、「新型コロナウイルス感染影響」と「退職したこと」を合わせると47.1%となり、約半数の方が外出する機会を失ったことにより外出しなくなったことが伺えます。

また、年代別にみると、高齢者が非常に多いこと及び、「外出しなくなったきっかけ」として「病気」を選択している方、「相談した機関」として「医療機関」を選択した方がおられることから、高齢者の方が病気により外出できない状態となっている方も一定数存在するものと思われます。

■外出しなくなったきっかけ(単数回答/全体)



(4) 家族以外の人との会話の頻度

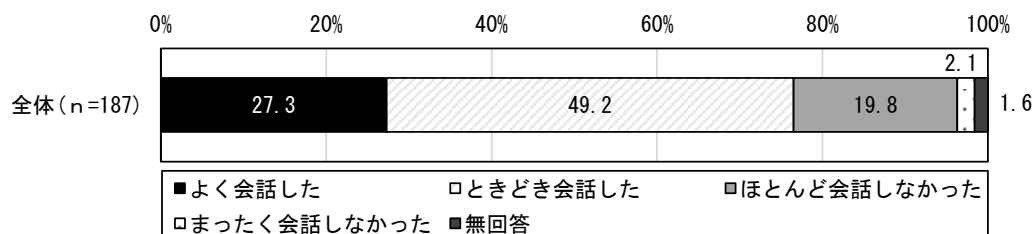
問9で「4. ふだんは家にいるが、他人と関わらない活動（自分の趣味に関する用事など）のときだけ外出する」「5. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「6. 自室からは出るが、家からは出ない」「7. 自室からほとんど出ない」と答えられた方におたずねします。

問12 あなたは、最近6ヶ月間に家族以外の人と会話しましたか。（○は1つだけ）

家族以外の人との会話の頻度についてみると、「ときどき会話した」が49.2%と最も高く、次いで「よく会話した」が27.3%、「ほとんど会話しなかった」が19.8%となっています。

「広義のひきこもり」の状態にある方の「家族以外の人との会話」について見ると、「よく会話した」が27.3%と、「ときどき会話した」が49.2%となっており、外出する機会は少ないが、会話で他人との関りを持てている方が多いことが伺えます。

■家族以外の人との会話の頻度（単数回答／全体）



(5) 相談した相談機関

(問9で「4. ふだんは家にいるが、他人と関わらない活動(自分の趣味に関する用事など)のときだけ外出する」「5. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「6. 自室からは出るが、家からは出ない」「7. 自室からほとんど出ない」と答えられた方におたずねします。)

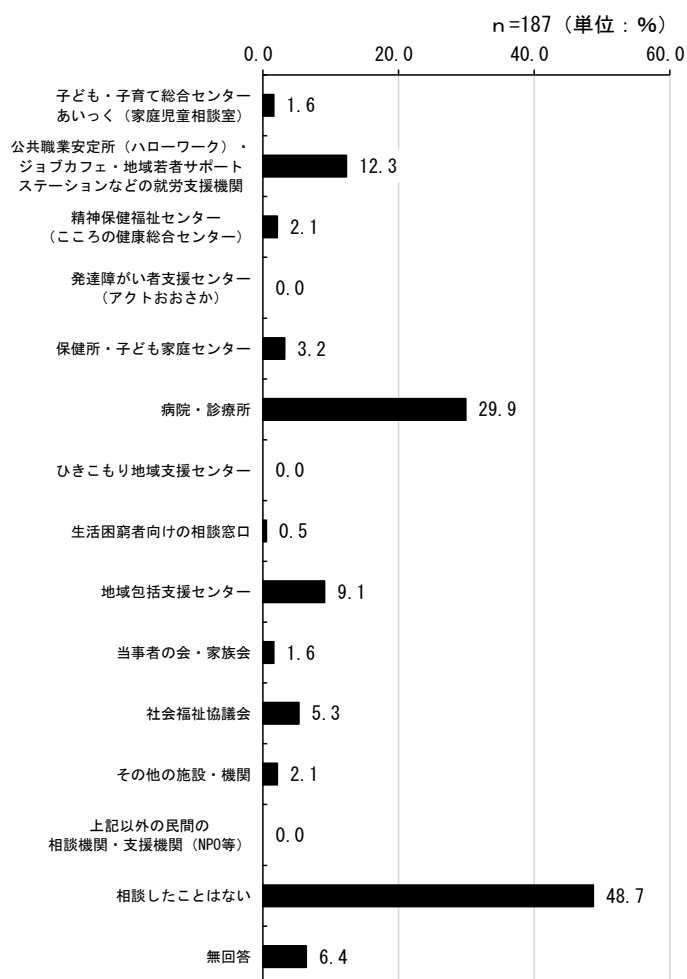
問13 あなたは、次のような相談機関等に相談したことはありますか。

(○はいくつでも)

相談した相談機関についてみると、「相談したことはない」が48.7%と最も高く、次いで「病院・診療所」が29.9%、「公共職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」が12.3%となっています。

「広義のひきこもり」の状態にある方の「相談した相談機関」について見ると、「病院・診療所」は29.9%で高齢者が非常に多いこと及び、「公共職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」は12.3%で若年層が非常に多いことから、高齢者では、病気により「広義のひきこもり」の状態となっている方が多く、若年層では、未就労により「広義のひきこもり」の状態となっている方が多いことが伺えます。

■相談した相談機関(複数回答/全体)



性別にみると、男女とも「相談したことはない」が最も高くなっています。

年代別にみると、『20 歳代』『30 歳代』では「公共職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」が最も高くなっています。

■相談した相談機関（複数回答／性別、年代別）

	n 数	子ども・子育て あいつく（家庭児童 相談室）	公共職業安定所（ハロー ワーク）・ジョブカフェ・地 域若者サポートステーション などの就労支援機関	精神保健福祉センター （こころの健康総合セン ター）	発達障がい者支援セン ター（アクトおおさか）	保健所・子ども家庭セン ター	病院・診療所	ひきこもり地域支援セン ター	生活困窮者向けの相談窓 口	地域包括支援セン ター	当事者の会・家族会	社会福祉協議会	その他の施設・機 関	上記以外の民間の相談 支援機関（NPO 等）	相談したことはない	無 回 答
全体	100.0 187	1.6 3	12.3 23	2.1 4	-	3.2 6	29.9 56	-	0.5 1	9.1 17	1.6 3	5.3 10	2.1 4	-	48.7 91	6.4 12
性別																
男性	100.0 77	-	18.2 14	2.6 2	-	1.3 1	36.4 28	-	1.3 1	10.4 8	1.3 1	5.2 4	1.3 1	-	45.5 35	1.3 1
女性	100.0 106	1.9 2	7.5 8	1.9 2	-	4.7 5	25.5 27	-	-	8.5 9	1.9 2	5.7 6	2.8 3	-	50.9 54	9.4 10
答えたくない	100.0 4	25.0 1	25.0 1	-	-	-	25.0 1	-	-	-	-	-	-	-	50.0 2	25.0 1
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別																
19歳以下	100.0 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0 1	-
20歳代	100.0 6	16.7 1	66.7 4	-	-	-	16.7 1	-	-	-	-	-	-	-	33.3 2	-
30歳代	100.0 8	12.5 1	50.0 4	12.5 1	-	12.5 1	50.0 4	-	12.5 1	-	-	-	-	-	12.5 1	-
40歳代	100.0 11	9.1 1	9.1 1	9.1 1	-	18.2 2	18.2 2	-	-	-	-	9.1 1	-	-	54.5 6	9.1 1
50歳代	100.0 15	-	-	-	-	-	40.0 6	-	-	6.7 1	6.7 1	6.7 1	6.7 1	-	53.3 8	6.7 1
60歳代	100.0 34	-	20.6 7	-	-	-	23.5 8	-	-	2.9 1	-	8.8 3	-	-	61.8 21	2.9 1
70歳代	100.0 63	-	11.1 7	1.6 1	-	4.8 3	31.7 20	-	-	7.9 5	1.6 1	6.3 4	1.6 1	-	49.2 31	6.3 4
80歳以上	100.0 47	-	-	2.1 1	-	-	29.8 14	-	-	21.3 10	2.1 1	2.1 1	4.3 2	-	44.7 21	8.5 4
無回答	100.0 2	-	-	-	-	-	50.0 1	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0 1

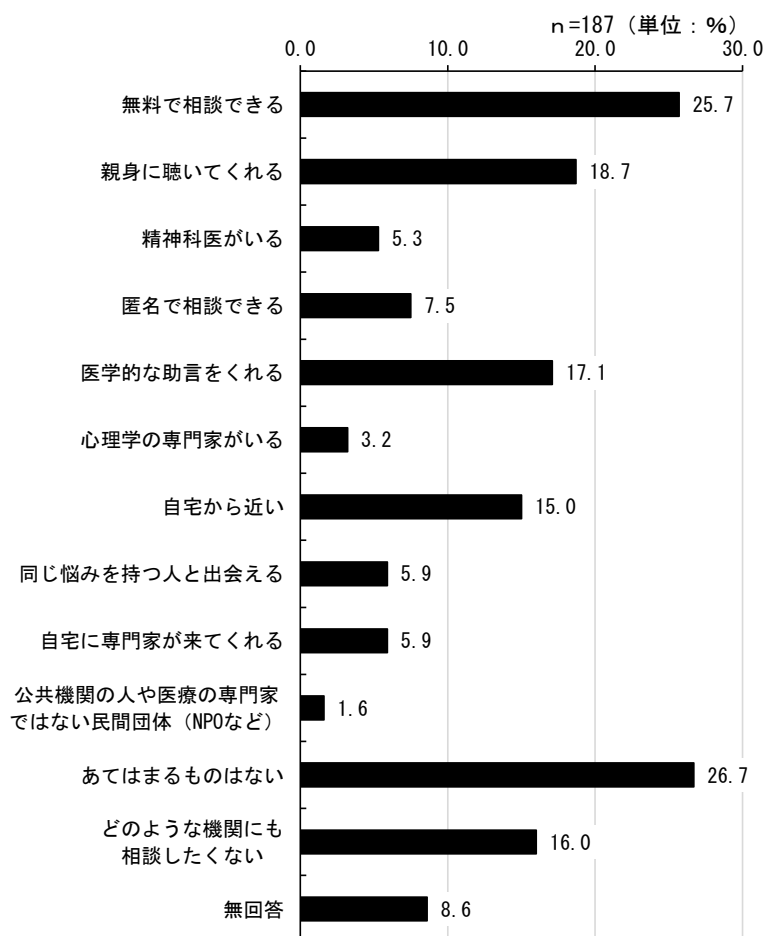
(6) 相談したいと思う相談機関

(問9で「4. ふだんは家にいるが、他人と関わらない活動(自分の趣味に関する用事など)のときだけ外出する」「5. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「6. 自室からは出るが、家からは出ない」「7. 自室からほとんど出ない」と答えられた方におたずねします。)

問14 あなたの現在の状態について、相談するとすれば、どのような相談機関なら相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

相談したいと思う相談機関についてみると、「あてはまるものはない」が26.7%と最も高く、次いで「無料で相談できる」が25.7%、「親身に聴いてくれる」が18.7%となっています。

■ 相談したいと思う相談機関（複数回答／全体）



性別にみると、男女とも「あてはまるものはない」が最も高くなっています。

年代別にみると、『40 歳代』『60 歳代』『70 歳代』では「あてはまるものはない」が最も高くなっています。一方、その他の年代では「無料で相談できる」が最も高くなっています。

■相談したいと思う相談機関（複数回答／性別、年代別）

	n 数	無料で 相談 できる	親 身 に 聴 い て く れ る	精 神 科 医 が い る	匿 名 で 相 談 で き る	医 学 的 な 助 言 を く れ る	心 理 学 の 専 門 家 が い る	自 宅 か ら 近 い	同 じ 悩 み を 持 つ 人 と 出 会 え る	自 宅 に 専 門 家 が 来 て く れ る	公 共 機 関 の 人 や 医 療 の 専 門 家 で は な い 民 間 団 体 （ N P O な ど ）	あ て は ま る も の は な い	ど の よ う な 機 関 に も 相 談 し た く な い	無 回 答
全体	100.0 187	25.7 48	18.7 35	5.3 10	7.5 14	17.1 32	3.2 6	15.0 28	5.9 11	5.9 11	1.6 3	26.7 50	16.0 30	8.6 16
性別														
男性	100.0 77	24.7 19	14.3 11	7.8 6	7.8 6	19.5 15	1.3 1	6.5 5	3.9 3	7.8 6	-	27.3 21	15.6 12	6.5 5
女性	100.0 106	25.5 27	21.7 23	2.8 3	6.6 7	15.1 16	3.8 4	20.8 22	6.6 7	4.7 5	2.8 3	25.5 27	17.0 18	10.4 11
答えたくない	100.0 4	50.0 2	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1	-	-	50.0 2	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別														
19歳以下	100.0 1	100.0 1	100.0 1	-	100.0 1	100.0 1	100.0 1	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	100.0 6	66.7 4	33.3 2	16.7 1	16.7 1	16.7 1	33.3 2	16.7 1	16.7 1	-	-	33.3 2	16.7 1	-
30歳代	100.0 8	50.0 4	37.5 3	25.0 2	12.5 1	25.0 2	12.5 1	37.5 3	25.0 2	25.0 2	-	-	-	-
40歳代	100.0 11	-	18.2 2	9.1 1	9.1 1	-	9.1 1	9.1 1	9.1 1	-	-	36.4 4	27.3 3	-
50歳代	100.0 15	33.3 5	26.7 4	13.3 2	20.0 3	6.7 1	-	26.7 4	6.7 1	-	6.7 1	13.3 2	26.7 4	6.7 1
60歳代	100.0 34	20.6 7	11.8 4	-	5.9 2	14.7 5	-	23.5 8	2.9 1	2.9 1	-	32.4 11	20.6 7	5.9 2
70歳代	100.0 63	23.8 15	17.5 11	3.2 2	6.3 4	19.0 12	-	11.1 7	3.2 2	3.2 2	-	34.9 22	14.3 9	7.9 5
80歳以上	100.0 47	25.5 12	17.0 8	4.3 2	2.1 1	21.3 10	2.1 1	8.5 4	6.4 3	10.6 5	4.3 2	17.0 8	12.8 6	17.0 8
無回答	100.0 2	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0 1	-	50.0 1	-	-

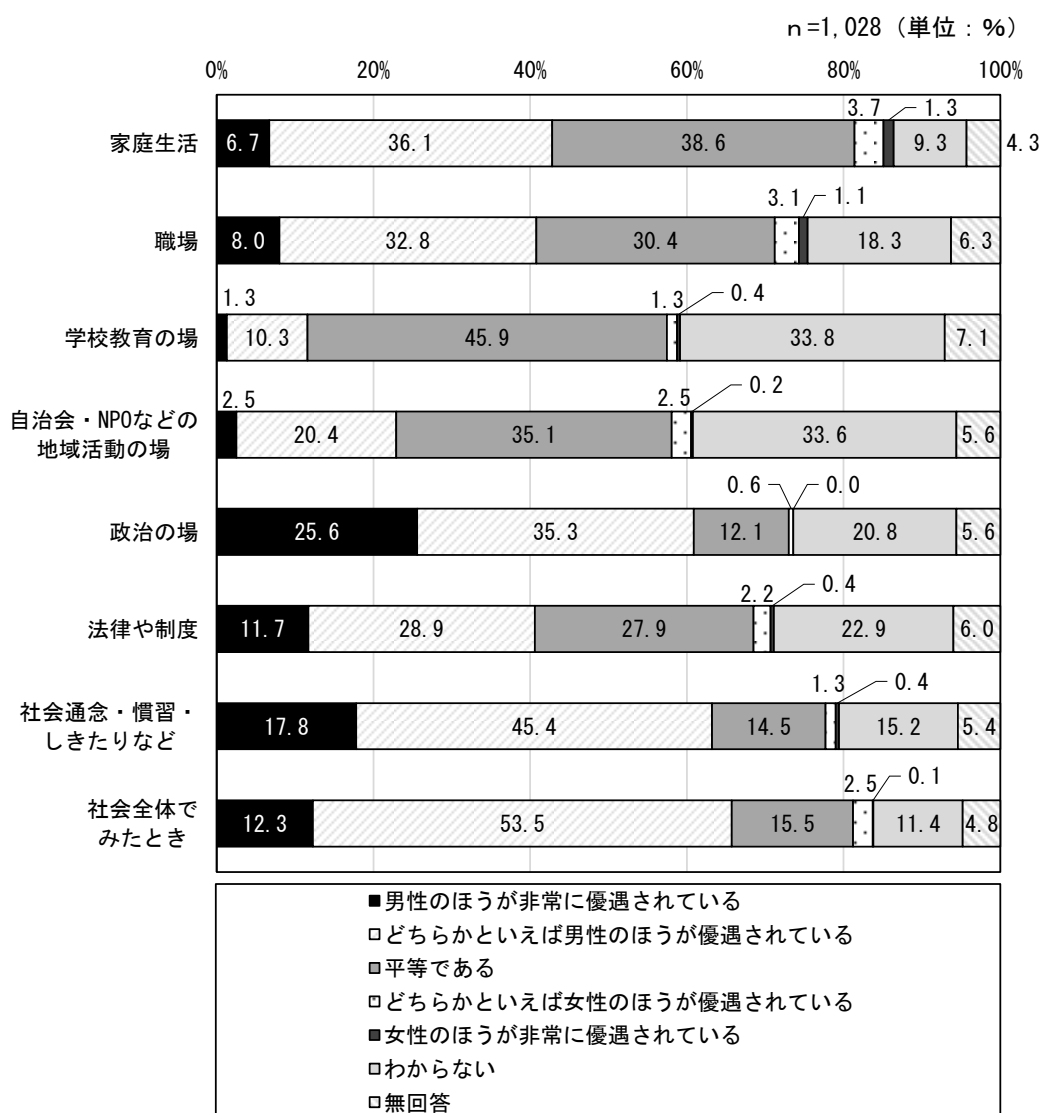
2-5. 男女共同参画について

(1) 各分野における男女の平等感

問 15 次の1から8の項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目について、あなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。(それぞれについて○は1つだけ)

各分野における男女の平等感についてみると、“男性のほうが優遇されている”(「男性のほうが非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」)が「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体でみたとき」で6割を超えています。

■各分野における男女の平等感（単数回答／全体）



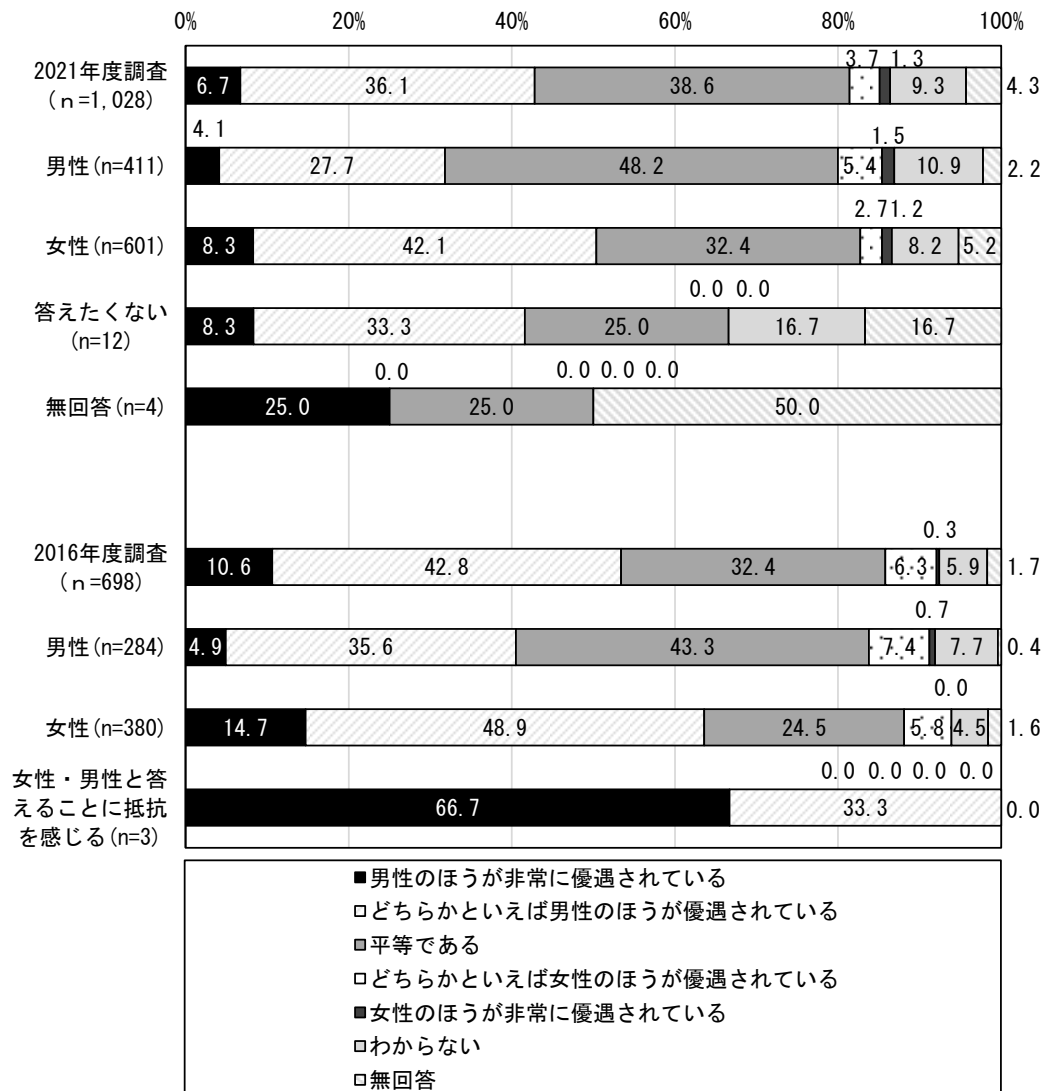
1. 家庭生活

家庭生活についてみると、「平等である」が38.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が36.1%、「わからない」が9.3%となっています。

性別にみると、『女性』では、“男性のほうが優遇されている”（「男性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）が50.4%となっています。

年度間比較をすると、2016年度調査では“男性のほうが優遇されている”が53.4%に対して今回調査では42.8%と10.6ポイント低くなっています。

■家庭生活（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）



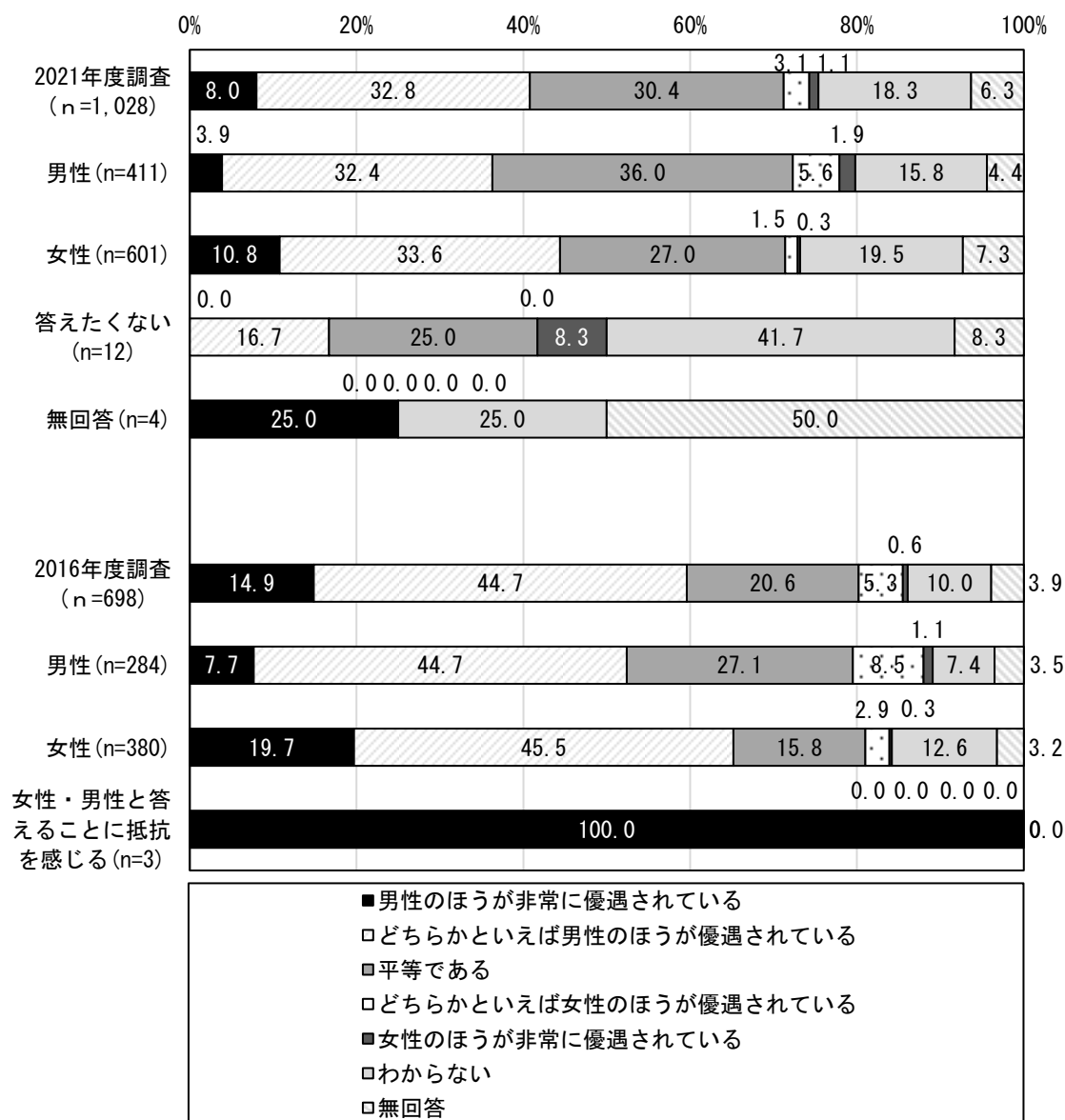
2. 職場

職場についてみると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が32.8%と最も高く、次いで「平等である」が30.4%、「わからない」が18.3%となっています。

性別にみると、『女性』では、“男性のほうが優遇されている”（「男性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）が44.4%となっています。

年度間比較をすると、2016年度調査では“男性のほうが優遇されている”が59.6%に対して今回調査では40.8%と18.8ポイント低くなっています。

■職場（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）



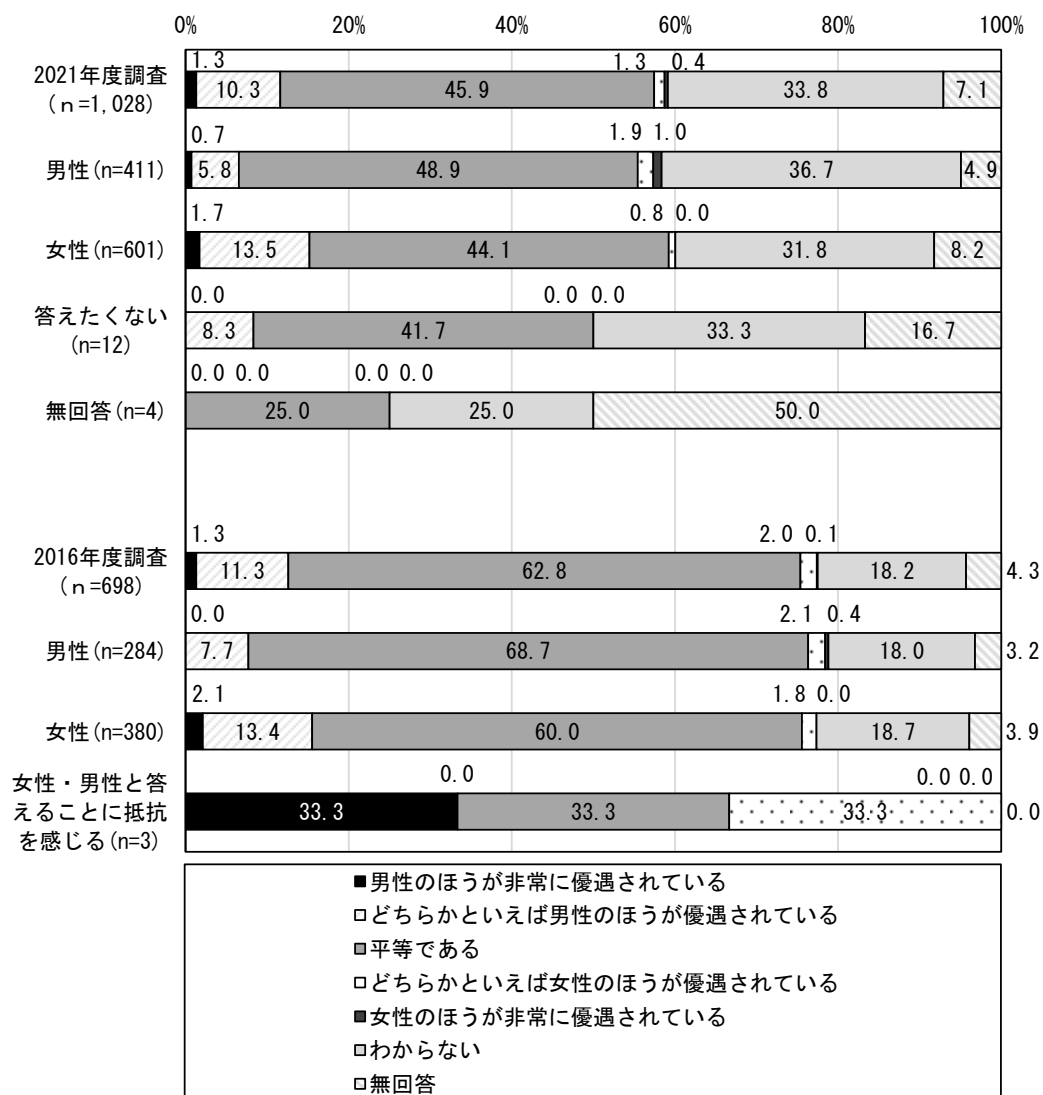
3. 学校教育の場

学校教育の場についてみると、「平等である」が 45.9%と最も高く、次いで「わからない」が 33.8%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 10.3%となっています。

性別にみると、『男性』では、「平等である」が 48.9%、『女性』が 44.1%と『男性』の方が 4.8 ポイント高くなっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では「平等である」が 62.8%に対して今回調査では 45.9%と 16.9 ポイント低くなっています。

■学校教育の場（単数回答／全体、性別／2016 年度調査との比較）



4. 自治会・NPOなどの地域活動の場

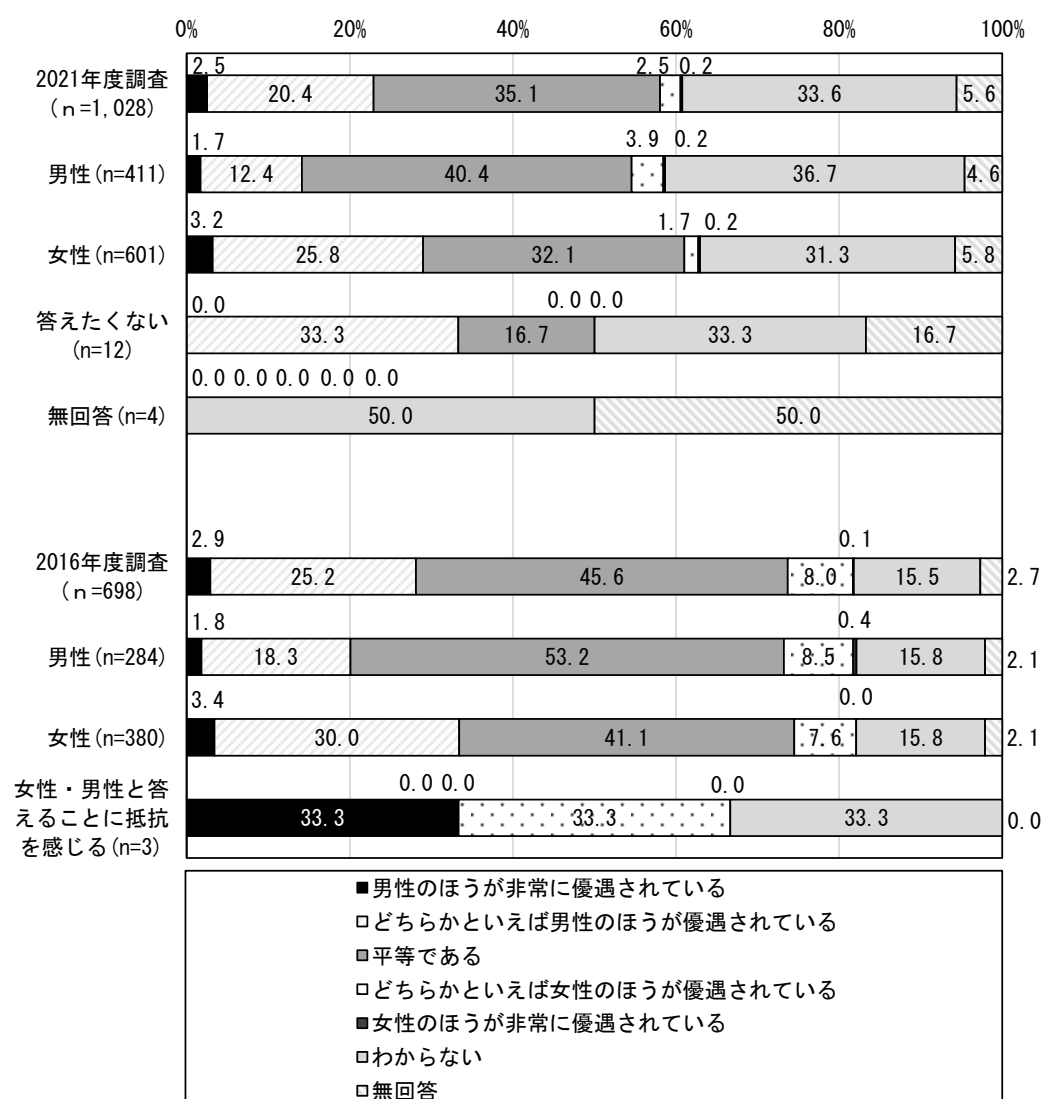
自治会・NPOなどの地域活動の場についてみると、「平等である」が35.1%と最も高く、次いで「わからない」が33.6%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が20.4%となっています。

性別にみると、『男性』では、「平等である」が40.4%、『女性』が32.1%と『男性』の方が8.3ポイント高くなっています。

年度間比較をすると、2016年度調査では「平等である」が45.6%に対して今回調査では35.1%と10.5ポイント低くなっています。

■自治会・NPOなどの地域活動の場

(単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較)



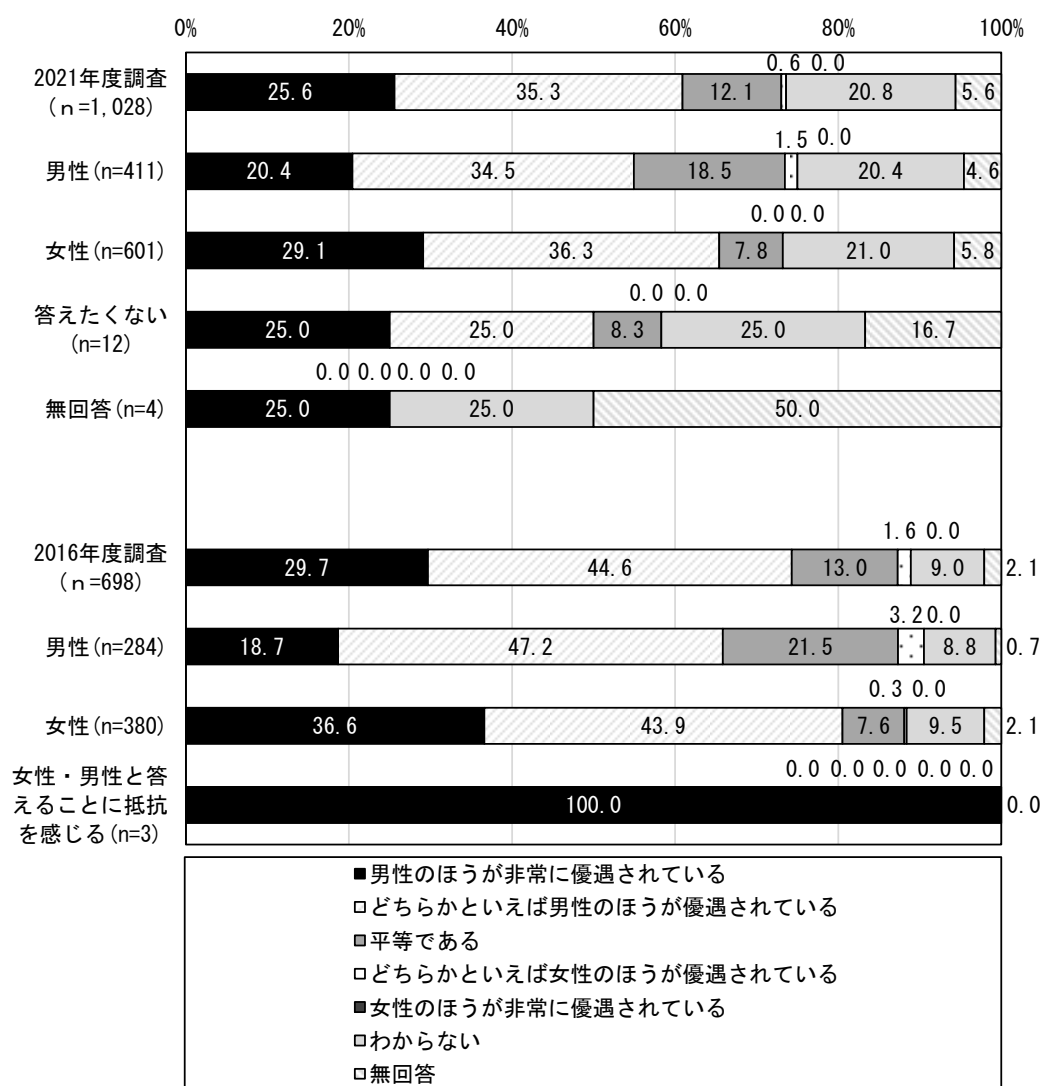
5. 政治の場

政治の場についてみると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 35.3%と最も高く、次いで「男性のほうが非常に優遇されている」が 25.6%、「わからない」が 20.8%となっています。

性別にみると、『女性』では、“男性のほうが優遇されている”（「男性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）は、65.4%となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では“男性のほうが優遇されている”が 74.3%に対して今回調査では 60.9%と 13.4 ポイント低くなっています。

■政治の場（単数回答／全体、性別／2016 年度調査との比較）



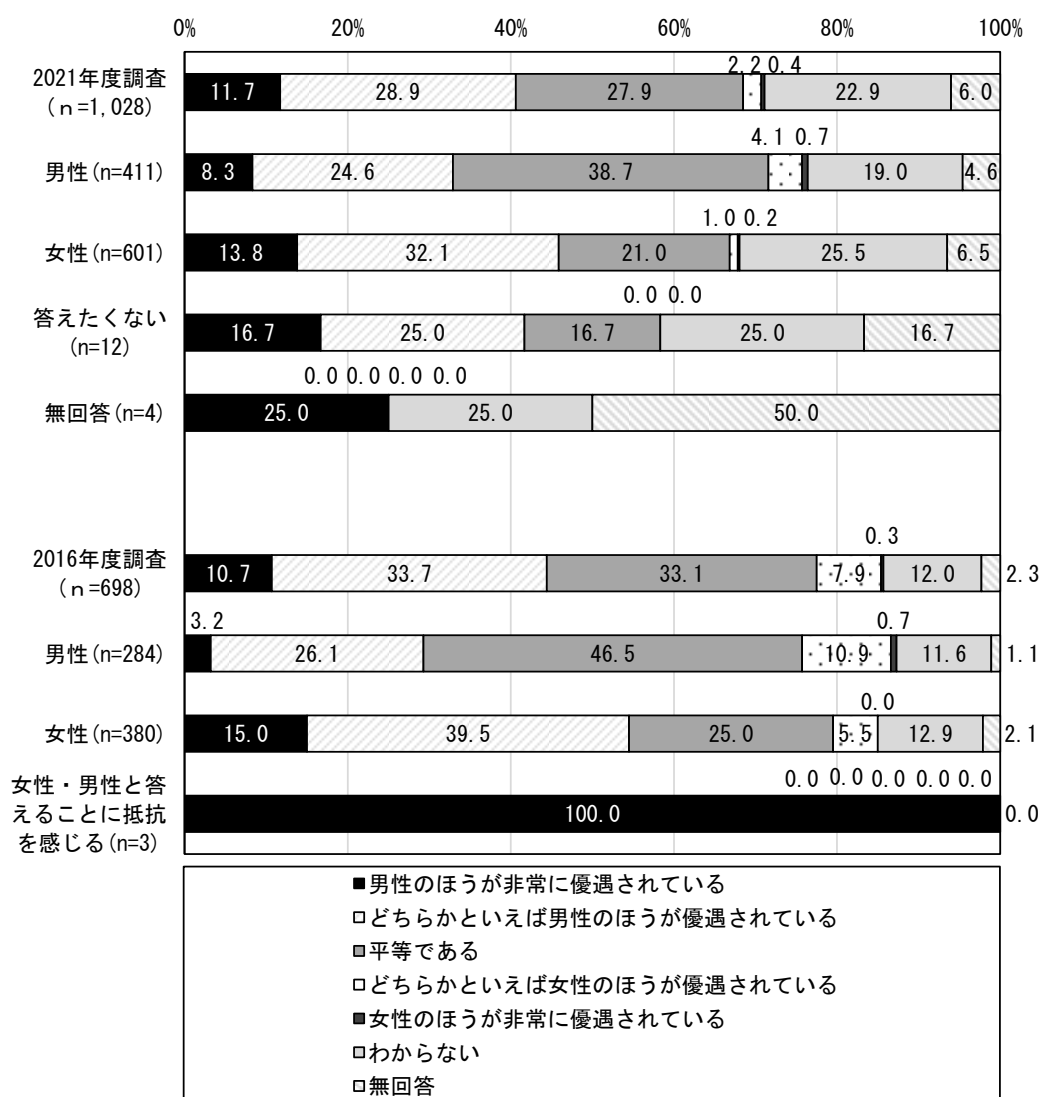
6. 法律や制度

法律や制度についてみると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が28.9%と最も高く、次いで「平等である」が27.9%、「わからない」が22.9%となっています。

性別にみると、『男性』では、“男性のほうが優遇されている”（「男性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）が32.9%、『女性』では45.9%と『女性』が『男性』より13.0ポイント高くなっています。

年度間比較をすると、2016年度調査では“男性のほうが優遇されている”が44.4%に対して今回調査では40.6%と3.8ポイント低くなっています。

■法律や制度（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）



7. 社会通念・慣習・しきたりなど

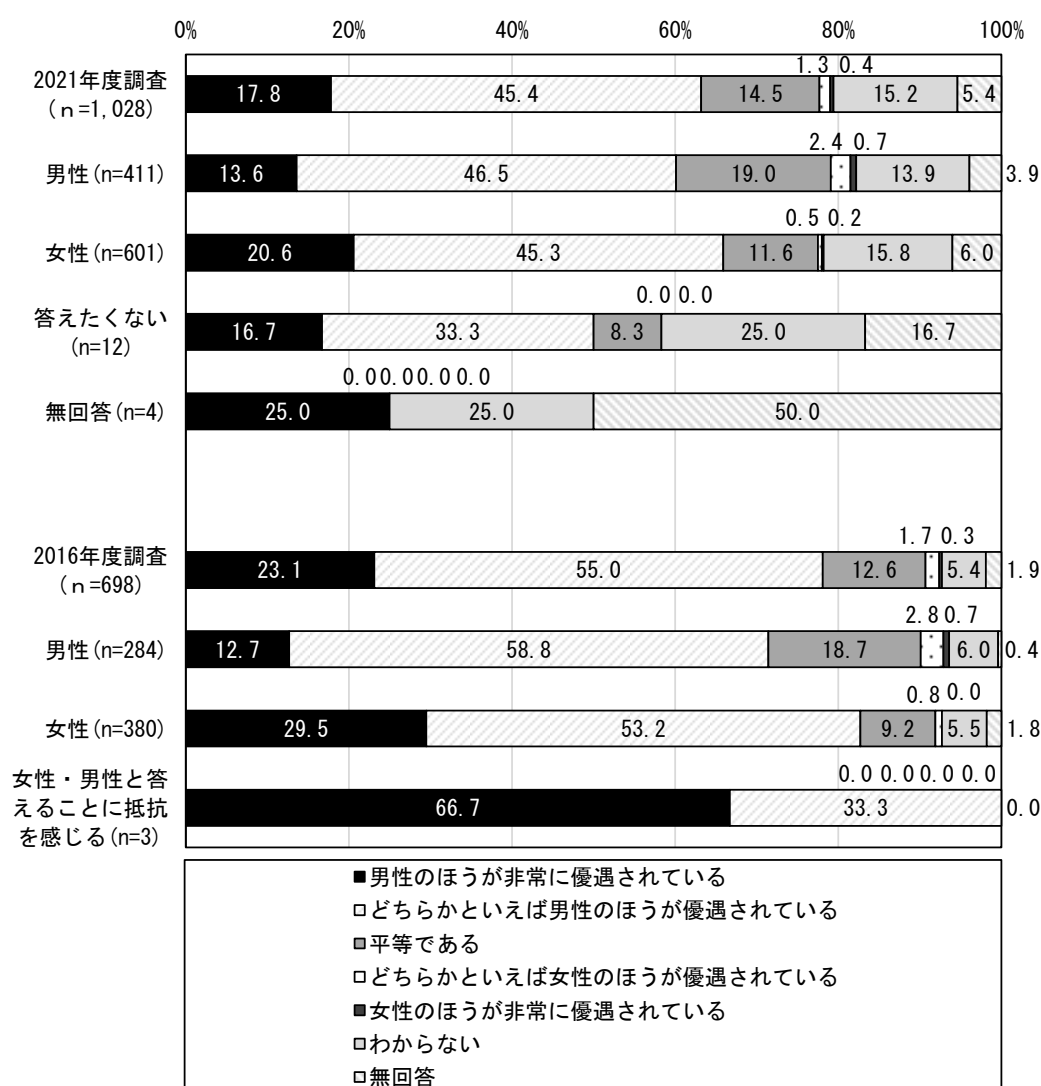
社会通念・慣習・しきたりなどについてみると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が45.4%と最も高く、次いで「男性のほうが非常に優遇されている」が17.8%、「わからない」が15.2%となっています。

性別にみると、『女性』では、“男性のほうが優遇されている”（「男性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）が、65.9%となっています。

年度間比較をすると、2016年度調査では“男性のほうが優遇されている”が78.1%に対して今回調査では63.2%と14.9ポイント低くなっています。

■社会通念・慣習・しきたりなど

（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）



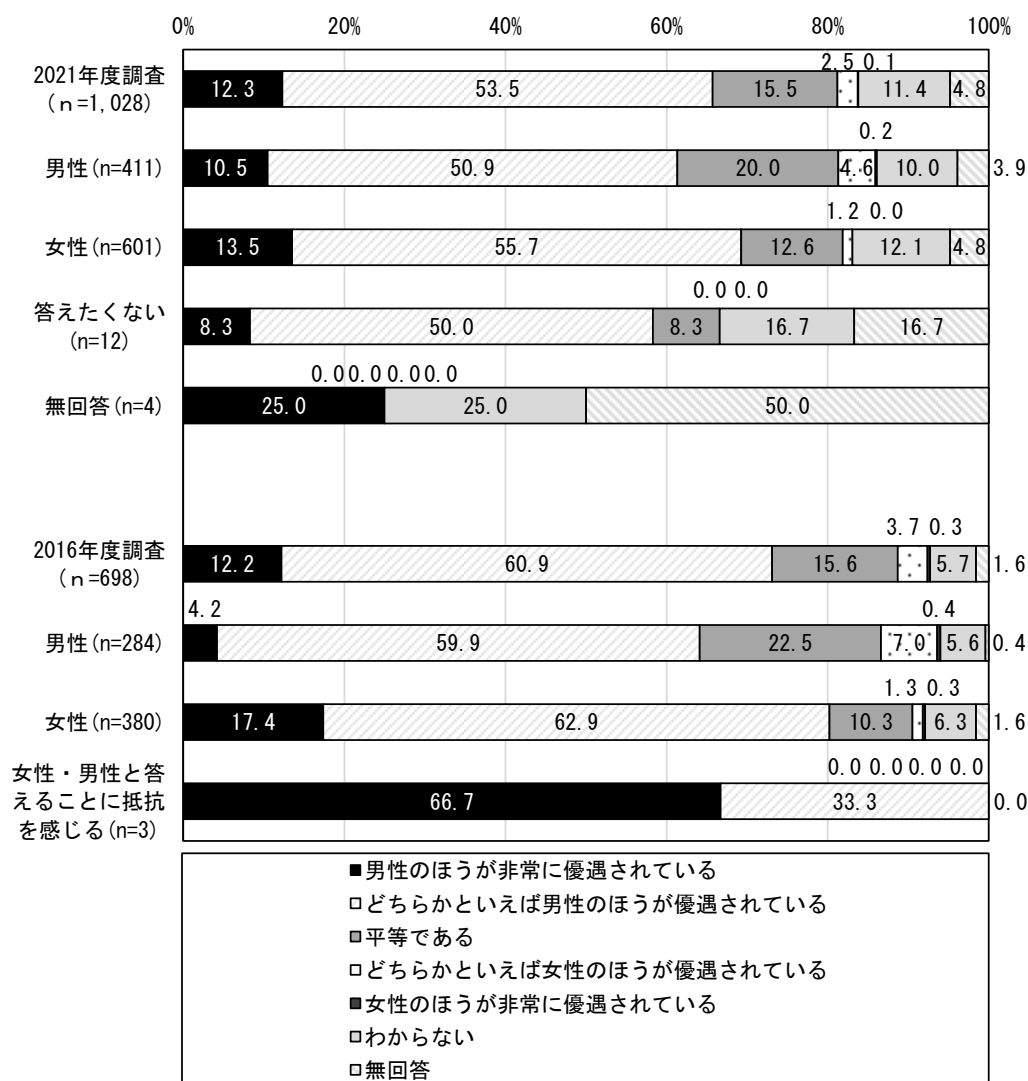
8. 社会全体でみたとき

社会全体でみたときについてみると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が 53.5%と最も高く、次いで「平等である」が 15.5%、「男性のほうが非常に優遇されている」が 12.3%となっています。

性別にみると、『男性』では、“男性のほうが優遇されている”（「男性のほうが非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」）が 61.4%、『女性』では 69.2%と『女性』が『男性』より 7.8 ポイント高くなっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では“男性のほうが優遇されている”が 73.1%に対して今回調査では 65.8%と 7.3 ポイント低くなっています。

■社会全体でみたとき（単数回答／全体、性別／2016 年度調査との比較）

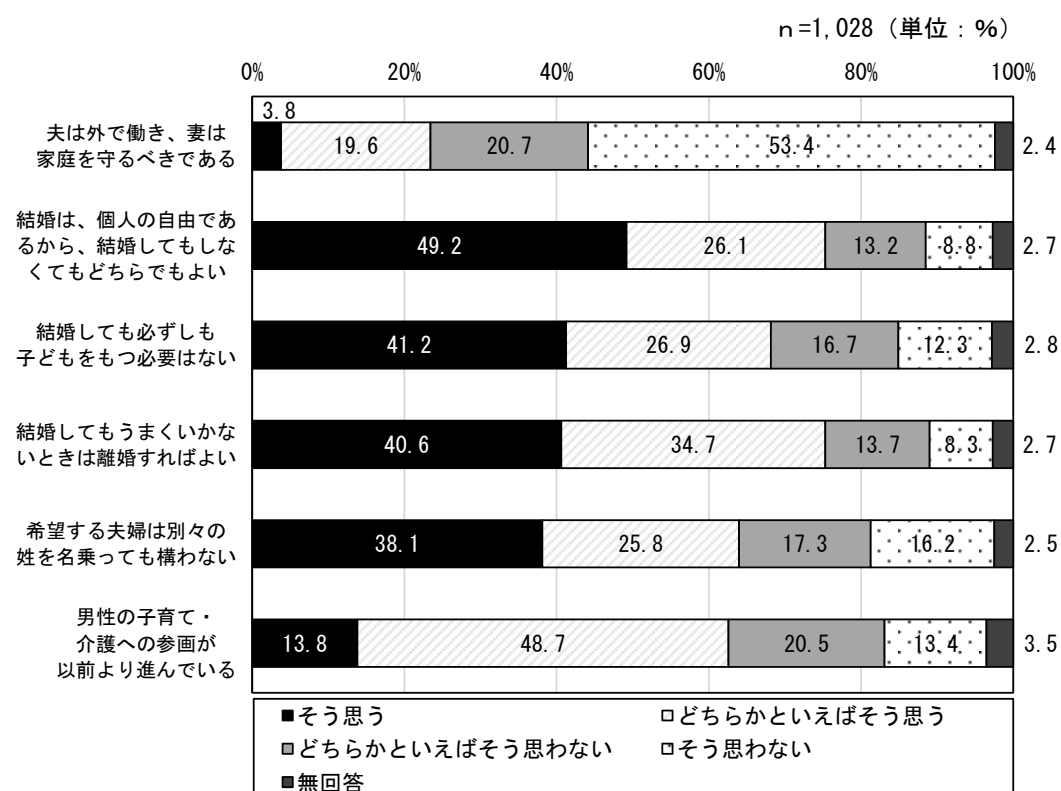


(2) 家庭生活等に関する意識

問 16 次の 1 から 6 の項目のような考えに対して、どのように思いますか。各項目について、あなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。
(それぞれについて○は 1 つだけ)

家庭生活等に関する意識についてみると、“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が「結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい」で 7 割を超えています。

■家庭生活等に関する意識（単数回答／全体）



1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

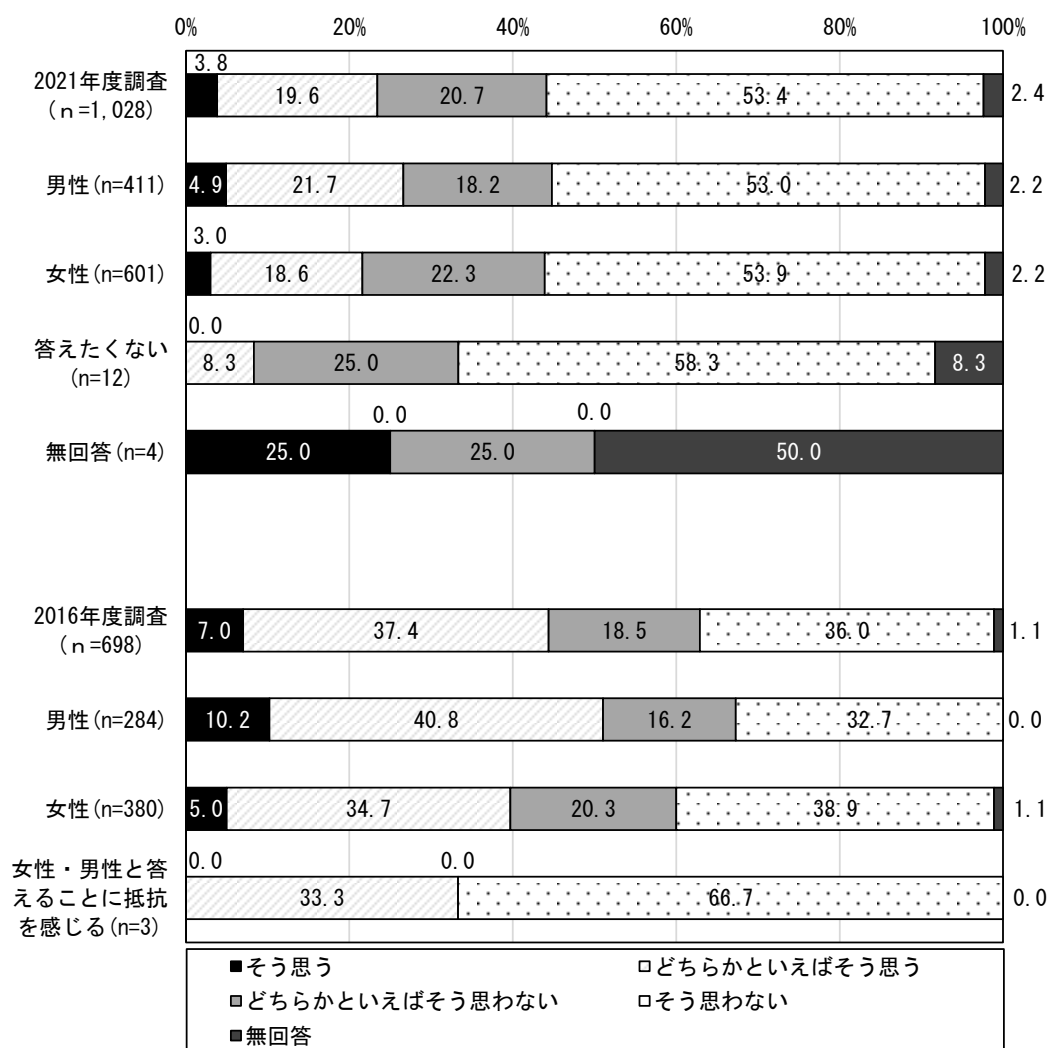
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるについてみると、「そう思わない」が 53.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が 20.7%、「どちらかといえばそう思う」が 19.6%となっています。

性別にみると、『男性』では、“そう思う”(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が 26.6%、『女性』では 21.6%と『男性』が『女性』より 5.0 ポイント高くなっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では“そう思う”が 44.4%に対して今回調査では 23.4%と 21.0 ポイント低くなっています。

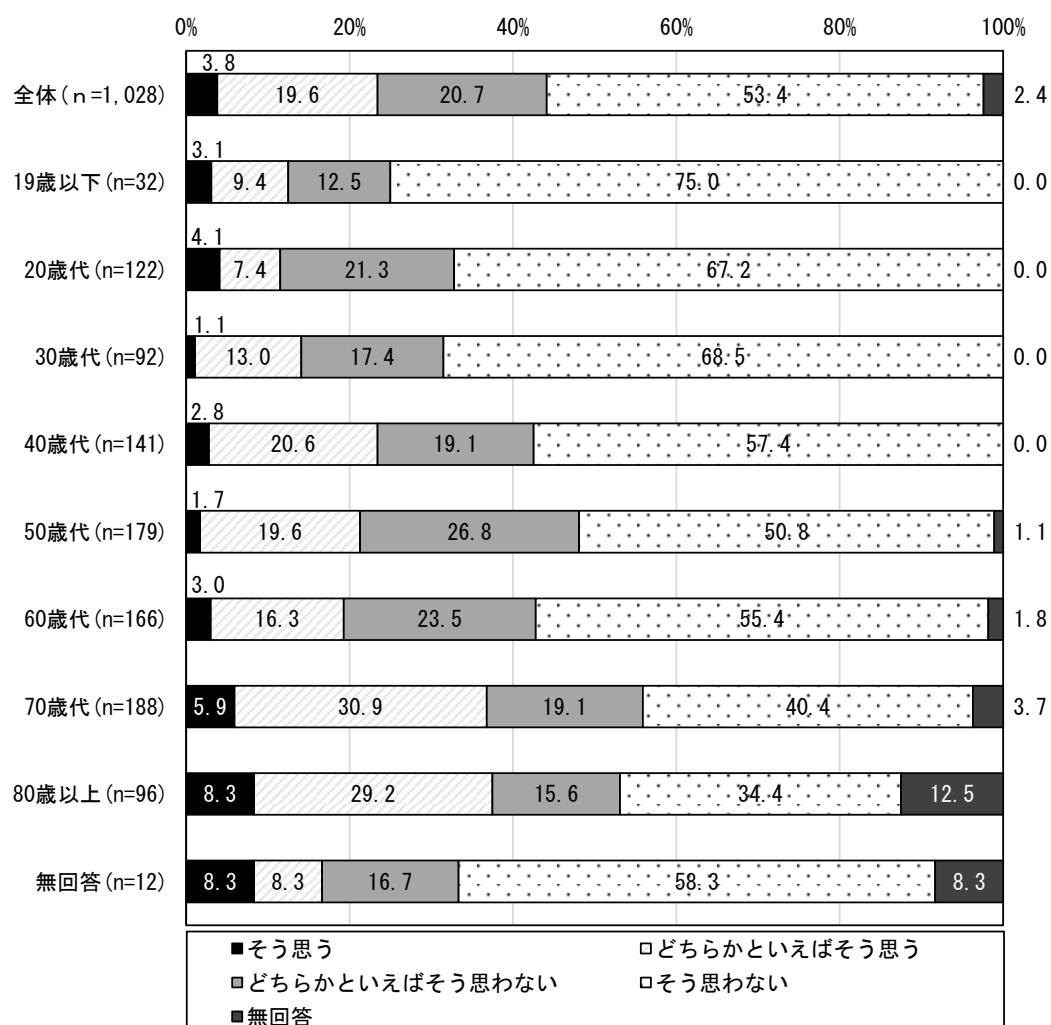
■夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

(単数回答／全体、性別／2016 年度調査との比較)



年代別にみると、『70 歳代』以上で“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が3割以上となり、他の年代より高くなっています。

■夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（単数回答／全体、年代別）



結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよいについてみると、「そう思う」が 49.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 26.1%、「どちらかといえばそう思わない」が 13.2%となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では“そう思う”が 69.9%に対して今回調査では 75.3%と 5.4 ポイント高くなっています。

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
2021年度調査 (n=1,028)	49.2 26.1 13.2 8.8 2.7					
男性(n=411)	45.3 24.1 15.8 12.9 1.9					
女性(n=601)	52.2 27.6 11.3 6.2 2.7					
答えたくない (n=12)	41.7 16.7 25.0 16.7 0.0					
無回答(n=4)	25.0 25.0 50.0 0.0 0.0					
2016年度調査 (n=698)	44.1 25.8 18.2 10.7 1.1					
男性(n=284)	39.1 25.4 20.8 14.8 0.0					
女性(n=380)	48.7 26.8 15.8 7.6 1.1					
女性・男性と答えることに抵抗を感じる(n=3)	100.0 0.0 0.0 0.0 0.0					

■ と思う

□ どちらかといえばそう思う

□ どちらかといえばそう思わない

■ 無回答

□ そう思わない

■結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
(単数回答／全体、年代別)



結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はないについてみると、「そう思う」が 41.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 26.9%、「どちらかといえばそう思わない」が 16.7%となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では“そう思う”が 57.5%に対して今回調査では 68.1%と 10.6 ポイント高くなっています。

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
2021年度調査 (n=1,028)	41.2 26.9 16.7 12.3 2.8					
男性(n=411)	38.2 23.8 20.0 15.8 2.2					
女性(n=601)	43.6 29.3 14.5 10.0 2.7					
答えたくない (n=12)	33.3 16.7 25.0 8.3 16.7					
無回答(n=4)	25.0 25.0 50.0					
2016年度調査 (n=698)	33.7 23.8 22.6 18.8 1.1					
男性(n=284)	27.8 20.1 29.2 22.9 0.0					
女性(n=380)	38.4 27.6 16.8 16.1 1.1					
女性・男性と答えることに抵抗を感じる(n=3)	100.0					

■ と思う

□ どちらかといえば思う

■ 無回答

□ どちらかといえばそう思う

□ そう思わない

■結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（単数回答／全体、年代別）



結婚してもうまくいかないときは離婚すればよいについてみると、「そう思う」が40.6%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が34.7%、「どちらかといえばそう思わない」が13.7%となっています。

■結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい（単数回答／全体、年代別）

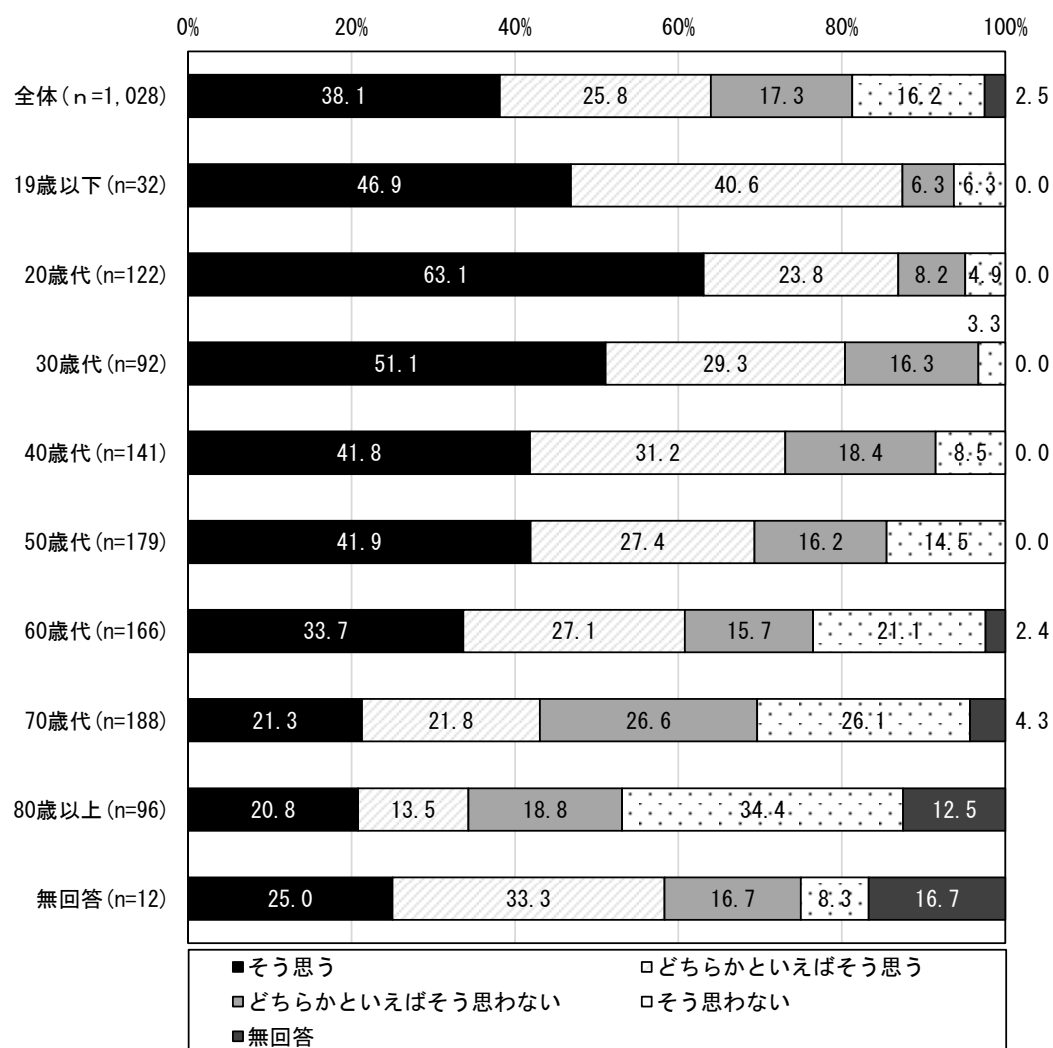


5. 希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない

希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わないについてみると、「そう思う」が38.1%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が25.8%、「どちらかといえばそう思わない」が17.3%となっています。

年代別にみると、『30 歳代』以下では、“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が8割を超えています。

■希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない（単数回答／全体、年代別）

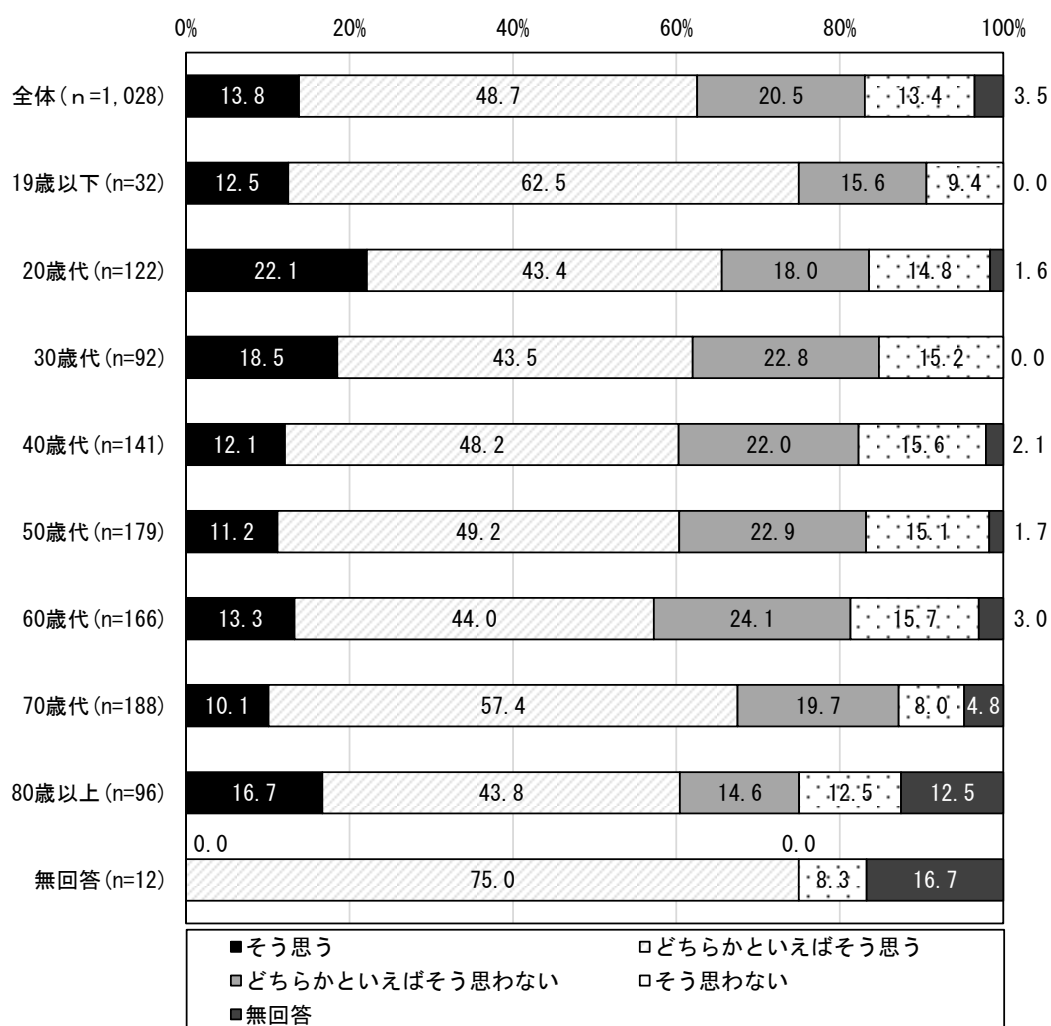


6. 男性の子育て・介護への参画が以前より進んでいる

男性の子育て・介護への参画が以前より進んでいるについてみると、「どちらかといえばそう思う」が48.7%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が20.5%、「そう思う」が13.8%となっています。

年代別にみると、『19歳以下』で“そう思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が75.0%となっており、一方、『20歳代』から『60歳代』までで“そう思わない”（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）が3割を超えています。

■男性の子育て・介護への参画が以前より進んでいる（単数回答／年代別）



(3) 男女共同参画に関する言葉の認知度

問17 あなたは、次の言葉のうち、見たたり聞いたたりしたものがありますか。
(○はいくつでも)

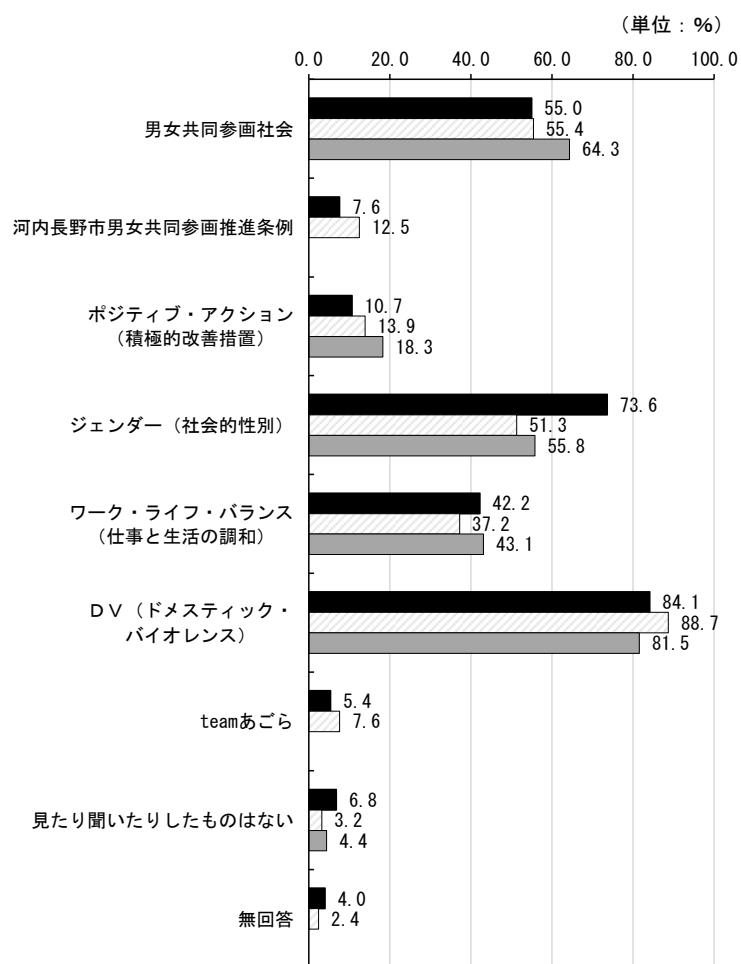
男女共同参画に関する言葉の認知度についてみると、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が 84.1%と最も高く、次いで「ジェンダー（社会的性別）」が 73.6%、「男女共同参画社会」が 55.0%となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では「ジェンダー（社会的性別）」が 51.3%に対して今回調査では 73.6%と 22.3 ポイント高くなっています。

国の調査と比較すると、2019 年度内閣府調査では「男女共同参画社会」が 64.3%に対して今回調査では 55.0%と 9.3 ポイント低くなっています。

■男女共同参画に関する言葉の認知度

(複数回答／全体／2016 年度調査、2019 年度内閣府調査との比較)



■2021年度調査 (n=1,028) □2016年度調査 (n=698) ▨2019年度内閣府調査 (n=2,645)

(4) 女性が職業をもつことに対する意識

問 18 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)

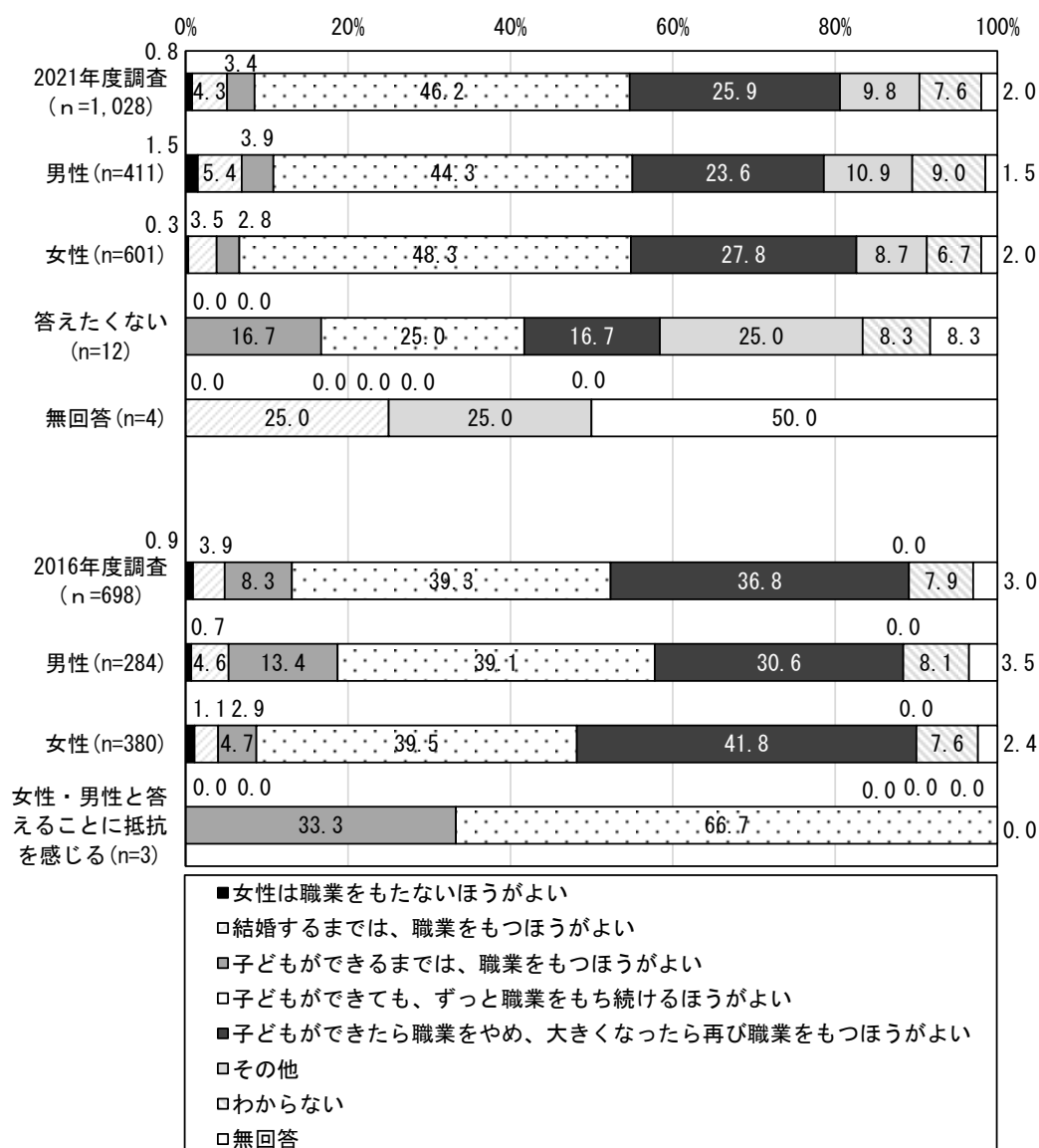
女性が職業をもつことに対する意識についてみると、「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」が46.2%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が25.9%、「その他」が9.8%となっています。

性別にみると、『男性』では、「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」が44.3%、『女性』では48.3%と、『女性』が『男性』より4.0ポイント高くなっています。

年度間比較をすると、2016年度調査では「子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい」が39.3%に対して今回調査では46.2%と6.9ポイント高くなっています。

■ 女性が職業をもつことに対する意識

(単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較)



(5) ワーク・ライフ・バランスについて

問 19 生活の中における「仕事＊１」「家庭生活＊２」「地域・個人の生活＊３」の優先度について、あなたの現実の生活、理想の生活に最も近い番号に○をつけてください。
(それぞれについて○は１つだけ)

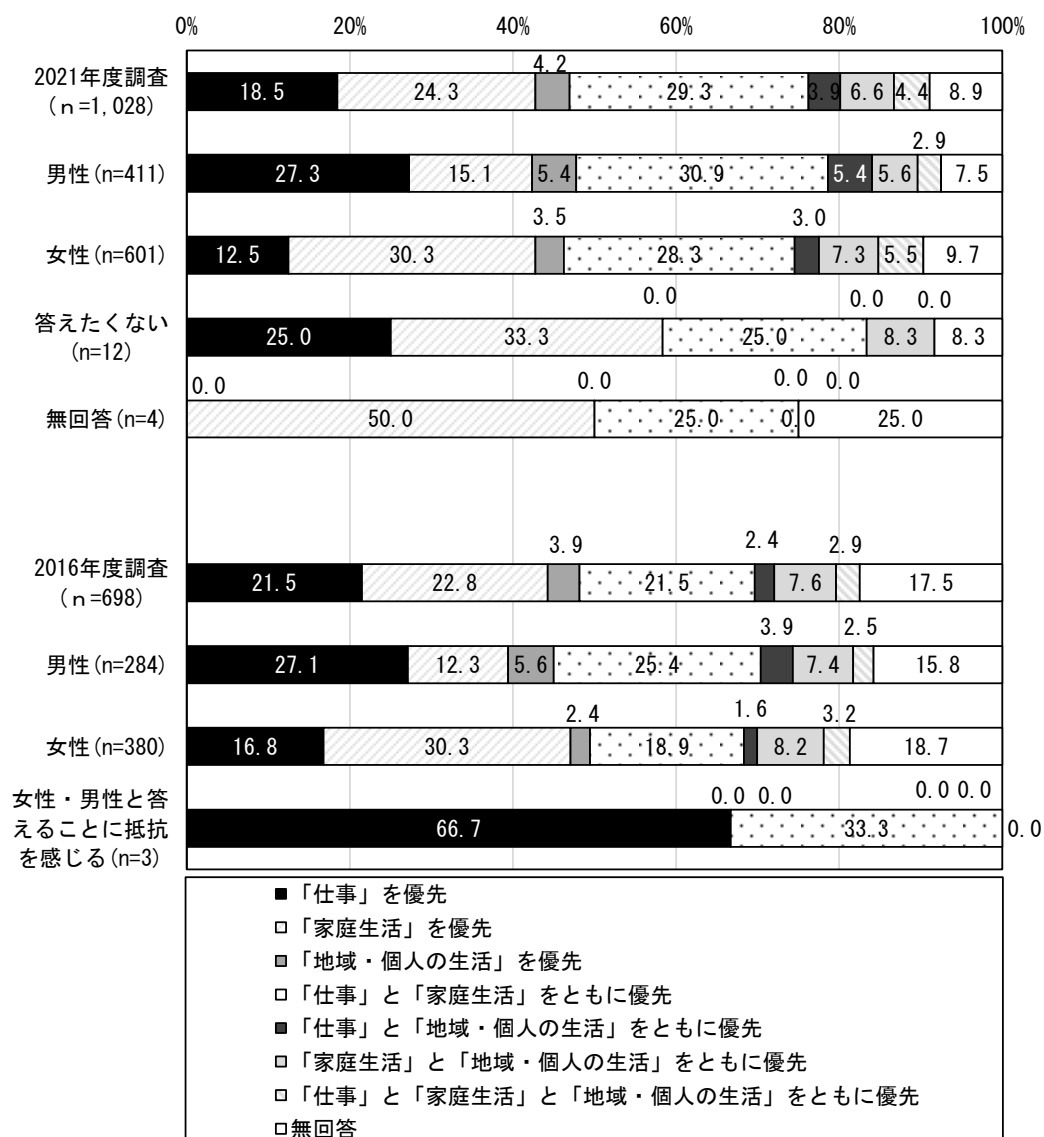
1. 現実の生活の優先度

現実の生活の優先度についてみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 29.3% と最も高く、次いで「家庭生活」を優先」が 24.3%、「仕事」を優先」が 18.5% となっています。

性別にみると、『男性』では「仕事」を優先」が 27.3%、「家庭生活」を優先」が 15.1% に対し、『女性』では「仕事」を優先」が 12.5%、「家庭生活」を優先」が 30.3% となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 21.5% に対して今回調査では 29.3% と 7.8 ポイント高くなっています。

■現実の生活の優先度（単数回答／全体、性別／2016 年度調査との比較）



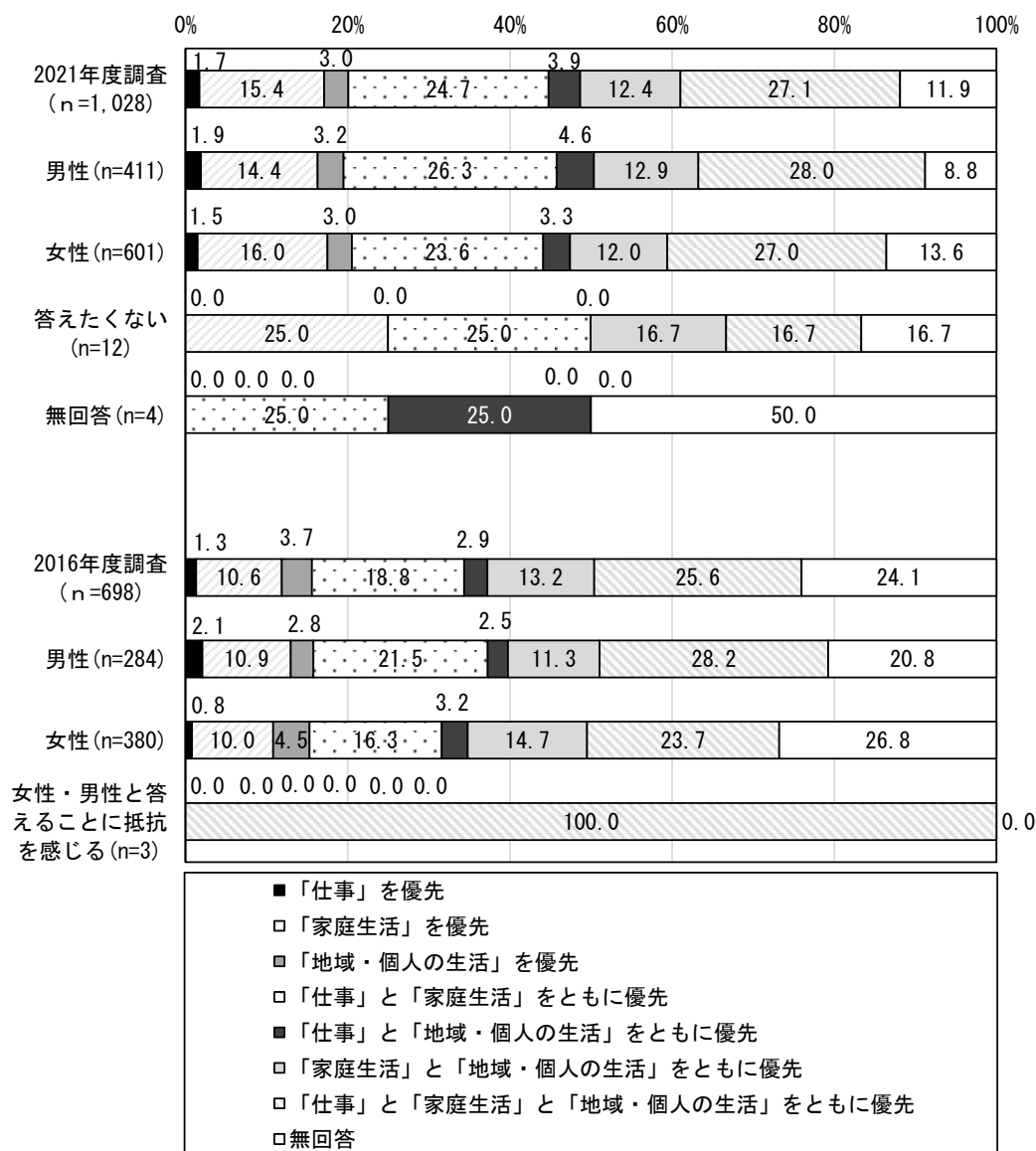
2. 理想の生活の優先度

理想の生活の優先度についてみると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」が 27.1%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 24.7%、「家庭生活」を優先」が 15.4%となっています。

性別にみると、『男性』と『女性』共に同じような傾向となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 18.8%に対して今回調査では 24.7%と 5.9 ポイント高くなっています。

■理想の生活の優先度（単数回答／全体、性別／2016 年度調査との比較）



(6) 男性のワーク・ライフ・バランス推進に必要なこと

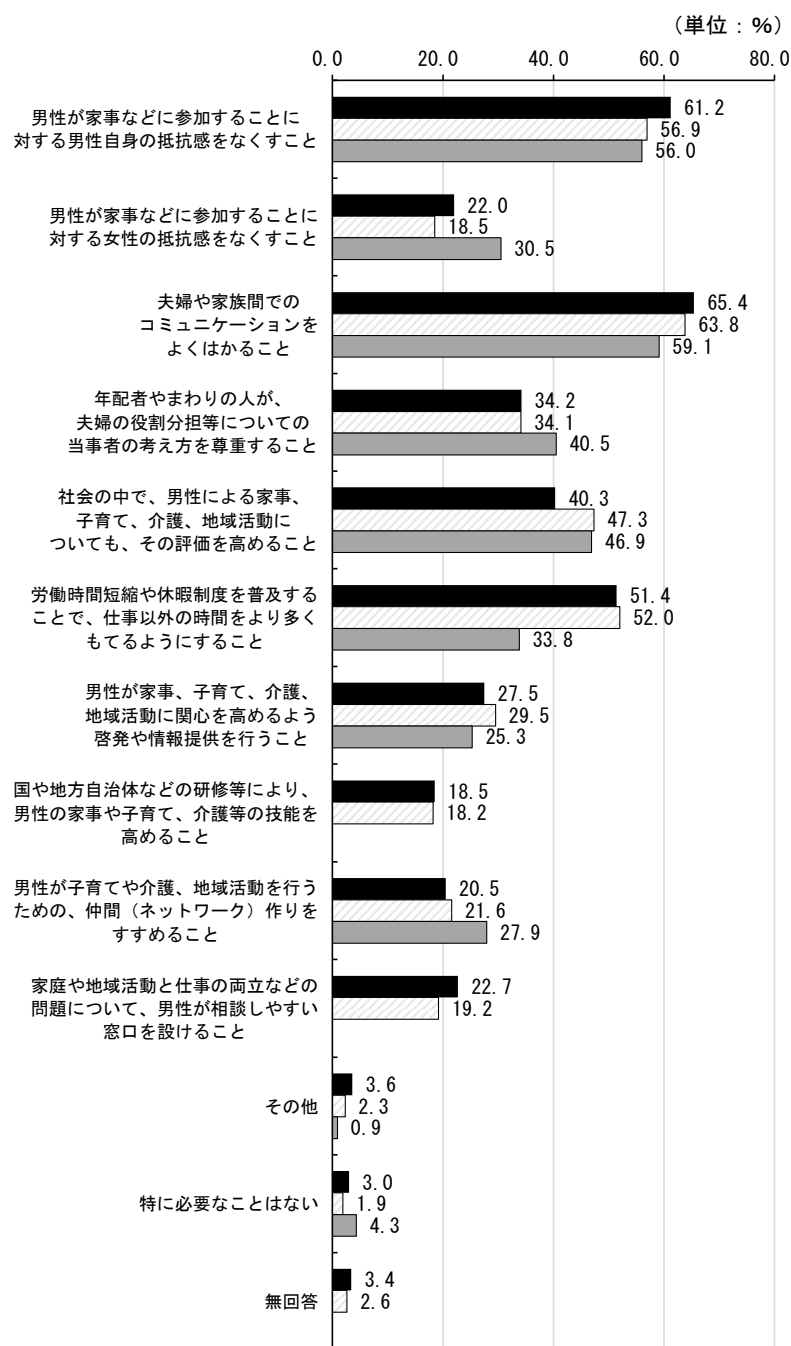
問 20 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男性のワーク・ライフ・バランス推進に必要なことについてみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 65.4%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 61.2%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が 51.4%となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が 47.3%に対して今回調査では 40.3%と 7.0 ポイント低くなっています。

国の調査と比較すると、2019 年度内閣府調査では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」が 33.8%に対して今回調査では 51.4%と 17.6 ポイント高くなっています。

■男性のワーク・ライフ・バランス推進に必要なこと
 (複数回答／全体／2016 年度調査、2019 年度内閣府調査との比較)



■2021年度調査 (n=1,028) □2016年度調査 (n=698) ■2019年度内閣府調査 (n=2,645)

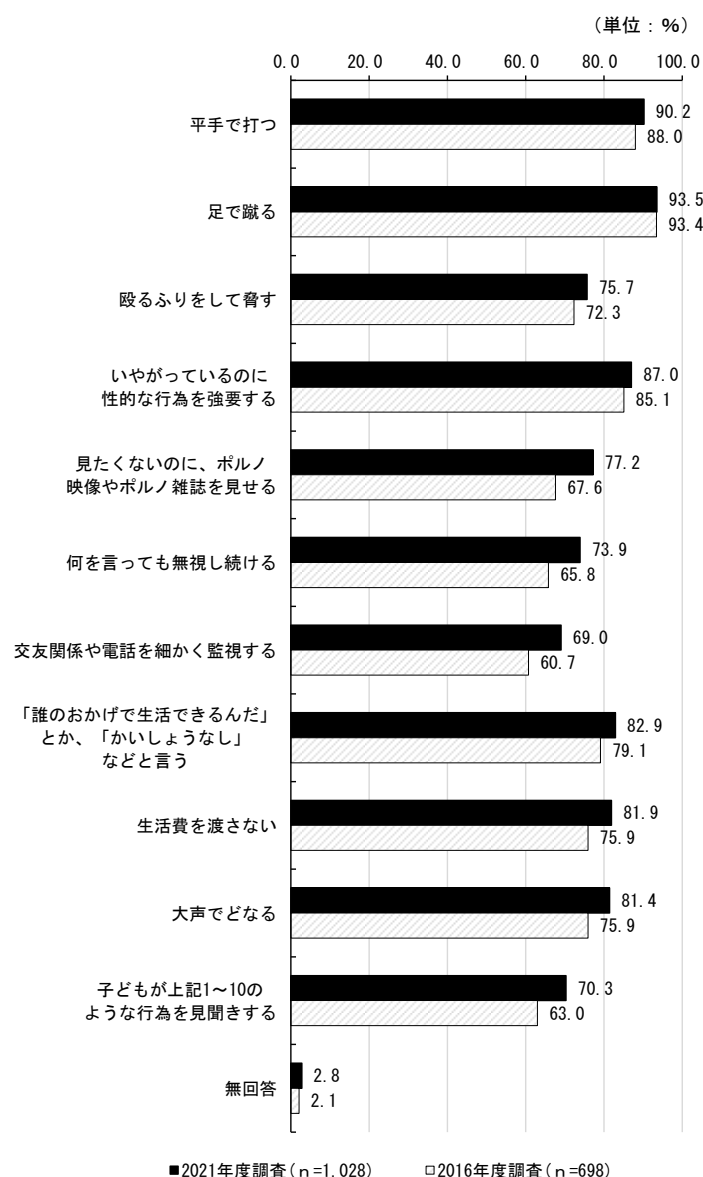
(7) DVに関する認識

問 21 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のような行為は「暴力」だと思いますか。
(○はいくつでも)

DVに関する認識についてみると、「足で蹴る」が93.5%と最も高く、次いで「平手で打つ」が90.2%、「いやがっているのに性的な行為を強要する」が87.0%、「殴るふりをして脅す」が75.7%、「子どもが上記1～10の行為を見聞きする」が70.3%、「交友関係や電話を細かく監視する」が69.0%となっています。

年度間比較をすると、2016年度調査では、「見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せる」が67.6%に対して、今回調査では77.2%と9.6ポイント、「殴るふりをして脅す」が72.3%に対して今回調査では75.7%と3.4ポイント、「子どもが上記1～10の行為を見聞きする」が63.0%に対して今回調査では70.3%と7.3ポイント、「交友関係や電話を細かく監視する」が60.7%に対して今回調査では69.0%と8.3ポイント、それぞれ高くなっています。

■DVに関する認識（複数回答／全体／2016年度調査との比較）

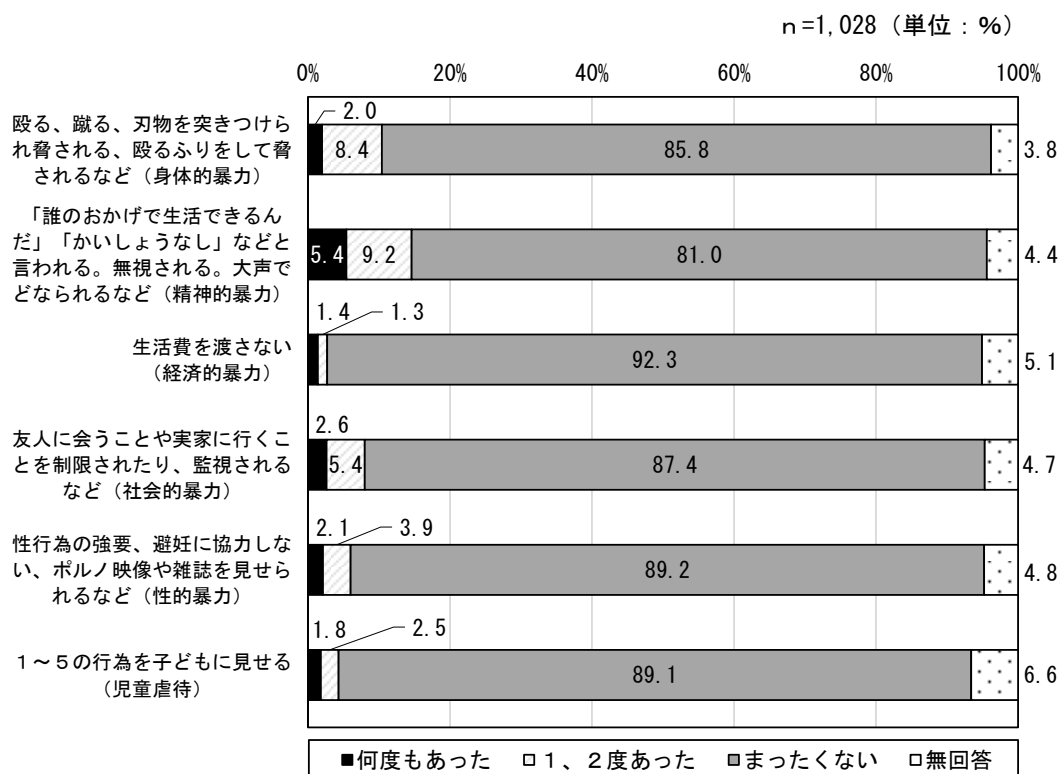


(8) DV被害の経験

問 22 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や親しいパートナー（恋人等）から次のようなことをされたことがありますか。（それぞれについて○は1つだけ）

DV被害の経験についてみると、「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われる。無視される。大声でどなられるなど(精神的暴力)」の「何度もあった」の割合が 5.4%、「1、2度あった」が 9.2%と他と比べ高くなっています。

■ DV被害の経験（単数回答／全体）

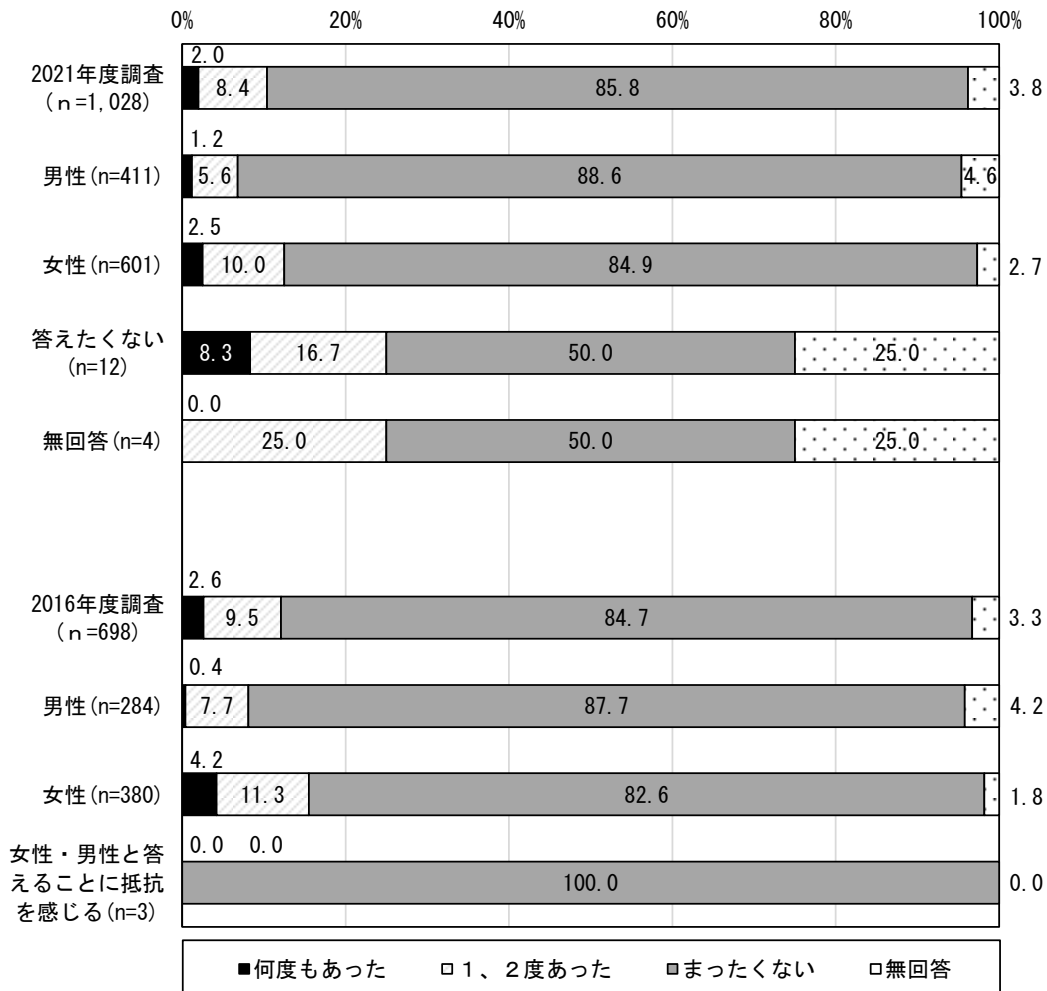


1. 殴る、蹴る、刃物を突きつけられ脅される、殴るふりをして脅されるなど（身体的暴力）

殴る、蹴る、刃物を突きつけられ脅される、殴るふりをして脅されるなど（身体的暴力）についてみると、「何度もあった」が2.0%、「1、2度あった」が8.4%となっています。

年度間比較をすると、2016年度調査とほぼ同じ傾向となっています。

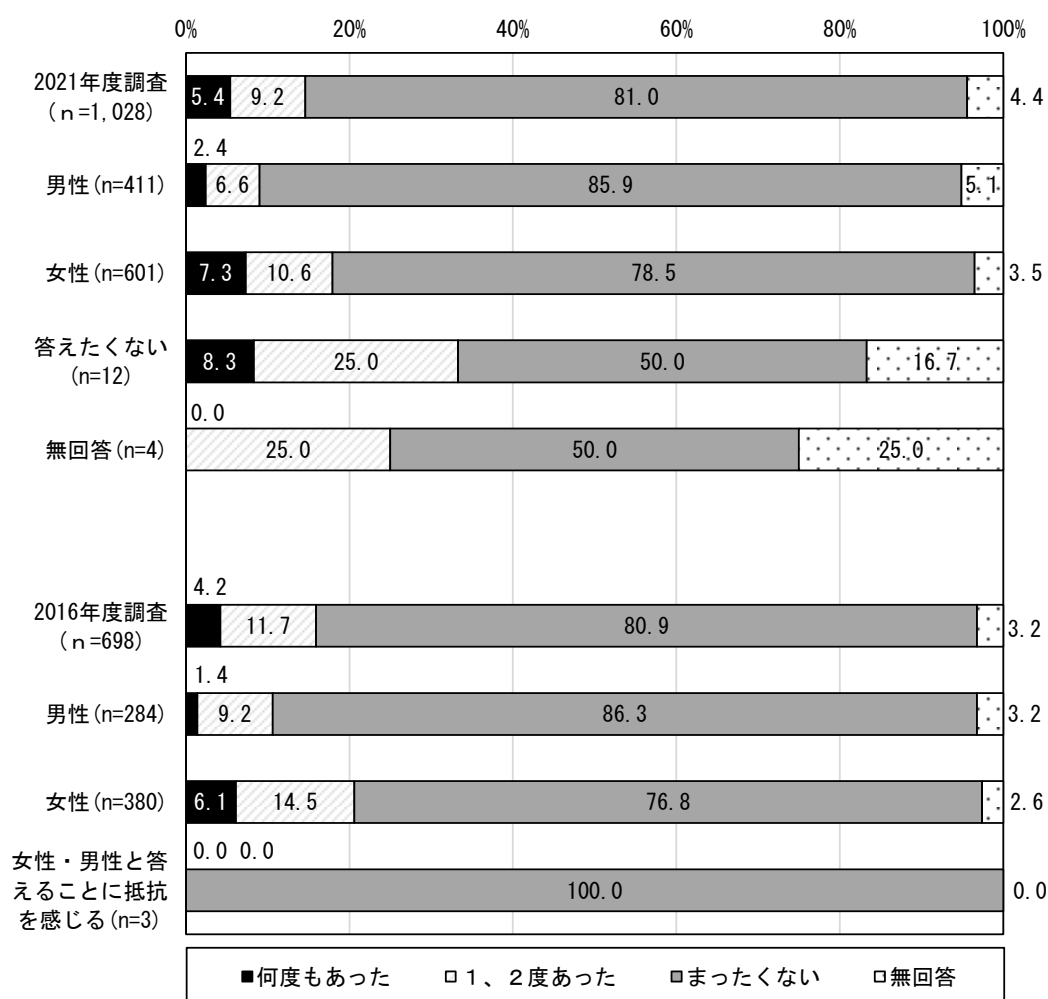
■殴る、蹴る、刃物を突きつけられ脅される、殴るふりをして脅されるなど（身体的暴力）（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）



2. 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われる。無視される。大声でどなられるなど（精神的暴力）

「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われる。無視される。大声でどなられるなど（精神的暴力）についてみると、性別では『男性』では“ある”（「何度もあった」＋「1、2度あった」）が9.0%に対し、『女性』は“ある”（「何度もあった」＋「1度あった」）が17.9%と8.9ポイント高くなっています。

■ 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われる。無視される。大声でどなられるなど（精神的暴力） （単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）

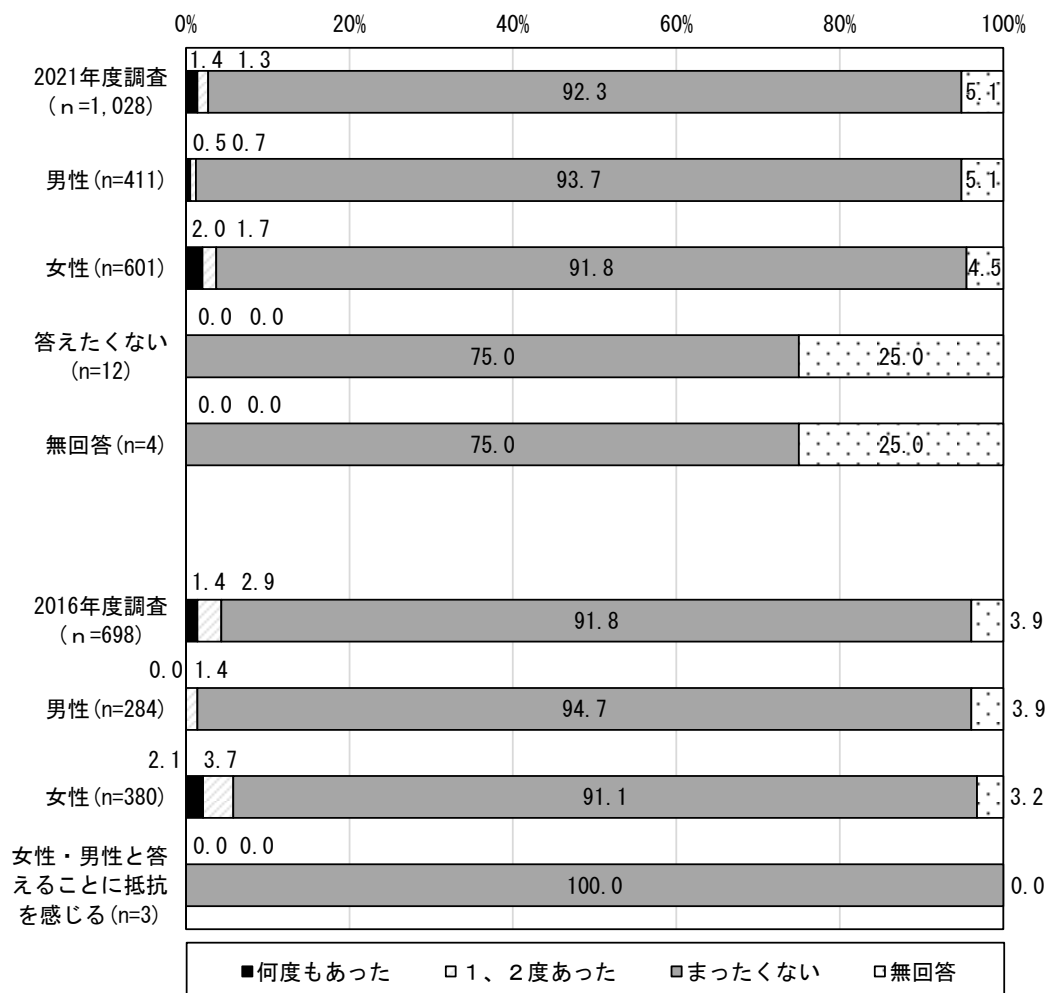


3. 生活費を渡さない（経済的暴力）

生活費を渡さない（経済的暴力）についてみると、「何度もあった」が1.4%、「1、2度あった」が1.3%となっており、他の暴力と比較すると割合は低くなっています。

■生活費を渡さない（経済的暴力）

（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）

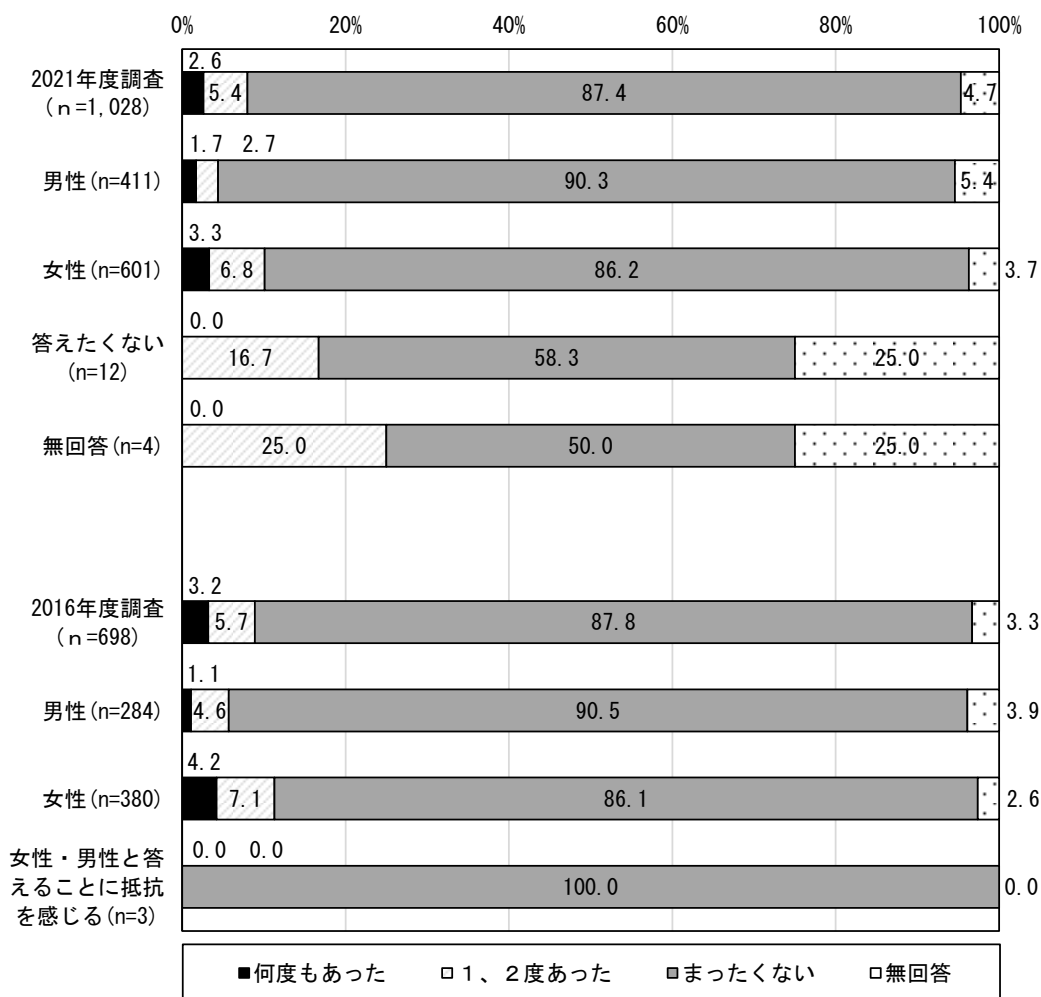


4. 友人に会うことや実家に行くことを制限されたり、監視されるなど（社会的暴力）

友人に会うことや実家に行くことを制限されたり、監視されるなど（社会的暴力）についてみると、『男性』では「まったくない」が9割を超えています。『女性』は「何度もあった」が3.3%、「1、2度あった」が6.8%となっています。

年度間比較をすると、2016年度調査とほぼ同じ傾向となっています。

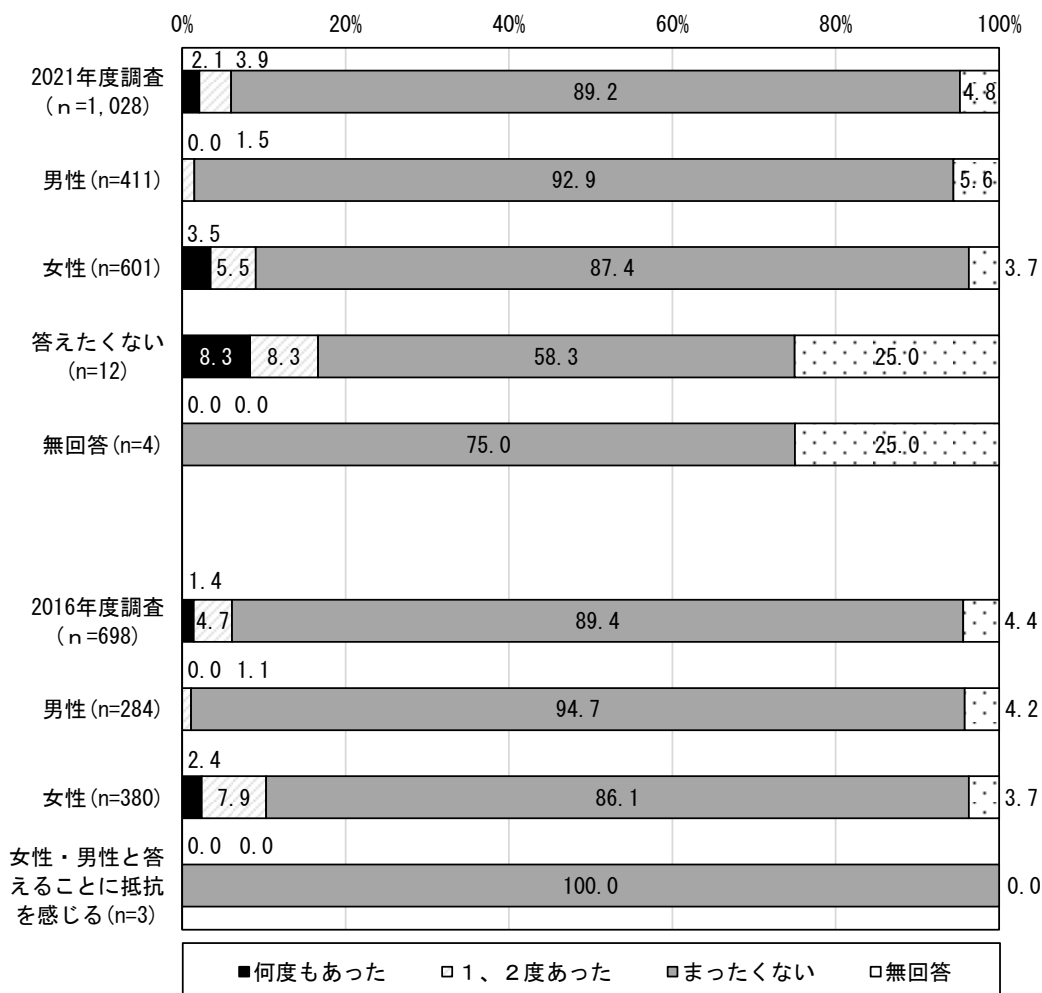
■友人に会うことや実家に行くことを制限されたり、監視されるなど（社会的暴力）（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）



5. 性行為の強要、避妊に協力しない、ポルノ映像や雑誌を見せられるなど（性的暴力）

性行為の強要、避妊に協力しない、ポルノ映像や雑誌を見せられるなど（性的暴力）についてみると、「何度もあった」が2.1%、「1、2度あった」が3.9%となっています。

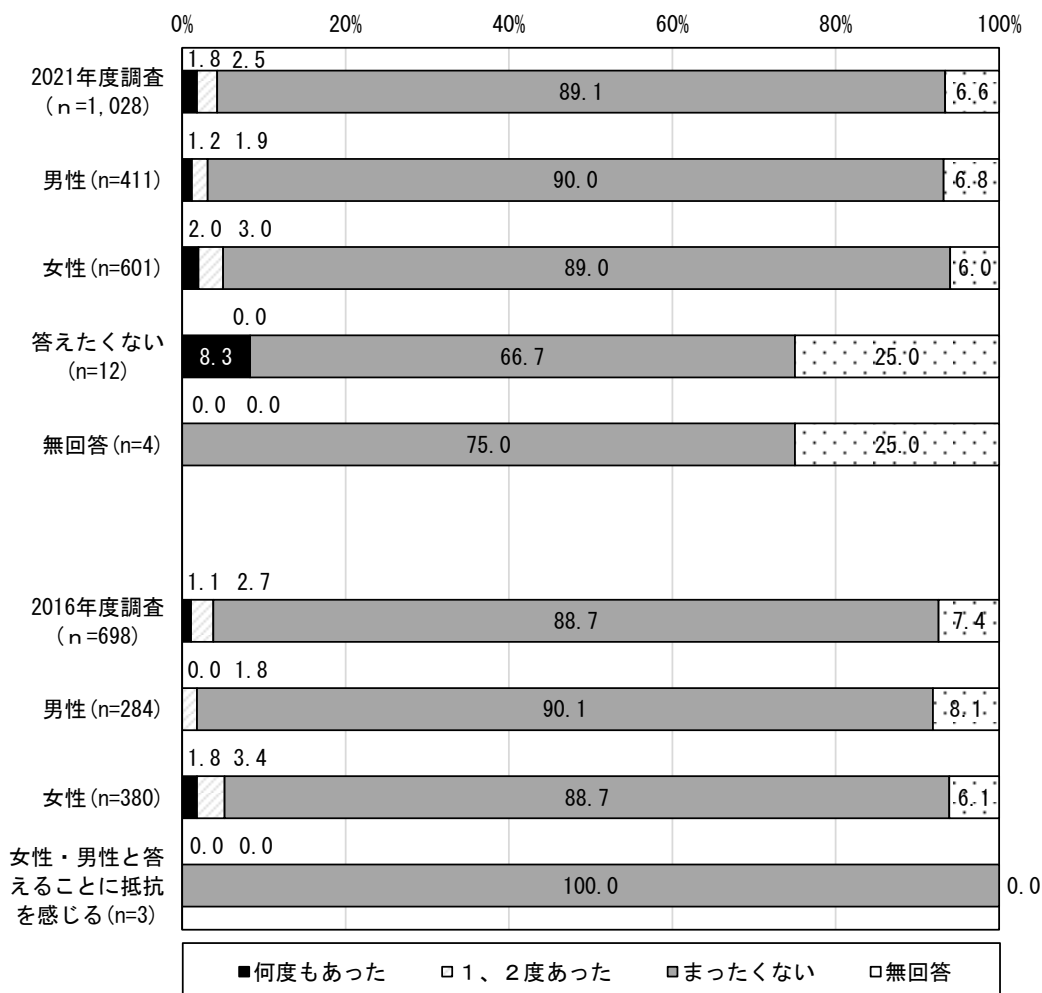
■性行為の強要、避妊に協力しない、ポルノ映像や雑誌を見せられるなど（性的暴力）（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）



6. 1～5の行為を子どもに見せる（児童虐待）

1～5の行為を子どもに見せる（児童虐待）についてみると、「何度もあった」が1.8%、「1，2度あった」が2.5%で、2016年度調査とほぼ同じ傾向となっています。

■ 1～5の行為を子どもに見せる（児童虐待）（単数回答／全体、性別／2016年度調査との比較）

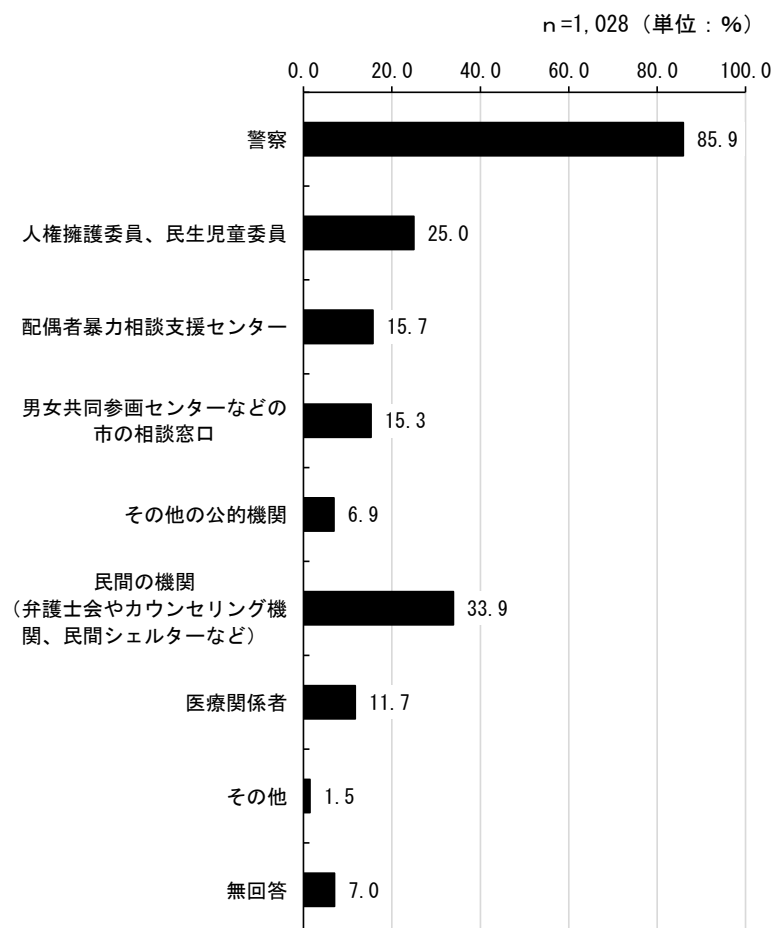


(9) DV相談窓口の認知度

問 23 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）の相談窓口としてどのようなものを知っていますか。（〇はいくつでも）

DV相談窓口の認知度についてみると、「警察」が85.9%と最も高く、次いで「民間の機関（弁護士会やカウンセリング機関、民間シェルターなど）」が33.9%、「人権擁護委員、民生児童委員」が25.0%となっています。

■ DV相談窓口の認知度（複数回答／全体）



性別にみると、男女とも「警察」が8割を超えています。

年代別にみると、全ての年代にかけて「警察」が最も高くなっており、『19歳以下』から『70歳代』にかけては8割を超えています。一方、『80歳以上』では62.5%と他の年代に比べて低い傾向となっています。

■DV相談窓口の認知度（複数回答／性別、年代別）

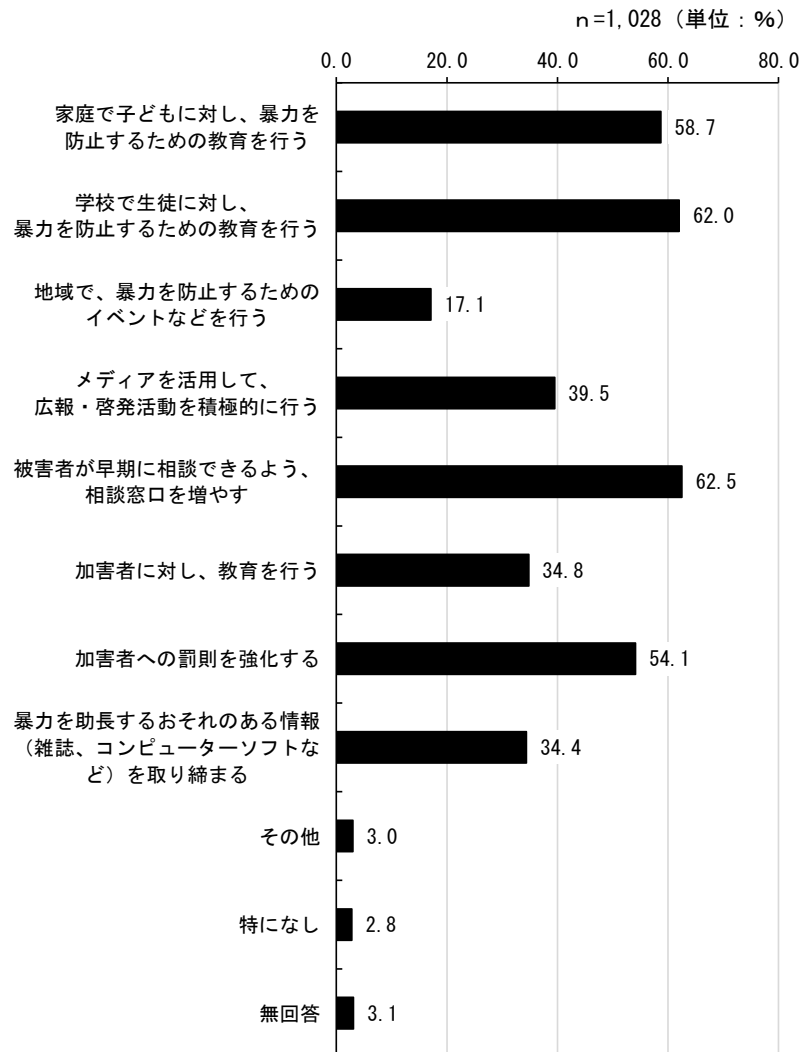
	n 数	警察	人権擁護委員、 民生児童委員	配偶者暴力 相談支援セン ター	男女共同参画セン ターなどの市の 相談窓口	その他の公的機 関	民間の機関（弁 護士会やカウ ンセリング機 関、民間シエ ルターなど）	医療関係者	その他	無回 答
全体	100.0 1,028	85.9 883	25.0 257	15.7 161	15.3 157	6.9 71	33.9 348	11.7 120	1.5 15	7.0 72
性別										
男性	100.0 411	85.2 350	28.5 117	15.6 64	19.0 78	8.3 34	29.7 122	10.9 45	1.5 6	6.6 27
女性	100.0 601	86.4 519	22.5 135	15.5 93	12.6 76	5.8 35	36.3 218	11.8 71	1.5 9	7.2 43
答えたくない	100.0 12	91.7 11	33.3 4	16.7 2	16.7 2	16.7 2	50.0 6	33.3 4	- -	8.3 1
無回答	100.0 4	75.0 3	25.0 1	50.0 2	25.0 1	- -	50.0 2	- -	- -	25.0 1
年代別										
19歳以下	100.0 32	93.8 30	12.5 4	3.1 1	12.5 4	6.3 2	25.0 8	21.9 7	6.3 2	- -
20歳代	100.0 122	92.6 113	6.6 8	13.9 17	13.1 16	5.7 7	26.2 32	17.2 21	- -	2.5 3
30歳代	100.0 92	93.5 86	17.4 16	18.5 17	17.4 16	6.5 6	33.7 31	14.1 13	1.1 1	1.1 1
40歳代	100.0 141	88.7 125	22.0 31	13.5 19	14.9 21	9.2 13	36.2 51	12.8 18	1.4 2	3.5 5
50歳代	100.0 179	93.9 168	21.2 38	16.2 29	18.4 33	5.0 9	39.7 71	11.2 20	1.1 2	2.2 4
60歳代	100.0 166	83.7 139	33.1 55	16.3 27	14.5 24	6.0 10	43.4 72	7.8 13	0.6 1	8.4 14
70歳代	100.0 188	80.9 152	36.2 68	17.0 32	13.8 26	8.5 16	33.0 62	9.6 18	2.7 5	10.1 19
80歳以上	100.0 96	62.5 60	33.3 32	17.7 17	15.6 15	5.2 5	15.6 15	9.4 9	2.1 2	26.0 25
無回答	100.0 12	83.3 10	41.7 5	16.7 2	16.7 2	25.0 3	50.0 6	8.3 1	- -	8.3 1

(10) 男女間暴力防止に必要なこと

問 24 あなたは、男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇はいくつでも)

男女間暴力防止に必要なことについてみると、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を増やす」が62.5%と最も高く、次いで「学校で生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」が62.0%、「家庭で子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が58.7%となっています。

■男女間暴力防止に必要なこと（複数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「学校で生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」が 59.9%と最も高く、一方、『女性』では「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を増やす」が 65.1%と最も高くなっています。

年代別にみると、『30 歳代』から『60 歳代』にかけて「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を増やす」が最も高くなっています。一方、『19 歳以下』では「家庭で子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が最も高く、『20 歳代』『70 歳代』『80 歳以上』では「学校で生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」が最も高くなっています。

■男女間暴力防止に必要なこと（複数回答／性別、年代別）

	n 数	家庭で子ども に対する教育を 行う、暴力を 防止する	学校で生徒に 対し、暴力を 防止する	地域で、暴力 防止を行う	メディア・啓 発活動を活用 し、積極的に 行う	被害者が早期 に相談できる よう、相談窓 口を増やす	加害者に対し 、教育を行う	加害者への罰 則を強化する	暴力を助長す るおそれある 情報（雑誌、 ネットなど） を取り締まる	その他	特になし	無 回 答
全体	100.0 1,028	58.7 603	62.0 637	17.1 176	39.5 406	62.5 642	34.8 358	54.1 556	34.4 354	3.0 31	2.8 29	3.1 32
性別												
男性	100.0 411	59.6 245	59.9 246	19.0 78	38.9 160	58.9 242	32.6 134	55.7 229	32.1 132	2.2 9	4.4 18	1.9 8
女性	100.0 601	58.4 351	64.1 385	16.3 98	40.4 243	65.1 391	36.6 220	52.9 318	36.4 219	3.3 20	1.8 11	3.8 23
答えたくない	100.0 12	50.0 6	50.0 6	—	16.7 2	50.0 6	33.3 4	66.7 8	25.0 3	16.7 2	—	—
無回答	100.0 4	25.0 1	—	—	25.0 1	75.0 3	—	25.0 1	—	—	—	25.0 1
年代別												
19歳以下	100.0 32	75.0 24	71.9 23	34.4 11	65.6 21	62.5 20	28.1 9	65.6 21	21.9 7	6.3 2	6.3 2	—
20歳代	100.0 122	59.0 72	65.6 80	23.8 29	47.5 58	63.1 77	39.3 48	60.7 74	26.2 32	3.3 4	0.8 1	0.8 1
30歳代	100.0 92	62.0 57	58.7 54	15.2 14	39.1 36	72.8 67	43.5 40	71.7 66	28.3 26	3.3 3	2.2 2	1.1 1
40歳代	100.0 141	59.6 84	62.4 88	13.5 19	39.0 55	63.1 89	34.0 48	57.4 81	27.0 38	7.1 10	2.8 4	1.4 2
50歳代	100.0 179	60.9 109	62.6 112	16.2 29	38.5 69	63.7 114	39.7 71	58.7 105	34.6 62	2.2 4	0.6 1	0.6 1
60歳代	100.0 166	59.6 99	62.7 104	15.1 25	40.4 67	71.7 119	33.1 55	57.2 95	44.0 73	3.6 6	1.2 2	3.0 5
70歳代	100.0 188	54.8 103	64.9 122	17.0 32	35.1 66	56.4 106	31.9 60	42.0 79	40.4 76	—	5.3 10	5.3 10
80歳以上	100.0 96	50.0 48	52.1 50	17.7 17	32.3 31	42.7 41	26.0 25	31.3 30	38.5 37	2.1 2	7.3 7	12.5 12
無回答	100.0 12	58.3 7	33.3 4	—	25.0 3	75.0 9	16.7 2	41.7 5	25.0 3	—	—	—

(11) 男女共同参画実現に必要なこと

問 25 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

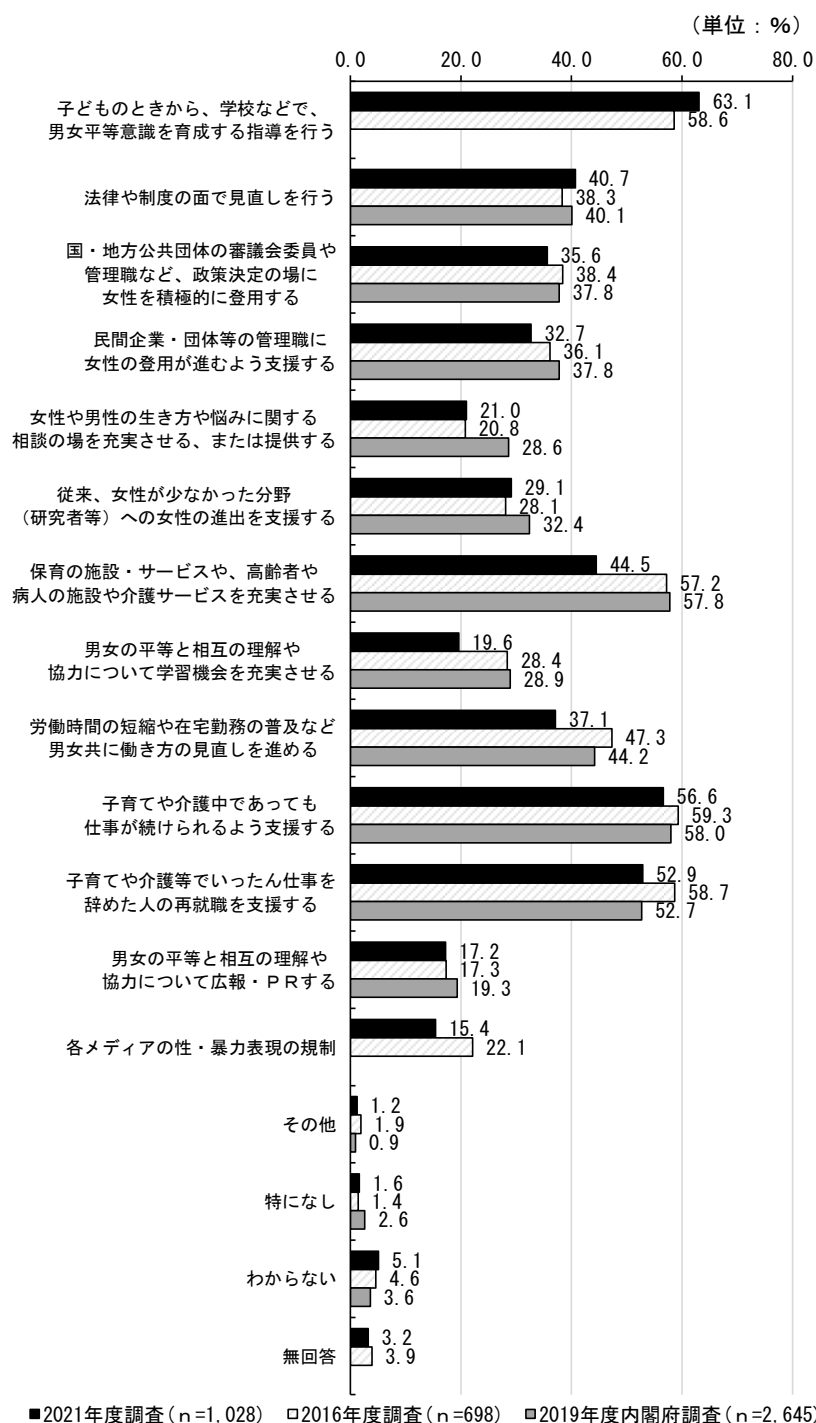
男女共同参画実現に必要なことについてみると、「子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う」が 63.1%と最も高く、次いで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 56.6%、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 52.9%となっています。

年度間比較をすると、2016 年度調査では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」が 57.2%に対して今回調査では 44.5%と 12.7 ポイント低くなっています。

国の調査と比較すると、2019 年度内閣府調査では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」が 57.8%に対して今回調査では 44.5%と 13.3 ポイント低くなっています。

■男女共同参画実現に必要なこと

(複数回答／全体／2016 年度調査、2019 年度内閣府調査との比較)



性別にみると、男女とも「子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う」が最も高く6割を超えています。

年代別にみると、『30歳代』『40歳代』では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も高くなっています。

■男女共同参画実現に必要なこと（複数回答／性別、年代別）

	n 数	子どものときから、 男女平等意識を育成する指導を行う	法律や制度の面で 見直しを行う	国・地方公共団体の 審議会委員や管理職など、 政策決定の場に女性を積極的 に登用する	民間企業・団体等の管理職に 女性の登用が進むよう支援する	女性や男性の生き方や悩みに 関する相談の場を充実させる または提供する	従来、女性が少なかった分野 （研究者等）への女性の進出を 支援する	保育の施設・サービスや、高 齢者や病人の施設や介護サ ービスを充実させる	男女の平等と相互の理解や 協力について学習機会を充 実させる	男女共に働き方の見直しを 進める	労働時間の短縮や在宅勤務 の普及など	子育てや介護中であっても 仕事が続けられるよう支援 する	子育てや介護等であった 仕事を辞めた人の再就職を 支援する	男女の平等と相互の理解や 協力について広報・PRする	各メディアの性・暴力表現の 規制	その他	特になし	わからない	無回答
全体	100.0 1028	63.1 649	40.7 418	35.6 366	32.7 336	21.0 216	29.1 299	44.5 457	19.6 201	37.1 381	56.6 582	52.9 544	17.2 177	15.4 158	1.2 12	1.6 16	5.1 52	3.2 33	
性別																			
男性	100.0 411	64.2 264	38.7 159	36.3 149	29.4 121	20.0 82	26.5 109	38.2 157	20.7 85	34.1 140	53.3 219	50.9 209	18.5 76	14.1 58	0.7 3	2.2 9	5.4 22	2.7 11	
女性	100.0 601	63.1 379	41.9 252	35.4 213	35.3 212	21.3 128	30.8 185	48.6 292	18.8 113	38.9 234	59.1 355	54.6 328	16.0 96	16.1 97	1.5 9	1.2 7	5.0 30	3.2 19	
答えたくない	100.0 12	50.0 6	50.0 6	25.0 3	25.0 3	41.7 5	33.3 4	50.0 6	25.0 3	58.3 7	58.3 7	58.3 7	33.3 4	25.0 3	-	-	-	16.7 2	
無回答	100.0 4	-	25.0 1	25.0 1	-	25.0 1	25.0 1	50.0 2	-	-	25.0 1	-	25.0 1	-	-	-	-	25.0 1	
年代別																			
19歳以下	100.0 32	65.6 21	50.0 16	34.4 11	34.4 11	28.1 9	34.4 11	28.1 9	37.5 12	43.8 14	46.9 15	43.8 14	25.0 8	15.6 5	3.1 1	6.3 2	12.5 4	-	
20歳代	100.0 122	69.7 85	54.1 66	33.6 41	30.3 37	32.8 40	31.1 38	32.8 40	28.7 35	53.3 65	63.1 77	57.4 70	23.0 28	15.6 19	0.8 1	1.6 2	2.5 3	1.6 2	
30歳代	100.0 92	69.6 64	58.7 54	44.6 41	39.1 36	25.0 23	35.9 33	50.0 46	18.5 17	62.0 57	71.7 66	69.6 64	13.0 12	12.0 11	-	1.1 1	1.1 1	-	
40歳代	100.0 141	59.6 84	51.8 73	30.5 43	27.0 38	17.7 25	28.4 40	45.4 64	17.7 25	41.8 59	66.0 93	58.2 82	14.2 20	12.1 17	4.3 6	1.4 2	4.3 6	0.7 1	
50歳代	100.0 179	65.9 118	38.5 69	36.9 66	31.8 57	15.6 28	22.3 40	46.4 83	17.9 32	30.7 55	63.1 113	53.1 95	15.6 28	14.0 25	0.6 1	1.1 2	2.8 5	0.6 1	
60歳代	100.0 166	61.4 102	38.6 64	37.3 62	39.2 65	21.7 36	28.3 47	50.6 84	15.7 26	36.7 61	57.8 96	52.4 87	15.7 26	20.5 34	0.6 1	1.2 2	4.8 8	3.6 6	
70歳代	100.0 188	65.4 123	28.2 53	35.1 66	36.2 68	19.1 36	31.9 60	45.7 86	18.6 35	25.5 48	41.0 77	47.3 89	17.6 33	19.1 36	-	2.1 4	6.4 12	4.8 9	
80歳以上	100.0 96	50.0 48	19.8 19	32.3 31	24.0 23	17.7 17	30.2 29	42.7 41	18.8 18	18.8 18	38.5 37	38.5 37	18.8 18	10.4 10	2.1 2	1.0 1	13.5 13	13.5 13	
無回答	100.0 12	33.3 4	33.3 4	41.7 5	8.3 1	16.7 2	8.3 1	33.3 4	8.3 1	33.3 4	66.7 8	50.0 6	33.3 4	8.3 1	-	-	-	8.3 1	

(12) 男女共同参画についての意見

問 26 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

回答総数 1,028 人中 82 人 (7.9%) の意見・要望があり、内容はおおむね以下のように分類できます。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれを 1 件として分類しています。

① 男女平等意識を育成する教育	7 件
② 男女差別や偏見に対する意識改革	6 件
③ 法律や制度の整備	4 件
④ 官民各種団体での女性の管理職登用の促進	3 件
⑤ 女性の雇用昇進を増やす	2 件
⑥ 性別ではなく個々の能力を重視する	12 件
⑦ 育児・介護等の福祉サービスによる離職防止や再就職支援	5 件
⑧ 育児・介護休暇を取得しやすい職場環境の整備	4 件
⑨ 時短や在宅勤務などの働き方の見直し	3 件
⑩ 男女の賃金格差をなくし賃金を引き上げる	3 件
⑪ 生き方や悩みに関する相談の場の充実	2 件
⑫ 協力・助け合い・相互理解を深める	6 件
⑬ 話し合い・コミュニケーションの場を設ける	3 件
⑭ その他	25 件

① 男女平等意識を育成する教育

子どもの時から学校等での教育

意識の改革の為に教育が非常に重要だと思う。

今まで出会った方で思うことは、家庭で教わったこと（人）が多い。幼い頃からの育成はとても重要と思う。

子どもの時から少数の男女グループで取り組むことを増やし、お互いの理解を深める。男の子、女の子それぞれの特性を小さいころから理解することが大事だと思っています。

小・中・高校の間に共同参画の予定演習を授業に入れる。

男女が平等という事を小さい時から教えないといけないと考えられます。

人間はすべて平等であることを土台とする考えを広めていく。

② 男女差別や偏見に対する意識改革

年長の方、役職のある人などが根強く男尊女卑の考えがあるので、その問題を改善しないと外面だけでは難しいと思う。

「男女共同」という言葉自体に違和感を感じる。若い世代の人口を増やし若いうちから参加していかないと年配の方の考えはなかなか変わらないと思う。

女のクセにだとか、男なんだからとかの意識を無くしていく事が必要だと思います。職業、生き様についての偏見も無くさないといけません。

男女の働き方については、女性が家庭の中の事をするというのが、いつまでも根強いようですが、やはり個人の意識の問題だと思います。私のまわりでも普通に家庭の事など男女関係なくやっている人が多いです。

同年代より下の世代から、特に問題はないと思っているが、親世代より上は今も言葉等に差別を感じる。

世の中の家事等はやはり基本女性がしてあたりまえという考え方が根強くあり、女性の負担が大きい。社会的に仕事は男性と同じとされたとしても家事、育児、介護が共にあると逆に負担が大きすぎる。年配者の意識改革も大きく必要と考える。

③ 法律や制度の整備

8 頁にも書きましたが男女平等、男女共同参画ということは皆んな分かっていると思います。法律等である程度強制し、後押ししないと、なかなか進まないと思います。

男性と同じように責任をもって仕事をすれば問題を生じない様に法的にも整備すればよい。

当人の意識と法律、制度が重要だと思ってます。

母子家庭は補助、父子家庭は無視をやめるべき。偽装離婚を助長している。夫婦別姓はそれを助長している。

④ 官民各種団体での女性の管理職登用の促進

女性議員を増やす。

子どもに教育するのも大切だと思うが、今ある社会の中で地位のある人の中に女性を増やすことや男性が子育てに参加する姿を見ると自然に男女平等の意識が身につくと思う。男女共同参画社会という言葉が難しい。→例「男・女・それ以外」などわかりやすいイメージの言葉にしてほしい。

能力があれば積極的に登用する（国・地方公共団体・民間企業団体等にかかわらず）

⑤ 女性の雇用昇進を増やす

女性の雇用を増やすようにしたら男女差を無くす事ができるのでは？

養育費払わない男性に対して最終的には泣き寝入りしかない。働くシングルマザーの負担、はんばない。女性の昇進が男性に比べてむずかしい。

⑥ 性別ではなく個々の能力を重視する

10 kgの荷物を女性が持つのは大変→男性が持つ、運ぶ→身体的違いは平等ではない。

子供は女性しか産めない→男性は協力する事は出来る→身体的違いは平等ではない。

知力、能力は男女共の個人の持てるものを評価すべき。

男・女と分けること自体おかしくなる原因である。男女平等と言わず「人としてどうあるべきか」ということが大事！ だから「男女共同参画社会」という言葉自体が時代遅れであると感じる。男・女関係なく「人として」どうあるべきかという事を大切にしてほしいです。（女性ですが）だからレディースデーとかも嫌いです。平等じゃない。

男・女を意識してやっていること事態がおかしく それぞれが自分のできる事を男だから女だからで考えない社会になるよう意識しすぎない事か…

河内長野市内で男女とも正社員で働ける職場を増やす。正社員非正規社員の格差をなくすことによって不満が軽減される。収入が安定すれば心も安定する。正社員でもさぼる人はさぼる。パートでも身を粉にして働く人もいる。人それぞれ。仕事でも家事でも正しい評価をしてくれる人がいることが救い。男も女も関係ない。すべては個人の人間性。

女性を積極的に登用するというのは女性を特別視していて本当の意味での平等とはいえないと思う。男性女性関係なく正當に評価して管理職等に登用すべきであると思う。女性だから無理とか又女性を多く登用しようという事で平等ではないと思う。

女性の社会進出は賛成すべき事だが、機会を与えることに留めるべき。意識しすぎるあまり不平等が起きるのはあってはならない。

女性も働きやすい社会になることは良いことだと思う。しかし、その為に女性を優遇するのは平等ではないと感じる。性別による偏見をなくし、公正な判断と支援を行うことが大事。

女性を積極的に登用、支援することも良いが、一方で逆差別的という考え方もあるかと思われるので慎重に進めなくてはいけないと思う。

性別よりもまずは能力で判断すべき問題

男女関係なく能力を見てすべき仕事、地位を決めると良いと思う。

変な平等はいらない。男であれ、女であれ、実力ある、周囲の視野の広い人が管理職になれば良いのだと思う。それを受け入れることに抵抗のある男性が多いのが問題。また職場にも問題あり。女性が管理職となれば仕事を優先せざるを得ないことが増えるが非常事態（子供の熱や行事など）にどう職場が対応するか、できるか。女性の職場、男性の職場、どちらにもいえること。「何かあれば母親が休むしかない」それがそもそも問題。おかしい。それが充実しないと女性は仕事を続けられない（正職として）結局、家の近くで働く、パートで働くという選択になる。また、保育・子育てにおいて女性が本当に求めている支援の充実は必須。

見かけだけの平等のために無理に登用するのもどうかと思う。個々として平等であるべき。

⑦ 育児・介護等の福祉サービスによる離職防止や再就職支援

介護中でも仕事が続けられ、介護支援（サービス）等、どこへ連絡し、申込すればいいのかも
っと分かりやすいといいです。（土日でも相談可など）

子育てしながら無理なくずっと働ける社会に

子育て世代で子供を学童に預けているが、学童以外での預け先、例えば習い事の情報や（場所
や時間、金額など）小学校内で活動できる習い事などを増やしてほしい。それに対しての助成
金などがあると女性ももっと社会に出て働き、活躍できると思います。

子連れで仕事できるとかハウスキーパー制度を作るとか夫婦が共に働いても家事（掃除や洗濯
など）を市が保障してヘルパーさんのような人を使える制度がほしい。ダスキンとかあるけど
高くて使えない→家の事ができない→ストレス溜まる

女性が子育てをしやすく、また社会にもどしやすい支援が必要

⑧ 育児・介護休暇を取得しやすい職場環境の整備

現在の制度をあまり分かっていないのですが、男性でも育児休暇がもっととりやすくなるとい
いと思います。その際に両親の収入で生活の出来る基準に達していなければ補助を受けられ
るともっと子育てのしやすい地域になると思います。

社会全体が一丸となって取り組みやすくする（休んだりしやすい）

男女共に育休を取得することには賛成だが、現実職場に残っている人の負担がその分増えてい
ます。それを知って取りにくく思っている人も多いと思います（特に男性）。その解消をして
頂きたいです。

問 25 の 9 ですが、労働時間を短縮されても、仕事量が減るわけではなく残業が増える一方な
ので意味がないです。男性も育休をとりやすい環境、意識の改革が必要だと思います。

⑨ 時短や在宅勤務などの働き方の見直し

就業内容、形態等現実的に分業（内容、時間、在宅等）会社が設定するのではなく、就業者の
選択制と設定制の充実の拡充をはかる。

就職活動の際に、休日や福利厚生に関する質問をすること自体がタブーになっているので、そ
れを聞きやすい環境や社会を実現させるべきだと思います。働き方改革をもっとおし進め、ワ
ーク・ライフ・バランスをとれる社会が必要であると考えております。

長時間労働をなくす。

⑩ 男女の賃金格差をなくし賃金を引き上げる

男女賃金格差の解消

現在、男の収入だけでは家族を養っていけないので共働きしています。正直男の収入がしっかりしていればパートナーに仕事を強制する必要ありません。誰かが子供を見る必要があるので、子供との時間はかけがえのないものです。幸いパートナーは仕事がしたい人だったので良かった。実現にあたって大事なものはバランス。収入と共働きが見合う時代になって欲しい。

昔に比べると男女ともに産休育休を取れる会社は増えたのかもしれませんが、それでもまだ男性側の育休取得率は低いと感じています。仮に子どもを産んだとしてもワンオペになる可能性は大なので、なかなか子育てをできる自信が持てず産もう、という気になれません。もう少し、小さい子のいる家庭、妊婦さんなどに対して優しい社会になってほしい。また税率は上がっているのに一向に賃金は増えず、支出だけが大きくなってしまっています。生活に余裕があるとはいえない状況になるのはいかがなものかと思います。子育てをしていく上で、人が生活していく上で最低賃金の値上げは必須だと思います。

⑪ 生き方や悩みに関する相談の場の充実

「選べる」ことが大切。サービスや相談の場、支援先、選択肢があることで充実した生活が送れるのではないのでしょうか。そしてその「選択」がきちんと広まることも重要。「あったんだ」とならないようにしていきたいです。

問 25 の 1 の内容よりも前に先ず自分の思ったことをちゃんと相手に伝える教育、相手の話をちゃんと聞く教育を小学校からしてほしいと思う。そして高校生からはこの悩みはこんな相談窓口があるとか今までどんな相談があったとか、窓口の人が講演する授業をしてほしい。

⑫ 協力・助け合い・相互理解を深める

社会、職場の理解が重要

世界で進んでいる国の状況をメディア等を通じて更に広げ理解度を上げる。

人間の男女だけでなく地球で生存している動植物にも目を向け各々精一杯生きていることを認識させ性別如何にかかわらず当然協力していく。日常生活のなかで。

人は生まれた時から皆平等であって、特に男女共同参画など必要なのでしょうか？ 男女の体力の差に付いては、お互いに助け合えば良いのではないかと考える。

夫婦二人じゃなく、親や年配の人たちの協力、アドバイスが大事だと思います。

難しい。男女共同の社会っていっても色んな面で性差がある。体力面、察しの良さ、気持ちの汲み取り、判断面とか。出来ないもの（自分的に）難しいものは生きている限りいくつでも出てくる。それを理解できないから放置でなく相手の言い分をしっかり受け取り、相手が何を求めているか自分に何を求められているか自分の反省点など見えていき生きやすい。多種多様な世の中になるんじゃないかと思う。

⑬ 話し合い・コミュニケーションの場を設ける

河内長野市で男女共同参画社会への問題（市企業地域）を洗い出して頂いて話し合いの場を作してほしい。

気持ち良く話し合いの時間を設ける。

男女差別云々より、1人1人のコミュニケーション力を鍛えた方がいい。学校教育、家庭教育ではもっとそこに力を入れるべき。

⑭ その他

今は女性が暴力、暴言する人が増えている。(男性がやさしくなっている)言葉の暴力は女性が多いと思う。

今風の自分さえ良ければじゃなくて、昔習った修身の様な教科書も読むべし。

各々が主体を持つためには「多様な考えがあること」「意識をすること」「一気にやろうとしないこと」が必要⇒メディア等で小さなコーナー(言葉、イベント、意見の紹介等)で1回につき1つの内容、テーマを紹介する(毎回テーマは変わる)⇒継続してPRする。行政からの発信とともに、たまには小話的なくだけた内容があっても、手にとりやすいかもしれません。短い文章、単語でアピールするのが良いのではと思います。絵・イラストのみでも可能性は広がるかもしれません。

河内長野市としてどれ位の活動、取組をしているか不明である。

基本は男が女性に対し、どう対処するか?働く男にとってはやはり仕事中心の社会構造になっている。これを改善するのは民主主義を完全に近づけることから求められる。行政・政治をかえない限り、男女共同参画社会の実現はない。アメリカも暴力・犯罪は多いか?政治においては民主主義が日本よりはるかに進んでいる。悪いものは悪い。日本の政治家のようなあいまいな国民をバカにした発言はアメリカ等にはない。

行政が何をやっているのか知らない。

具体事例がないので正味良くわからない。

具体的に河内長野市ではこうしたいという図もなく意見・感想を求められても困ります。

経済的自立を支援するため雇用環境の整備に力を入れるべきと考える。

講演会で啓蒙活動を気軽に参加できるように行政が補助する。

この項目について考えなくてよいのが理想ではないでしょうか。

逆に制度をとって周りの人間をいやな気分させないよう、女性への教育もしっかりやるべき。特に市の職員は住民の見本となるような行動を取るべし。市の職員がベンツに乗っていたり、一般市民より優遇されているような生活を見せない努力が必要。もっとしっかり働く姿を見せて、男女共同参画の見本となる行動を要望します。

質問の一部にフェミニズムを曲解しているかのようなものがあります。全国フェミニスト議員連盟に所属している方でもいらっしゃいますか。

社会全体が少しずつ進んでいるが全体的に女性が消極的である事を感じます。

女性の方が今強いので特にないです。

それ以前に河内長野市内での働く場をもっと増やしてほしい。その上で働きたい人のスキルをアップさせる環境をつくること。

だれでも参加できることがあればいいと思います。

男女ともフラットに接すればよい。上の1~15のどれも必要ないと思います。4才の子に男女差別的なものはないので。環境がジェンダー差別をうみます。

男女の違いの認識は大事だと思う。

男女平等の意味を根本から改善しないとだめだと思います。

男性はもっと家事分担を当たり前の事として積極的にやるべし

妻が育児で専業主婦なのですが、子どもを育てながら働けるパートの求人などをまとめてもらえると仕事探しは楽になる。急なお迎えが必要になっても許してもらえる職場って見つかるのが難しいので…。これは主夫であっても同じかと。

問24の8や問25の13の選択肢などのような取り締まりや表現規制は絶対に軽々しく行っってはならないと考えます。

必要性が理解できません。

まあ、がんばってね!! 応援してる♡

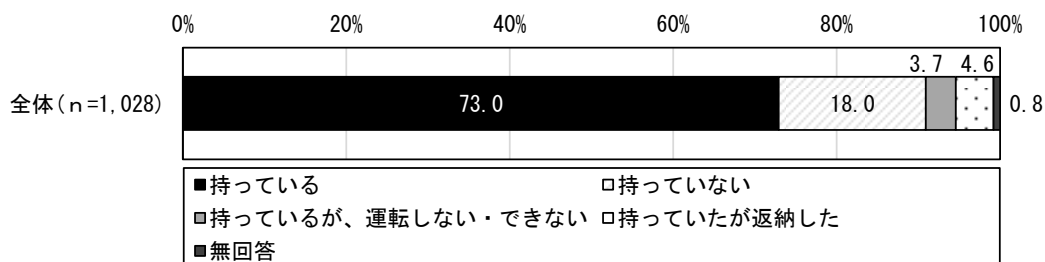
2－6. 利用する交通手段について

(1) 自動車運転免許所持の有無

問 27 あなたは、自動車運転免許を持っていますか。(○は1つだけ)

自動車運転免許所持の有無についてみると、「持っている」が73.0%と最も高く、次いで「持っていない」が18.0%、「持っていたが返納した」が4.6%となっています。

■自動車運転免許所持の有無（単数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「持っている」が84.7%と『女性』に比べて19.6ポイント高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『70歳代』にかけて「持っている」が最も高くなっています。一方、『19歳以下』では「持っている」が53.1%、『70歳代』では59.6%と他の年代に比べて低い傾向となっています。

小学校区別にみると、全ての小学校区で「持っている」が最も高くなっています。『石仏小学校区』『美加の台小学校区』『三日市小学校区』で「持っている」が8割を超えています。

■自動車運転免許所持の有無（単数回答／性別、年代別、小学校区別）

	n 数	持 っ て い る	持 っ て い な い	運 持 っ て い る が、 ・ で き な い	持 っ て い た が 返 納 し た	無 回 答
全体	100.0 1,028	73.0 750	18.0 185	3.7 38	4.6 47	0.8 8

性別

男性	100.0 411	84.7 348	7.8 32	1.0 4	5.8 24	0.7 3
女性	100.0 601	65.1 391	24.8 149	5.7 34	3.8 23	0.7 4
答えたくない	100.0 12	83.3 10	16.7 2	- -	- -	- -
無回答	100.0 4	25.0 1	50.0 2	- -	- -	25.0 1

年代別

19歳以下	100.0 32	53.1 17	46.9 15	- -	- -	- -
20歳代	100.0 122	79.5 97	15.6 19	4.9 6	- -	- -
30歳代	100.0 92	84.8 78	9.8 9	5.4 5	- -	- -
40歳代	100.0 141	87.9 124	5.0 7	7.1 10	- -	- -
50歳代	100.0 179	87.2 156	7.8 14	3.4 6	1.7 3	- -
60歳代	100.0 166	80.7 134	12.0 20	4.2 7	1.8 3	1.2 2
70歳代	100.0 188	59.6 112	26.6 50	2.1 4	10.6 20	1.1 2
80歳以上	100.0 96	25.0 24	49.0 47	- -	21.9 21	4.2 4
無回答	100.0 12	66.7 8	33.3 4	- -	- -	- -

小学校区別

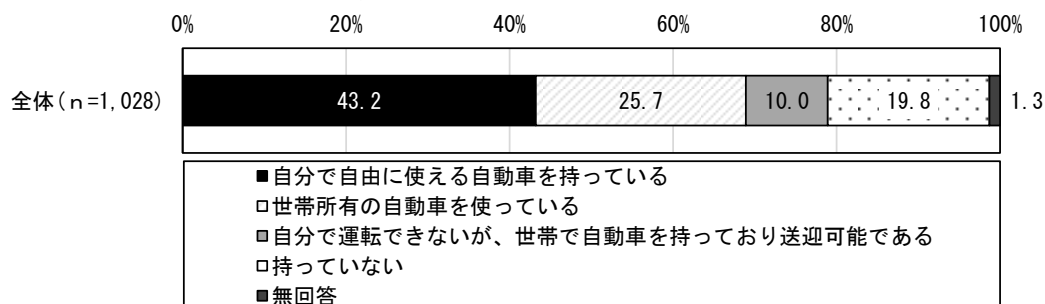
長野小学校区	100.0 137	72.3 99	19.0 26	5.8 8	1.5 2	1.5 2
小山田小学校区	100.0 90	76.7 69	16.7 15	2.2 2	3.3 3	1.1 1
天野小学校区	100.0 52	75.0 39	17.3 9	- -	7.7 4	- -
高向小学校区	100.0 44	75.0 33	11.4 5	6.8 3	6.8 3	- -
三日市小学校区	100.0 106	80.2 85	16.0 17	1.9 2	1.9 2	- -
天見小学校区	100.0 10	50.0 5	50.0 5	- -	- -	- -
川上小学校区	100.0 83	74.7 62	14.5 12	4.8 4	6.0 5	- -
千代田小学校区	100.0 110	69.1 76	19.1 21	1.8 2	9.1 10	0.9 1
楠小学校区	100.0 89	74.2 66	13.5 12	6.7 6	5.6 5	- -
加賀田小学校区	100.0 78	67.9 53	21.8 17	1.3 1	9.0 7	- -
石仏小学校区	100.0 46	84.8 39	10.9 5	2.2 1	2.2 1	- -
美加の台小学校区	100.0 80	82.5 66	13.8 11	2.5 2	1.3 1	- -
南花台小学校区	100.0 79	60.8 48	29.1 23	6.3 5	2.5 2	1.3 1
わからない	100.0 9	55.6 5	33.3 3	11.1 1	- -	- -
無回答	100.0 15	33.3 5	26.7 4	6.7 1	13.3 2	20.0 3

(2) 自動車保有の有無

問 28 あなたは、自動車を持っていますか。(○は1つだけ)

自動車保有の有無についてみると、「自分で自由に使える自動車を持っている」が 43.2%と最も高く、次いで「世帯所有の自動車を使っている」が 25.7%、「持っていない」が 19.8%となっています。

■ 自動車保有の有無（単数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「自分で自由に使える自動車を持っている」が 56.0%と『女性』に比べて 20.7 ポイント高くなっています。

年代別にみると、『30 歳代』から『70 歳代』にかけて「自分で自由に使える自動車を持っている」が最も高く、4 割を超えています。

小学校区別にみると、全ての小学校区で「自分で自由に使える自動車を持っている」が最も高くなっています。『天野小学校区』『石仏小学校区』『高向小学校区』では 5 割を超えています。

■自動車保有の有無（単数回答／性別、年代別、小学校区別）

	n 数	自 動 車 を 自 由 に 使 え る	使 つ つ て い る の 自 動 車 を	迎 可 で 自 分 で 動 車 を 持 つ て お り 送 世	持 つ て い ない	無 回 答
全体	100.0 1,028	43.2 444	25.7 264	10.0 103	19.8 204	1.3 13

性別

男性	100.0 411	56.0 230	22.1 91	3.6 15	17.3 71	1.0 4
女性	100.0 601	35.3 212	27.3 164	14.3 86	21.8 131	1.3 8
答えたくない	100.0 12	16.7 2	66.7 8	8.3 1	8.3 1	- -
無回答	100.0 4	- -	25.0 1	25.0 1	25.0 1	25.0 1

年代別

19歳以下	100.0 32	9.4 3	34.4 11	31.3 10	25.0 8	- -
20歳代	100.0 122	28.7 35	40.2 49	7.4 9	23.8 29	- -
30歳代	100.0 92	41.3 38	40.2 37	9.8 9	8.7 8	- -
40歳代	100.0 141	52.5 74	33.3 47	6.4 9	7.8 11	- -
50歳代	100.0 179	54.2 97	26.3 47	7.3 13	11.7 21	0.6 1
60歳代	100.0 166	51.2 85	27.7 46	8.4 14	10.8 18	1.8 3
70歳代	100.0 188	46.8 88	11.2 21	13.3 25	26.6 50	2.1 4
80歳以上	100.0 96	18.8 18	4.2 4	13.5 13	58.3 56	5.2 5
無回答	100.0 12	50.0 6	16.7 2	8.3 1	25.0 3	- -

小学校区別

長野小学校区	100.0 137	36.5 50	25.5 35	10.2 14	26.3 36	1.5 2
小山田小学校区	100.0 90	38.9 35	32.2 29	7.8 7	20.0 18	1.1 1
天野小学校区	100.0 52	61.5 32	11.5 6	5.8 3	21.2 11	- -
高向小学校区	100.0 44	52.3 23	18.2 8	13.6 6	15.9 7	- -
三田市小学校区	100.0 106	42.5 45	26.4 28	10.4 11	19.8 21	0.9 1
天見小学校区	100.0 10	40.0 4	10.0 1	20.0 2	30.0 3	- -
川上小学校区	100.0 83	48.2 40	25.3 21	10.8 9	14.5 12	1.2 1
千代田小学校区	100.0 110	38.2 42	26.4 29	9.1 10	26.4 29	- -
楠小学校区	100.0 89	41.6 37	28.1 25	12.4 11	16.9 15	1.1 1
加賀田小学校区	100.0 78	50.0 39	20.5 16	10.3 8	16.7 13	2.6 2
石仏小学校区	100.0 46	54.3 25	26.1 12	8.7 4	10.9 5	- -
美加の台小学校区	100.0 80	50.0 40	32.5 26	3.8 3	13.8 11	- -
南花台小学校区	100.0 79	34.2 27	29.1 23	13.9 11	21.5 17	1.3 1
わからない	100.0 9	33.3 3	11.1 1	33.3 3	22.2 2	- -
無回答	100.0 15	13.3 2	26.7 4	6.7 1	26.7 4	26.7 4

(3) 最寄りの鉄道駅と駅までの主な交通手段と所要時間

問 29 あなたの最寄りの鉄道駅はどこですか。また、自宅から最寄りの鉄道駅までの主な交通手段と所要時間を教えてください。(駅名と所要時間を記入し、主な交通手段は1つだけ選択)

最寄りの鉄道駅について、現在の所要時間（総所要時間に件数で割った平均時間）と最寄りの鉄道駅までによく利用する交通手段は下表のとおりです。

■最寄りの鉄道駅と駅までの主な交通手段と所要時間

最寄り駅	現在の 所要時間		最寄りの鉄道駅までによく利用する交通手段（人）								
	件 数	平 均 時 間 (分)	合 計	バ ス	自 動 車	バ イ ク	自 転 車	徒 歩	タ ク シ ー	そ の 他	無 回 答
河内長野駅	255	11.6	255	55	44	10	26	113	2	0	5
千代田駅	235	11.6	235	68	21	6	13	116	4	0	7
滝谷駅	43	13.3	43	0	0	0	4	39	0	0	0
汐ノ宮駅	15	6.6	15	0	1	1	1	11	0	0	1
三日市町駅	343	11.7	343	117	59	8	6	133	6	2	12
美加の台駅	76	9.3	76	25	4	2	3	38	0	0	4
千早口駅	6	7.8	6	0	0	0	0	6	0	0	0
天見駅	4	13.3	4	0	1	0	0	3	0	0	0
河内長野駅、千代田駅	3	16.7	3	2	1	0	0	0	0	0	0
河内長野駅、三日市町駅	1	15.0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
千代田駅、汐ノ宮駅	1	0.0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
その他（不明、該当しない回答など）	5	12.8	5	3	0	1	0	1	0	0	0
無回答	41	4.6	41	10	3	0	0	4	1	0	23
合計	1,028	11.2	1,028	280	134	28	53	465	13	2	53

(4) 最寄りのバス停と自宅までの所要時間

問 30 あなたの最寄りのバス停留所はどこですか。また、その停留所からの自宅までの所要時間は何分ぐらいですか。(○は1つだけ選択し、1を答えた方は停留所名と所要時間を記入)

最寄りのバス停（停留所）について、徒歩での現在の所要時間（総所要時間に件数で割った平均時間）は下表のとおりです。

■最寄りのバス停と自宅までの所要時間

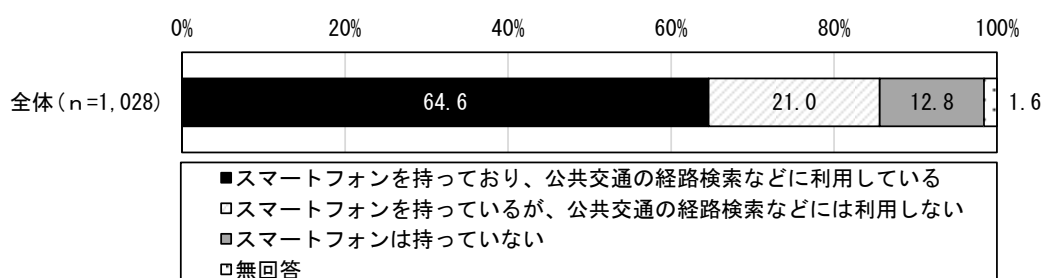
最寄りの停留所名	停留所の 所要時間		最寄りの停留所名	停留所の 所要時間		最寄りの停留所名	停留所の 所要時間	
	件数	平均 時間 (分)		件数	平均 時間 (分)		件数	平均 時間 (分)
木戸東町	4	2.8	上高向	2	4.5	北貴望ヶ丘	5	7.0
大阪南医療センター玄関口	1	5.0	下高向	4	6.3	小山田	4	7.3
大阪南医療センター前	4	4.5	長野車庫	13	5.3	荘園橋東	1	8.0
千代田南町	6	4.5	むくの本	9	4.3	原石坂	1	8.0
千代田駅前	20	13.5	郵便局前	8	6.5	日東町	2	6.5
南海西友前	7	3.3	上田	6	3.3	旭ヶ丘北口	1	3.0
南貴望ヶ丘	8	3.5	三日月町駅前	4	8.3	中高向	5	8.6
貴望ヶ丘	22	5.4	三日月町駅前	12	10.9	高向公民館前	2	2.0
市民グラウンド前	9	6.4	南花台一丁目北	12	6.2	三日月町駅通り	1	7.0
千代田台	3	2.3	南花台一丁目南	4	4.8	北青葉台	1	5.0
赤峯	6	3.2	南花台三丁目北	15	4.0	古保	1	1.0
小山田口	12	6.4	南花台三丁目南	5	4.4	千代田小学校前	2	9.5
荘園橋	4	3.6	南花台四丁目	14	4.4	下里口	4	19.0
荘園町	6	1.5	大矢船北町	10	4.3	石見川口	1	1.0
荘園センター	4	3.3	大矢船西町	12	3.9	葛ノ口	2	6.5
小山田集会所前	1	3.0	南ヶ丘	11	3.7	車作	1	2.0
小山田南	3	6.7	大矢船南町	5	6.2	東部	1	5.0
緑ヶ丘北町	10	4.4	大矢船中町	13	4.9	川上神社前	1	1.0
緑ヶ丘中町	11	6.4	加賀田小学校前	1	12.0	錦町	2	6.5
緑ヶ丘南町	11	4.1	神納	1	2.0	門前	4	6.5
神社前	8	4.6	加塩	4	7.0	塩崎橋	3	4.0
配水池前	2	1.5	新町橋	6	7.5	七ツ辻	3	8.3
市民交流センター前	5	3.4	青葉台センター前	14	4.7	畑集会所前	2	1.5
市役所前	4	4.5	青葉台会館前	3	3.0	美加の台駅前	2	7.5
河内長野警察署前	1	2.0	南青葉台口	3	4.7	中の町	3	4.3
ラブリールホール前	2	3.5	南青葉台	6	2.3	集会所前	1	5.0
石坂	10	5.6	南青葉台中央	6	4.0	くすまる③	3	1.0
本多町	3	4.7	美加の台西	3	1.7	くすまる④	3	1.0
河内長野駅前	24	7.5	上之山神社前	8	3.1	不明（複数回答含む）	63	4.9
河合寺	2	3.5	第一公園前	5	3.0	最寄りのバス停留所まで、 徒歩ではいけない距離にある	42	0.0
大師町	8	4.3	美加の台北	1	5.0	わからない	201	0.0
東中学校前	6	3.7	美加の台小学校前	4	3.5	無回答	103	1.4
日東町東口	3	2.7	神ヶ丘口	6	8.0	合計	1,028	3.7
清見台東口	1	3.0	美加の台東	1	5.0			
小深口	1	3.0	延命寺口	4	6.5			
野作	13	5.8	美加の台	6	4.5			
上原口	2	12.5	美加の台南	3	3.0			
清崎	1	1.0	美加の台中	4	6.0			
旭ヶ丘口	3	3.7	美加の台口	7	3.4			
旭ヶ丘	10	4.5	近隣センター前	11	3.5			
広野	1	2.0	清見台3丁目	6	3.0			
日野	1	5.0	川上小学校前	7	3.3			
中日野	2	4.0	清見台2丁目	7	3.1			
高向	1	2.0	清見台1丁目	5	3.8			

(5) スマートフォンでの経路検索などの利用度

問 31 あなたはスマートフォンを持っていますか。また、スマートフォンを持っている場合、公共交通の経路検索などに利用しますか。(○は1つだけ)

スマートフォンでの経路検索などの利用度についてみると、「スマートフォンを持っており、公共交通の経路検索などに利用している」が 64.6%と最も高く、次いで「スマートフォンを持っているが、公共交通の経路検索などには利用しない」が 21.0%、「スマートフォンは持っていない」が 12.8%となっています。

■スマートフォンでの経路検索などの利用度（単数回答／全体）



年代別にみると、『19 歳以下』から『60 歳代』にかけて「スマートフォンを持っており、公共交通の経路検索などに利用している」が最も高くなっています。但し、『60 歳代』では 55.4%と、他の年代に比べて低い傾向となっています。

■スマートフォンでの経路検索などの利用度（単数回答／年代別）

	n 数	スマートフォンを持っており、公共交通の経路検索などに利用している (%)	スマートフォンを持っているが、公共交通の経路検索などには利用しない (%)	スマートフォンは持っていない (%)	無回答 (%)
全体	1,028	64.6	21.0	12.8	1.6
年代別					
19歳以下	32	93.8	6.3	-	-
20歳代	122	95.9	3.3	0.8	-
30歳代	92	87.0	8.7	4.3	-
40歳代	141	87.2	11.3	1.4	-
50歳代	179	81.0	11.2	6.7	1.1
60歳代	166	55.4	33.1	10.2	1.2
70歳代	188	28.7	43.6	26.1	1.6
80歳以上	96	16.7	29.2	45.8	8.3
無回答	12	58.3	8.3	25.0	8.3

2-7. 普段の外出状況について

問 32 日常生活での主な外出について、通勤・通学、通院、日常の買い物など、外出の目的別に、「頻度」「主な行き先」「主な交通手段」について、どのような状況ですか。また、「主な時間帯」については、外出する際の「行き」及び「帰り」の時間帯をご記入ください。

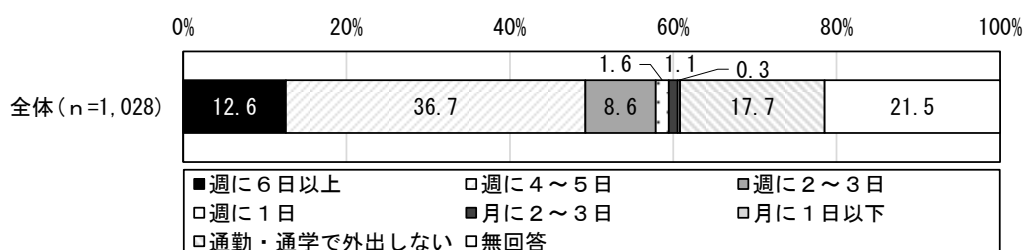
(例：通勤のため、朝7時頃の電車に乗っている場合→行き午前・午後(7)時頃)

A. 通勤・通学

1. 通勤・通学の頻度

通勤・通学の頻度についてみると、「週に4～5日」が36.7%と最も高く、次いで「通勤・通学で外出しない」が17.7%、「週に6日以上」が12.6%となっています。

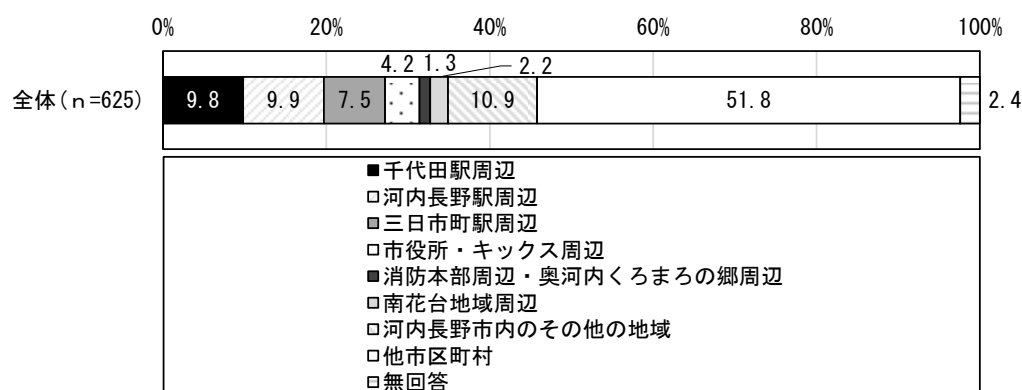
■通勤・通学の頻度（単数回答／全体）



2. 通勤・通学の主な行き先

通勤・通学の主な行き先についてみると、「他市区町村」が51.8%と最も高く、次いで「河内長野市内のその他の地域」が10.9%、「河内長野駅周辺」が9.9%となっています。

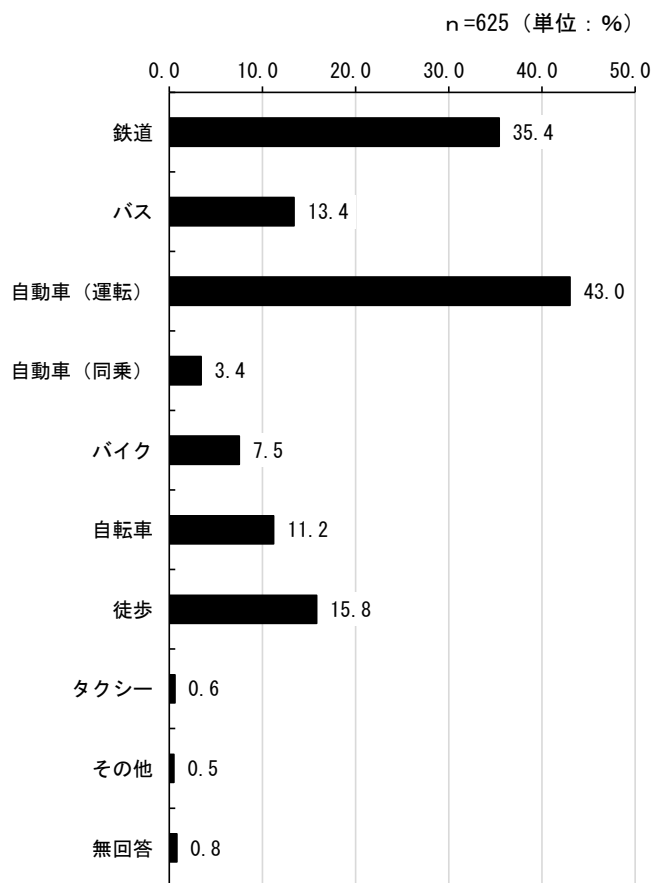
■通勤・通学の主な行き先（単数回答／全体）



3. 通勤・通学の主な交通手段

通勤・通学の主な交通手段についてみると、「自動車（運転）」が 43.0%と最も高く、次いで「鉄道」が 35.4%、「徒歩」が 15.8%となっています。

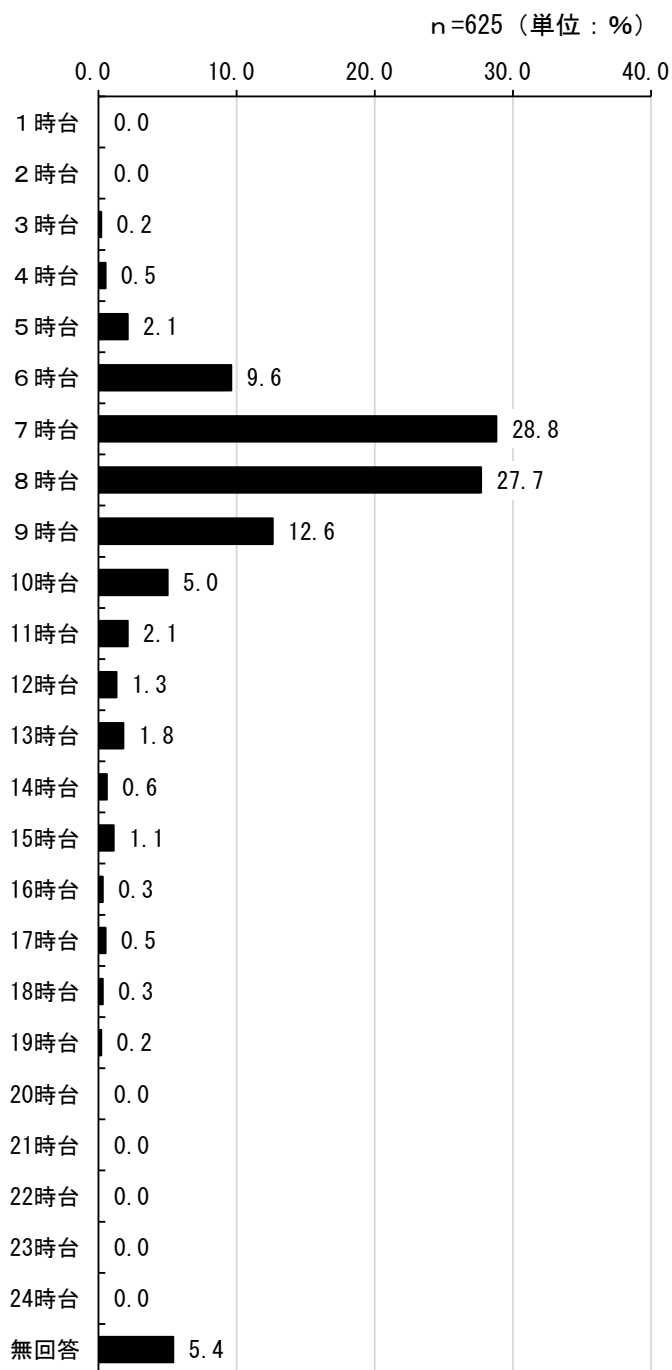
■通勤・通学の主な交通手段（複数回答／全体）



4－1. 通勤・通学の主な時間帯（行き）

通勤・通学の主な時間帯（行き）についてみると、「7時台」が28.8%と最も高く、次いで「8時台」が27.7%、「9時台」が12.6%となっています。

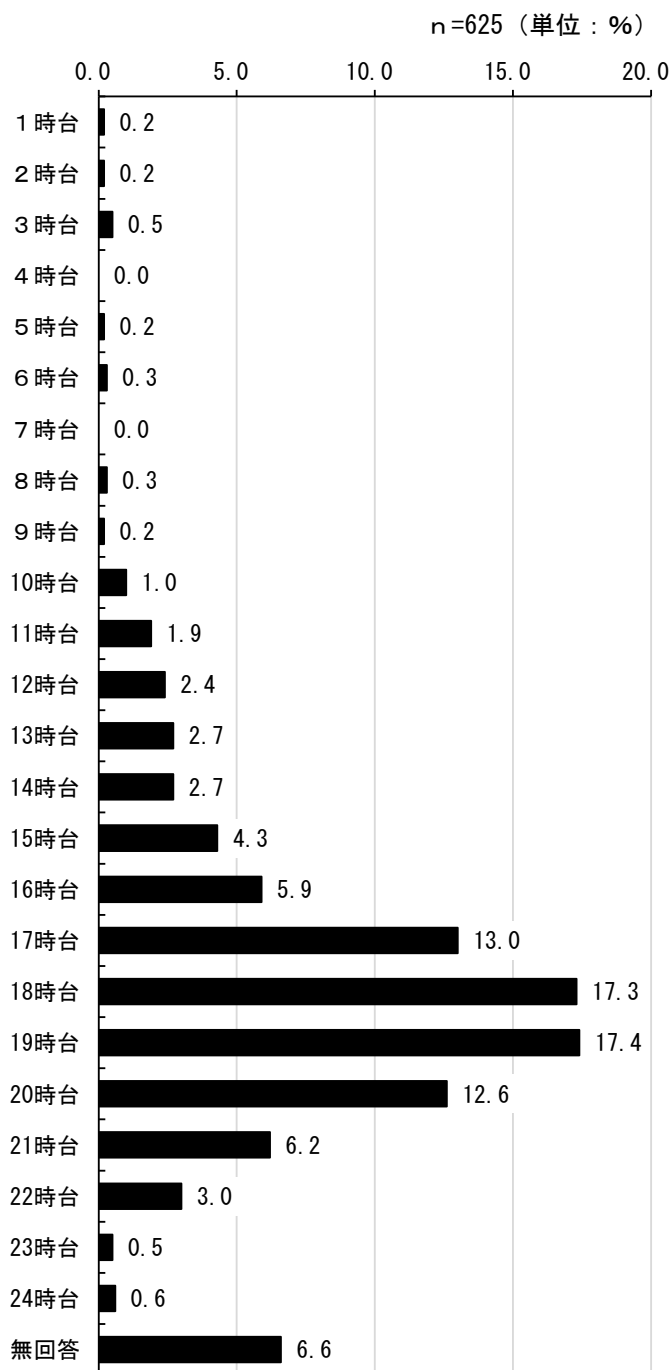
■通勤・通学の主な時間帯（行き）



4－2. 通勤・通学の主な時間帯（帰り）

通勤・通学の主な時間帯（帰り）についてみると、「19 時台」が 17.4%と最も高く、次いで「18 時台」が 17.3%、「17 時台」が 13.0%となっています。

■通勤・通学の主な時間帯（帰り）

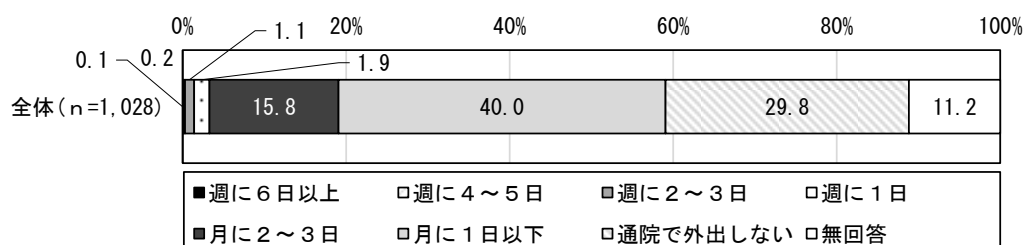


B. 通院

1. 通院の頻度

通院の頻度についてみると、「月に1日以下」が40.0%と最も高く、次いで「通院で外出しない」が29.8%、「月に2～3日」が15.8%となっています。

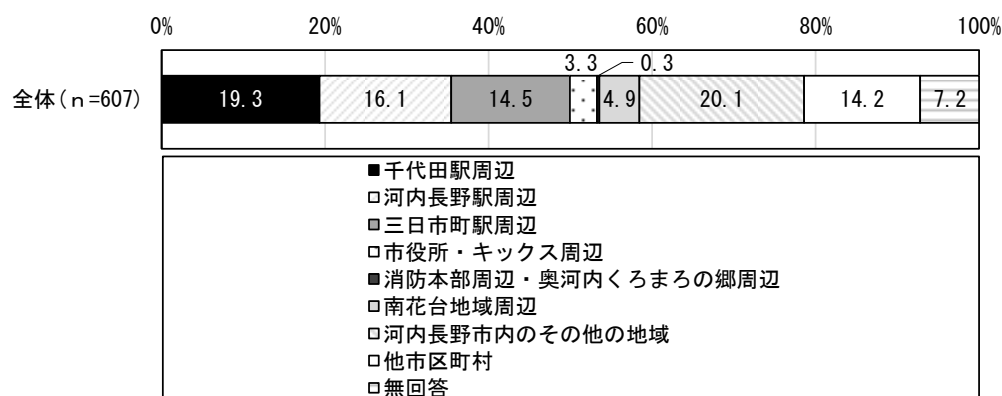
■通院の頻度（単数回答／全体）



2. 通院の主な行き先

通院の主な行き先についてみると、「河内長野市内のその他の地域」が20.1%と最も高く、次いで「千代田駅周辺」が19.3%、「河内長野駅周辺」が16.1%となっています。

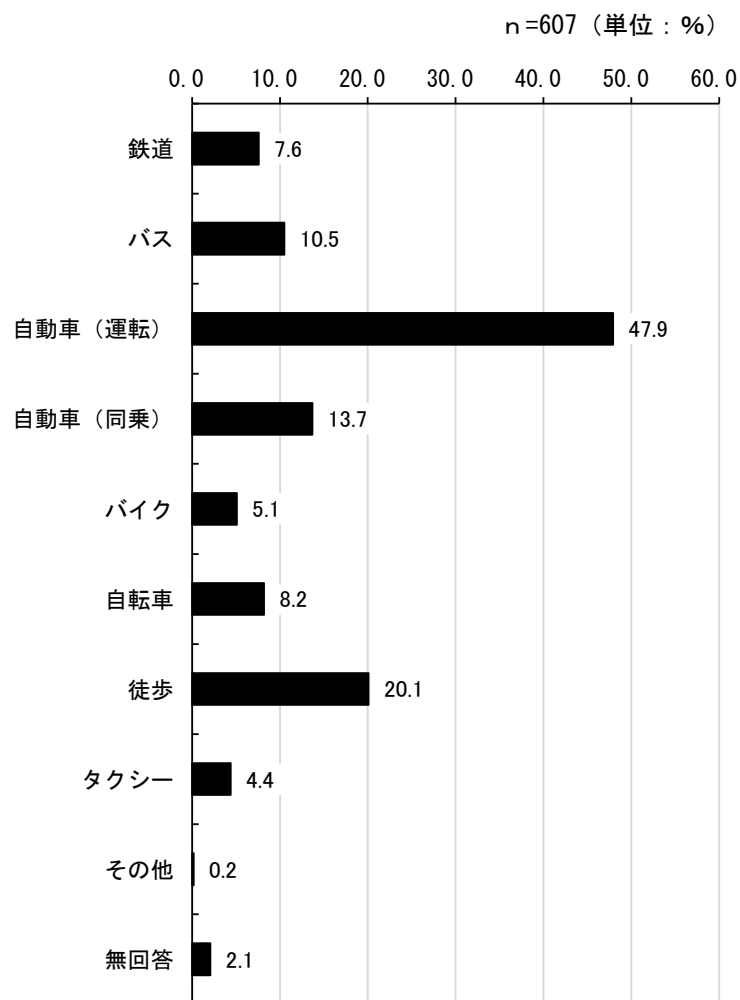
■通院の主な行き先（単数回答／全体）



3. 通院の主な交通手段

通院の主な交通手段についてみると、「自動車（運転）」が 47.9%と最も高く、次いで「徒歩」が 20.1%、「自動車（同乗）」が 13.7%となっています。

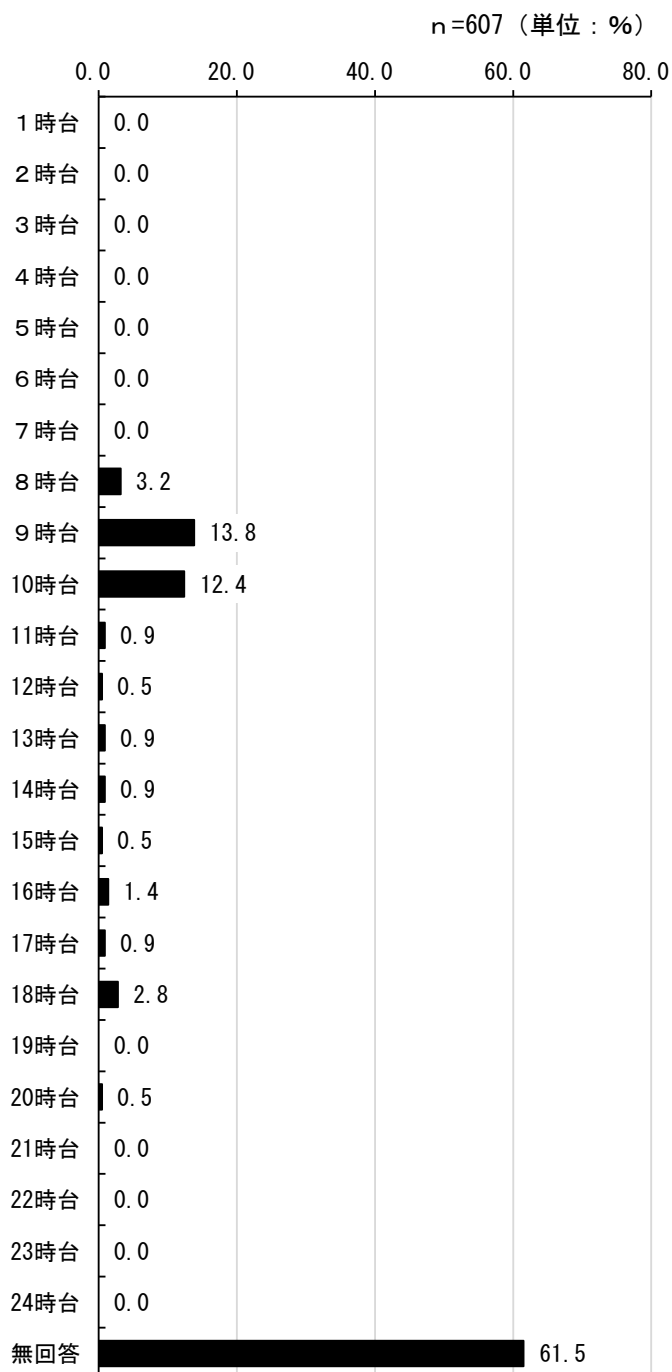
■通院の主な交通手段（複数回答／全体）



4-1. 通院の主な時間帯（行き）

通院の主な時間帯（行き）についてみると、「9時台」が13.8%と最も高く、次いで「10時台」が12.4%、「8時台」が3.2%となっています。

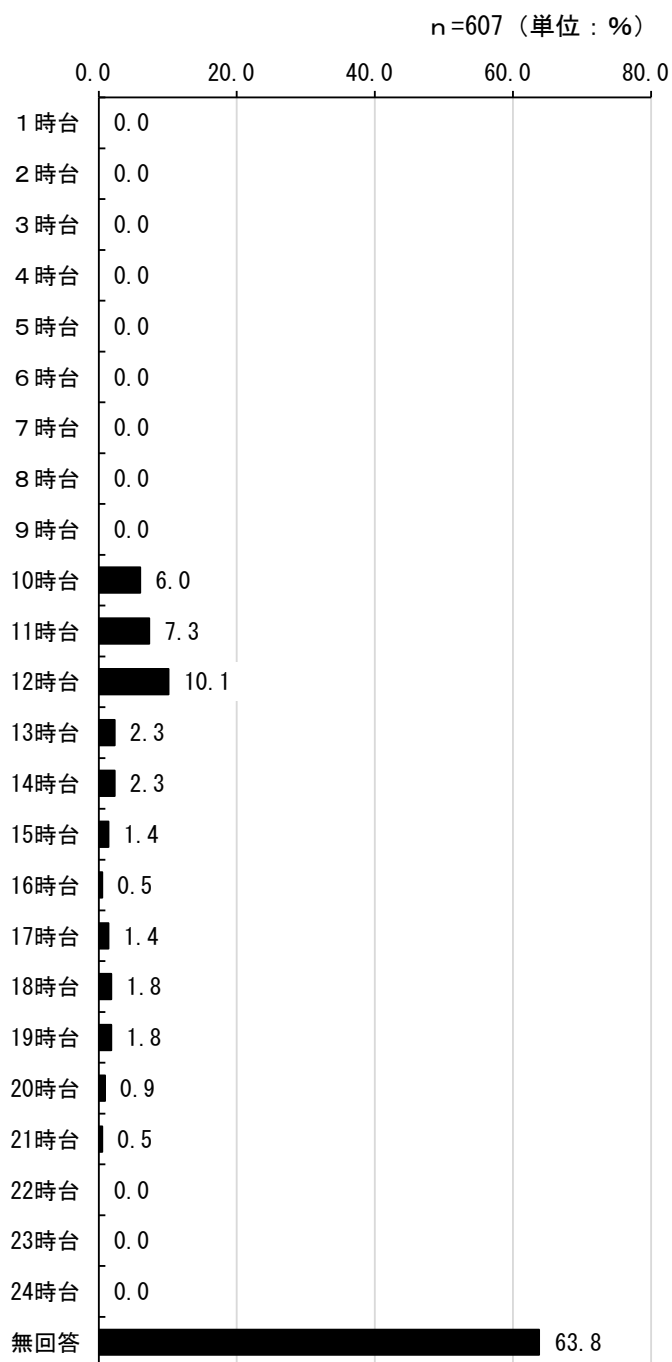
■通院の主な時間帯（行き）



4－2. 通院の主な時間帯（帰り）

通院の主な時間帯（帰り）についてみると、「12 時台」が 10.1%と最も高く、次いで「11 時台」が 7.3%、「10 時台」が 6.0%となっています。

■通院の主な時間帯（帰り）

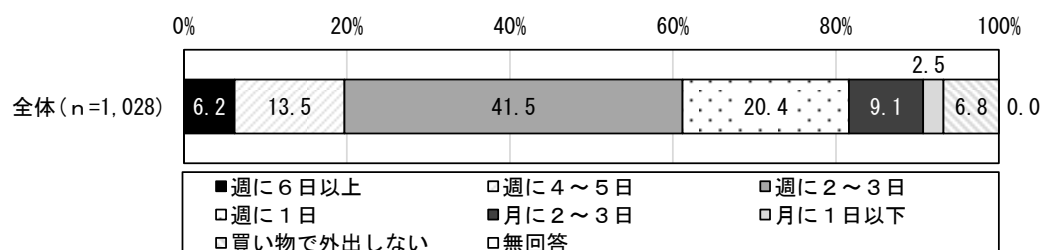


C. 日常の買い物

1. 日常の買い物の頻度

日常の買い物の頻度についてみると、「週に2～3日」が41.5%と最も高く、次いで「週に1日」が20.4%、「週に4～5日」が13.5%となっています。

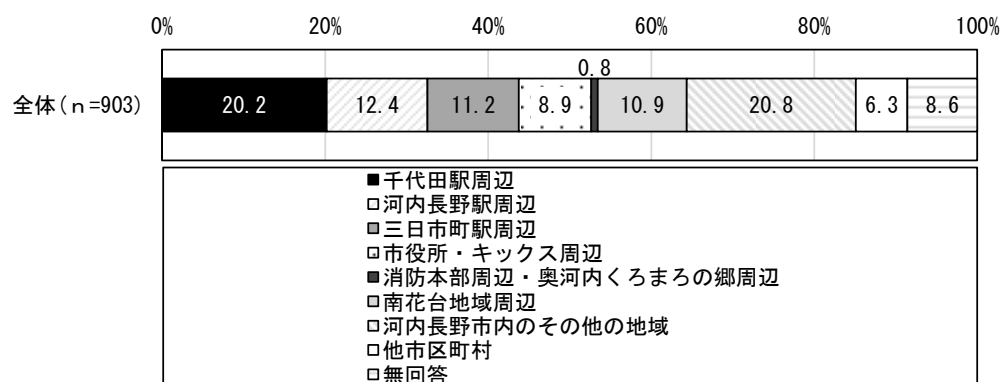
■ 日常の買い物の頻度（単数回答／全体）



2. 日常の買い物の主な行き先

日常の買い物の主な行き先についてみると、「河内長野市内のその他の地域」が20.8%と最も高く、次いで「千代田駅周辺」が20.2%、「河内長野駅周辺」が12.4%となっています。

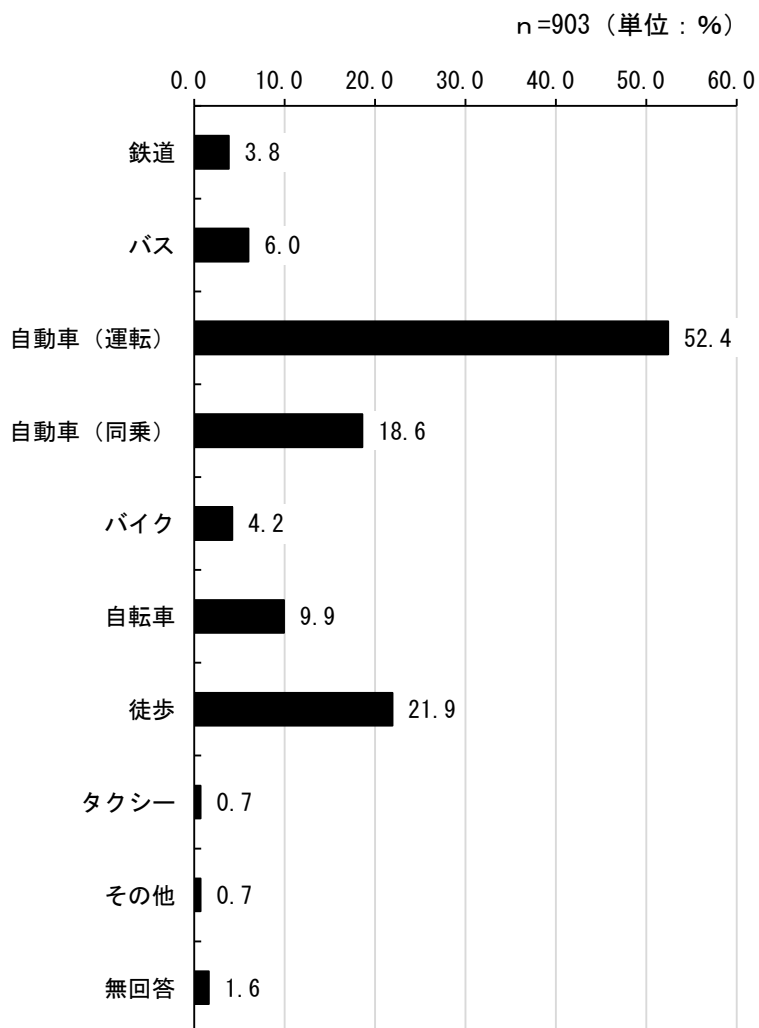
■ 日常の買い物の主な行き先（単数回答／全体）



3. 日常の買い物の主な交通手段

日常の買い物の主な交通手段についてみると、「自動車（運転）」が52.4%と最も高く、次いで「徒歩」が21.9%、「自動車（同乗）」が18.6%となっています。

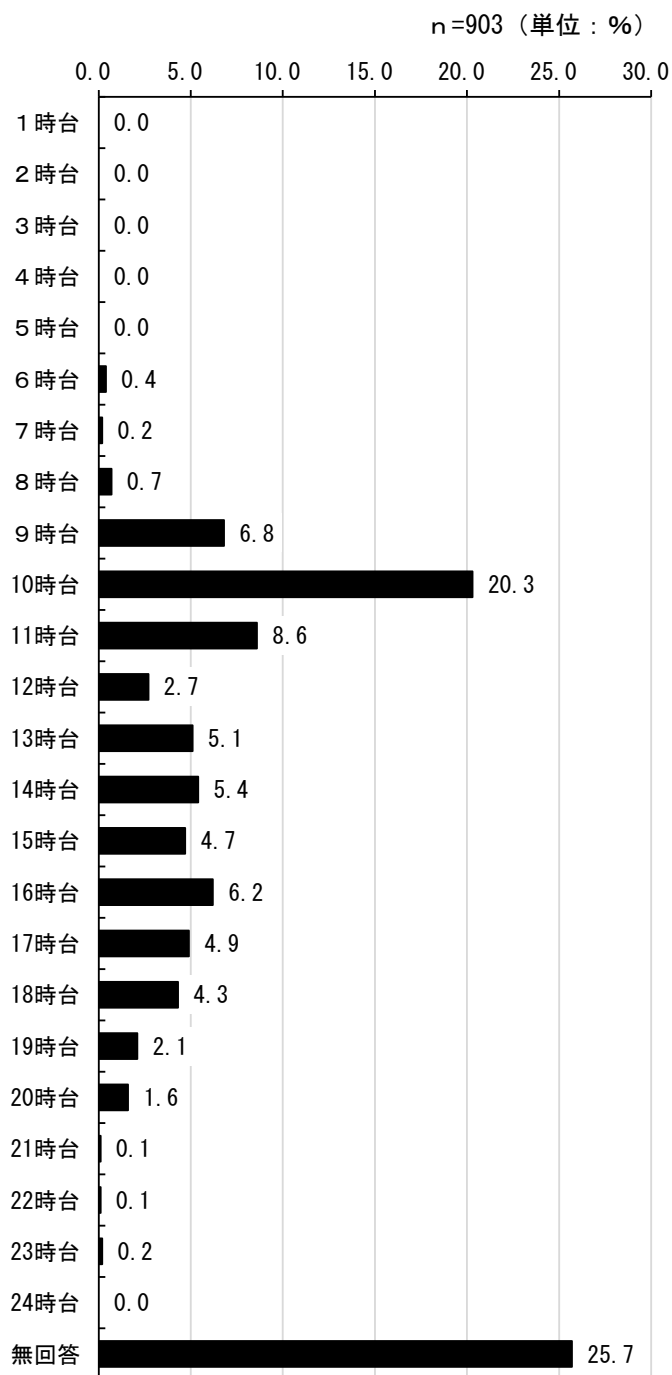
■ 日常の買い物の主な交通手段（複数回答／全体）



4－1. 日常の買い物の主な時間帯（行き）

日常の買い物の主な時間帯（行き）についてみると、「10 時台」が 20.3%と最も高く、次いで「11 時台」が 8.6%、「9 時台」が 6.8%となっています。

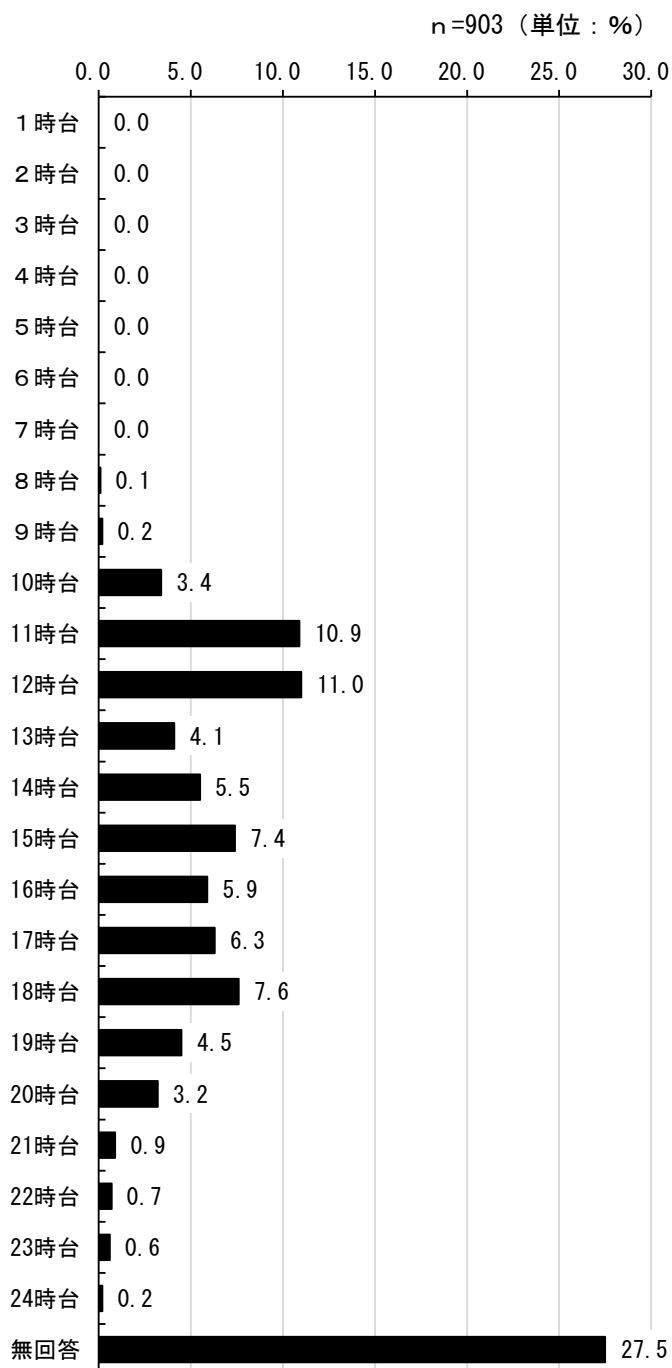
■ 日常の買い物の主な時間帯（行き）



4－2. 日常の買い物の主な時間帯（帰り）

日常の買い物の主な時間帯（帰り）についてみると、「12 時台」が 11.0%と最も高く、次いで「11 時台」が 10.9%、「18 時台」が 7.6%となっています。

■ 日常の買い物の主な時間帯（帰り）

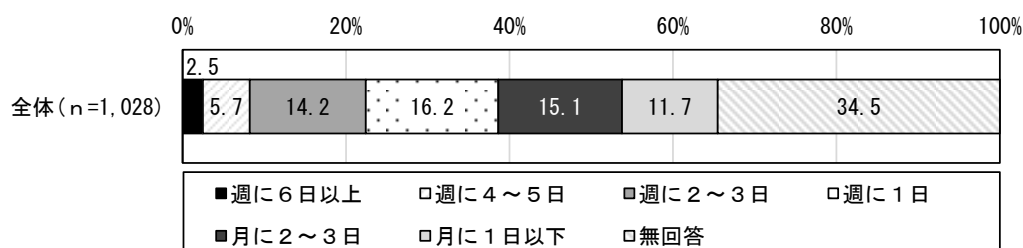


D. その他の外出

1. その他の外出の頻度

その他の外出の頻度についてみると、「週に1日」が16.2%と最も高く、次いで「月に2～3日」が15.1%、「週に2～3日」が14.2%となっています。

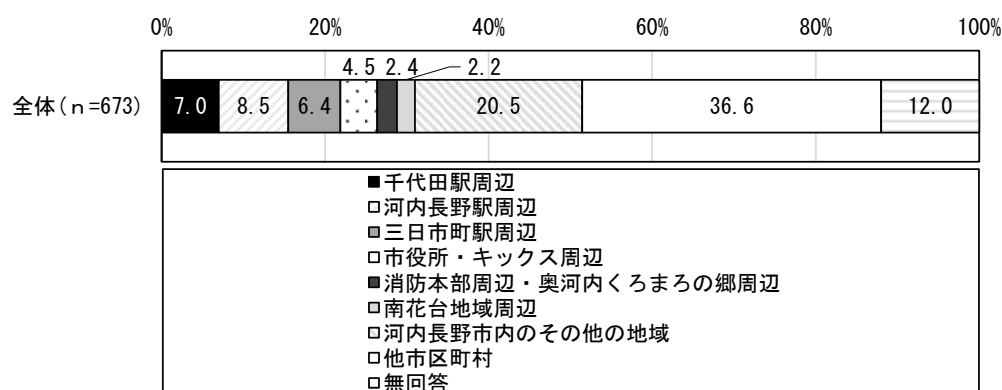
■ その他の外出の頻度（単数回答／全体）



2. その他の外出の主な行き先

その他の外出の主な行き先についてみると、「他市区町村」が36.6%と最も高く、次いで「河内長野市内のその他の地域」が20.5%、「河内長野駅周辺」が8.5%となっています。

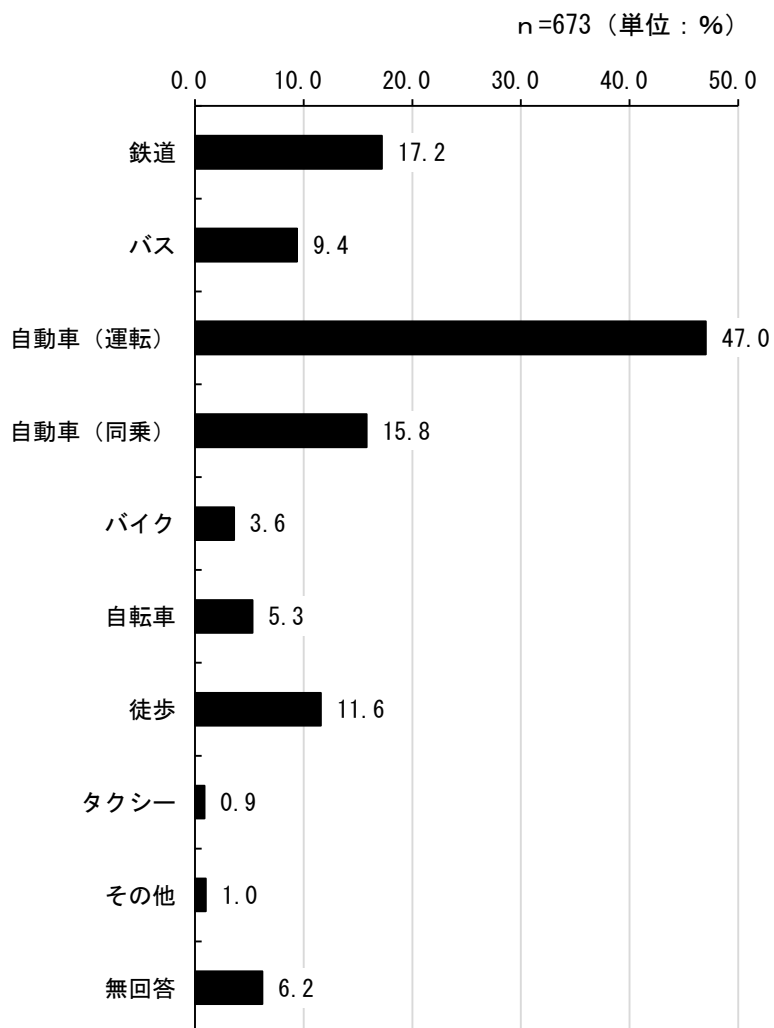
■ その他の外出の主な行き先（単数回答／全体）



3. その他の外出の主な交通手段

その他の外出の主な交通手段についてみると、「自動車（運転）」が47.0%と最も高く、次いで「鉄道」が17.2%、「自動車（同乗）」が15.8%となっています。

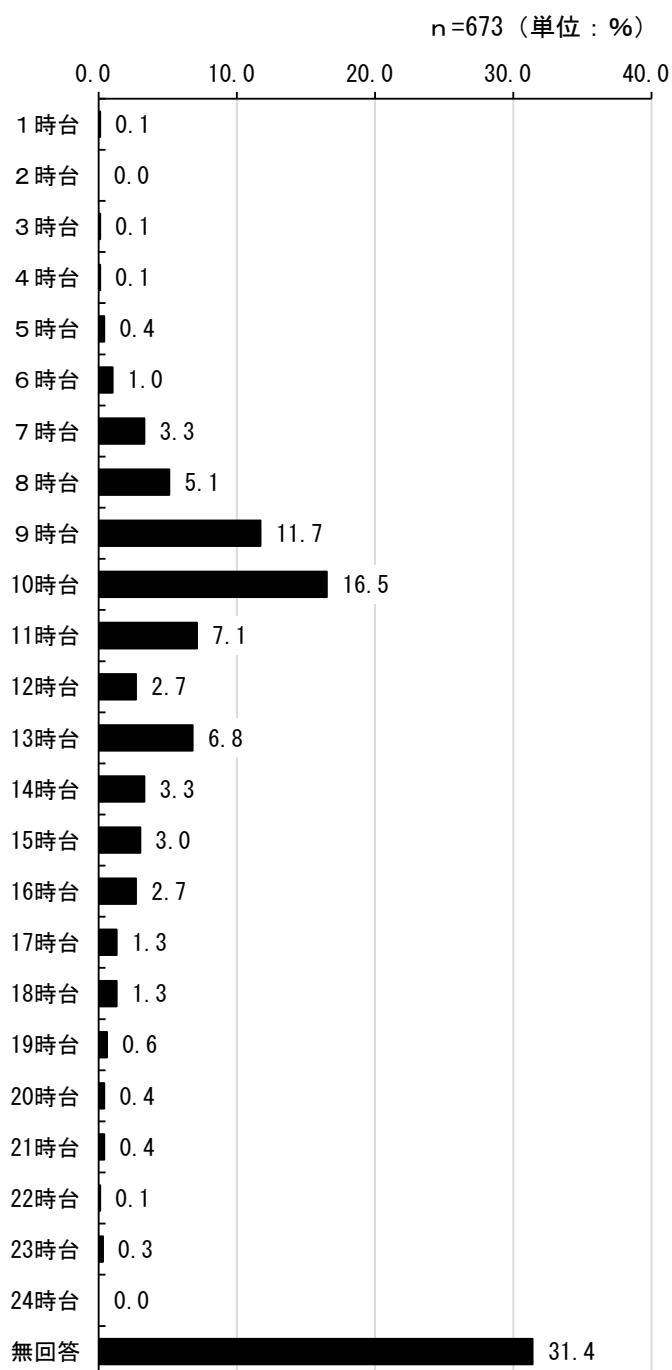
■その他の外出の主な交通手段（複数回答／全体）



4－1. その他の外出の主な時間帯（行き）

その他の外出の主な時間帯（行き）についてみると、「10 時台」が 16.5%と最も高く、次いで「9 時台」が 11.7%、「11 時台」が 7.1%となっています。

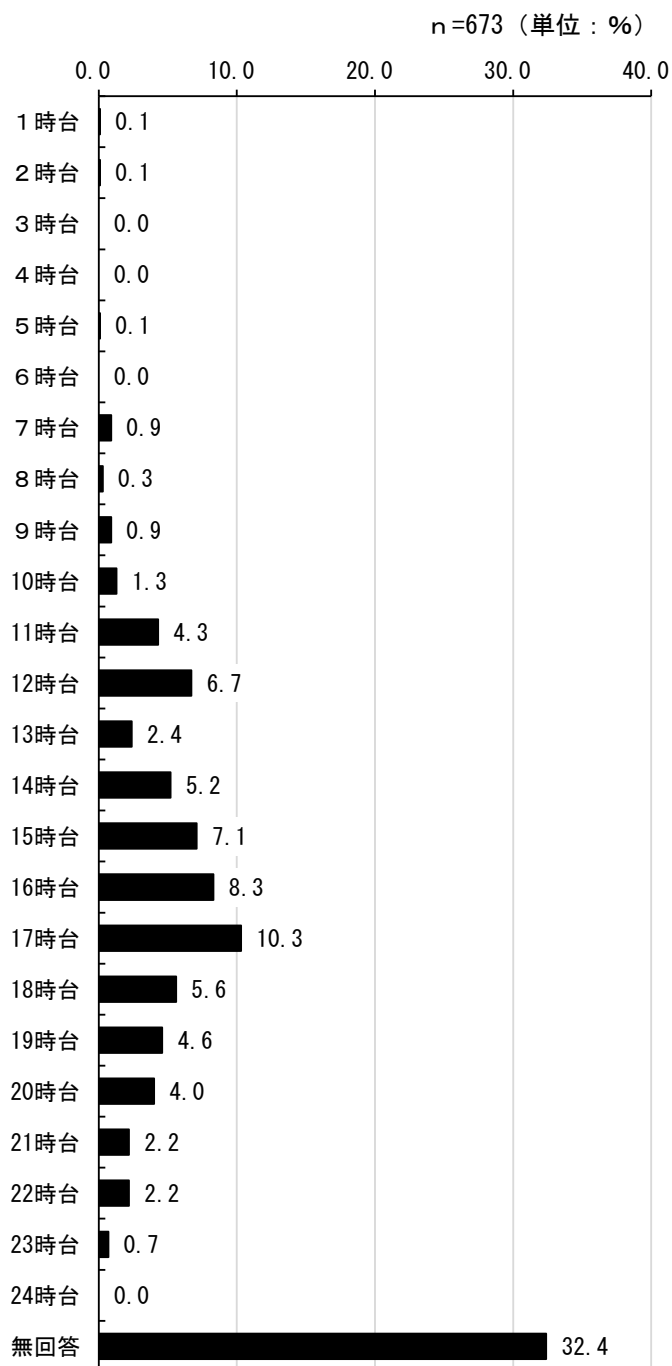
■その他の外出の主な時間帯（行き）



4－2. その他の外出の主な時間帯（帰り）

その他の外出の主な時間帯（帰り）についてみると、「17 時台」が 10.3%と最も高く、次いで「16 時台」が 8.3%、「15 時台」が 7.1%となっています。

■その他の外出の主な時間帯（帰り）



2-8. 外出時のコロナによる影響について

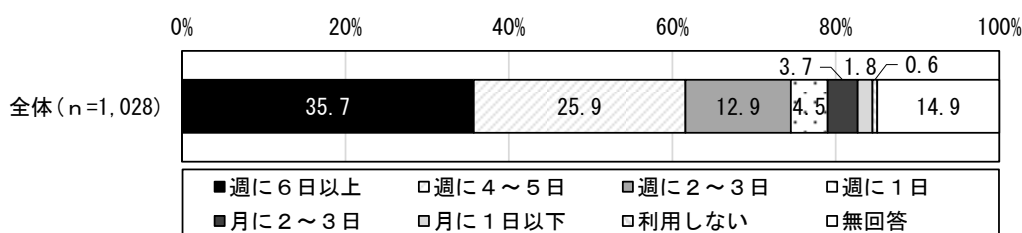
(1) コロナ前と現在と比較しての外出頻度

問 33 コロナ前と現在と比較して、A. 外出頻度、B. 交通手段の利用頻度をお教えてください。また、今後、新型コロナウイルス感染症の収束後、それぞれの頻度はどうなると思いますか。(下段の＜選択肢＞から番号を選んで空欄に記入)

1. コロナ前の外出頻度

コロナ前の外出頻度についてみると、「週に6日以上」が35.7%と最も高く、次いで「週に4～5日」が25.9%、「週に2～3日」が12.9%となっています。

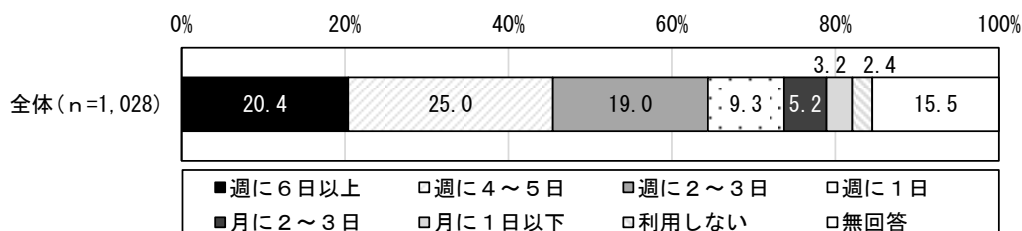
■コロナ前の外出頻度（単数回答／全体）



2. 現在の外出頻度

現在の外出頻度についてみると、「週に4～5日」が25.0%と最も高く、次いで「週に6日以上」が20.4%、「週に2～3日」が19.0%となっています。

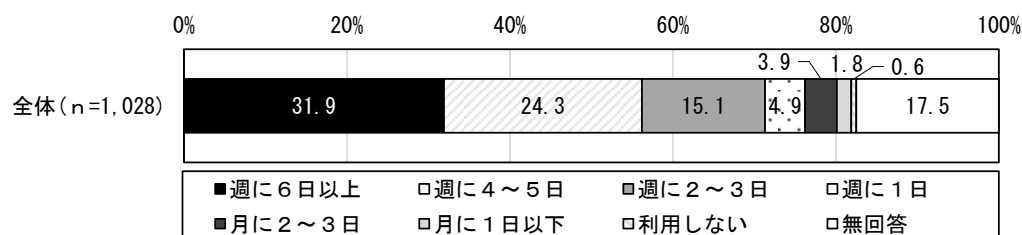
■現在の外出頻度（単数回答／全体）



3. 収束後の外出頻度

収束後の外出頻度についてみると、「週に6日以上」が31.9%と最も高く、次いで「週に4～5日」が24.3%、「週に2～3日」が15.1%となっています。

■収束後の外出頻度（単数回答／全体）



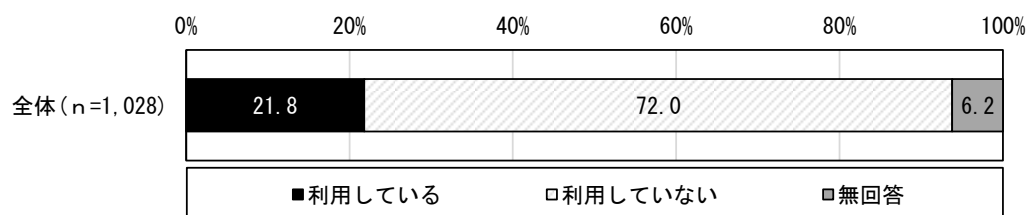
2-9. 市内でのバス・タクシーの利用について

(1) バスの利用の有無

問 34 あなたは、ふだんバスを利用していますか。(○は1つだけ)

バスの利用の有無についてみると、「利用していない」が 72.0%、次いで「利用している」が 21.8%となっています。

■ バスの利用の有無（単数回答／全体）



性別にみると、男女とも「利用していない」が7割を超えています。

年代別にみると、全ての年代にかけて「利用していない」が「利用している」より高くなっており、『80歳以上』では「利用している」が41.7%と、他の年代に比べて高い傾向となっています。

小学校区別にみると、全ての小学校区で「利用していない」が「利用している」より高くなっています。また、『三日市小学校区』『千代田小学校区』『長野小学校区』『楠小学校区』では「利用していない」が8割を超えています。

■バスの利用の有無（単数回答／性別、年代別、小学校区別）

	n 数	利 用 し て い る	利 用 し て い な い	無 回 答
全体	100.0 1,028	21.8 224	72.0 740	6.2 64

性別

男性	100.0 411	19.5 80	74.2 305	6.3 26
女性	100.0 601	23.1 139	70.7 425	6.2 37
答えたくない	100.0 12	16.7 2	75.0 9	8.3 1
無回答	100.0 4	75.0 3	25.0 1	- -

年代別

19歳以下	100.0 32	15.6 5	75.0 24	9.4 3
20歳代	100.0 122	15.6 19	75.4 92	9.0 11
30歳代	100.0 92	15.2 14	81.5 75	3.3 3
40歳代	100.0 141	12.8 18	81.6 115	5.7 8
50歳代	100.0 179	20.7 37	75.4 135	3.9 7
60歳代	100.0 166	18.7 31	77.1 128	4.2 7
70歳代	100.0 188	30.9 58	62.8 118	6.4 12
80歳以上	100.0 96	41.7 40	45.8 44	12.5 12
無回答	100.0 12	16.7 2	75.0 9	8.3 1

小学校区別

長野小学校区	100.0 137	9.5 13	82.5 113	8.0 11
小山田小学校区	100.0 90	40.0 36	56.7 51	3.3 3
天野小学校区	100.0 52	23.1 12	67.3 35	9.6 5
高向小学校区	100.0 44	25.0 11	70.5 31	4.5 2
三日市小学校区	100.0 106	5.7 6	89.6 95	4.7 5
天見小学校区	100.0 10	10.0 1	60.0 6	30.0 3
川上小学校区	100.0 83	30.1 25	67.5 56	2.4 2
千代田小学校区	100.0 110	8.2 9	86.4 95	5.5 6
楠小学校区	100.0 89	13.5 12	82.0 73	4.5 4
加賀田小学校区	100.0 78	28.2 22	65.4 51	6.4 5
石仏小学校区	100.0 46	19.6 9	71.7 33	8.7 4
美加の台小学校区	100.0 80	31.3 25	65.0 52	3.8 3
南花台小学校区	100.0 79	45.6 36	46.8 37	7.6 6
わからない	100.0 9	22.2 2	66.7 6	11.1 1
無回答	100.0 15	33.3 5	40.0 6	26.7 4

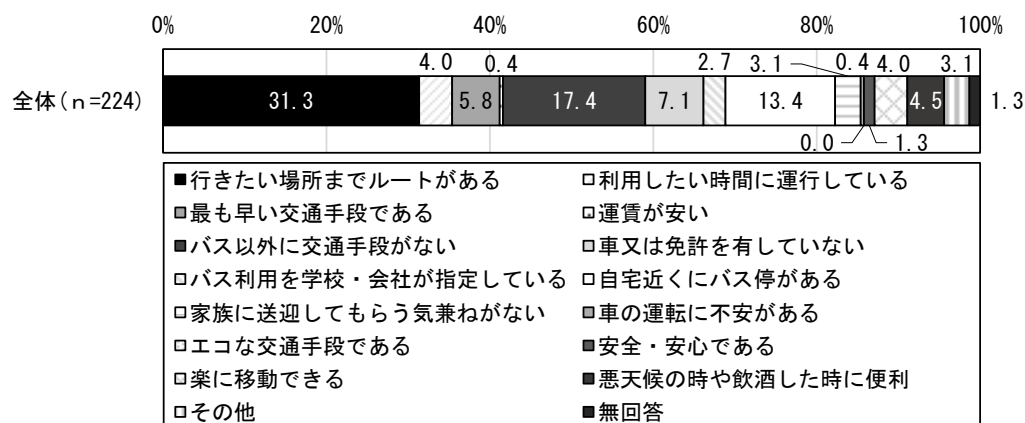
(2) バスを利用している理由

(問34で「1. 利用している」と答えられた方におたずねします。)

問35 あなたがバスを利用している理由は何ですか。(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

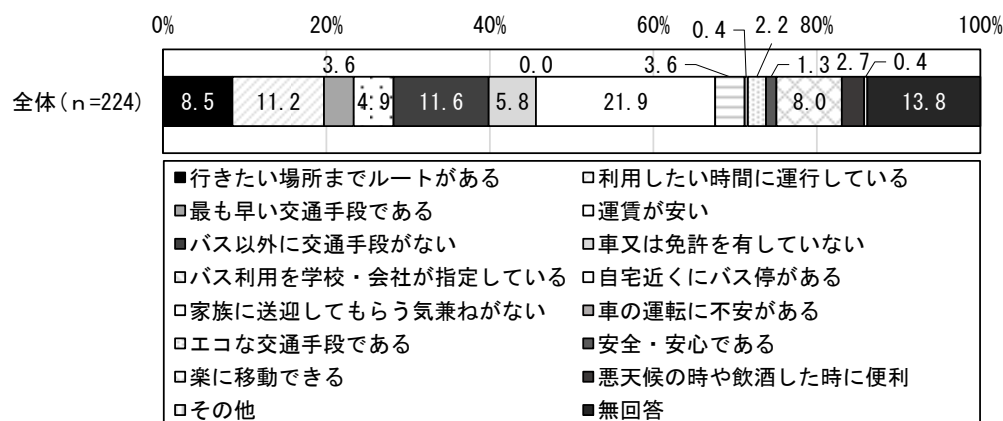
バスを利用している1番目の理由についてみると、「行きたい場所までルートがある」が31.3%と最も高く、次いで「バス以外に交通手段がない」が17.4%、「自宅近くにバス停がある」が13.4%となっています。

■バスを利用している1番目の理由（単数回答／全体）



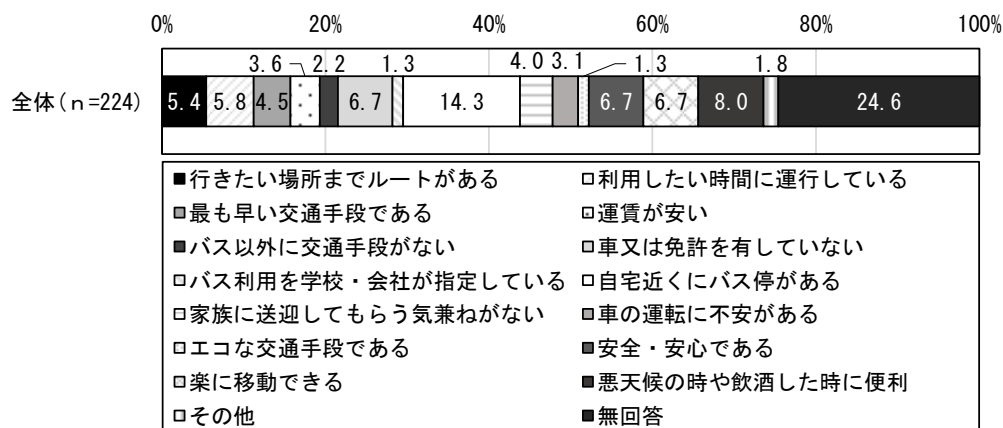
バスを利用している2番目の理由についてみると、「自宅近くにバス停がある」が21.9%と最も高く、次いで「バス以外に交通手段がない」が11.6%、「利用したい時間に運行している」が11.2%となっています。

■バスを利用している2番目の理由（単数回答／全体）



バスを利用している3番目の理由についてみると、「自宅近くにバス停がある」が14.3%と最も高く、次いで「悪天候の時や飲酒した時に便利」が8.0%、「車又は免許を有していない」「安全・安心である」「楽に移動できる」がそれぞれ6.7%となっています。

■バスを利用している3番目の理由（単数回答／全体）



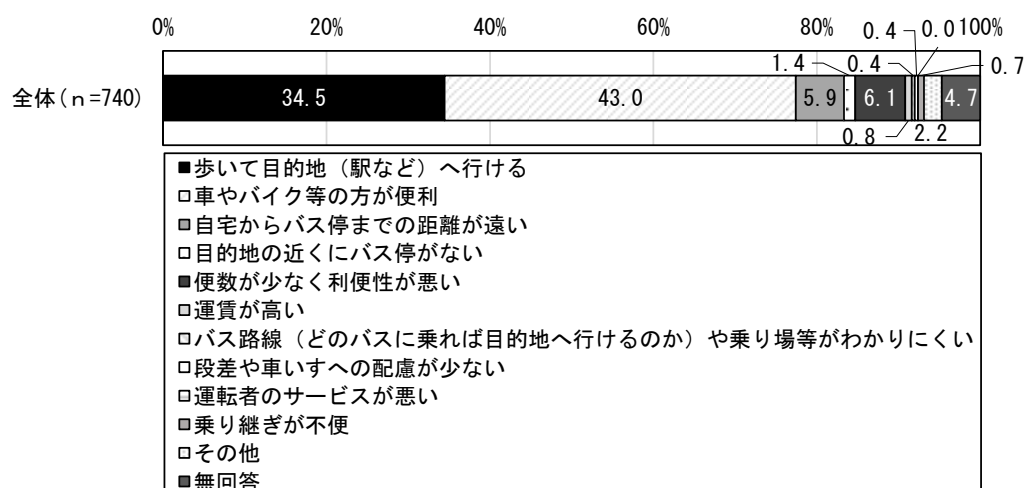
(3) バスを利用していない理由

(問34で「2. 利用していない」と答えられた方におたずねします。)

問36 あなたがバスを利用していない理由は何ですか。(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

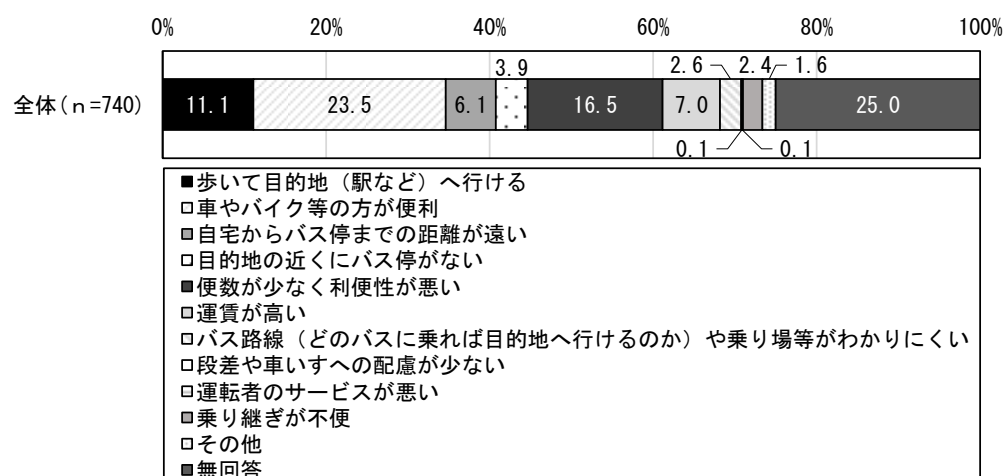
バスを利用していない1番目の理由についてみると、「車やバイク等の方が便利」が43.0%と最も高く、次いで「歩いて目的地(駅など)へ行ける」が34.5%、「便数が少なく利便性が悪い」が6.1%となっています。

■バスを利用していない1番目の理由(単数回答/全体)



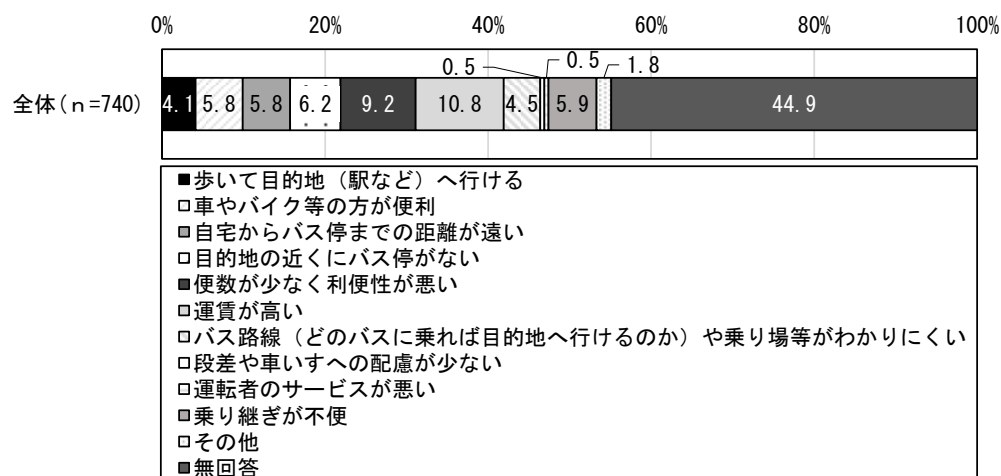
バスを利用していない2番目の理由についてみると、「車やバイク等の方が便利」が23.5%と最も高く、次いで「便数が少なく利便性が悪い」が16.5%、「歩いて目的地(駅など)へ行ける」が11.1%となっています。

■バスを利用していない2番目の理由(単数回答/全体)



バスを利用していない3番目の理由についてみると、「運賃が高い」が10.8%と最も高く、次いで「便数が少なく利便性が悪い」が9.2%、「目的地の近くにバス停がない」が6.2%となっています。

■バスを利用していない3番目の理由（単数回答／全体）

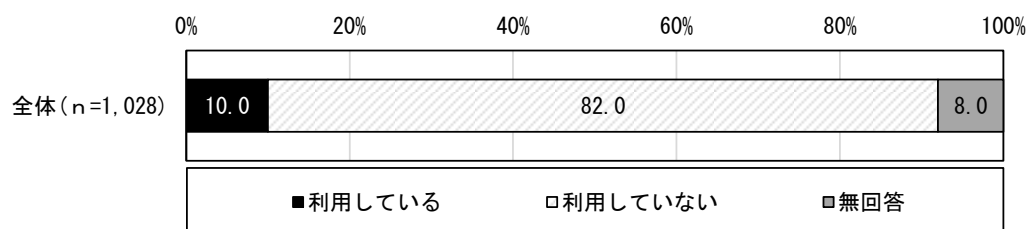


(4) タクシーの利用の有無

問 37 あなたは、ふだんタクシーを利用していますか。(○は1つだけ)

タクシーの利用の有無についてみると、「利用していない」が 82.0%、「利用している」が 10.0% となっています。

■ タクシーの利用の有無（単数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「利用していない」が 86.1%と『女性』に比べて 6.7 ポイント高くなっています。

年代別にみると、全ての年代にかけて「利用していない」が「利用している」より高くなっています。

小学校区別にみると、全ての小学校区にかけて「利用していない」が「利用している」より高くなっています。

■タクシーの利用の有無（単数回答／性別、年代別、小学校区別）

	n 数	利 用 し て い る	利 用 し て い な い	無 回 答
全体	100.0 1,028	10.0 103	82.0 843	8.0 82

性別

男性	100.0 411	6.3 26	86.1 354	7.5 31
女性	100.0 601	12.6 76	79.4 477	8.0 48
答えたくない	100.0 12	— —	91.7 11	8.3 1
無回答	100.0 4	25.0 1	25.0 1	50.0 2

年代別

19歳以下	100.0 32	— —	90.6 29	9.4 3
20歳代	100.0 122	7.4 9	82.8 101	9.8 12
30歳代	100.0 92	8.7 8	89.1 82	2.2 2
40歳代	100.0 141	6.4 9	90.1 127	3.5 5
50歳代	100.0 179	10.6 19	84.9 152	4.5 8
60歳代	100.0 166	6.0 10	86.1 143	7.8 13
70歳代	100.0 188	10.1 19	78.2 147	11.7 22
80歳以上	100.0 96	29.2 28	55.2 53	15.6 15
無回答	100.0 12	8.3 1	75.0 9	16.7 2

小学校区別

長野小学校区	100.0 137	6.6 9	83.2 114	10.2 14
小山田小学校区	100.0 90	15.6 14	76.7 69	7.8 7
天野小学校区	100.0 52	3.8 2	86.5 45	9.6 5
高向小学校区	100.0 44	6.8 3	93.2 41	— —
三田市小学校区	100.0 106	12.3 13	77.4 82	10.4 11
天見小学校区	100.0 10	10.0 1	70.0 7	20.0 2
川上小学校区	100.0 83	14.5 12	80.7 67	4.8 4
千代田小学校区	100.0 110	6.4 7	87.3 96	6.4 7
楠小学校区	100.0 89	13.5 12	82.0 73	4.5 4
加賀田小学校区	100.0 78	9.0 7	83.3 65	7.7 6
石仏小学校区	100.0 46	6.5 3	89.1 41	4.3 2
美加の台小学校区	100.0 80	8.8 7	85.0 68	6.3 5
南花台小学校区	100.0 79	11.4 9	77.2 61	11.4 9
わからない	100.0 9	— —	88.9 8	11.1 1
無回答	100.0 15	26.7 4	40.0 6	33.3 5

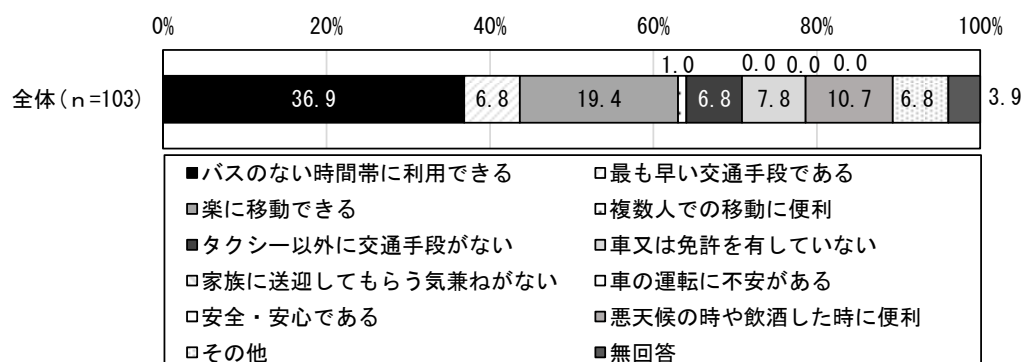
(5) タクシーを利用している理由

(問37で「1. 利用している」と答えられた方におたずねします。)

問38 あなたがタクシーを利用している理由は何ですか。(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

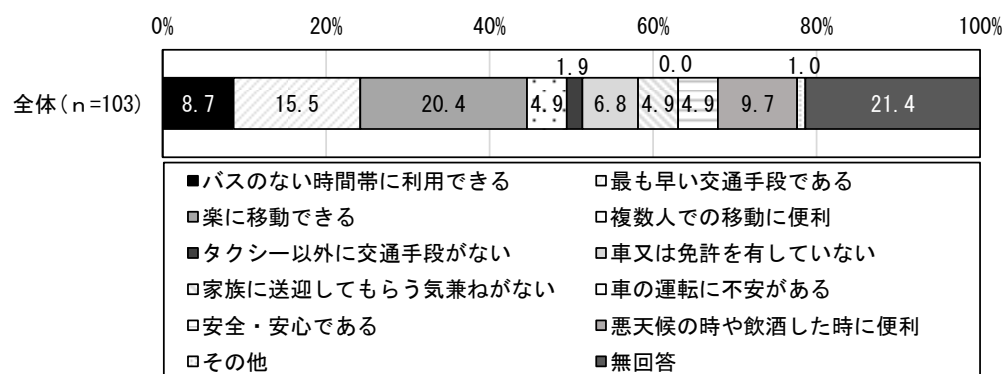
タクシーを利用している1番目の理由についてみると、「バスのない時間帯に利用できる」が36.9%と最も高く、次いで「楽に移動できる」が19.4%、「悪天候の時や飲酒した時に便利」が10.7%となっています。

■タクシーを利用している1番目の理由（単数回答／全体）



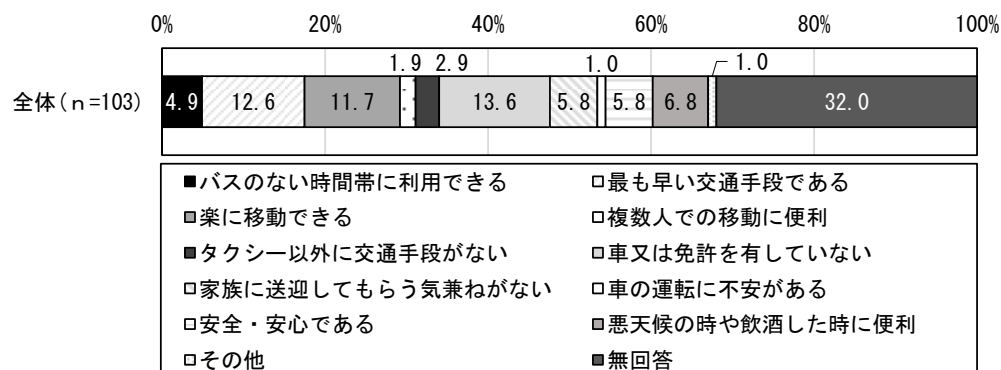
タクシーを利用している2番目の理由についてみると、「楽に移動できる」が20.4%と最も高く、次いで「最も早い交通手段である」が15.5%、「悪天候の時や飲酒した時に便利」が9.7%となっています。

■タクシーを利用している2番目の理由（単数回答／全体）



タクシーを利用している3番目の理由についてみると、「車又は免許を有していない」が13.6%と最も高く、次いで「最も早い交通手段である」が12.6%、「楽に移動できる」が11.7%となっています。

■タクシーを利用している3番目の理由（単数回答／全体）



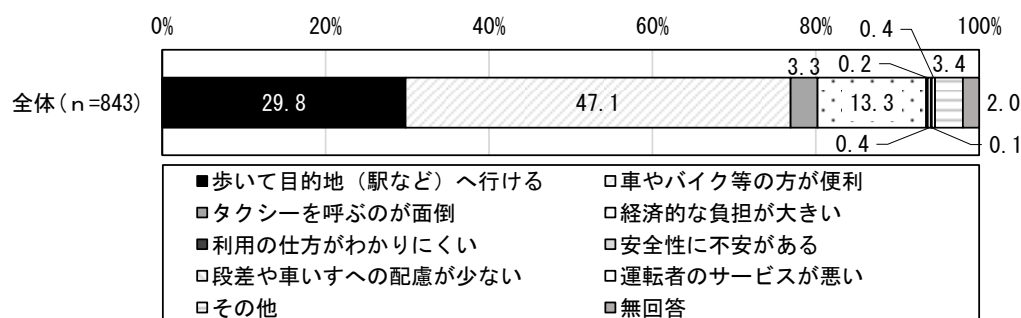
(6) タクシーを利用していない理由

(問37で「2. 利用していない」と答えられた方におたずねします。)

問39 あなたがタクシーを利用していない理由は何ですか。(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

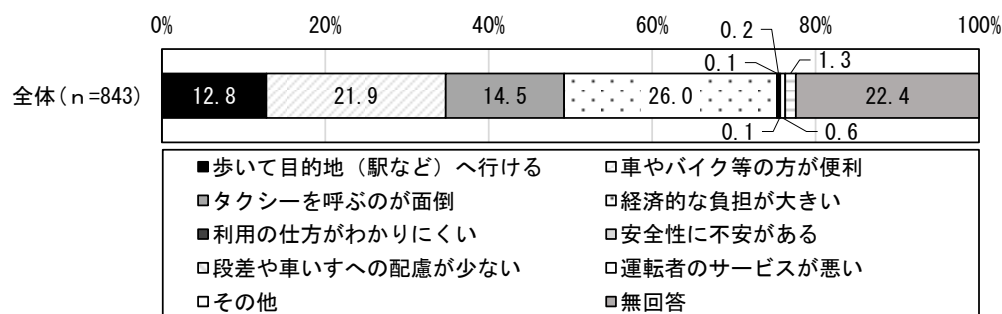
タクシーを利用していない1番目の理由についてみると、「車やバイク等の方が便利」が47.1%と最も高く、次いで「歩いて目的地(駅など)へ行ける」が29.8%、「経済的な負担が大きい」が13.3%となっています。

■ タクシーを利用していない1番目の理由 (単数回答/全体)



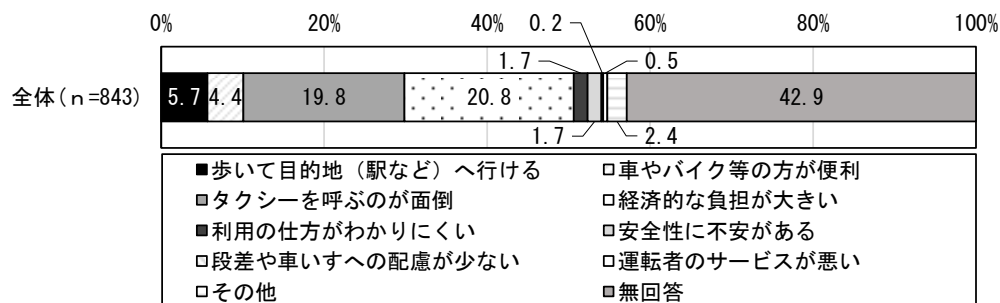
タクシーを利用していない2番目の理由についてみると、「経済的な負担が大きい」が26.0%と最も高く、次いで「車やバイク等の方が便利」が21.9%、「タクシーを呼ぶのが面倒」が14.5%となっています。

■ タクシーを利用していない2番目の理由 (単数回答/全体)



タクシーを利用していない3番目の理由についてみると、「経済的な負担が大きい」が20.8%と最も高く、次いで「タクシーを呼ぶのが面倒」が19.8%、「歩いて目的地（駅など）へ行ける」が5.7%となっています。

■タクシーを利用していない3番目の理由（単数回答／全体）



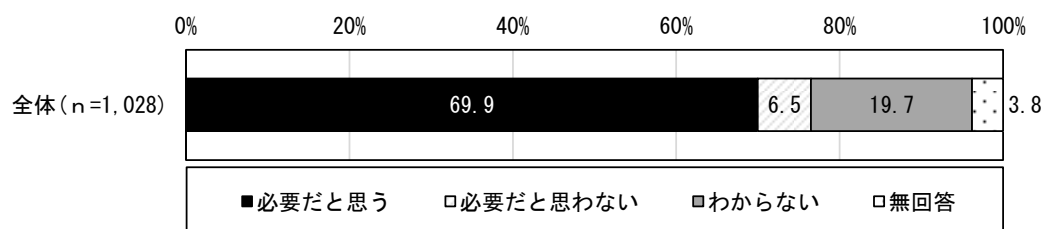
2-10. 地域の公共交通に関する意向やあり方について

(1) 地域の支え合いによる移動サービスの必要度

問 40 あなたは、このような移動サービスが必要だと思いますか。(○は1つだけ)

地域の支え合いによる移動サービスの必要度についてみると、「必要だと思う」が 69.9%と最も高く、次いで「わからない」が 19.7%、「必要だと思わない」が 6.5%となっています。

■地域の支え合いによる移動サービスの必要度（単数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「必要だと思う」が 72.0%と『女性』に比べて 3.3 ポイント高くなっています。

年代別にみると、全ての年代にかけて「必要だと思う」が最も高くなっていますが、『19 歳以下』では「必要だと思う」が 53.1%と、他の年代に比べて低い傾向となっています。

小学校区別にみると、全ての小学校区にかけて「必要だと思う」が最も高くなっています。

■地域の支え合いによる移動サービスの必要度
(単数回答／性別、年代別、小学校区別)

	n 数	必要 だと思 う	必要 だと思 わない	わ か ら な い	無 回 答
全体	100.0 1,028	69.9 719	6.5 67	19.7 203	3.8 39

性別

男性	100.0 411	72.0 296	6.1 25	18.2 75	3.6 15
女性	100.0 601	68.7 413	7.0 42	20.3 122	4.0 24
答えたくない	100.0 12	58.3 7	- -	41.7 5	- -
無回答	100.0 4	75.0 3	- -	25.0 1	- -

年代別

19歳以下	100.0 32	53.1 17	3.1 1	37.5 12	6.3 2
20歳代	100.0 122	68.9 84	9.0 11	18.9 23	3.3 4
30歳代	100.0 92	72.8 67	4.3 4	20.7 19	2.2 2
40歳代	100.0 141	71.6 101	7.8 11	18.4 26	2.1 3
50歳代	100.0 179	74.9 134	5.0 9	17.9 32	2.2 4
60歳代	100.0 166	66.3 110	5.4 9	25.3 42	3.0 5
70歳代	100.0 188	70.2 132	8.5 16	14.9 28	6.4 12
80歳以上	100.0 96	67.7 65	6.3 6	18.8 18	7.3 7
無回答	100.0 12	75.0 9	- -	25.0 3	- -

小学校区別

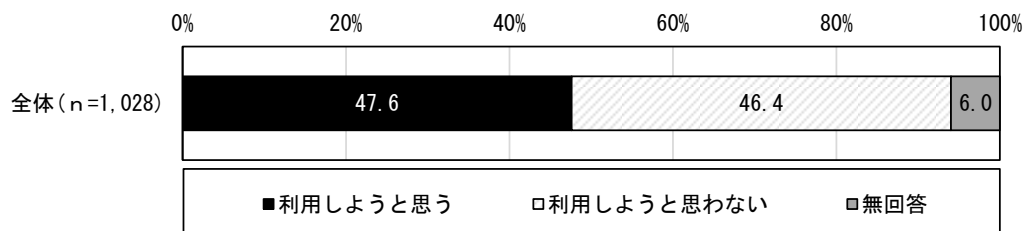
長野小学校区	100.0 137	62.0 85	5.8 8	27.0 37	5.1 7
小山田小学校区	100.0 90	62.2 56	4.4 4	25.6 23	7.8 7
天野小学校区	100.0 52	71.2 37	7.7 4	15.4 8	5.8 3
高向小学校区	100.0 44	68.2 30	2.3 1	20.5 9	9.1 4
三日市小学校区	100.0 106	78.3 83	8.5 9	13.2 14	- -
天見小学校区	100.0 10	60.0 6	- -	30.0 3	10.0 1
川上小学校区	100.0 83	73.5 61	10.8 9	14.5 12	1.2 1
千代田小学校区	100.0 110	69.1 76	11.8 13	18.2 20	0.9 1
楠小学校区	100.0 89	68.5 61	2.2 2	25.8 23	3.4 3
加賀田小学校区	100.0 78	83.3 65	3.8 3	10.3 8	2.6 2
石仏小学校区	100.0 46	82.6 38	4.3 2	13.0 6	- -
美加の台小学校区	100.0 80	72.5 58	2.5 2	21.3 17	3.8 3
南花台小学校区	100.0 79	58.2 46	12.7 10	22.8 18	6.3 5
わからない	100.0 9	66.7 6	- -	33.3 3	- -
無回答	100.0 15	73.3 11	- -	13.3 2	13.3 2

(2) 地域の支え合いによる移動サービスの利用意向

問 41 あなたは、このような移動サービスがあれば利用しようと思いますか。
(○は1つだけ)

地域の支え合いによる移動サービスの利用意向についてみると、「利用しようと思う」が47.6%、「利用しようと思わない」が46.4%となっています。

■地域の支え合いによる移動サービスの利用意向（単数回答／全体）



性別にみると、『男性』では「利用しようと思わない」が「利用しようと思う」より高いですが、『女性』では「利用しようと思う」の方が高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』から『40歳代』にかけては「利用しようと思わない」が「利用しようと思う」より高いですが、『50歳代』から『80歳以上』にかけては「利用しようと思う」の方が高くなっています。

小学校区別にみると、『加賀田小学校区』では「利用しようと思う」が69.2%と、他の小学校区に比べて高くなっています。

■地域の支え合いによる移動サービスの利用意向
(単数回答／性別、年代別、小学校区別)

	n 数	利 用 し よ う と 思 う	利 用 し よ う と 思 わ な い	無 回 答
全体	100.0 1,028	47.6 489	46.4 477	6.0 62

性別

男性	100.0 411	44.5 183	50.1 206	5.4 22
女性	100.0 601	49.4 297	43.9 264	6.7 40
答えたくない	100.0 12	50.0 6	50.0 6	— —
無回答	100.0 4	75.0 3	25.0 1	— —

年代別

19歳以下	100.0 32	18.8 6	75.0 24	6.3 2
20歳代	100.0 122	39.3 48	54.9 67	5.7 7
30歳代	100.0 92	31.5 29	66.3 61	2.2 2
40歳代	100.0 141	42.6 60	53.9 76	3.5 5
50歳代	100.0 179	51.4 92	44.7 80	3.9 7
60歳代	100.0 166	48.8 81	45.2 75	6.0 10
70歳代	100.0 188	58.5 110	34.6 65	6.9 13
80歳以上	100.0 96	57.3 55	27.1 26	15.6 15
無回答	100.0 12	66.7 8	25.0 3	8.3 1

小学校区別

長野小学校区	100.0 137	37.2 51	53.3 73	9.5 13
小山田小学校区	100.0 90	42.2 38	51.1 46	6.7 6
天野小学校区	100.0 52	55.8 29	40.4 21	3.8 2
高向小学校区	100.0 44	40.9 18	50.0 22	9.1 4
三日市小学校区	100.0 106	47.2 50	49.1 52	3.8 4
天見小学校区	100.0 10	40.0 4	30.0 3	30.0 3
川上小学校区	100.0 83	51.8 43	43.4 36	4.8 4
千代田小学校区	100.0 110	40.9 45	54.5 60	4.5 5
楠小学校区	100.0 89	46.1 41	50.6 45	3.4 3
加賀田小学校区	100.0 78	69.2 54	26.9 21	3.8 3
石仏小学校区	100.0 46	50.0 23	43.5 20	6.5 3
美加の台小学校区	100.0 80	53.8 43	41.3 33	5.0 4
南花台小学校区	100.0 79	48.1 38	45.6 36	6.3 5
わからない	100.0 9	44.4 4	44.4 4	11.1 1
無回答	100.0 15	53.3 8	33.3 5	13.3 2

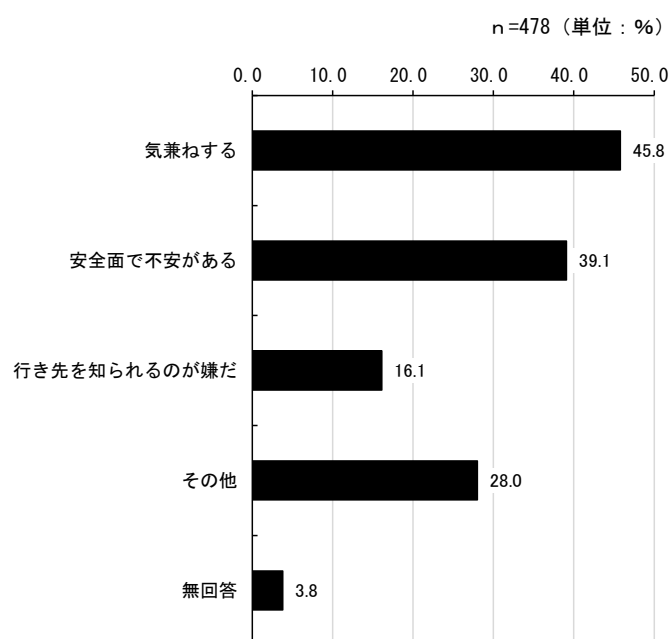
(3)地域の支え合いによる移動サービスを利用しようと思わない理由

(問41で「2. 利用しようと思わない」と答えられた方におたずねします。)

問42 あなたが、このような移動サービスを利用しようと思わない理由は何ですか。
(○はいくつでも)

地域の支え合いによる移動サービスを利用しようと思わない理由についてみると、「気兼ねする」が45.8%と最も高く、次いで「安全面で不安がある」が39.1%、「その他」が28.0%となっています。

■地域の支え合いによる移動サービスを利用しようと思わない理由 (複数回答／全体)



性別にみると、男女とも「気兼ねする」が最も高くなっています。

年代別にみると、『19歳以下』『20歳代』では「安全面で不安がある」が最も高くなっています。一方、『30歳代』から『80歳以上』にかけては「気兼ねする」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、『天野小学校区』『天見小学校区』では「気兼ねする」が7割弱と、他の小学校区に比べて高くなっています。

■地域の支え合いによる移動サービスを利用しようと思わない理由
(複数回答／性別、年代別、小学校区別)

	n 数	気 兼 ね す る	不 安 が 面 で る	知 行 き 先 を の が 嫌 だ	そ の 他	無 回 答
全体	100.0 478	45.8 219	39.1 187	16.1 77	28.0 134	3.8 18

性別

男性	100.0 207	46.4 96	32.9 68	13.5 28	30.0 62	4.3 9
女性	100.0 264	45.1 119	43.9 116	16.7 44	27.3 72	3.4 9
答えたくない	100.0 6	50.0 3	50.0 3	83.3 5	— —	— —
無回答	100.0 1	100.0 1	— —	— —	— —	— —

年代別

19歳以下	100.0 24	41.7 10	45.8 11	25.0 6	25.0 6	0.0 0
20歳代	100.0 67	35.8 24	38.8 26	23.9 16	35.8 24	4.5 3
30歳代	100.0 61	52.5 32	32.8 20	21.3 13	32.8 20	1.6 1
40歳代	100.0 77	42.9 33	33.8 26	13.0 10	26.0 20	6.5 5
50歳代	100.0 80	50.0 40	41.3 33	8.8 7	28.8 23	2.5 2
60歳代	100.0 75	48.0 36	42.7 32	17.3 13	22.7 17	5.3 4
70歳代	100.0 65	44.6 29	43.1 28	9.2 6	26.2 17	3.1 2
80歳以上	100.0 26	50.0 13	38.5 10	23.1 6	26.9 7	3.8 1
無回答	100.0 3	66.7 2	33.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0

小学校区別

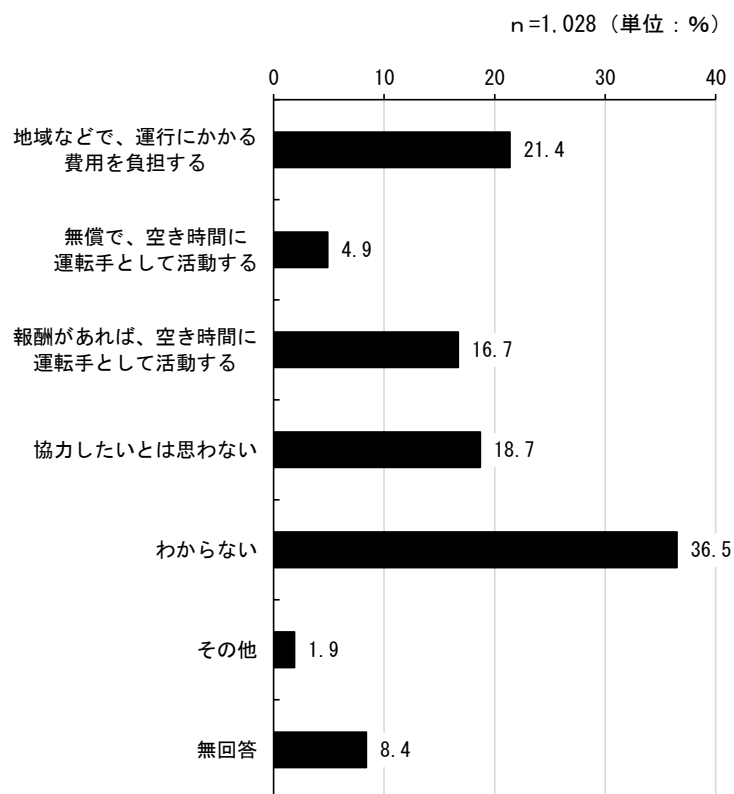
長野小学校区	100.0 73	43.8 32	27.4 20	16.4 12	35.6 26	4.1 3
小山田小学校区	100.0 46	63.0 29	39.1 18	19.6 9	15.2 7	4.3 2
天野小学校区	100.0 21	66.7 14	28.6 6	4.8 1	23.8 5	— —
高向小学校区	100.0 22	36.4 8	36.4 8	9.1 2	36.4 8	— —
三日市小学校区	100.0 52	30.8 16	42.3 22	13.5 7	38.5 20	7.7 4
天見小学校区	100.0 3	66.7 2	— —	33.3 1	33.3 1	— —
川上小学校区	100.0 36	33.3 12	30.6 11	8.3 3	44.4 16	5.6 2
千代田小学校区	100.0 60	46.7 28	28.3 17	11.7 7	31.7 19	6.7 4
楠小学校区	100.0 46	43.5 20	56.5 26	15.2 7	26.1 12	2.2 1
加賀田小学校区	100.0 21	57.1 12	42.9 9	9.5 2	14.3 3	4.8 1
石仏小学校区	100.0 20	45.0 9	45.0 9	35.0 7	10.0 2	5.0 1
美加の台小学校区	100.0 33	51.5 17	57.6 19	24.2 8	24.2 8	— —
南花台小学校区	100.0 36	36.1 13	55.6 20	19.4 7	19.4 7	— —
わからない	100.0 4	75.0 3	50.0 2	75.0 3	— —	— —
無回答	100.0 5	80.0 4	— —	20.0 1	— —	— —

(4)地域の支え合いによる移動サービスの協力度

問 43 あなたは、このような移動サービスについて、どの程度協力することができますか。(〇はいくつでも)

地域の支え合いによる移動サービスの協力度についてみると、「わからない」が 36.5%と最も高く、次いで「地域などで、運行にかかる費用を負担する」が 21.4%、「協力したいとは思わない」が 18.7%となっています。

■地域の支え合いによる移動サービスの協力度（複数回答／全体）



性別にみると、男女とも「わからない」が最も高くなっています。

年代別にみると、『19 歳以下』『30 歳代』では「協力したいとは思わない」が最も高くなっています。

小学校区別にみると、『加賀田小学校区』では「地域などで、運行にかかる費用を負担する」が 37.2%と最も高くなっています。

■地域の支え合いによる移動サービスの協力度
(複数回答／性別、年代別、小学校区別)

	n 数	費地 用域 を負 担な どで 、運 行に かか る	運無 転償 手と して 活動 する	運報 酬が あれば 、活動 する 時間 に	協 力し たい とは思 わない	わ から ない	そ の 他	無 回 答
全体	100.0 1,028	21.4 220	4.9 50	16.7 172	18.7 192	36.5 375	1.9 20	8.4 86
性別								
男性	100.0 411	21.4 88	7.3 30	22.1 91	19.7 81	31.1 128	1.2 5	9.2 38
女性	100.0 601	21.5 129	3.2 19	13.1 79	18.0 108	39.9 240	2.5 15	7.7 46
答えたくない	100.0 12	16.7 2	8.3 1	16.7 2	16.7 2	50.0 6	-	8.3 1
無回答	100.0 4	25.0 1	-	-	25.0 1	25.0 1	-	25.0 1
年代別								
19歳以下	100.0 32	6.3 2	-	15.6 5	46.9 15	31.3 10	-	3.1 1
20歳代	100.0 122	13.1 16	4.9 6	27.0 33	25.4 31	33.6 41	-	2.5 3
30歳代	100.0 92	17.4 16	-	28.3 26	30.4 28	21.7 20	2.2 2	5.4 5
40歳代	100.0 141	20.6 29	5.0 7	25.5 36	19.9 28	30.5 43	2.1 3	6.4 9
50歳代	100.0 179	20.1 36	7.8 14	22.3 40	14.0 25	41.9 75	2.2 4	3.4 6
60歳代	100.0 166	21.7 36	6.6 11	10.2 17	13.3 22	45.8 76	1.8 3	8.4 14
70歳代	100.0 188	33.5 63	6.4 12	6.9 13	16.0 30	33.5 63	2.7 5	11.7 22
80歳以上	100.0 96	19.8 19	-	1.0 1	12.5 12	42.7 41	3.1 3	26.0 25
無回答	100.0 12	25.0 3	-	8.3 1	8.3 1	50.0 6	-	8.3 1
小学校区別								
長野小学校区	100.0 137	19.0 26	2.2 3	18.2 25	20.4 28	34.3 47	0.7 1	8.0 11
小山田小学校区	100.0 90	20.0 18	5.6 5	14.4 13	24.4 22	32.2 29	2.2 2	10.0 9
天野小学校区	100.0 52	28.8 15	7.7 4	13.5 7	13.5 7	40.4 21	3.8 2	5.8 3
高向小学校区	100.0 44	15.9 7	-	13.6 6	13.6 6	43.2 19	-	13.6 6
三日市小学校区	100.0 106	19.8 21	3.8 4	19.8 21	19.8 21	37.7 40	2.8 3	2.8 3
天見小学校区	100.0 10	-	-	10.0 1	10.0 1	50.0 5	-	30.0 3
川上小学校区	100.0 83	30.1 25	1.2 1	10.8 9	20.5 17	38.6 32	-	8.4 7
千代田小学校区	100.0 110	12.7 14	4.5 5	20.9 23	20.9 23	36.4 40	2.7 3	7.3 8
楠小学校区	100.0 89	11.2 10	3.4 3	15.7 14	23.6 21	46.1 41	2.2 2	6.7 6
加賀田小学校区	100.0 78	37.2 29	10.3 8	23.1 18	14.1 11	25.6 20	3.8 3	10.3 8
石仏小学校区	100.0 46	23.9 11	4.3 2	23.9 11	17.4 8	26.1 12	-	10.9 5
美加の台小学校区	100.0 80	22.5 18	11.3 9	12.5 10	15.0 12	40.0 32	3.8 3	5.0 4
南花台小学校区	100.0 79	29.1 23	3.8 3	12.7 10	17.7 14	34.2 27	1.3 1	8.9 7
わからない	100.0 9	11.1 1	22.2 2	22.2 2	-	55.6 5	-	11.1 1
無回答	100.0 15	13.3 2	6.7 1	13.3 2	6.7 1	33.3 5	-	33.3 5

2-11. 公共交通施策などについて

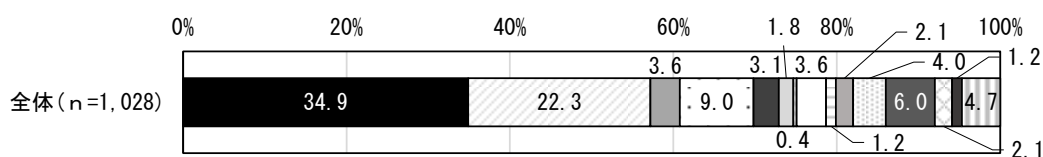
(1) 重要と考える公共交通施策

問 44 あなたが重要であるとする公共交通施策は何ですか。

(重要であるとするものから順に下段の中から番号を選んで空欄に記入)

重要と考える 1 番目の公共交通施策についてみると、「高齢者への公共交通利用に対する支援制度」が 34.9%と最も高く、次いで「免許を返納した人への公共交通利用に対する支援制度」が 22.3%、「市内の公共交通（バス・タクシーなど）が定額で乗り放題になるなどの運賃施策」が 9.0%となっています。

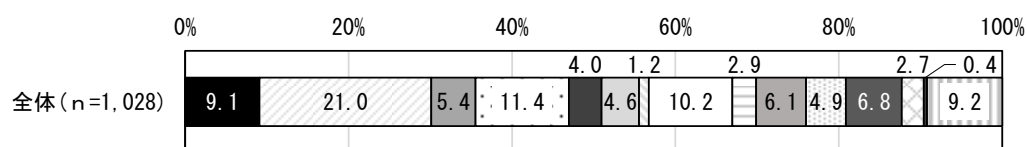
■重要と考える 1 番目の公共交通施策（単数回答／全体）



- 高齢者への公共交通利用に対する支援制度
- 免許を返納した人への公共交通利用に対する支援制度
- 最寄りのバス停までの移動や団地内での移動など、自宅周辺の短距離の移動手段の確保
- 市内の公共交通（バス・タクシーなど）が定額で乗り放題になるなどの運賃施策
- 自動運転の試行・導入
- 地域の支え合いによる移動サービス
- 観光目的での公共交通利用の促進
- 路線バスの上限運賃や均一運賃の導入（運賃の上限が200円になるなど）
- 待合環境の改善（バス停の屋根やベンチの整備など）
- 幹線道路沿いの商業施設などへの公共交通のアクセス強化
- 最寄りの鉄道駅への移動手段の確保
- 路線バスの運行本数や運行時間帯の維持
- 利用が少ない公共交通の見直し・再編（デマンド交通への切替など）
- その他
- 無回答

重要と考える２番目の公共交通施策についてみると、「免許を返納した人への公共交通利用に対する支援制度」が21.0%と最も高く、次いで「市内の公共交通（バス・タクシーなど）が定額で乗り放題になるなどの運賃施策」が11.4%、「路線バスの上限運賃や均一運賃の導入（運賃の上限が200円になるなど）」が10.2%となっています。

■重要と考える２番目の公共交通施策（単数回答／全体）



■高齢者への公共交通利用に対する支援制度

□免許を返納した人への公共交通利用に対する支援制度

□最寄りのバス停までの移動や団地内での移動など、自宅周辺の短距離の移動手段の確保

□市内の公共交通（バス・タクシーなど）が定額で乗り放題になるなどの運賃施策

■自動運転の試行・導入

□地域への支援合いによる移動サービス

□観光目的での公共交通利用の促進

□路線バスの上限運賃や均一運賃の導入（運賃の上限が200円になるなど）

□待合環境の改善（バス停の屋根やベンチの整備など）

□幹線道路沿いの商業施設などへの公共交通のアクセス強化

□最寄りの鉄道駅への移動手段の確保

■路線バスの運行本数や運行時間帯の維持

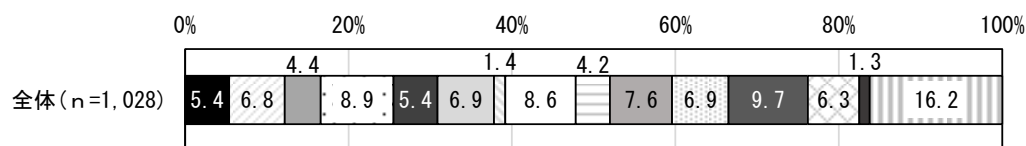
□利用が少ない公共交通の見直し・再編（デマンド交通への切替など）

■その他

□無回答

重要と考える３番目の公共交通施策についてみると、「路線バスの運行本数や運行時間帯の維持」が9.7%と最も高く、次いで「市内の公共交通（バス・タクシーなど）が定額で乗り放題になるなどの運賃施策」が8.9%、「路線バスの上限運賃や均一運賃の導入（運賃の上限が200円になるなど）」が8.6%となっています。

■重要と考える３番目の公共交通施策（単数回答／全体）



■高齢者への公共交通利用に対する支援制度

□免許を返納した人への公共交通利用に対する支援制度

□最寄りのバス停までの移動や団地内での移動など、自宅周辺の短距離の移動手段の確保

□市内の公共交通（バス・タクシーなど）が定額で乗り放題になるなどの運賃施策

■自動運転の試行・導入

□地域の支え合いによる移動サービス

□観光目的での公共交通利用の促進

□路線バスの上限運賃や均一運賃の導入（運賃の上限が200円になるなど）

□待合環境の改善（バス停の屋根やベンチの整備など）

□幹線道路沿いの商業施設などへの公共交通のアクセス強化

□最寄りの鉄道駅への移動手段の確保

■路線バスの運行本数や運行時間帯の維持

□利用が少ない公共交通の見直し・再編（デマンド交通への切替など）

■その他

□無回答

令和3年度 河内長野市市政アンケート調査のお願い

日頃は何かと市政の推進にご協力いただきありがとうございます。

河内長野市では、住みよい河内長野市の実現をめざして日々、行政を推進しているところですが、市民のみなさんの率直なご意見をお聴きし、各種施策をすすめるうえでの参考資料とするため、市政アンケート調査を定期的を実施しています。

今年は、テーマ＜生活状況や男女共同参画、公共交通利用に関する意識調査＞を中心に調査を行うこととしました。

みなさんのご意見は、計画策定などの参考とさせていただきますので、ぜひ、あなたの河内長野市についての率直なお考えをお聞かせください。

お忙しいこととは存じますが、アンケートの趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

令和3年9月

河内長野市長

- このアンケートは、18歳以上の市民の中から無作為に2,000人の方々を選び、郵送でアンケート票をお送りしています。
- このアンケートには、ご本人による記入が難しい場合を除き、封筒のあて名の方がご自身でご記入ください。
- 回答内容は、統計的に処理し、調査の目的以外に利用することはありません。
- アンケート結果の概要は、後日、市ホームページなどを通じてお知らせします。
- ご記入いただいたアンケート票は、無記名のまま、10月4日(月)までに同封の返信用封筒に入れてお送りください。(切手を貼る必要はありません。)

【お問い合わせ先】

このアンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

河内長野市役所

設問 9～14	→	福祉部	生活福祉課 (内線 385)
設問 15～26	→	総合政策部	人権推進課 (内線 558)
設問 27～44	→	都市づくり部	都市計画課 (内線 540)
上記以外の設問	→	総合政策部	政策企画課 (内線 341)
(代表電話番号)		0721-53-1111	
(ファックス)		0721-55-1435	
(メー ル)		kikaku@city.kawachinagano.lg.jp	



令和3年度 河内長野市市政アンケート 調査票

まず、回答していただくあなたご自身についておうかがいします。

A 性別をおたずねします。(自認する性別の番号に○は1つだけ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

B 年齢をおたずねします。() 内に数字を記載してください。

満() 歳

C あなたの家族構成はどれですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|----------------|------------|
| 1. 単身(ひとり暮らし)世帯 | 2. 夫婦のみ世帯 | 3. 親子2世代世帯 |
| 4. 親子孫3世代世帯 | 5. その他(具体的に:) | |

D あなたは、どのくらいの期間、河内長野市にお住まいですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年～5年未満 | 3. 5年～10年未満 |
| 4. 10年～15年未満 | 5. 15年～20年未満 | 6. 20年～30年未満 |
| 7. 30年以上 | | |

E あなたは、現在どこ(小学校区)に住んでいますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|------------------|--------------|
| 1. 長野小学校区 | 2. 小山田小学校区 | 3. 天野小学校区 |
| 4. 高向小学校区 | 5. 三日市小学校区 | 6. 天見小学校区 |
| 7. 川上小学校区 | 8. 千代田小学校区 | 9. 楠小学校区 |
| 10. 加賀田小学校区 | 11. 石仏小学校区 | 12. 美加の台小学校区 |
| 13. 南花台小学校区 | 14. わからない(住所は:) | |

F あなたは、現在のお住まいに来る以前はどこに住んでいましたか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. ずっと現在のところに住んでいる | 2. 現在地以外の河内長野市内 |
| 3. 河内長野市以外の南河内地域*1 | 4. 堺市 |
| 5. 大阪市 | 6. その他大阪府 |
| 7. 和歌山県 | 8. 奈良県 |
| 9. その他の都道府県または外国(具体的に:) | |

*1: 富田林市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

G あなたの職業は何ですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------------|--------------|
| 1. 会社員・公務員 | 2. 自営業 |
| 3. 自由業(医師、弁護士など専門的職業) | 4. パート・アルバイト |
| 5. 家事専業 | 6. 学生 |
| 7. 無職 | |
| 8. 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない | |
| 9. その他(具体的に:) | |

河内長野市での定住意向についておうかがいします。

問1 あなたは、これからも河内長野市に住みつづけたいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------------------|----------------|
| 1. ずっと今の場所で住みつづけたい | } →問2へお進みください。 |
| 2. 河内長野市内で転居したい (転居したい地域:) | |
| 3. 1. 2. のどちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい | |
| 4. 特に住みつづけたいわけではないが、今のところ住みつづけるつもり | →問4へお進みください。 |
| 5. いずれ市外に移りたい (移りたい都市・地域名:) | } →問3へお進みください。 |
| 6. すぐに市外に移りたい (移りたい都市・地域名:) | |
| 7. 何ともいえない | →問4へお進みください。 |

問1で「1. ずっと今の場所で住みつづけたい」「2. 河内長野市内で転居したい」「3. 1. 2. のどちらともいえないが河内長野市には住みつづけたい」と答えられた方におたずねします。

問2 住みつづけたい理由は何ですか。(○は2つまで)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 生まれ育ったまちだから | 2. 住みなれたまちだから |
| 3. 親せきや知人がいるから | 4. 近所づきあいがしやすいから |
| 5. 自然環境がよいから | 6. 田舎の良さが残っているから |
| 7. 魅力ある歴史・文化があるから | 8. 教育環境がよいから |
| 9. 買い物が便利だから | 10. 通勤、通学に便利だから |
| 11. 医療環境がよいから | 12. レジャー・娯楽施設が多いから |
| 13. 福祉サービスが整っているから | 14. 働く場所としての魅力が多いから |
| 15. 今後発展すると思うから | 16. その他(具体的に:) |

問1で「5. いずれ市外に移りたい」「6. すぐに市外に移りたい」と答えられた方におたずねします。

問3 市外に移りたい理由は何ですか。(○は2つまで)

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 市内で住みかえたいが、希望に合う住宅がないから | 2. 転勤等仕事の関係で |
| 3. 生活環境が悪いから | 4. 人間関係がよくないから |
| 5. 買い物など日常生活に不便だから | 6. 通勤・通学に不便だから |
| 7. 子どもの教育の関係で | 8. その他(具体的に:) |

すべての方におたずねします。

問4 これからも河内長野市に住みつづけるためには、どんなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 一戸建てや賃貸住宅など、ニーズにあった住環境の充実 | 2. 市内で働ける場所の充実 |
| 3. 身近な緑など自然環境の充実 | 4. 歴史・文化を感じられる地域づくりの充実 |
| 5. 隣近所など地域との良好な人間関係 | 6. 買い物などの日常生活の便利さの充実 |
| 7. 通勤・通学などの交通環境の充実 | 8. 子どもの教育環境の充実 |
| 9. 老後も安心して暮らせる福祉サービスの充実 | 10. その他(具体的に:) |

河内長野市の取組についておうかがいします。

問5 次の1から41の各項目について、①現在の生活の中でどの程度満足していますか。また、②今後に向けてどの程度重要だと思いますか。各項目の①および②のそれぞれについて、あなたのお考えに最も近い番号に○をつけてください。(①、②それぞれについて○は1つだけ)

項 目		①現在の満足度						②今後の重要度				
		非常に満足	やや満足	普通	やや不満	不満	わからない	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
安全・安心	1. 防災	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	2. 消防・救急	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	3. 防犯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	4. 交通安全	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	5. 消費者行政	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
福祉・健康	6. 地域の支え合い	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	7. 高齢者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	8. 障がい者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	9. 社会保障制度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	10. 健康づくりを進める環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
子育て・教育・生涯学習	11. 児童に対する福祉	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	12. 子育てのしやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	13. 小中学校の教育環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	14. 青少年の健全な育成	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	15. 各種講座や施設など生涯学習の環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	16. 文化芸術活動などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	17. 歴史文化遺産の保存・活用	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	18. スポーツ施設や活動などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
人権	19. 人権の尊重と平和意識の高揚	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	20. 男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	21. 国際交流や多文化共生社会の推進	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
環境	22. 自然環境への配慮	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	23. リサイクル施策など循環型社会への取り組み	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	24. 騒音・悪臭などの少なさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	25. まちなみ・自然・歴史など景観の美しさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
都市基盤	26. 市街地の整備	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	27. 住環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	28. 公園や緑地などの環境	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	29. 道路や橋などの交通網	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	30. バスなどの公共交通サービス	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	31. 上下水道	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5

(つづき)

項 目		①現在の満足度						②今後の重要度				
		非常に満足	やや満足	普通	やや不満	不満	わからない	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない
産業	32. 商業地などの賑わい	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	33. 農林業の振興	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	34. 観光事業	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	35. 身近な場での働きやすさ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
協働・行財	36. 市民同士の連携や市民と行政の協働	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	37. 行政改革への取り組み	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	38. 適正で透明性の高い財政運営	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
人事	39. 市職員の窓口や電話等での対応	1	2	3	4	5	6					
その他	40. 都市ブランドの創出・都市魅力の発信	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
	41. 市全体として	1	2	3	4	5	6					

問5の①現在の満足度で、「4. やや不満」「5. 不満」と答えられた方におたずねします。

問6 特に不満を感じられている項目の番号を2つまで選んで、それぞれについて不満を感じる理由を記入してください。

【項目の番号】	左の項目が「4. やや不満」「5. 不満」と感じる理由

すべての方におたずねします。

問7 あなたは、この1年で市内の「地域活動やまちづくり活動」*1にどの程度参加されましたか。(○は1つだけ)

*1:「地域活動やまちづくりの活動」とは、自治会、町内会、PTA、教育、青少年育成、環境、美化、福祉など、有償・無償を問わず、幅広い活動のことを言います。

1. 週に2～3回以上	2. 週に1回程度
3. 月に1回程度	4. 年に数回程度
5. 年に1回程度	6. ほとんどない

問8 次の1から3の項目について、どのように感じていますか。各項目について、あなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

項 目	非常に感じる	やや感じる	普通	あまり感じない	ほとんど感じない	わからない
1. 地域のまちづくり活動が充実していると感じている	1	2	3	4	5	6
2. 河内長野市に住みつづけたいと感じている	1	2	3	4	5	6
3. 河内長野市に愛着と誇りを感じている	1	2	3	4	5	6

あなたの生活状況についておうかがいします。

問9 あなたは、ふだんどのくらい外出しますか。(○は1つだけ)

1. 仕事や学校で平日は毎日外出する	→問 15へお進 みください。
2. 仕事や学校で週に3～4日外出する	
3. 他人と関わる活動（遊びや人づきあいなど）のときは外出する	→問 10～14へ お進みください。
4. ふだんは家にいるが、他人と関わらない活動（自分の趣味に関する用事など）のときだけ外出する	
5. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	
6. 自室からは出るが、家からは出ない	
7. 自室からほとんど出ない	

問9で「4. ふだんは家にいるが、他人と関わらない活動（自分の趣味に関する用事など）のときだけ外出する」「5. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」「6. 自室からは出るが、家からは出ない」「7. 自室からほとんど出ない」と答えられた方におたずねします。

問10 あなたが現在の状態になってどのくらい経ちますか。(○は1つだけ)

1. 6ヶ月未満	2. 6ヶ月～1年	3. 1年～3年	4. 3年～5年
5. 5年～7年	6. 7年～10年	7. 10年以上	

問11 あなたが、現在の状態になったきっかけは何ですか。(○は1つだけ)

1. 小学生時の不登校	
2. 中学生時の不登校	
3. 高校生時の不登校	
4. 大学生（専門学校生、短期大学生を含む）時等の不登校	
5. 受験に失敗したこと（高校・大学等）	
6. 就職活動がうまくいかなかったこと	
7. 職場になじめなかったこと	
8. 人間関係がうまくいかなかったこと	
9. 病気（病名：_____）	○
10. 妊娠したこと	
11. 退職したこと	
12. 介護・看護を担うことになったこと	
13. 新型コロナウイルス感染症の影響	
14. その他（具体的に：_____）	○
15. わからない	
16. 特になし	

問12 あなたは、最近6ヶ月間に家族以外の人と会話しましたか。(○は1つだけ)

1. よく会話した	2. ときどき会話した
3. ほとんど会話しなかった	4. まったく会話しなかった

問 13 あなたは、次のような相談機関等に相談したことはありますか。(○はいくつでも)

1. 子ども・子育て総合センターあいつく(家庭児童相談室)	2. 公共職業安定所(ハローワーク)・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関
3. 精神保健福祉センター(こころの健康総合センター)	4. 発達障がい者支援センター(アクトおおさか)
5. 保健所・子ども家庭センター	6. 病院・診療所
7. ひきこもり地域支援センター	8. 生活困窮者向けの相談窓口
9. 地域包括支援センター	10. 当事者の会・家族会
11. 社会福祉協議会	12. その他の施設・機関 (具体的に:)
13. 上記以外の民間の相談機関・支援機関(NPO等)	14. 相談したことはない

問 14 あなたの現在の状態について、相談するとすれば、どのような相談機関なら相談したいと思いますか。(○はいくつでも)

1. 無料で相談できる	2. 親身に聴いてくれる
3. 精神科医がいる	4. 匿名で相談できる
5. 医学的な助言をくれる	6. 心理学の専門家がいる
7. 自宅から近い	8. 同じ悩みを持つ人と出会える
9. 自宅に専門家が来てくれる	10. 公共機関の人や医療の専門家ではない民間団体(NPOなど)
11. あてはまるものはない	12. どのような機関にも相談したくない

男女共同参画についておうかがいします。

問 15 次の1から8の項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。
各項目について、あなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。
(それぞれについて○は1つだけ)

項 目	男性のほうが非常に優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等である	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが非常に優遇されている	わからない
1. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
2. 職場	1	2	3	4	5	6
3. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
4. 自治会・NPOなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
5. 政治の場	1	2	3	4	5	6
6. 法律や制度	1	2	3	4	5	6
7. 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
8. 社会全体でみたとき	1	2	3	4	5	6

問 16 次の1から6の項目のような考えに対して、どのように思いますか。各項目について、あなたの考えに最も近い番号に○をつけてください。(それぞれについて○は1つだけ)

項 目	そう 思う	どちら かとい えば そう 思う	どちら かとい えば そう 思わ ない	そう 思わ ない
1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4
2. 結婚は、個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4
3. 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4
4. 結婚してもうまくいかないときは離婚すればよい	1	2	3	4
5. 希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない	1	2	3	4
6. 男性の子育て・介護への参画が以前より進んでいる	1	2	3	4

問 17 あなたは、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたものがありますか。
(○はいくつでも)

1. 男女共同参画社会	2. 河内長野市男女共同参画推進条例
3. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	4. ジェンダー(社会的性別)
5. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	6. DV(ドメスティック・バイオレンス)*1
7. team あごら	8. その他
9. 見たり聞いたりしたものはない	(具体的に:)

* 1 : 「DV(ドメスティック・バイオレンス)」とは、配偶者や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力のことを言います。暴力には身体的暴力だけでなく、精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力なども含まれます。

問 18 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

1. 女性は職業をもたないほうがよい
2. 結婚するまでは、職業をもつほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつほうがよい
4. 子どもができて、ずっと職業をもち続けるほうがよい
5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい
6. その他(具体的に:)
7. わからない

問 19 生活の中における「仕事*¹」「家庭生活*²」「地域・個人の生活*³」の優先度について、あなたの現実の生活、理想の生活に最も近い番号に○をつけてください。
(それぞれについて○は1つだけ)

項 目	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先
1. 現実の生活	1	2	3	4	5	6	7
2. 理想の生活	1	2	3	4	5	6	7

* 1 : 「仕事」とは、自営業主、家族従業者、雇用者として、週1時間以上働いていることを言います。就業形態は問いません。

* 2 : 「家庭生活」とは、家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護などを言います。

* 3 : 「地域・個人の生活」とは、地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際・つき合いなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなどを言います。

問 20 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと 2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと 3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること 4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること 5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること 6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多くもてるようにすること 7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと 8. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること 9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること 10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること 11. その他（具体的に： _____） 12. 特に必要なことはない
--

問 21 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のような行為は「暴力」だと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 平手で打つ
2. 足で蹴る
3. 殴るふりをして脅す
4. いやがっているのに性的な行為を強要する
5. 見たくないのに、ポルノ映像やポルノ雑誌を見せる
6. 何を言っても無視し続ける
7. 交友関係や電話を細かく監視する
8. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」などと言う
9. 生活費を渡さない
10. 大声でどなる
11. 子どもが上記 1～10 のような行為を見聞きする

問 22 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や親しいパートナー（恋人等）から次のようなことをされたことがありますか。（それぞれについて○は1つだけ）

項 目	何 度 も あ っ た	1、 2 度 あ っ た	ま っ た く な い
1. 殴る、蹴る、刃物を突きつけられ脅される、殴るふりをして脅されるなど（身体的暴力）	1	2	3
2. 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われる。無視される。大声でどなられるなど（精神的暴力）	1	2	3
3. 生活費を渡さない（経済的暴力）	1	2	3
4. 友人に会うことや実家に行くことを制限されたり、監視されるなど（社会的暴力）	1	2	3
5. 性行為の強要、避妊に協力しない、ポルノ映像や雑誌を見せられるなど（性的暴力）	1	2	3
6. 1～5の行為を子どもに見せる（児童虐待）	1	2	3

問 23 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）の相談窓口としてどのようなものを知っていますか。（○はいくつでも）

1. 警察
2. 人権擁護委員、民生児童委員
3. 配偶者暴力相談支援センター
4. 男女共同参画センターなどの市の相談窓口
5. その他の公的機関
6. 民間の機関（弁護士会やカウンセリング機関、民間シェルター*1など）
7. 医療関係者
8. その他（具体的に： _____）

* 1：「民間シェルター」とは、民間団体によって運営されている暴力を受けた被害者が緊急一時的に避難できる施設です。居住場所や食事等を提供し、様々な相談に応じるなど、被害者に対する援助を行っています。

問 24 あなたは、男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(〇はいくつでも)

1. 家庭で子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校で生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するためのイベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、相談窓口を増やす
6. 加害者に対し、教育を行う
7. 加害者への罰則を強化する
8. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる
9. その他（具体的に： _____）
10. 特になし

問 25 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 子どものときから、学校などで、男女平等意識を育成する指導を行う
2. 法律や制度の面で見直しを行う
3. 国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
4. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
5. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる、または提供する
6. 従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
7. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる
8. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実させる
9. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
10. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
11. 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
12. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
13. 各メディアの性・暴力表現の規制
14. その他（具体的に： _____）
15. 特になし
16. わからない

問 26 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

あなたが利用する交通手段についておうかがいします。

問 27 あなたは、自動車運転免許を持っていますか。(○は1つだけ)

1. 持っている
2. 持っていない
3. 持っているが、運転しない・できない
4. 持っていたが返納した

問 28 あなたは、自動車を持っていますか。(○は1つだけ)

1. 自分で自由に使える自動車を持っている
2. 世帯所有の自動車を使っている
3. 自分で運転できないが、世帯で自動車を持っており送迎可能である
4. 持っていない

問 29 あなたの最寄りの鉄道駅はどこですか。また、自宅から最寄りの鉄道駅までの主な交通手段と所要時間を教えてください。(駅名と所要時間を記入し、主な交通手段は1つだけ選択)

最寄りの鉄道駅の名称	【			
------------	---	--	--	--

問 30 あなたの最寄りのバス停留所はどこですか。また、その停留所からの自宅までの所要時間は何分ぐらいですか。(○は1つだけ選択し、1を答えた方は停留所名と所要時間を記入)

1. 【 】 停留所まで徒歩で約【 】 分
2. 最寄りのバス停留所まで、徒歩ではいけない距離にある
3. わからない

問 31 あなたはスマートフォンを持っていますか。また、スマートフォンを持っている場合、公共交通の経路検索などに利用しますか。(○は1つだけ)

1. スマートフォンを持っており、公共交通の経路検索などに利用している
2. スマートフォンを持っているが、公共交通の経路検索などには利用しない
3. スマートフォンは持っていない

あなたの普段の外出状況についておうかがいします。

問 32 日常生活での主な外出について、通勤・通学、通院、日常の買い物など、外出の目的別に、「頻度」「主な行き先」「主な交通手段」について、どのような状況ですか。また、「主な時間帯」については、外出する際の「行き」及び「帰り」の時間帯をご記入ください。

(例：通勤のため、朝7時頃の電車に乗っている場合→行き 午前 午後(7)時頃)

目 的	1. 頻度 (○は1つだけ)	2. 主な行き先 (○は1つだけ)	3. 主な交通手段 (○はいくつでも)	4. 主な 時間帯 (時間を記入)
A. 通勤・通学	1. 週に6日以上 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日 4. 週に1日 5. 月に2～3日 6. 月に1日以下 7. 通勤・通学で 外出しない ※7の場合、右の行き先 等は回答不要です。	1. 千代田駅周辺 2. 河内長野駅周辺 3. 三日市町駅周辺 4. 市役所・キックス周辺 5. 消防本部周辺・奥河内 くろまろの郷周辺 6. 南花台地域周辺 7. 河内長野市内のその他 の地域 8. 他市区町村 (市町村名：)	1. 鉄道 2. バス 3. 自動車(運転) 4. 自動車(同乗) 5. バイク 6. 自転車 7. 徒歩 8. タクシー 9. その他 (具体的に：)	行き 午前・午後 ()時頃 帰り 午前・午後 ()時頃
B. 通院	1. 週に6日以上 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日 4. 週に1日 5. 月に2～3日 6. 月に1日以下 7. 通院で外出 しない ※7の場合、右の行き先 等は回答不要です。	1. 千代田駅周辺 2. 河内長野駅周辺 3. 三日市町駅周辺 4. 市役所・キックス周辺 5. 消防本部周辺・奥河内 くろまろの郷周辺 6. 南花台地域周辺 7. 河内長野市内のその他 の地域 8. 他市区町村 (市町村名：)	1. 鉄道 2. バス 3. 自動車(運転) 4. 自動車(同乗) 5. バイク 6. 自転車 7. 徒歩 8. タクシー 9. その他 (具体的に：)	行き 午前・午後 ()時頃 帰り 午前・午後 ()時頃
C. 日常の買い物	1. 週に6日以上 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日 4. 週に1日 5. 月に2～3日 6. 月に1日以下 7. 買い物で外出 しない ※7の場合、右の行き先 等は回答不要です。	1. 千代田駅周辺 2. 河内長野駅周辺 3. 三日市町駅周辺 4. 市役所・キックス周辺 5. 消防本部周辺・奥河内 くろまろの郷周辺 6. 南花台地域周辺 7. 河内長野市内の その他の地域 8. 他市区町村 (市町村名：)	1. 鉄道 2. バス 3. 自動車(運転) 4. 自動車(同乗) 5. バイク 6. 自転車 7. 徒歩 8. タクシー 9. その他 (具体的に：)	行き 午前・午後 ()時頃 帰り 午前・午後 ()時頃
D. その他の外出	目的(具体的に：) ※記入例：(家族の送迎)			
	1. 週に6日以上 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日 4. 週に1日 5. 月に2～3日 6. 月に1日以下	1. 千代田駅周辺 2. 河内長野駅周辺 3. 三日市町駅周辺 4. 市役所・キックス周辺 5. 消防本部周辺・奥河内 くろまろの郷周辺 6. 南花台地域周辺 7. 河内長野市内の その他の地域 8. 他市区町村 (市町村名：)	1. 鉄道 2. バス 3. 自動車(運転) 4. 自動車(同乗) 5. バイク 6. 自転車 7. 徒歩 8. タクシー 9. その他 (具体的に：)	行き 午前・午後 ()時頃 帰り 午前・午後 ()時頃

外出時のコロナによる影響についておうかがいします。

問 33 コロナ前と現在と比較して、A. 外出頻度、B. 交通手段の利用頻度をお教えてください。
また、今後、新型コロナウイルス感染症の収束後、それぞれの頻度はどうなると思いますか。（下段の＜選択肢＞から番号を選んで空欄に記入）

A. 外出頻度	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
---------	---------	--	-------	--	--------	--

B. 交通手段の利用頻度	い. 鉄 道	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	ろ. バ ス	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	は. 自動車（運転）	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	に. 自動車（同乗）	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	ほ. バイク	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	へ. 自転車	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	と. 徒 歩	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	ち. タクシー	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	
	り. その他（具体的に： ）	1. コロナ前		2. 現在		3. 収束後	

＜選択肢＞

1. 週に6日以上 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日 4. 週に1日
5. 月に2～3日 6. 月に1日以下 7. 利用しない

市内でのバス・タクシーの利用についておうかがいします。

問 34 あなたは、ふだんバスを利用していますか。（○は1つだけ）

1. 利用している → 問 35 へお進みください
2. 利用していない → 問 36 へお進みください

問 34 で「1. 利用している」と答えられた方におたずねします。

問 35 あなたがバスを利用している理由は何ですか。

(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

1 番目		2 番目		3 番目	
------	--	------	--	------	--

1. 行きたい場所までルートがある	2. 利用したい時間に運行している
3. 最も早い交通手段である	4. 運賃が安い
5. バス以外に交通手段がない	6. 車又は免許を有していない
7. バス利用を学校・会社が指定している	8. 自宅近くにバス停がある
9. 家族に送迎してもらう気兼ねがない	10. 車の運転に不安がある
11. エコな交通手段である	12. 安全・安心である
13. 楽に移動できる	14. 悪天候の時や飲酒した時に便利
15. その他(具体的に:	)

問 34 で「2. 利用していない」と答えられた方におたずねします。

問 36 あなたがバスを利用していない理由は何ですか。

(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

1 番目		2 番目		3 番目	
------	--	------	--	------	--

1. 歩いて目的地(駅など)へ行ける	2. 車やバイク等の方が便利
3. 自宅からバス停までの距離が遠い	4. 目的地の近くにバス停がない
5. 便数が少なく利便性が悪い	6. 運賃が高い
7. バス路線(どのバスに乗れば目的地へ行けるのか)や乗り場等がわかりにくい	8. 段差や車いすへの配慮が少ない
9. 運転者のサービスが悪い	10. 乗り継ぎが不便
11. その他(具体的に:	)

すべての方におたずねします。

問 37 あなたは、ふだんタクシーを利用していますか。(○は1つだけ)

1. 利用している → 問38へお進みください
2. 利用していない → 問39へお進みください

問 37 で「1. 利用している」と答えられた方におたずねします。

問 38 あなたがタクシーを利用している理由は何ですか。

(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

1 番目		2 番目		3 番目	
------	--	------	--	------	--

1. バスのない時間帯に利用できる	2. 最も早い交通手段である
3. 楽に移動できる	4. 複数人での移動に便利
5. タクシー以外に交通手段がない	6. 車又は免許を有していない
7. 家族に送迎してもらう気兼ねがない	8. 車の運転に不安がある
9. 安全・安心である	10. 悪天候の時や飲酒した時に便利
11. その他(具体的に:	)

問 37 で「2. 利用していない」と答えられた方におたずねします。

問 39 あなたがタクシーを利用していない理由は何ですか。

(理由として大きいものから順に下段の中から3つまで番号を選んで空欄に記入)

1 番目		2 番目		3 番目	
------	--	------	--	------	--

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 歩いて目的地（駅など）へ行ける | 2. 車やバイク等の方が便利 |
| 3. タクシーを呼ぶのが面倒 | 4. 経済的な負担が大きい |
| 5. 利用の仕方がわかりにくい | 6. 安全性に不安がある |
| 7. 段差や車いすへの配慮が少ない | 8. 運転者のサービスが悪い |
| 9. その他（具体的に： | ） |

地域の公共交通に関する意向やあり方についておうかがいします。

ー地域の支え合いによる移動サービスについてー

バスやタクシーなどの公共交通は、かねてからの利用者減少・コロナの影響による経営状況悪化・ドライバー不足など様々な問題に直面しており、市の財政も厳しくなる中で、今後、維持がますます厳しくなることが予想されます。一方で、高齢化が進む地域では従来よりもきめ細やかな移動サービスが求められており、こうした状況から、近年、公共交通の維持が困難な地域や地域内の短距離の移動において、地域の住民が運転手を担う、地域の支え合いによる移動サービスが注目されています。

問 40 あなたは、このような移動サービスが必要だと思いますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 必要だと思う | 2. 必要だと思わない | 3. わからない |
|-----------|-------------|----------|

問 41 あなたは、このような移動サービスがあれば利用しようと思いますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 利用しようと思う | → 問 43 へお進みください |
| 2. 利用しようと思わない | → 問 42 へお進みください |

問 41 で「2. 利用しようと思わない」と答えられた方におたずねします。

問 42 あなたが、このような移動サービスを利用しようと思わない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------------|--------------|---|
| 1. 気兼ねする | 2. 安全面で不安がある | |
| 3. 行き先を知られるのが嫌だ | 4. その他（具体的に： | ） |

すべての方におたずねします。

問 43 あなたは、このような移動サービスについて、どの程度協力することができますか。(〇はいくつでも)

1. 地域などで、運行にかかる費用を負担する
2. 無償で、空き時間に運転手として活動する
3. 報酬があれば、空き時間に運転手として活動する
4. 協力したいとは思わない
5. わからない
6. その他（具体的に：

)

公共交通施策などについておうかがいします。

問 44 あなたが重要であるとする公共交通施策は何ですか。

(重要であるとするものから順に下段の中から番号を選んで空欄に記入)

1 番目		2 番目		3 番目	
------	--	------	--	------	--

1. 高齢者への公共交通利用に対する支援制度
2. 免許を返納した人への公共交通利用に対する支援制度
3. 最寄りのバス停までの移動や団地内での移動など、自宅周辺の短距離の移動手段の確保
4. 市内の公共交通（バス・タクシーなど）が定額で乗り放題になるなどの運賃施策
5. 自動運転の試行・導入
6. 地域の支え合いによる移動サービス
7. 観光目的での公共交通利用の促進
8. 路線バスの上限運賃や均一運賃の導入（運賃の上限が200円になるなど）
9. 待合環境の改善（バス停の屋根やベンチの整備など）
10. 幹線道路沿いの商業施設などへの公共交通のアクセス強化
11. 最寄りの鉄道駅への移動手段の確保
12. 路線バスの運行本数や運行時間帯の維持
13. 利用が少ない公共交通の見直し・再編（デマンド交通への切替など）
14. その他（具体的に：

)

～以上、ご協力ありがとうございました～

ご記入いただいた調査票は、無記名のまま同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

10月4日（月）までにご投函ください。